

第3節 平成28年度調査と以前の調査

平成28年度の調査区は、平成25年度および26年度の調査区の北側に隣接する。その結果、單一の遺構であっても調査区境界をまたぎ存在する遺構は、当該年度毎の部分的な調査成果となっている。また平成7年度の調査区の東西両側の隣接地を平成28年度に調査したため、ここでも調査成果が分断されている。本節では、年度を異にし調査されたために部分掲載されていた遺構を対象とし、年度ごとの成果を統合し一体として掲載する。

第1項 1面の遺構

1面ではC1建物群(3章1節2項3)と1号道(3章1節4項1)および幾面かの畠が年度を異にして調査されている。多くの畠は調査範囲が接していることもあり、本文中の記述にとどめたが、47号畠(3章1節6項36)については調査範囲の間に未調査部分が介在するため本項で取り上げた。

1 C1建物群(第185図)

34区U～Y-11～13グリッドおよび35区A～B-10～13グリッド、平成28年度調査区西部南端寄りに位置する。

平成26年度調査において、北西端建物群として5号礎石建物とこれに隣接する6号掘立柱建物が確認されている。平成28年度調査区西部に位置する5号建物は、既報の5号礎石建物の西端部分である。平成28年度調査により、この建物群の南から18号建物が確認されており、この3軒を一群とし、あらたにC1建物群とした。

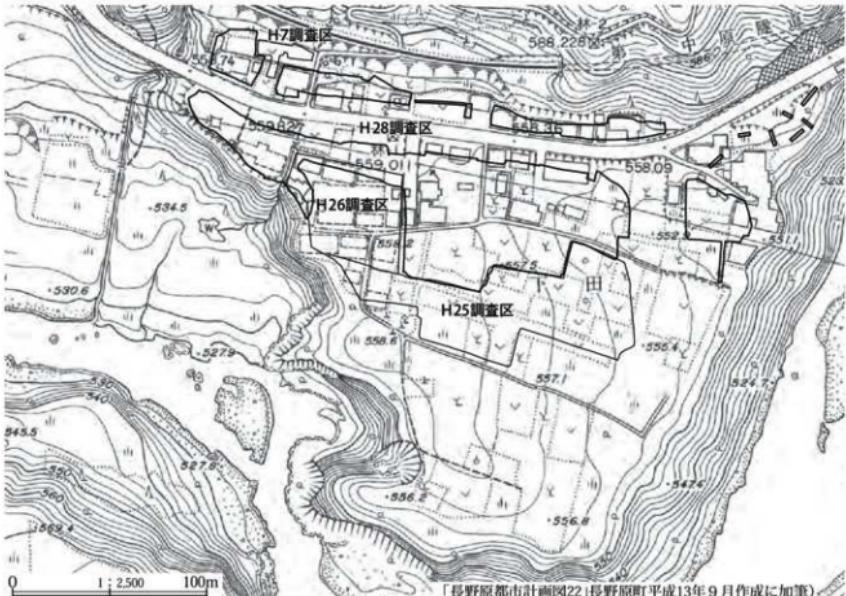
(1) 5号建物(5号礎石建物)(第186図)

位置 34区U～Y-11～14グリッドおよび35区A-11～14グリッド、平成28年度調査区西部に位置する。

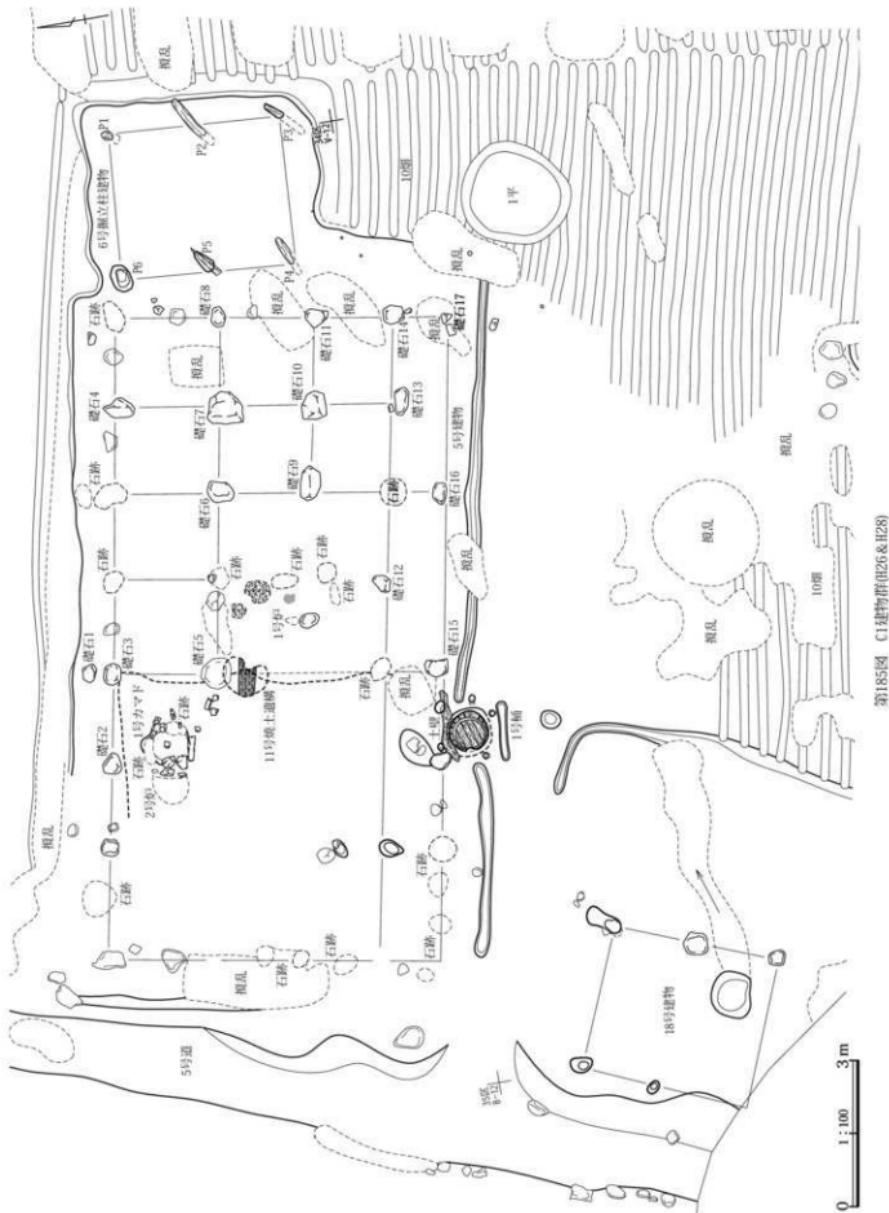
規模 柱行13.22m、梁行6.91m。基本構造部の柱行柱間は平均1.83m、梁行柱間は平均1.97m。

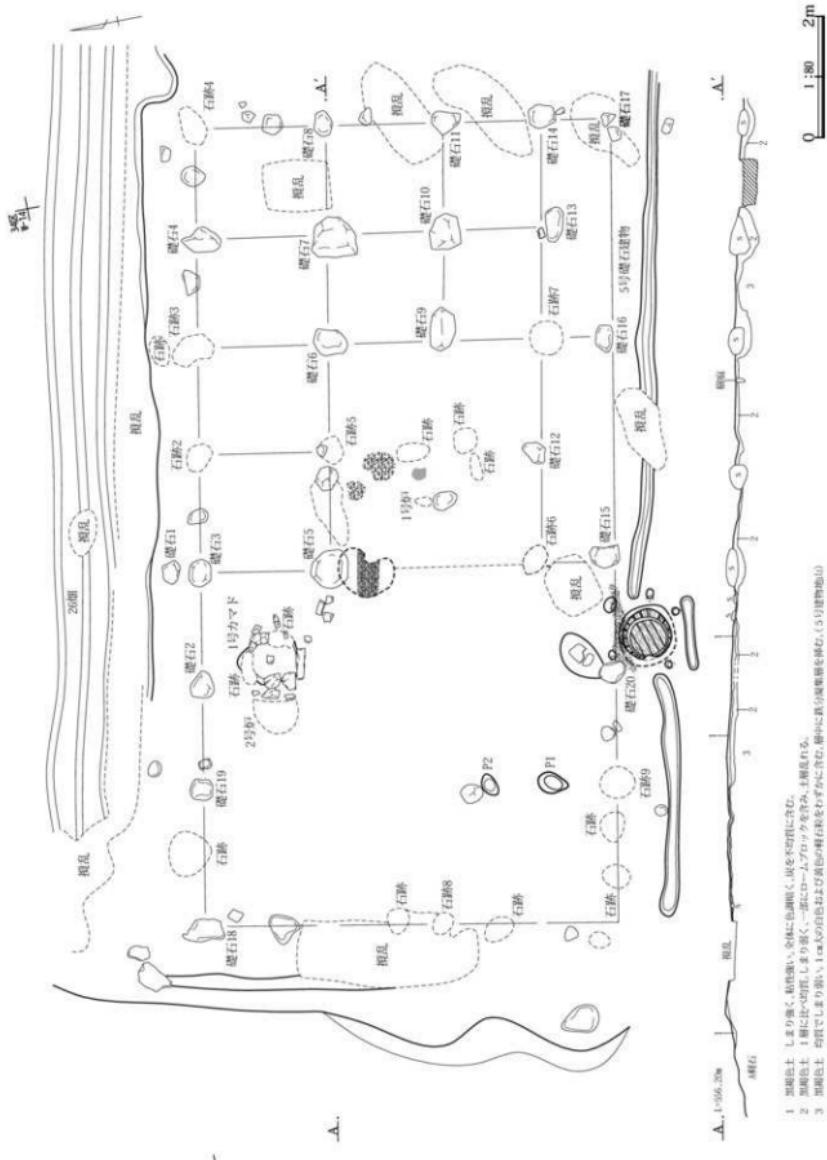
本体構造 3間×7間の基本構造の南辺に一間の張出を設けた4間×7間の東西棟礎石建物であることが確認された。

遺物 床面より瀬戸陶器すり鉢、瀬戸・美濃陶器小碗、



第184図 年度ごとの調査区





第186回 5号建物(1268H28)

1 黒褐色土 しまり強く、粘性強い、全体に色濃く、風を受ける面に含む。
2 黑褐色土 1層に比べて質重く、一部にロームブロックを含み、土解はれる。

3 加藤土 均質であり弱い、1 cmの白色および黄色の解石脈をわずかに含む。

砥石様の石製品が、掘り方より瀬戸・美濃陶器天目茶碗、埋没土より肥前磁器染付碗、瀬戸・美濃陶器すり鉢、古銭(寛永通寶)が出土している。(詳細は「3章2節1(1)a, 1」『下田遺跡(2)』2017および本書3章2節3項2)

2 1号道(第187図)

位置 24区Q～R-22～25グリッド、33区O～Y-3～5グリッドおよび34区A～W-1～13グリッド、平成28年度調査区中部から平成26年度調査区にかけて存在する。

形状等 平成28年度調査区中部に位置する本構造(3章1節4項1)は、平成28年度調査区西辺において平成26年度調査区と接し、既報の道につながる。遺跡内を東西132mにわたり横切り、南北に延びる支道を3本有することが確認された。道の東端はさらに東へと延びることが予想されるのであるが確認できていない。また、道の西端は5号道の南端と調査区外で接続すると推察されるが、両端とも遺跡の立地する台地の際にほど近く、すでに痕跡は残されていないと推測される。

備考 1号道の東西部と西寄りの南北の支道は、調査時に存在していた道とほぼ同じ位置に存在している。なお調査時点において、1号道の西端に存在する崖の際に未舗装の小道が存在している。

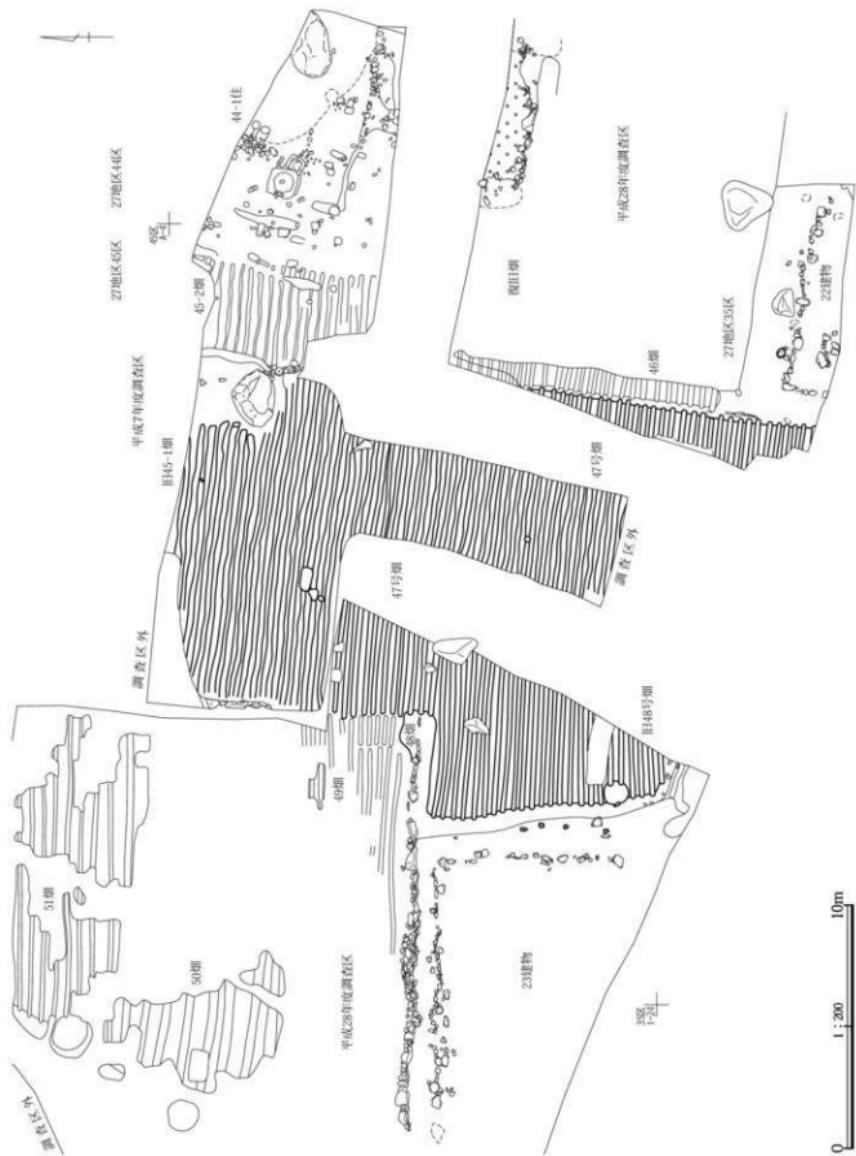
第82表 5号建物柱間計測表(H26&H28)

南西跡 柱間	南行 柱間	南行 柱間	南行 柱間	南行 柱間	南行 柱間	南行 柱間	南行 柱間	柱行
			[壁石1] -		3.62 -	[壁石1]		
			0.47		0.54			
南西跡	-0.84 - [壁石1] - 2.30 - [壁石1] - 1.68 - [壁石2] - 1.82 - [壁石1] - 1.89 - [壁石2] - 1.79 - [壁石1] - 1.80 - [壁石4] - 1.84 - [壁石4] 13.22							
南行柱間	4.78							
			2.16		2.16			
南西跡		[壁石1] - 1.94 - [壁石5] - 1.77 - [壁石6] - 1.73 - [壁石7] - 1.87 - [壁石8] 13.22						
南行柱間								
			3.37		3.32			
			1.85		1.83			
			1.32 - [壁石1] - 2.34 - (P2)			[壁石1] - 1.59 - [壁石1] - 1.78 - [壁石1] 13.22		
南行柱間	1.03							
			3.72 - [壁石1] - 1.79 - [壁石12] - 1.87 - [壁石7] - 1.83 - [壁石1] - 1.82 - [壁石14] 13.22					
南行柱間	1.04							
			1.38		0.94			
			3.58 - [壁石16] - 3.49 - [壁石17] 13.22					
南西跡	-1.80 - [壁石20] - 1.92 - [壁石1] -							
南行柱間	0.94	0.75	0.51		0.62			
			5.53		5.48			
南落跡	5.81							
内側梁間	6.85	6.75	6.71		6.78			
外側梁間								

註 外側梁間にては壁石1, 石壁1に関する計測値を含ます。



第187回 1号道(II25 & II26 & II28)



第188図 47号烟(47 & H28)



第189図 煙計測位置 1



第190図 調査位置2

南側の状態が不明なため判断を見合せたが、同一の面を構成する可能性は低くない。

第2項 2面および3面の遺構

調査区2面では、平成28年度調査区西部の掘立柱建物1棟と竪穴建物4棟、ピット列2条、および平成28年度調査区中部のピット列2条が2次にわたり分割して調査されている。なお、平成28年度調査区中部のピット列は周辺の掘立柱建物と合わせA1建物群とした。

調査区3面には該当する遺構は存在しない。

1 11号掘立柱建物(第192図)

平成28年度調査区西部に位置する本遺構(3章2節3項2)は既報の11号掘立柱建物の西端部分である。

位置 34区W～Y-12～13グリッドおよび35区A-12～14グリッド。

規模 桁行9.99m、梁間5.98m。

本体構造 基本構造である1間×4間の東西棟の四辺にそれぞれ一間の張り出しを設けた3間×6間が確認された。内周の基本構造部分の桁行柱間の平均は1.79m、梁行柱間の平均は3.58mである。なお、外壁となる外周の桁行柱間の平均は1.17m、梁行柱間の平均は1.94mである。

遺物 P17から鉄製品、P18から銅製品、P24の底面から6cm浮いた位置から瀬戸・美濃陶器碗、埋没土から瀬戸・美濃陶器尾呂碗が出土している。(詳細は「3章2節2(2)C」『下田遺跡(2)』2017および本書3章2節3項2)

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世に比定される。

2 A1建物群(第193図)

(1) 1号ピット列

平成28年度調査区中部に位置する1号ピット列(3章2節2項1(2))は既報の1号ピット列の北に隣接し、その延長上に位置し一続きの列を構成すると推測される。

位置 24区H～I-19～25グリッドおよび34区G～H-1グリッド、5号掘立柱建物および2号掘立柱建物の西に位置する。

規模 確認長28.06m。

走向(度) N-12-E

埋没土 地山ブロックを含み、ごくわずかに炭化物粒や黄・白色軽石粒を含む、しまりやや弱く、くすんだ色調の暗黒褐色の均質土を基調とする。ピットにより地山ブロックの混入度は相違する。

所見 本遺構の年代は、埋め土および出土層位から中世に比定される。

(2) 2号ピット列

平成28年度調査区中部に位置する2号ピット列(3章2節2項1(3))は既報の2号ピット列の北に隣接し、その延長上に位置し一続きの列を構成すると推測される。

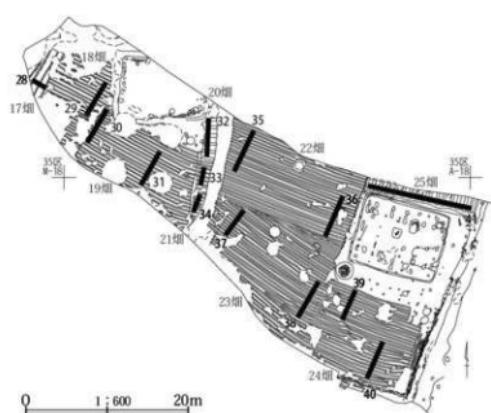
位置 24区H～I-20～25グリッドおよび34区H-1グリッド、5号掘立柱建物および2号掘立柱建物の西に位置する。

規模 25.70m

走向(度) N-12-E

埋没土 地山ブロックを含み、ごくわずかに炭化物粒や黄・白色軽石粒を含む、しまりやや弱く、くすんだ色調の暗黒褐色の均質土を基調とする。ピットにより地山ブロックの混入度は相違する。

所見 本遺構の年代は、埋め土および出土層位から中世に比定される。



第191図 煙計測位置3

3 3号ピット列および4号ピット列(第193図)

(1) 3号ピット列

平成28年度調査区西部に位置する3号ピット列(3章2節6項1(1))は既報の3号ピット列の西に隣接し、その延長上に位置する。

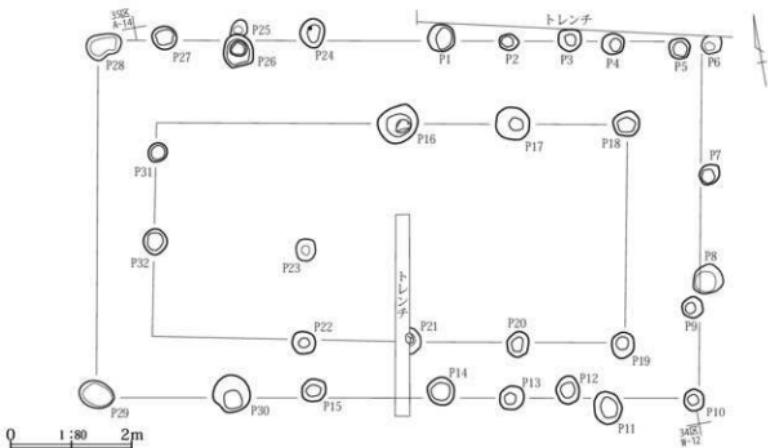
位置 34区S~Y-9グリッド。

規模 確認長27.60m。

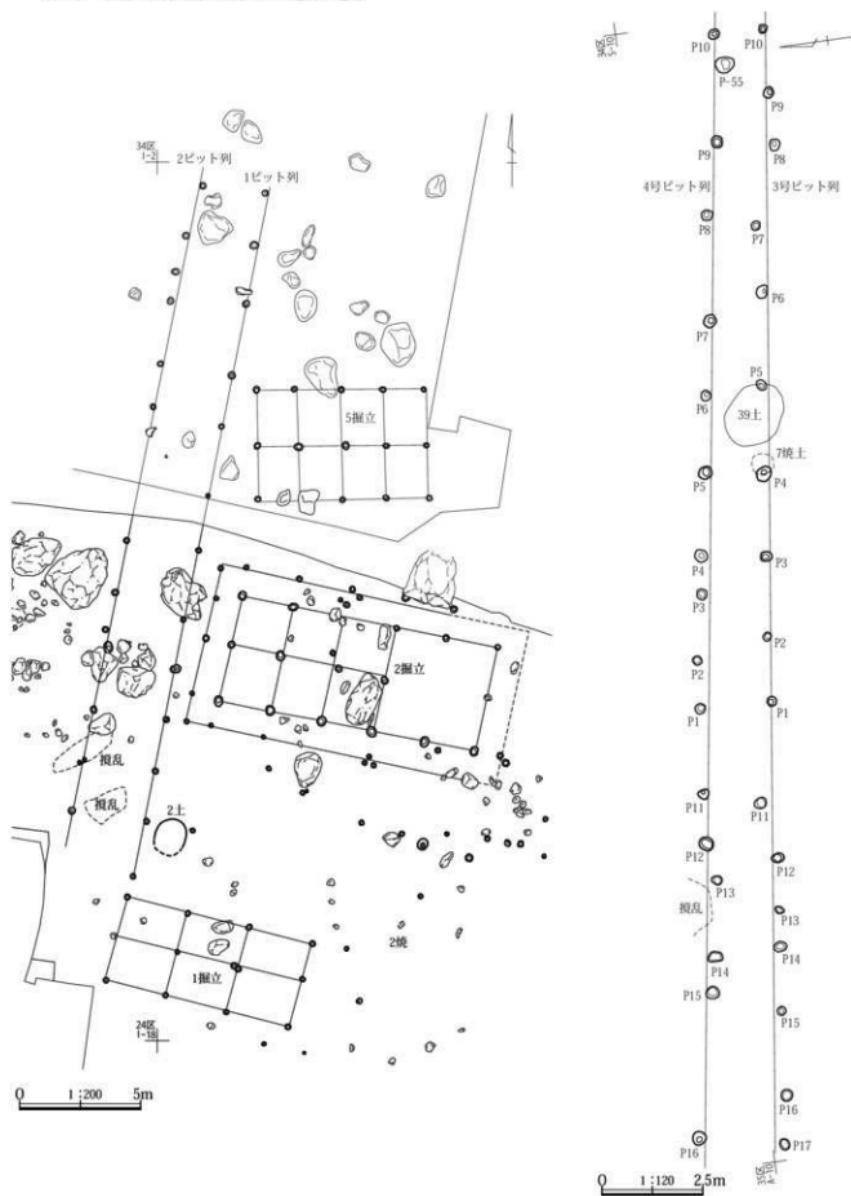
走向(度) N-82°W

第83表 11号掘立柱建物柱間計測表(H26&H28)

	柱行 柱間	内回 柱間																		
P28	-1.01	-P27	-1.20	P25	-1.21	P24	-2.15	-	P1	-1.04	P2	-1.03	P3	-0.75	P4	-1.07	P5	-0.49	P6	9.99
柱行 柱間																				
梁行 柱間																				
P11	1.86																			
梁行 柱間																				
P16																				
梁行 柱間																				
P17																				
梁行 柱間																				
P18																				
梁行 柱間																				
P2																				
梁行 柱間																				
P1																				
梁行 柱間																				
P3																				
梁行 柱間																				
P4																				
梁行 柱間																				
P5																				
梁行 柱間																				
P6																				
梁行 柱間																				
P7																				
梁行 柱間																				
P8																				
梁行 柱間																				
P9																				
梁行 柱間																				
P10																				
梁行 柱間																				
内回 柱間																				
5.72	5.98	5.82	3.55	3.60	3.59	5.86	5.97	5.83												



第192図 11号掘立柱建物(H26&H28)



第193図 A1建物群(H25&H28)、3号ビット列および4号ビット列(H25&H28)

(2) 4号ピット列

平成28年度調査区西部に位置する4号ピット列(3章2節6項1(2))は既報の4号ピット列の西に隣接し、その延長上に位置する。

位置 34区S~Y-9~10グリッド。

規模 確認長27.21m。

走向(度) N-81-W

埋没土 (H26)ごくわずかな炭化物粒を含み、しまりのやや弱い黒褐色土。(H28)ややくすんだ色調で、しまりやや弱い黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、埋め土および出土層位から中世に比定される。前回調査分と今回調査分とでは、炭化物粒の含有につき埋め土に相違は認められるが、一続きの列を構成すると推測される。

4 2号竪穴建物(第194図)

平成28年度調査区西部に位置する本遺構(3章2節4項1)は平成26年度にその南側が調査され、平成28年度に残る北半が調査された。

位置 34区U~V-12~13グリッド。

形状等 重複する遺構による搅乱のため東辺を確定できなかったが、隅丸方形の形状が確認された。

規模 4.29×4.46m、深さ0.35m。

主軸方向(度) N-64-E

埋没土 (H26)白色軽石をわずかに含む黒褐色土。(H28)しまりはややあるが粘性のあまりない、1cm大の風化岩片をわずかに含む黒褐色土。

遺物 床面から須恵器甕、掘り方から土師器甕、須恵器甕、須恵器羽釜が出土している。(詳細は「3章2節3(1)b」『下田遺跡(2)』2017および本書3章2節4項1)

所見 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。

5 3号竪穴建物(第195図)

平成28年度調査区西部に位置する本遺構(3章2節4項2(1))は平成26年度調査時に西辺が未確定であったが、今回の調査により西辺が確定された。

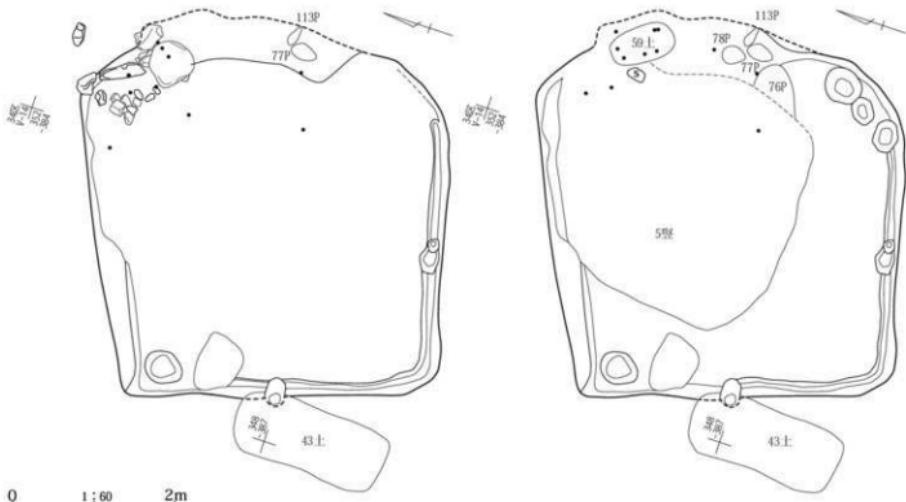
位置 34区W~Y-11~12グリッド。

形状等 2次の調査範囲の間に未調査域を残すものの、隅丸方形の遺構が確認された。

規模 (4.33)×4.68m、深さ0.41m。

主軸方向(度) N-27-W

埋没土 (H26)白色・黄色軽石粒をわずかに含む黒褐色土。(H28)調査時の記録は残されていない。



第194図 2号竪穴建物(H26&H28)

遺物 床面から須恵器椀、灰釉陶器皿、黒色土器椀、埋没土から須恵器椀、須恵器杯、灰釉陶器椀、灰釉陶器皿、黒色土器鉢、土師器甕、須恵器甕、灰釉陶器小瓶および刀子が出土している(詳細は「3章2節3(1)C.1」『下田遺跡(2)』2017および本書3章2節4項2(1))。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。

6 4号竪穴建物(第196図)

平成28年度調査区西部に位置する本遺構(3章2節4項2(2))は平成26年度調査時に西辺が未確定であったが、今回の調査により西辺が確定された。

位置 34区W~Y-11~12グリッド。

形状等 2次の調査範囲の間に未調査域を残し、また北西隅から北辺にかけて不分明な要素を含むものの、隅丸方形の遺構が確認された。

規模 5.03×5.38m、深さ0.29m。

主軸方向(度) N-22-W

埋没土 地山ロームを少量含む暗褐色土。

遺物 床面から黒色土器椀、埋没土から須恵器椀、灰釉陶器椀、掘り方から須恵器椀が出土している。(詳細は「3章2節3(1)C.2」『下田遺跡(2)』2017および本書3章2節4項2(2))

所見 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。

7 5号竪穴建物(第197図)

平成28年度調査区西部に位置する本遺構(3章2節4項3)は平成26年度に南辺が調査され、平成28年度に残る3辺が調査された。平成26年度時点では遺構としての認定を行ひえなかったが、今回の調査により竪穴建物と確認された。しかし重複する遺構による搅乱のため、東辺は確定できていない。

位置 34区U~V-13グリッド。

形状等 橢円周丸方形。北辺に存在する溝を壁溝とすれば、北辺と西辺の一部が確認されたにとどまる。

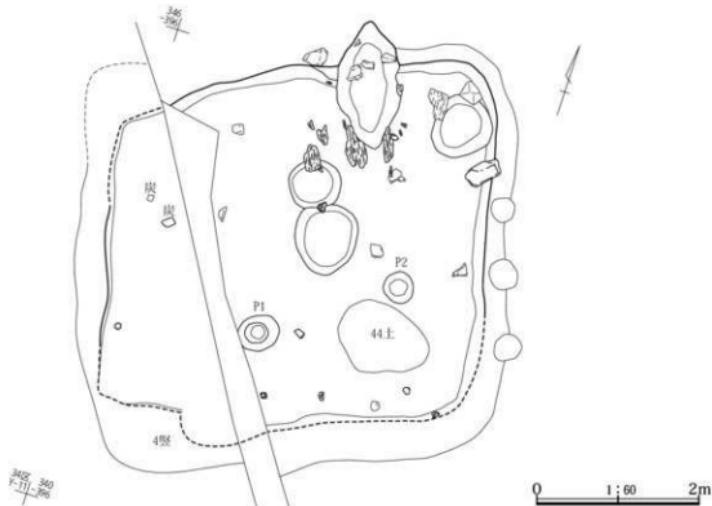
規模 (3.48)×(3.13)m、深さ(0.21)m。

主軸方向(度) N-41-E

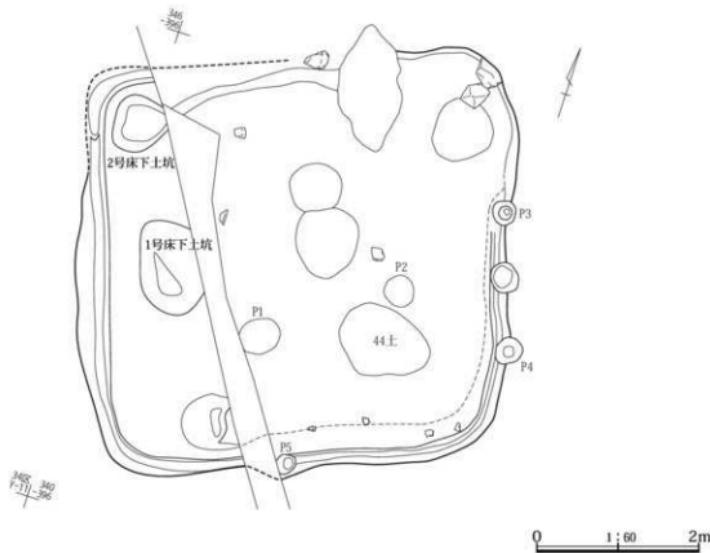
埋没土 (H26)地山ロームおよび暗褐色帶相当の粘質土を主体として、炭化物を少量含み、不均質。(H28)しまり粘性ともにややある、ロームを含む黒褐色土。

遺物 埋没土から須恵器小型甕が出土している。(詳細は「3章2節3(1)b」『下田遺跡(2)』2017および本書3章2節4項3)

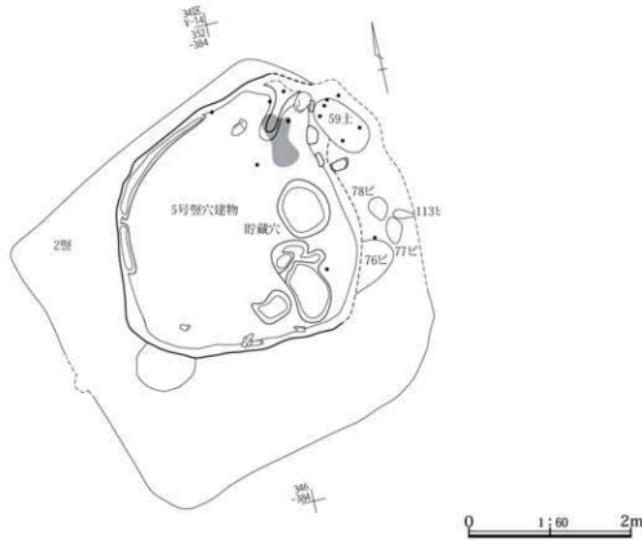
所見 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。



第195図 3号竪穴建物(H26 & H28)



第196図 4号竪穴建物(H26&H28)



第197図 5号竪穴建物(H26&H28)

第4章 平成29年度調査・確認された遺構と遺物

第1節 遺構と遺物

1 調査区の概要

平成29年度の発掘調査は、吾妻川に突き出した舌状台地の南半を調査対象としている。東流する吾妻川が台地に沿って南に流れを変える地点にあたり、天明泥流に直面したと想定される領域である。標高の高い調査区西部を除き、泥流により削剥されて遺構面は荒廃している。多くの場所で確認できるのは遺構の痕跡程度に過ぎない。

調査区南部は1地点から倒木痕が確認されたのみであり、調査区東部からは溝1条とヤッカラ1基が確認された。このほか調査区東部では、岩陰に残された畑地と推測される痕跡が6地点で確認されている。畑の畝様の痕跡が確認されたのは平成25年度調査区に近い北寄りの1地点(第198図)のみである。

他2地区と比較すれば遺構の残りの良い調査区西部では、道3条、墓域1か所、塚1基とヤッカラ1基が確認されている。確認された道の内の1条は墓域と塚を東西に区分しており、もう1条の道は塚のふもとを北辺から東辺にかけて区画している。調査区東部は、日常的な生産領域や居住領域と異なる、墓域を中心とする一画であったと推察される。

天明泥流直下の遺構面の下位(2面)からは、土坑、ピット、溝が確認されているが、いずれも調査区北辺寄りの地域からであり、調査区南部からは確認されていない。調査区東部から土坑6基とピット23基および2地点から倒木痕が、調査区西部からは土坑13基とピット20基および溝1条が確認されている。なお墓域の存在する調査区西部の土坑のうち11基は人骨を伴う。このうち2基は、上述した墓域の東に位置する塚の北東であり、墓域には含まれない位置に所在する。

2 道

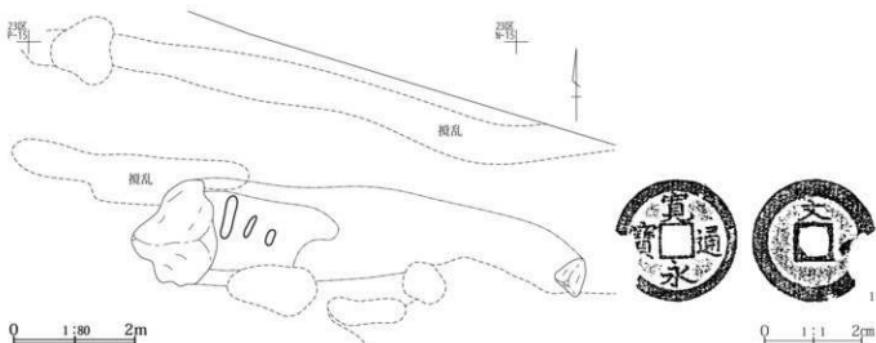
調査区西部の天明泥流直下の墓域と塚の周辺から、両遺構を区画する道が確認されている。相互に連結した道ではあるが、3条(7~9号道)に区分した。7号道は墓域と塚を区分するように、また8号道は塚の北辺から東辺に位置する。9号道は8号道の北から東にかけて位置し、塚の東北隅で8号道と接する9号道からは、他の2条と異なり側溝と考えられる浅い溝が確認されている。

(1) 7号道(第198、199図、PL.92)

位置 24区O~R-16~20グリッド。調査区西部、1号墓域の東に位置する。

形狀 弧状を呈する。

規模 (12.01)m、道幅0.44~1.70m。



第198図 畠地の痕跡、7号道出土遺物

走向(度) N-30-W

重複 135号土坑。

遺物 1号墓域入口付近から古銭(1)が出土した。

所見 調査時点では現存していた道から、道西端は調査区外で9号道と接続し、さらに北上して1号道南端と接続していたと推測される。

備考 8号道との分歧点および1号墓域への入り口をもつ。南端付近は泥流による搅乱が著しく、道の延長部分は確認されていない。135号土坑は1号塚との境や塚寄りに位置しており、1号塚の項に記載する。

(2) 8号道(第199図)

位置 24区M～P-17～18グリッド。調査区西部、1号塚の北から東にかけて位置する。

形状 鉤の手状を呈する。

規模 東西部15.31m、道幅0.95～1.34m。南北部(3.93)m、道幅0.59～1.17m。

走向(度) (東西部) N-80-W、(南北部) N-16-E。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 1号墓域の北辺で7号道から分岐し、1号塚の北辺沿いに1号塚北東隅に至り、1号塚東辺沿いに南下する。道はさらに南下する可能性があるが、遺構南端には

9号ヤックラが存在し、延長部分は確認されていない。

備考 調査時の名称は8号道と9号道。相互に交差していた旧8号道の、旧9号道との交差点以東を9号道とし、交差点から南下していた旧9号道の交差点以南を8号道とし、1号塚の外周を北辺から東辺に到る道を8号道とした。

(3) 9号道(第199図、PL.74)

位置 24区K～Q-17～19グリッド。調査区西部、1号塚の北から北東に位置する。

形状 道の両側に幅0.13～0.31m、深さ0.02～0.09mの浅い溝を持つ。

規模 (22.73)m、道幅0.88～1.23m。

走向(度) N-74-W

重複 なし。

遺物 なし。

所見 調査時点では現存していた道から、9号道西端は調

査区外で7号道と接続し、さらに北上して1号道南端と接続していたと推測される。また、道の東端は泥流により搅乱され延長部は確認されないが、東端付近から北上して1号道と同位置を東西に走る道に続く道が存在している。

備考 調査時の名称は8号道と9号道。東西に走る旧8号道の、旧9号道との交差点以東の部分を9号道とし、側溝を伴う部分を9号道とした。調査時の所見では、1号塚以東の南側路肩斜面に存在する小ピット群を植栽の痕跡としている。なお、この部分は道幅に含めていない。

3 溝

平成29年度調査区では、天明泥流直下の面から1条(7号溝)、その下位の面から1条(8号溝)の溝が確認されている。なお、8号溝は1連の溝として記録されたが、その東部と西部では接続を欠くため東部・西部に二分して記載する。また8号溝西部は埋もれた石により東西に二分され、相互に接続してはいないため、さらに南北に細分した。

(1) 7号溝(第200図、PL.74)

位置 23区K～W-3～6グリッド。調査区東部に位置する。

形状 調査区西辺から直線状に東へと延びるが、調査区東辺付近からやや北に流れを変える。

規模 (50.85)m、幅1.18～2.91m、深さ0.12～0.33m。底面標高(西端) 555.05m、(東端) 553.83m、標高差1.22m。

走向(度) N-89-W、(東端) N-77-E。

重複 なし。

遺物 なし。

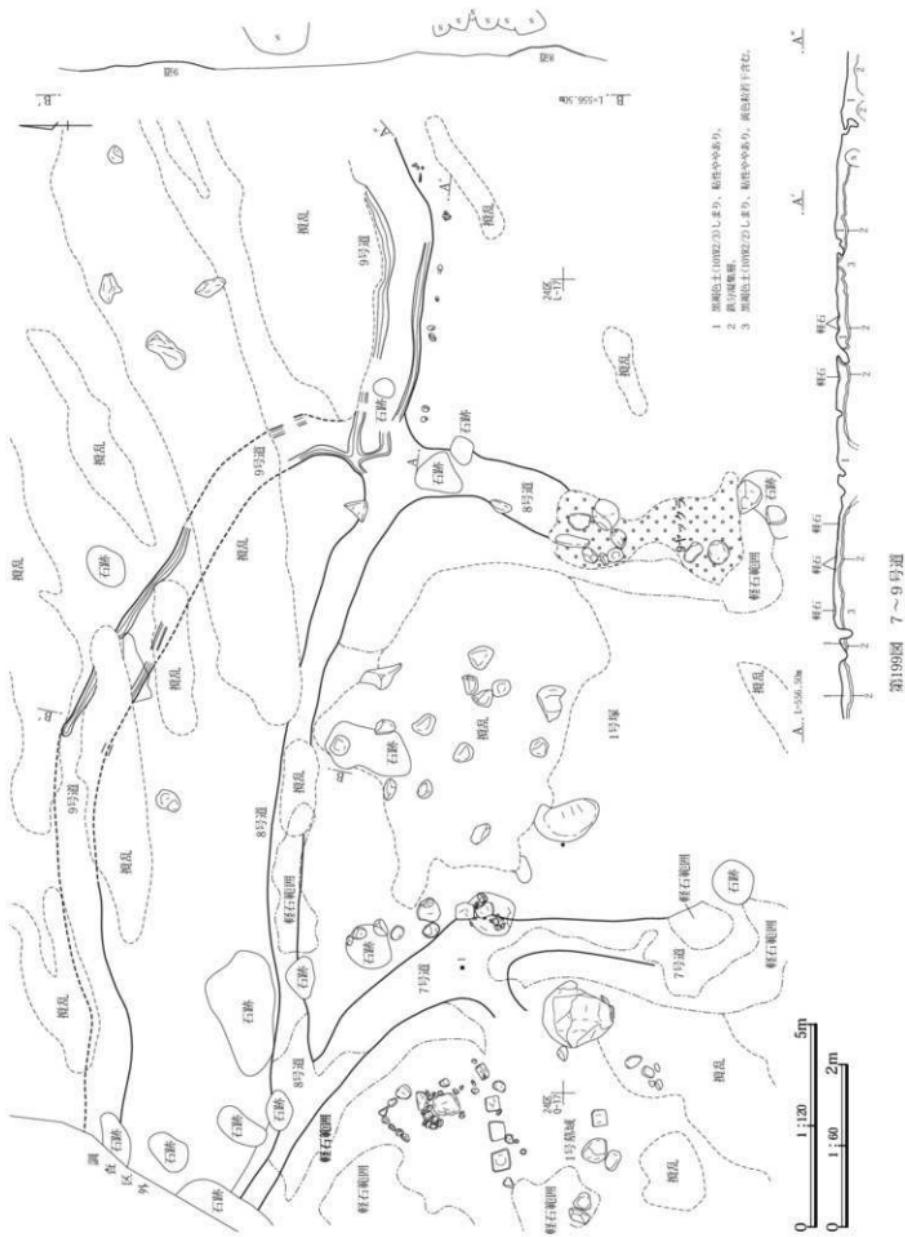
所見 天明3年には、調査区南半を東流する水路として機能していたと推測される。

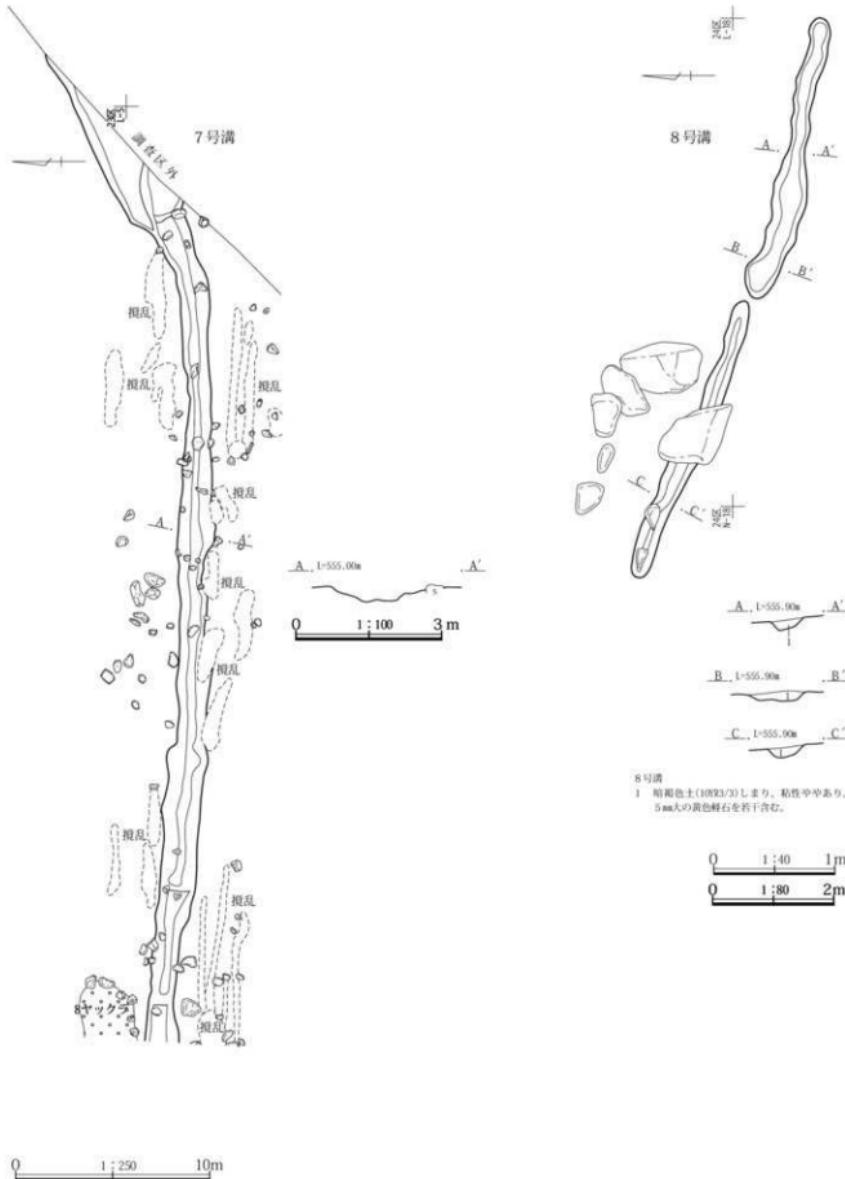
(2) 8号溝(第200図、PL.74)

位置 (西部・北) 24区M～N-18グリッド、(西部・南) 24区M-17～18グリッド、(東部) 24区L～M-17グリッド。調査区西部に位置する。

形状 2条が東西に隣接する。

規模 (西部・北) 2.02m、幅0.32～0.43m、深さ0.06～





第200図 7号溝、8号溝

0.27m。底部標高(西端)不明、(東端)555.63m、標高差不明。

(西部・南) 1.82m、幅0.23~0.36m、深さ0.11~0.15m。
底部標高(西端)555.67m、(東端)555.61m、標高差0.06m。

(東部) 4.72m、幅0.25~0.56m、深さ0.03~0.05m。
底部標高(西端)555.75m、(東端)555.74m、標高差0.01m。

走向(度) (西部・北) N-69-W、(西部・南) N-72-W、(東部) N-76-W。

埋没土 5mm大の黄色軽石を若干含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、出土層位から近世以前に比定される。

備考 調査所見によれば、8号溝は上層の旧8号道の根切り溝との示唆があるが、路面と溝底面との間に黒褐色土層、鉄分凝集層、8号溝埋没土層の3層が存在することから別遺構とした。なお140号土坑は本遺構の下位に位置するが、切り合ひ関係はない。140号土坑の埋没土に比べ本遺構の埋没土は地山砂質土を含まず、両遺構の年代差を示すものと推測される。

4 ヤックラ

平成29年度調査区では天明泥流直下の面からヤックラ2か所が確認されている。

(1) 8号ヤックラ(第201図)

位置 23区W-5~4グリッド。調査区東部、7号溝の北に位置する。

形状 長円形の外形が想起されるが、西端が調査区外に及ぶため不明。

規模 (3.05)m、幅2.65m。

主軸方向(度) N-86-E

重複 なし。

遺物 なし。

所見 周辺の不要な石を集積したものと推測される。

(2) 9号ヤックラ(第201図、PL75,92)

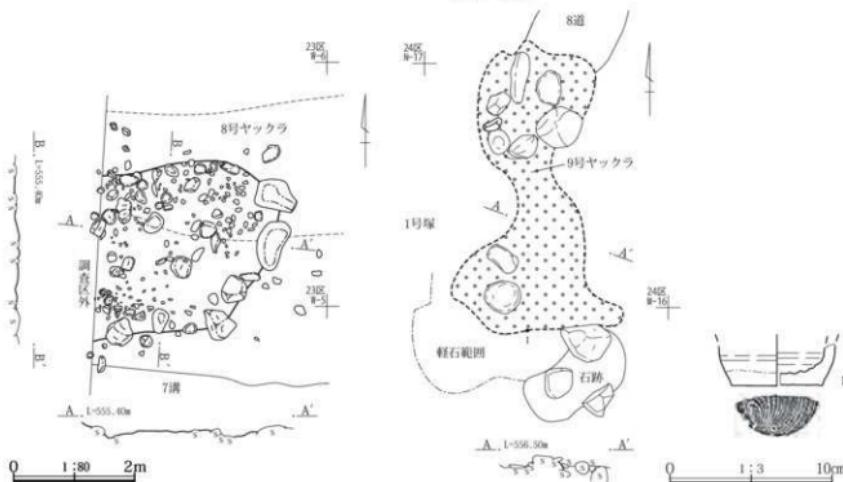
位置 24区M-15~17グリッド。調査区西部、1号塚南東隅、8号道南端に位置する。

形状 簾状の不整形を呈する。

規模 4.78×2.74m

主軸方向(度) N-1-E

重複 なし。



第201図 8号ヤックラ、9号ヤックラと出土遺物

遺物 遺構南端から徳利の底部と思われる瀬戸・美濃陶器片(1)が出土している。

所見 周辺の不要な石を集積したものと推測される。

ヤッカラの石は地表より0.2m程度突出するため、8号道の延長部とするにはおさまりが悪い。

5 塚

調査区西部の天明泥流直下にやや盛り上がった一画が存在する。遺構確認時点では自然地形と思われたが、その東西で土の堆積状況に相違が認められたことから、人為的な盛土と判断された。墓域に隣接することから、社や祠の存在が予想されたが、確認には至らなかった。しかし、塚の東北隅からやや大ぶりの素焼きの火人形が出土している。なお、塚と7号道との境に位置する135号土坑をこの項に含めた。

(1) 1号塚(第202~204図、PL.75,76,92,93)

位置 24区M~O-16~18グリッド。調査区西部、間に7号道を挟み1号墓域の東に位置する。

形状 泥流により削平され、塚の北半があらかた原形をとどめていないが、隅丸方形と推測される。

規模 9.70×9.24m、高さ1.11m。

主軸方向(度) N-12-E

重複 なし。

遺物 東北隅よりの東辺北部から土人形(2~5)、瀬戸・美濃陶器碗(6)、南面から寛永通寶(8)、西斜面半ばからは在地系土器内耳鍋(7)が出土している。また西北隅の根野の近くから寛永通寶(9)が出土している。

所見 1号塚1層は調査区西部基本土層3層、1号塚2層は調査区西部基本土層4層、1号塚5層は調査区西部基本土層5層にそれぞれ相当すると考えられる。1号塚3層と1号塚4層の由来を周辺の土層に求めにくい点を考慮すれば、盛土の可能性を否定できない。また塚西面の土層状況は切土による整地・整形の可能性も否定できず、方形の塚状に整地された遺構と推察される。

備考 調査時の名称は1号盛土。

(2) 135号土坑(第202~204図、PL.76,92,93)

位置 24区O~P-17グリッド。調査区西部、7号道と1号塚の境界に位置する。

形状 五角形を呈する。

規模 1.15×1.06m、深さ0.39m。

主軸方向(度) N-19-E

重複 7号道。

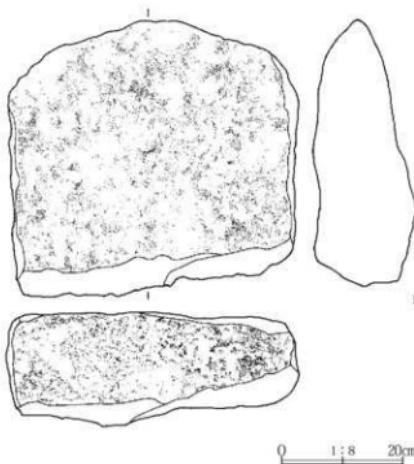
遺物 直上および周辺に台座(1,10)が位置する。

所見 骨類や副葬品の記録は認められないため集石土坑と推察される。2点の台座は天明3年の泥流により1号墓域よりもたらされた可能性も認められるが、土坑の石も含め、道普請などに際して寄せられたものと推察される。

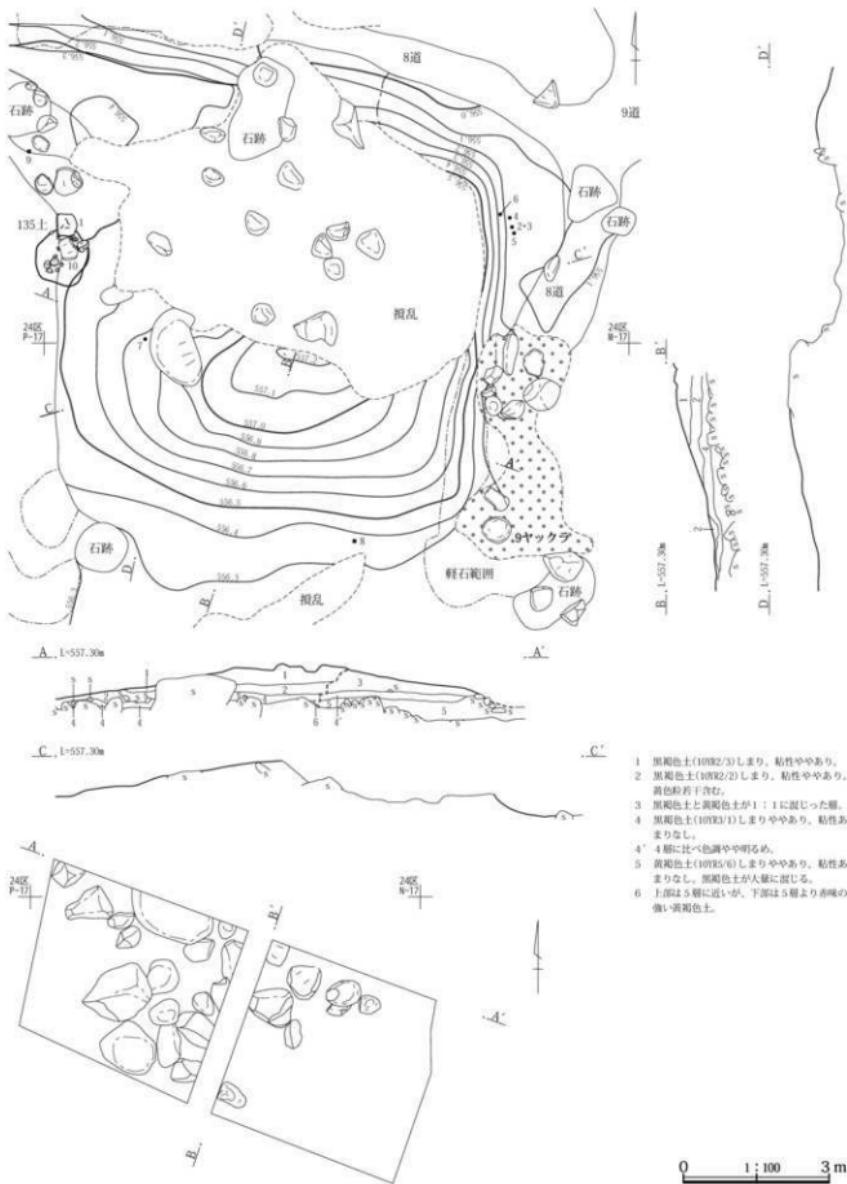
備考 調査所見による遺構区分は2面遺構。本遺構直上に位置する台座(10)の下端標高は556.385m、台座(10)至近の135号土坑集石のうちで記録されている石の上端標高は556.42~556.55mである。また土坑断面A地点の標高565.45mは天明泥流直下の遺構面の標高にほぼ等しいため、天明泥流直下の遺構に含めた。

6 墓域

調査区西部の西辺沿いの天明泥流直下に台座や礫の散在する一段小高い一画があり、鉤の手状の石列1か所と台座9個が確認された。またこの面の下位から、人骨を伴う土坑9基、炭化物集中範囲を伴う焼土遺構1基、炭化物集中範囲2か所が確認されたことから1号墓域とした。



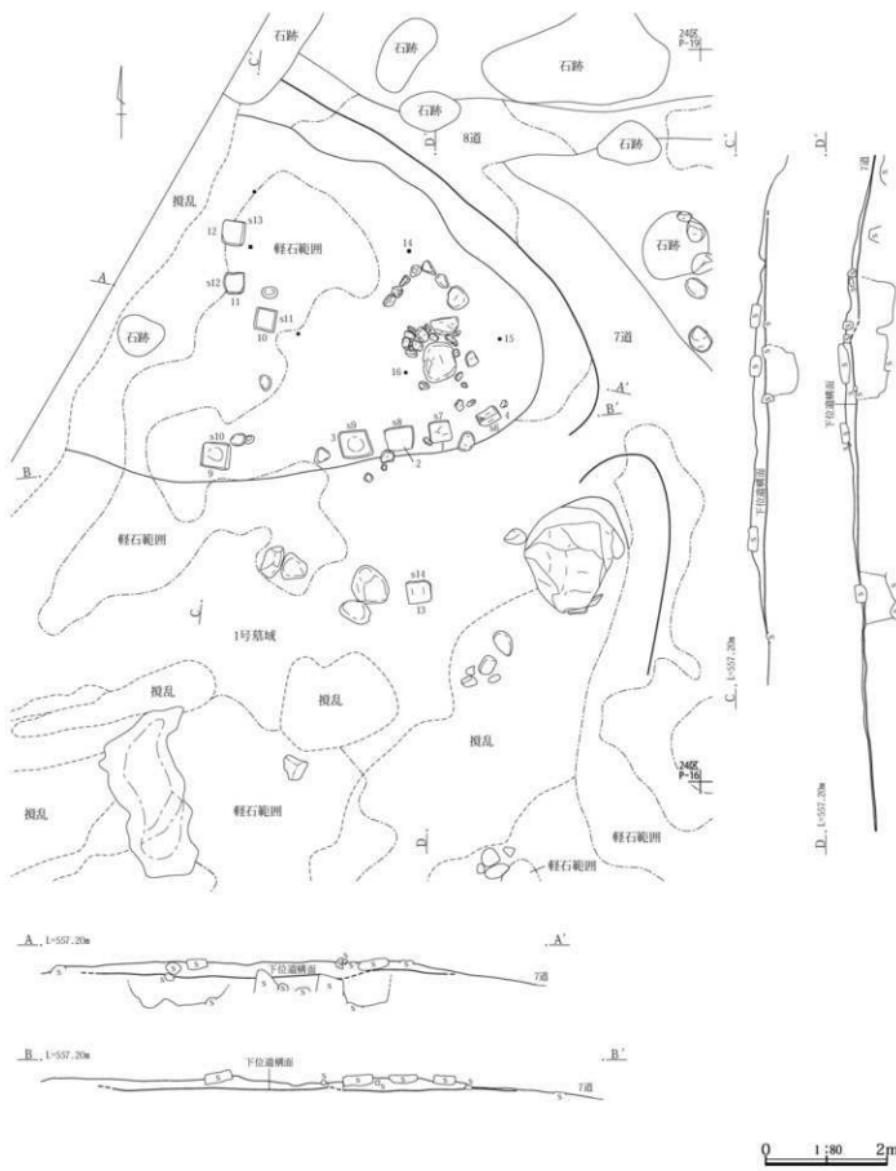
第202図 塚出土遺物 1



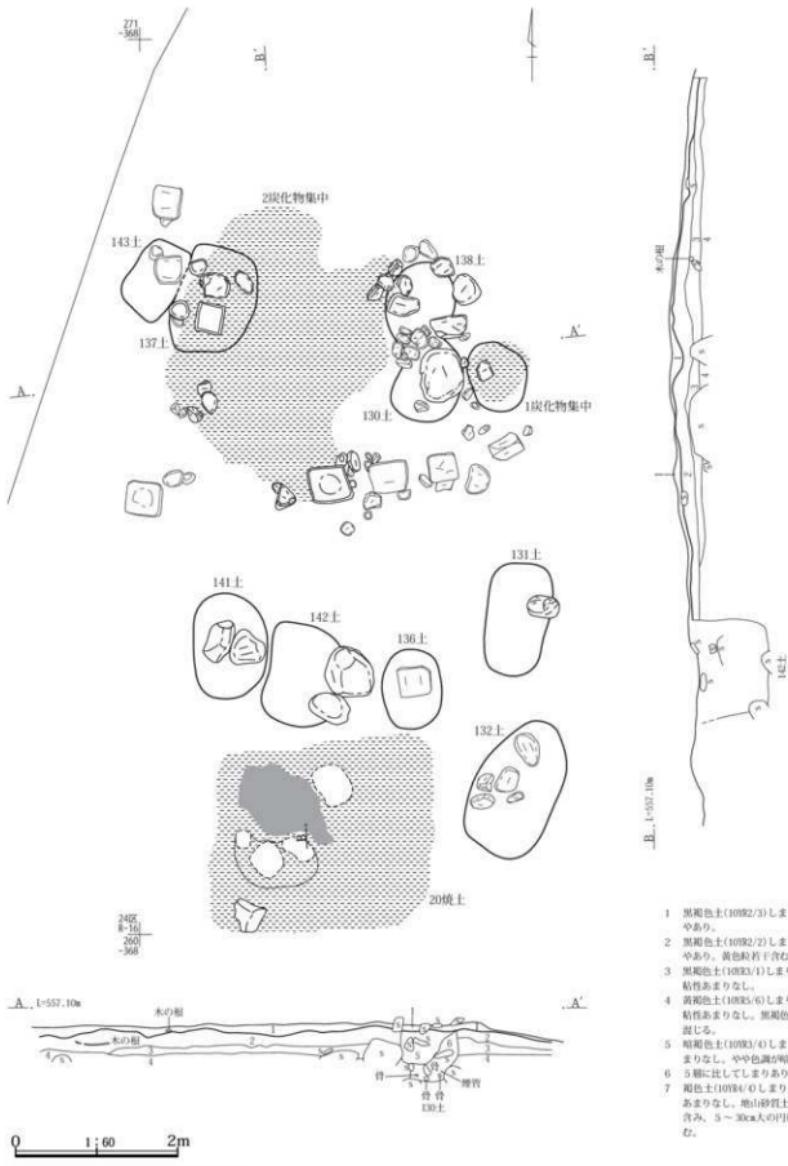
第203図 塚1

135号土坑





第205図 1号墓域 1面



第20章 1. 組織與機構的選用

たが、平成29年度調査区から竿石は確認されていない。

天明泥流直下の遺構面で確認された台座と下位の土坑との間で、その位置関係がおおむね一致するものは3組にとどまる。台座のうちの5個は、その周辺地下に土坑のない場所に一列に存在する(第206図)。

焼土遺構、炭化物集中範囲はいずれも天明泥流直下の遺構面より0.1~0.2m下位の地点から検出されている。また土坑の遺構面も、確認できたものについてはおおむね同程度ないしやや低い標高となっており、天明泥流直下の面との間に黒褐色土層を1枚はさみ、黄色粒を若干含む黒褐色土層を遺構面とする。土坑の確認面は一律に上述の遺構面より下位に設定されている。確認された土坑は南に5基、北に4基の集合をなし、上述した一列に並んだ台座5個はこの南北の隙間のやや北寄りに位置する。

台座が確認された遺構面の遺構および遺物とその下から検出された遺構群については、両者の関係性を確定しえなかつたため、本項では天明3年時点の墓域の構成要素とせずに併記とした。

(1) 1号墓域(第205~218図、PL.76~83,

93~95)

位置 24区P~R-16~18グリッド。調査区西部西端、7号道を間に挟み1号塚の西に位置する。

形状 北辺から東辺にかけては7号道により区画されるが、南辺から西辺にかけての領域界は確認されていない。なお天明泥流直下の面の下位から確認された遺構は、南北に長いおおむね長方形の領域を形成する。

規模 (確認された下位の遺構の範囲)

9.32×5.76m。

主軸方向(度) (確認された下位の遺構の範囲) N-6-W。

埋没土 天明泥流。

遺物 天明泥流直下の遺構面から16世紀の瀬戸・美濃陶器皿(15,16)、永楽通寶(14)、台座(1~4, 9~13)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から近世に比定される。

備考 調査時の名称は1号墓。

(2) 1号炭化物集中範囲(第208図)

位置 24区P-17グリッド。調査区西部、1号墓域の130号土坑の東に隣接する。

形状 長円形。主軸方向の異なる浅い掘り込みを伴う。

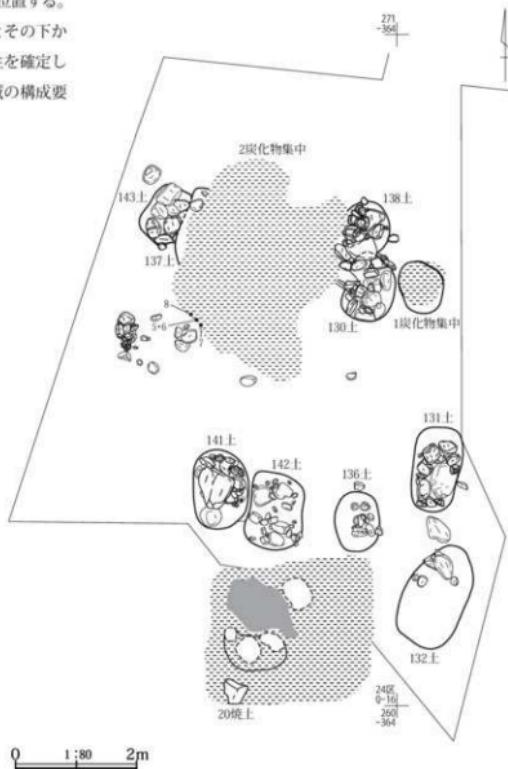
規模 0.78×0.68m。(掘り込み) 0.89m、幅0.73m、深さ0.10m

主軸方向(度) N-46-E。(掘り込み) N-22-W。

埋没土 炭化物粒を少量含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 掘取には至らなかったが古銭が出土しているほか、骨片も確認されている。



第207図 1号墓域2面

所見 本遺構の年代は、遺構面の出土遺物から近世に比定される。

備考 調査時の遺構区分は1面下遺構。

(3) 2号炭化物集中範囲(第207図、PL.93)

位置 24区Q-17~18グリッド。調査区西部、1号墓域の北部、137号土坑と138号土坑の上位に位置する。

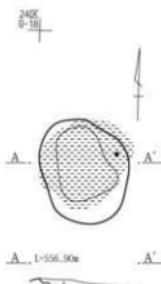
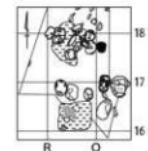
形状 不整形を呈する。

規模 $7.30 \times 6.20\text{m}$

主軸方向(度) N-16°W

重複 下位に137号土坑、138号土坑。

1号炭化物集中範囲



1号炭化物集中範囲

- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまりややあり。粘性あまりなし。炭化物粒を少量含む。周囲にも1~5mm大的炭化物粒が少數散らばっている。

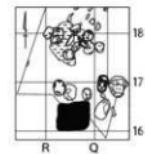
20号焼土遺構

- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまりややあり。炭化物粒が少數混じる。

- 2 明赤褐色土(5RS5/8) しまり、粘性ややあり。下部に灰層があるか? 炭化物粒を含む。



20号焼土遺構



遺物 寛永通寶(5, 6)、煙管(7, 8)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から近世に比定される。

137号土坑、138号土坑より新しい。

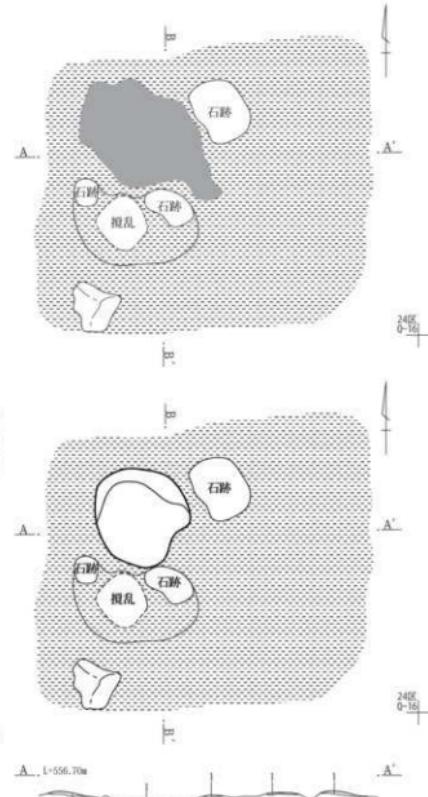
備考 調査時の遺構区分は1面下遺構。

(4) 20号焼土遺構(第208図)

位置 24区Q-16グリッド。調査区西部、1号墓域の南部に位置する。

形状 不整形。焼土周囲3か所から石跡が確認されている。方形の炭化物集中範囲を伴う。

規模 $2.81 \times 1.64\text{m}$ 、深さ 0.16m 。(炭化物集中範囲)



第208図 1号炭化物集中範囲、20号焼土遺構

3.44×3.00m。

主軸方向(度) N-48-W。(炭化物集中範囲) N-85-E。

埋没土 炭化物粒を若干含む明赤褐色土。調査所見では、下部に灰層の存在が示唆されている。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、遺構面の出土遺物から近世に比定される。石圓い印と推察される。

備考 調査時の名称は20号焼土範囲。調査時の遺構区分は1面下遺構。

(5) 130号土坑(第209,216図、PL79,94)

位置 24区Q-17グリッド。調査区西部、1号墓域北部に位置する。

形態 圓丸台形を呈する。

規模 1.13×0.81m、深さ0.63m。

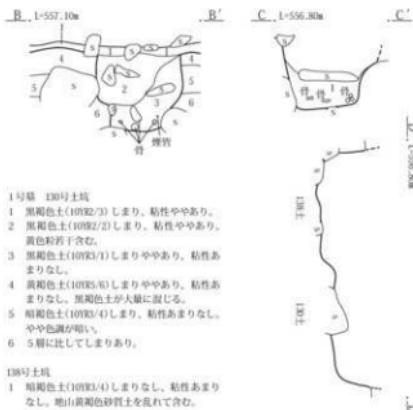
主軸方向(度) N-5-E

埋没土 黒褐色土により埋め戻されている。遺構と天明泥流の間に黒褐色土層が確認されている。

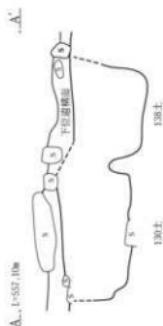
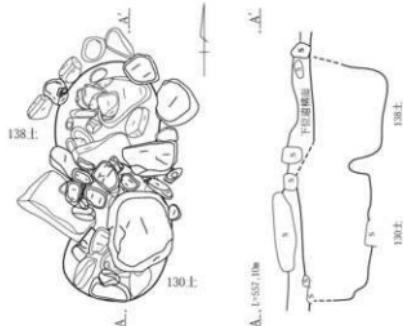
重複 138号土坑。

遺物 埋納された人骨の周囲から永樂通寶(19)、寛永通寶(20,21)、煙管(17,18)が出土している。

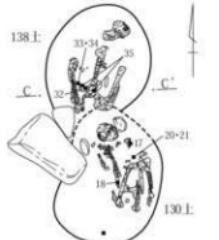
所見 本遺構の年代は、出土遺物から近世に比定される。確認された骨の配置から北頭位で折りたたんだ脚部を左



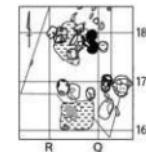
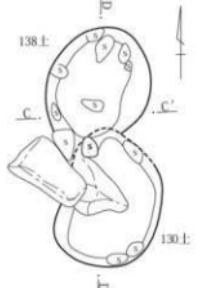
第209図 130・138号土坑



138号土坑埋葬状況



130号土坑埋葬状況



130号土坑

1 黄褐色土(10RS4/4)しまりなし。粘性あまりなし。地山黄褐色砂質土を乱れて含む。

に倒した仰臥屈膝で埋葬された土坑墓と推測される。

備考 調査時の遺構確認面は2面。調査所見によれば、138号土坑より新しい。

(6) 131号土坑(第210図、PL.80,94)

位置 24区P-16～17グリッド。調査区西部、1号墓域南部に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 1.39×0.79m、深さ(0.59)m。

主軸方向(度) N-3-E

埋没土 暗褐色土により埋め戻されている。

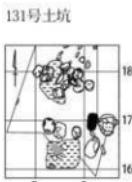
重複 なし。

遺物 人骨周辺から寛永通寶(22～25)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から近世に比定される。

わずかな骨片のみのため埋葬法は不明である。

備考 調査時の遺構確認面は2面。



(7) 132号土坑(第210図、PL.80,81)

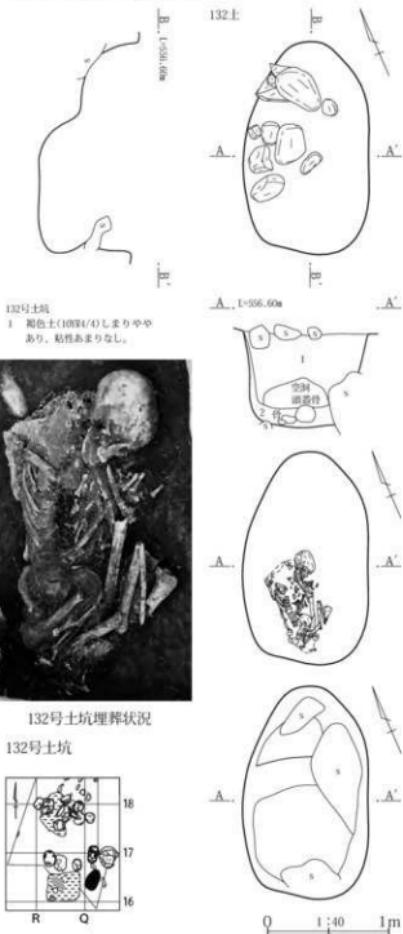
位置 24区P～Q-16グリッド。調査区西部、1号墓域南部に位置する。

形状 ゆがんだ隅丸長方形を呈する。

規模 1.74×1.03m、深さ0.77m。

主軸方向(度) N-27-E

埋没土 暗褐色土により埋め戻されている。底部の人骨の上位に空洞が残されていた。



第210図 131号土坑、132号土坑

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、遺構面の出土遺物から近世に比定される。確認された骨の配置から右半身を上にした北頭位東向横臥屈葬で埋葬された土坑墓と推測される。

備考 調査時の遺構確認面は2面。

(8) 136号土坑(第211,217図、PL.81,95)

位置 24区Q-16グリッド。調査区西部、1号墓域南部に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $0.98 \times 0.74m$ 、深さ(0.52)m。

主軸方向(度) N-4-W

埋没土 人骨下位に褐色土が堆積し、礫を大量に含む暗褐色土により埋め戻されていた。

重複 なし。

遺物 袋入り寛永通寶(26)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から近世に比定される。遺骨の残存状況が不良だが、北頭位仰臥屈葬で埋葬された土坑墓と推定される。天明泥流直下に残されていた台座(13)の下端標高(556.49m)は本遺構に充填された礫の上端標高(556.60~556.50m)とほぼ等しく、台座が原位置から大きく移動していない可能性も認められる。

備考 調査時の遺構確認面は2面。

(9) 137号土坑(第212,217図、PL.81,82,95)

位置 24区Q-17~18グリッド。調査区西部、1号墓域北部に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $1.37 \times 0.99m$ 、深さ(0.24)m。

主軸方向(度) N-21-E

埋没土 30~40cm大の円礫を上位に含む暗褐色土により埋め戻されている。

重複 143号土坑、上位に2号炭化物集中範囲。

遺物 人骨周辺から寛永通寶(27~31)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から近世に比定される。確認された骨の配置から右半身を上にした北頭位東向横臥屈葬で埋葬された土坑墓と推測される。切り合う143号土坑との新旧関係は不明であるが、2号炭化物集中範囲に先行する。

備考 調査時の遺構確認面は2面。土坑直上に位置する台座(10)の下端標高は556.78m、土坑に集積された石の上端標高は556.65~556.76m。埋土が土坑内の石を覆いつくしていたと仮定すれば、台座は原位置を留めている可能性はあるが確証はない。

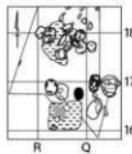
(10) 138号土坑(第209,217図、PL.80,95)

位置 24区Q-17~18。調査区西部、1号墓域北部に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $1.10 \times 0.85m$ 、深さ0.61m。

136号土坑

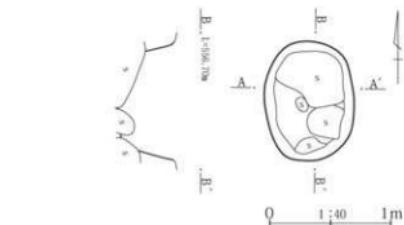


136号土坑

- 1 暗褐色土(1083/4)しまり、粘性あまりなし。10cm大的礫を大量に含む。
- 2 暗褐色土(1084/4)しまり、粘性ややあり。



136号土坑埋葬状況



第211図 136号土坑

主軸方向(度) N-22-E

埋没土 暗褐色土により埋め戻されている。

重複 130号土坑、上位に2号炭化物集中範囲。

遺物 埋葬された人骨の腰部周辺から寛永通寶(32~34)、煙管(35)が出土している。この他資料化に至らなかったが埋没土中から土師器小皿、在地系鍋が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から近世に比定される。確認された骨の配置から北頭位仰臥屈葬で埋葬された土坑墓と推測される。上位に位置する2号炭化物集中範囲に先行する。天明泥流直下の面で確認された鉤の手状の石列は、本遺構を区画する石列の残存したものである可能性が高い。

備考 調査時の遺構確認面は2面。調査所見によれば、130号土坑に先行する。

(11) 141号土坑(第213,218図、PL.82)

位置 24区Q-16~17グリッド。調査区西部、1号墓域南部に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 1.29×0.92m、深さ(0.62)m。

主軸方向(度) N-1-E

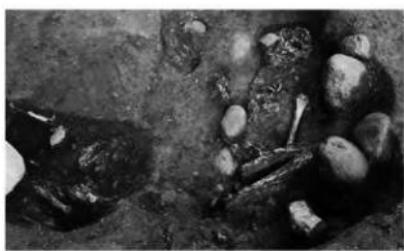
埋没土 地山砂質土を均質に含む褐色土により埋め戻されている。

重複 なし。

遺物 人骨の腰部付近から古錢(36,37)が出土している。

所見 本遺構の年代は、遺構面の出土遺物から近世に比定される。確認された骨の配置から左半身を上にした北頭位西向横臥屈葬で埋葬された土坑墓と推測される。

備考 調査時の遺構確認面は2面。



137・143号土坑埋葬状況

第212図 137・143号土坑



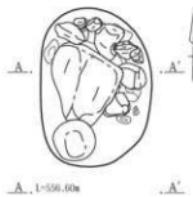
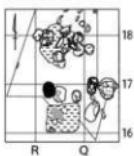
(12) 142号土坑(第213,218図、PL82,83,95)

位置 24区Q-16グリッド。調査区西部、1号墓域南部に位置する。

形状 ゆがんだ楕円長方形を呈する。

規模 $(1.25 \times 0.95\text{m})$ 、深さ0.93m。

141号土坑

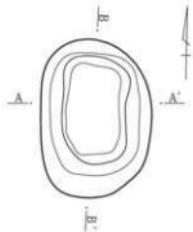


141号土坑

1 褐色土(10YR4/4)しまりなし。
粘性あまりなし。地山砂質土
を不均常に含み、ややボサボサ。



141号土坑埋葬状況

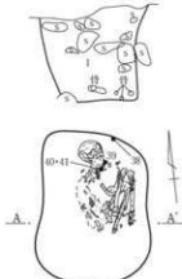
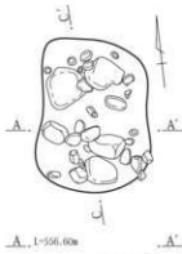
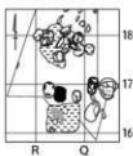


主軸方向(度) N-12-E

埋没土 地山砂質土を不均質に含み、5~30cmの大円礫を多く含む褐色土により埋め戻されている。遺構と天明泥流の間に黒褐色土層が確認されている。

重複 なし。

142号土坑



142号土坑

1 褐色土(10YR4/4)しまりなし。
粘性あまりなし。地山砂質土
を不均質に含み、5~30cm
の大円礫を多く含む。



142号土坑埋葬状況

第213図 141号土坑、142号土坑

遺物 頭部周辺から寛永通寶(39~41)、煙管(38)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から近世に比定される。確認された骨の配置から右半身を上にした北頭位東向横臥屈葬で埋葬された土坑墓と推測される。

備考 調査時の遺構確認面は2面。

(13) 143号土坑(第212,215図、PL.81,82)

位置 24区Q～R-17～18。調査区西部、1号墓域北部に位置する。

形狀 台形を呈する。

規模 0.98×0.63m、深さ(0.38)m。

主軸方向(度) N-33-E

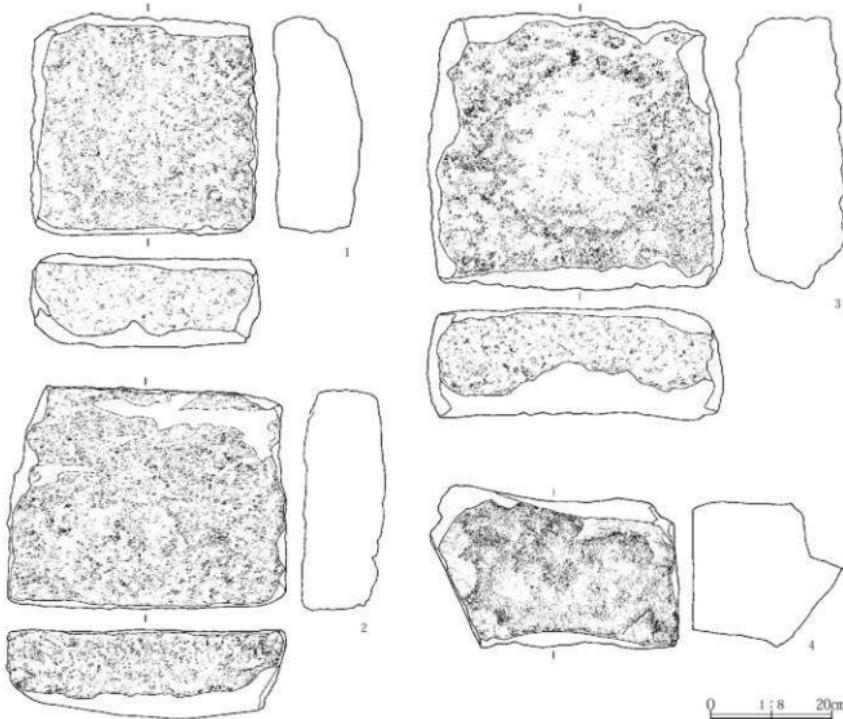
埋没土 暗褐色土により埋め戻されている。

重複 137号土坑。

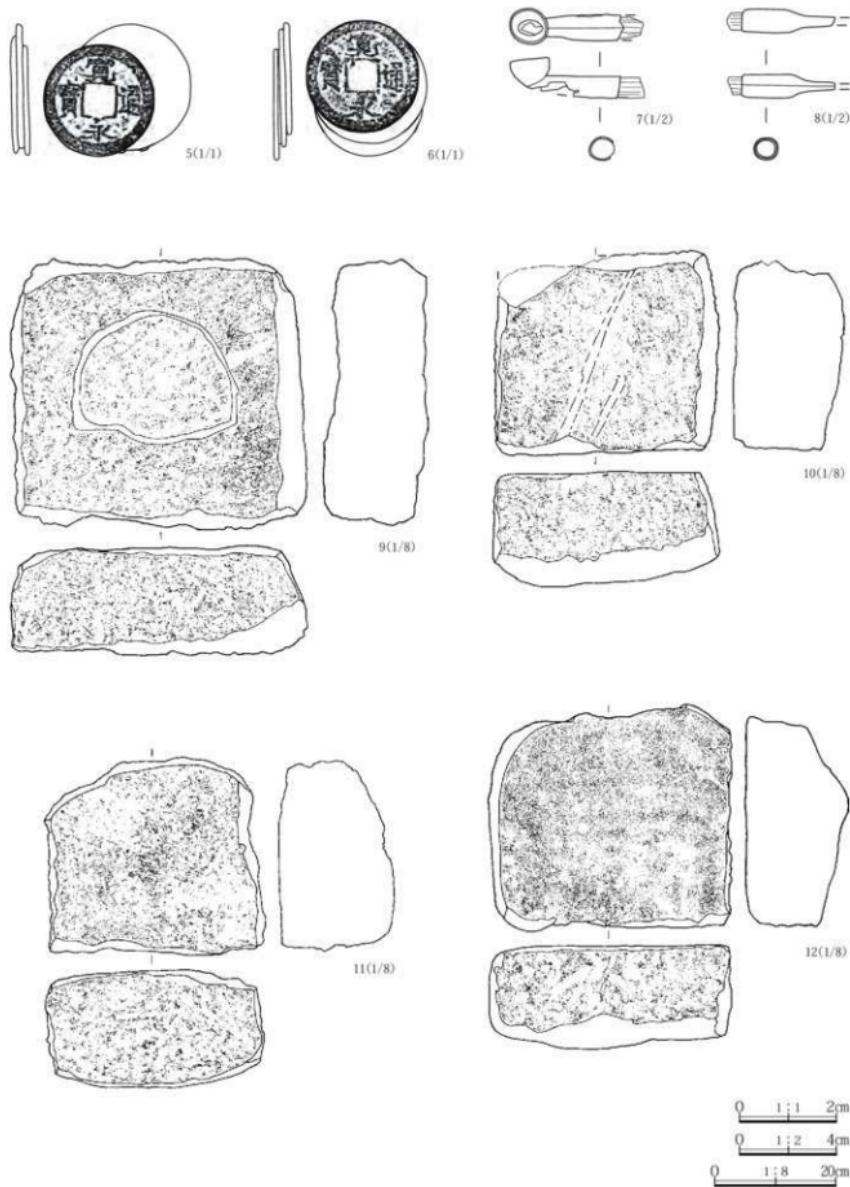
遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、137号土坑と遺構面を等しくすることから近世以前に比定される。遺骨の残り具合が良好ではなく埋葬法は不明である。切り合う137号土坑との新旧関係を示す資料は得られていない。

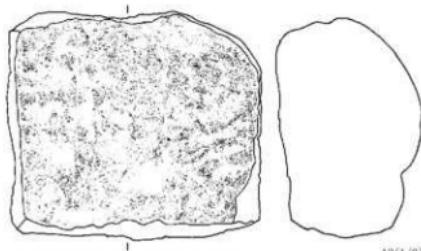
備考 調査時の遺構確認面は2面。後述の自然科学分析によれば、本遺構の葬法は北頭位東向横臥屈葬とされるので、137号土坑が143号土坑に先行する可能性もある。土坑直上に位置する台座(11)の下端標高は556.77m、土坑に集積された石の上端標高は556.58～556.77m。埋没土が土坑内の石を覆いつくしていたと仮定すれば、台座は原位置を留めている可能性もあるが、確証は得られていない。



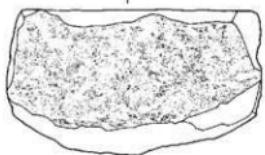
第214図 1号墓域出土遺物 1



第215図 1号墓域出土遺物2



13(1/8)



130号土坑



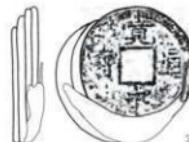
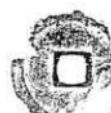
17(1/2)



18(1/2)



19(1/1)



20(1/1)



21(1/1)

131号土坑



22(1/1)



23(1/1)



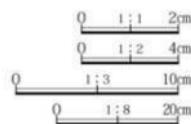
24(1/1)



25(1/1)

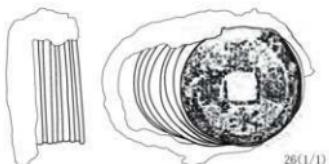


14(1/1)

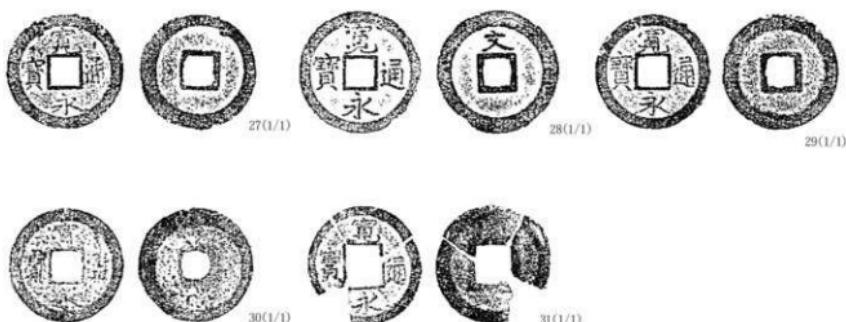


第216図 1号墓域出土遺物 3

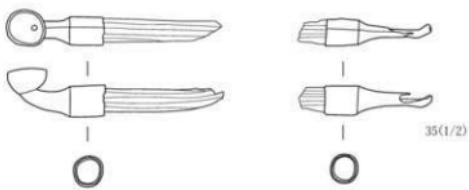
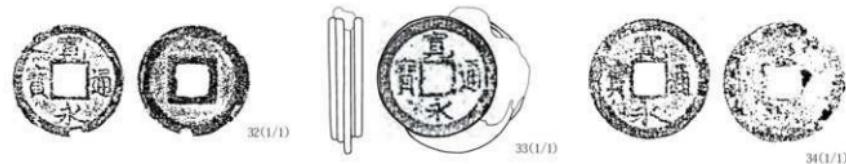
136号土坑



137号土坑



138号土坑



0 1:1 2cm
0 1:2 4cm

第217図 1号墓域出土遺物 4

7 土坑

平成29年度調査区で確認された20基の土坑は、135号土坑を除き天明泥流の下位から確認されている。またその所在も調査区西部および調査区東部のそれぞれ北辺寄りの地域に限定される。調査区東部の土坑埋没土はいずれも黄橙色粒を少量含む黒褐色土であり、色調により二分される。下田遺跡では近世から中世にかけての遺構に多い土である。また調査区西部の土坑埋没土は地山砂質土の有無により大別される。下田遺跡では、中世から古代にかけての遺構にみられることの多い土であるが、近世の遺物を作り事例も存在している。

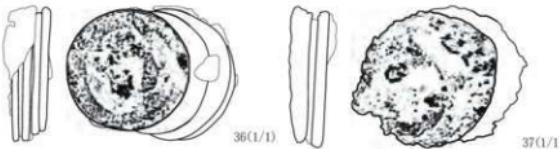
本項では、1号塚と1号墓域の領域に含まれていない土坑10基につき記載する。なおこのうち2基は人骨を伴う。土坑はいずれも調査時に2面とした遺構確認面から検出されており、下田遺跡では近世から古代にかけての遺構が検出される遺構面に相当する。

(1) 124号土坑(第219図、PL.84)

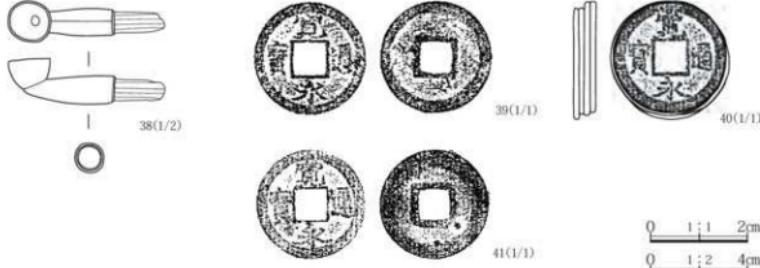
位置 23区T-14グリッド。調査区東部に位置する。

形状 方形を呈する。

141号土坑



142号土坑



第218図 1号墓域出土遺物 5

規模 $0.63 \times 0.59m$ 、深さ $0.41m$ 。

主軸方向(度) N-50-W

埋没土 黄橙色粒を少量含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、天明3年の遺構面の下位からの検出であり近世以前に比定される。

(2) 125号土坑(第219図、PL.84)

位置 23区T-13グリッド。調査区東部に位置する。

形状 円形を呈する。

規模 $0.67 \times 0.60m$ 、深さ $0.28m$ 。

主軸方向(度) N-80-W

埋没土 黄橙色粒を少量含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、天明3年の遺構面の下位からの検出であり近世以前に比定される。

(3) 126号土坑(第219図、PL.85)

位置 23区P～Q-12グリッド。調査区東部に位置する。

形状 台形を呈する。

規模 $1.31 \times 0.83\text{m}$ 、深さ 0.21m 。

主軸方向(度) N-61-E

埋没土 黄橙色粒を少量含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、天明3年の遺構面の下位からの検出であり近世以前に比定される。

(4) 129号土坑(第219図、PL.85)

位置 23区 S ~ T-14グリッド。調査区東部に位置する。

形状 ゆがんだ隅丸長方形を呈する。

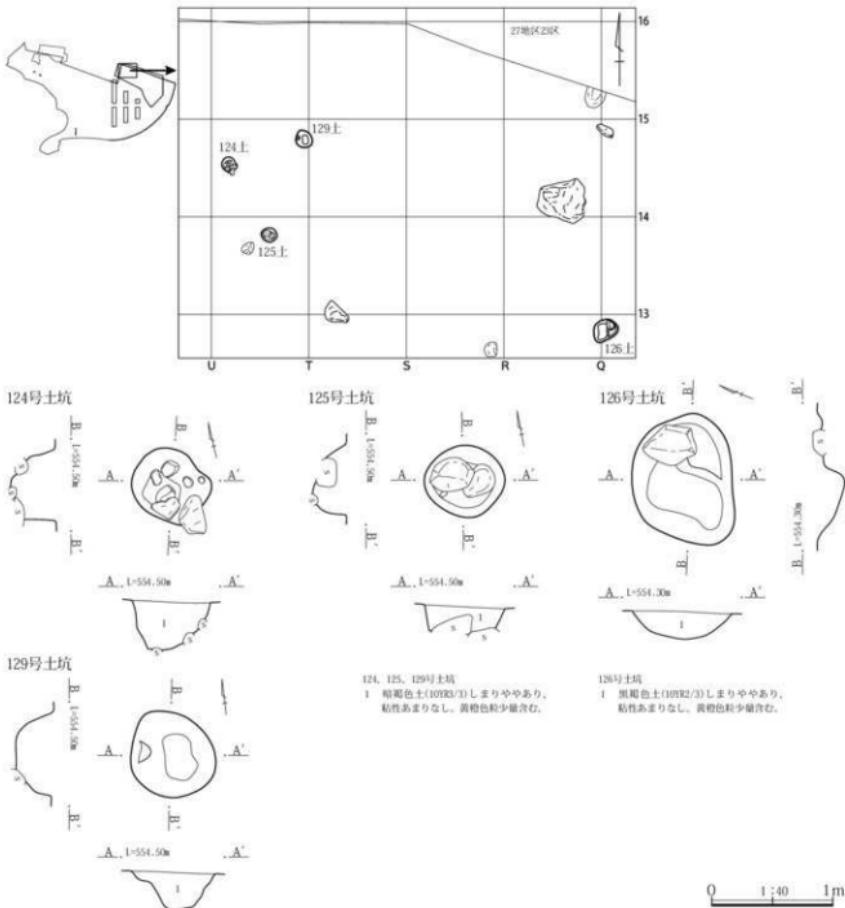
規模 $0.76 \times 0.67\text{m}$ 、深さ 0.29m 。

主軸方向(度) N-27-W

埋没土 黄橙色粒を少量含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。



第219図 土坑1

所見 本遺構の年代は、天明3年の遺構面の下位からの検出であり近世以前に比定される。

(5) 127号土坑(第220図、PL.85)

位置 23区J-10グリッド。調査区東部に位置する。

形狀 長円形を呈する。

規模 $1.28 \times 0.75m$ 、深さ $0.15m$ 。

主軸方向(度) N-79-E

埋没土 黄橙色粒を少量含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、天明3年の遺構面の下位からの検出であり近世以前に比定される。

(6) 128号土坑(第220図、PL.85)

位置 23区J-7。調査区東部に位置する。

形狀 ゆがんだ長円形を呈する。

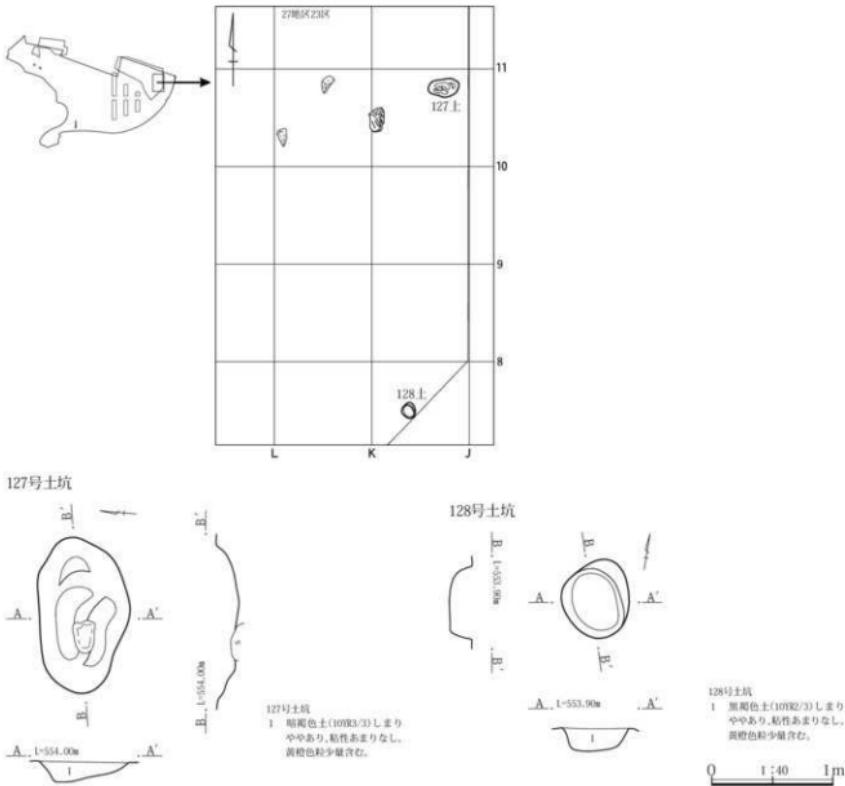
規模 $0.64 \times 0.56m$ 、深さ $0.18m$ 。

主軸方向(度) N-5-E

埋没土 黄橙色粒を少量含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。



第220図 土坑2

第4章 平成29年度調査・確認された遺構と遺物

所見 本遺構の年代は、天明3年の遺構面の下位からの検出で近世以前に比定される。

(7) 133号土坑(第221図、PL.86)

位置 24区P-20グリッド。調査区西部に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $0.61 \times 0.51\text{m}$ 、深さ 0.15m 。

主軸方向(度) N-71-W

埋没土 不均質に地山ブロックを含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、天明3年の遺構面の下位からの検出で近世以前に比定される。

(8) 134号土坑(第221図、PL.86)

位置 24区J-19グリッド。調査区西部に位置する。

形状 隅丸方形を呈する。

規模 $(0.77) \times (0.65)\text{m}$ 、深さ 0.21m 。

主軸方向(度) N-88-E

埋没土 不均質な黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、天明3年の遺構面の下位からの検出で近世以前に比定される。

(9) 139号土坑(第221図、PL.86, 95)

位置 24区M-17グリッド。調査区西部に位置する。

形状 隅丸台形を呈する。

規模 $1.11 \times 0.90\text{m}$ 、深さ $(0.21)\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-15-E

埋没土 2~3mmの大黄褐色軽石粒を極くわずかに含み、一部地山砂質土ブロックを含む黒褐色土により埋め戻されている。

重複 なし。

遺物 埋納された人骨頭部付近から寛永通寶(1)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から近世に比定される。確認された骨の配置から左半身を上にした北頭位西向臥屈葬で埋葬された土坑墓と推測される。

(10) 140号土坑(第221図、PL.86, 87)

位置 24区M-17~18グリッド。調査区西部に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $0.88 \times (0.61)\text{m}$ 、深さ $(0.48)\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-17-E

埋没土 2~3mmの大黄褐色軽石粒を極くわずかに含み、一部地山砂質土ブロックを含む黒褐色土により埋め戻されている。

重複 なし。

遺物 調査時点において漆被膜が確認されている。

所見 本遺構の年代は、天明3年の遺構面の下位からの検出で、近世以前に比定される。土坑墓と推測されるが理葬法などは確認できない。

8 ピット

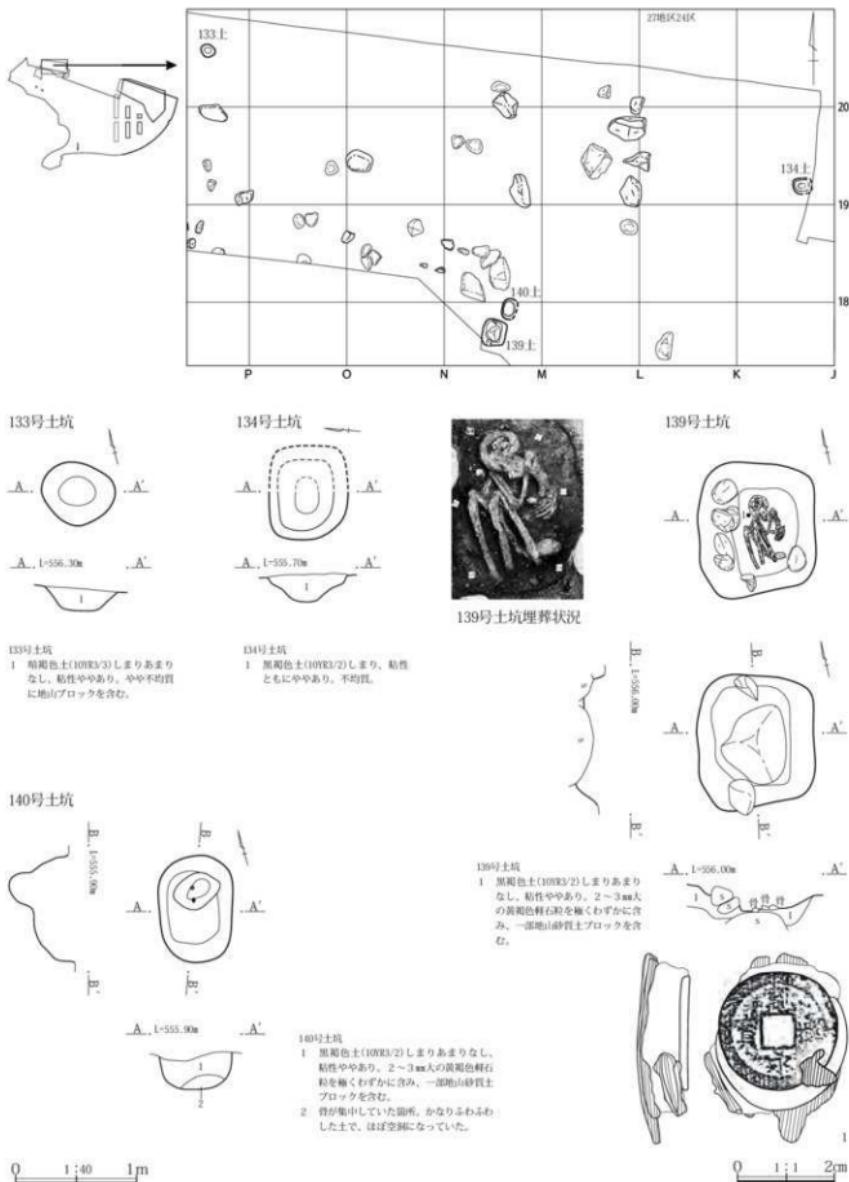
平成29年度調査区で確認された43基のピットは、いずれも天明泥流の下位の遺構面から確認されている。またその所在も調査区西部および調査区東部のそれぞれ北辺寄りの地域に限定される。

調査区東部のピットの埋没土は392号ピットを除き、いずれも黄橙色を少量含む黒褐色土であり、わずかな色合いの違いから3群に分かれる。この土は、下田遺跡では近世から中世にかけての遺構にみられることの多いものである。

調査区西部のピットの埋没土は、いずれも黄褐色軽石粒と地山砂質土ブロックを含む黒褐色土であり、炭化粒の有無により二分される。この土は、下田遺跡では中世から古代にかけての遺構にみられることの多いものであるが、近世の遺物を伴う事例も存在している。なお、この土は、前項で記述した近世土坑墓である139号土坑の掘り方や140号土坑を埋めた土からも検出されている。

確認された43基のピットはいずれも遺物を伴わず、重複する遺構も存在しない。またいずれのピットも、調査時に2面とした遺構確認面から検出されており、下田遺跡では近世から古代にかけての遺構が検出される遺構面に相当する。

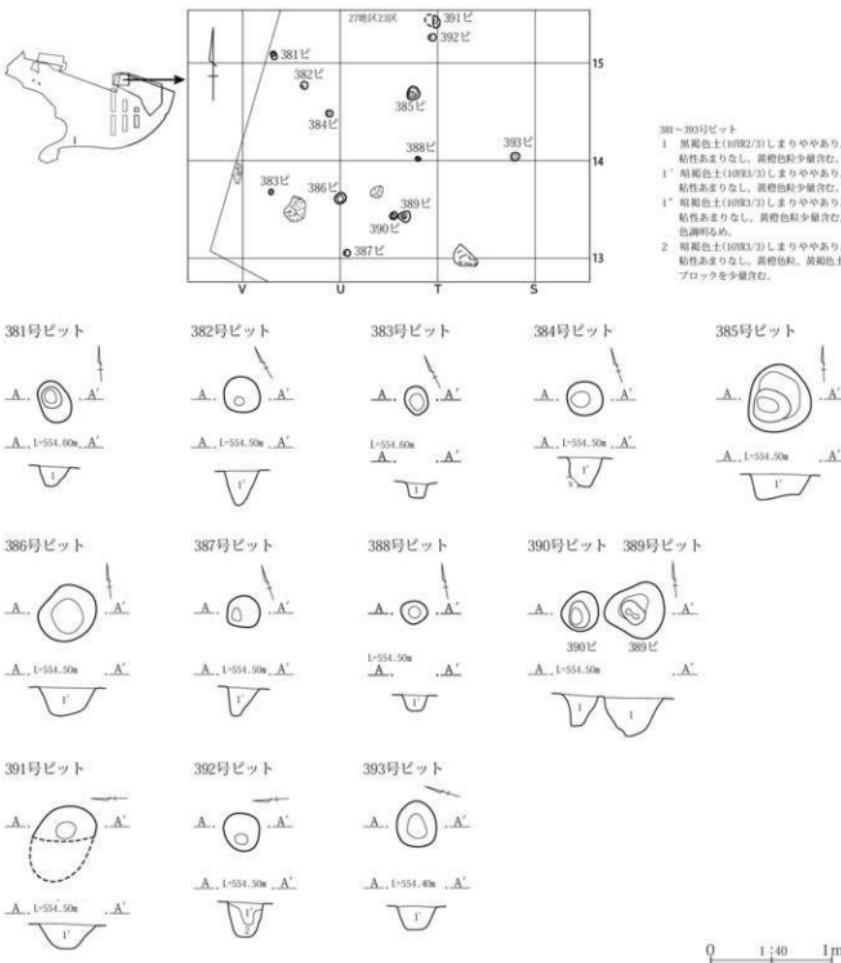
(第222~225図、PL.87~91)



第221図 土坑3と土坑出土遺物

第84表 ピット計測表1

名前	381号ピット	382号ピット	383号ピット	384号ピット	385号ピット	386号ピット	387号ピット	388号ピット	389号ピット	390号ピット
位置	23区U-15	23区U-14	23区U-13	23区U-14	23区T-14	23区 T~U-13	23区 T~U-13	23区 T-13~14	23区 T-13	23区 T-13
平面形状	長円形	円形	長円形	円形	長円形	長円形	長円形	長円形	不整形	長円形
規模 長(m)	0.36	0.32	0.24	0.31	0.56	0.50	0.28	0.21	0.49	0.33
短(m)	0.24	0.31	0.19	0.30	0.50	0.42	0.28	0.19	0.46	0.31
深(m)	0.16	0.28	0.14	0.23	0.22	0.23	0.25	0.15	0.32	0.27
主軸方向(度)	N-22-W	N-19-W	N-8-W	N-37-W	N-7-E	N-53-E	—	N-56-W	N-89-W	N-68-W



第222図 ピット1

第85表 ピット計測表2

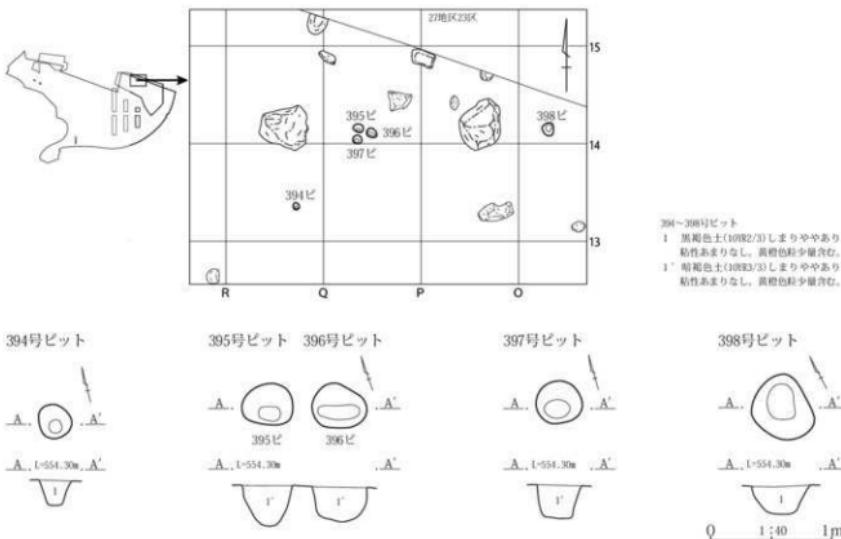
名前	391号ピット	392号ピット	393号ピット	394号ピット	395号ピット	396号ピット	397号ピット	398号ピット	399号ピット	400号ピット
位置	23区 S-T-15	23区T-15	23区 S-13-14	23区Q-13	23区号ピット ト-14	23区号ピット ト-14	23区号ピット ト-14	23区N-14	23区L-12	23区 J-11~12
平面形状	長円形	長円形	長円形	長円形	不整形	円形	長円形	楕円形	長円形	長円形
規模	長(m) 0.66	0.31	0.37	0.29	0.42	0.45	0.38	0.54	0.62	0.33
幅(m)	0.43	0.29	0.32	0.27	0.35	0.38	0.36	0.48	0.61	0.30
深(m)	0.19	0.26	0.19	0.22	0.34	0.29	0.28	0.25	0.22	0.28
主軸方向(度)	N-65-W	N-85-W	N-70-E	N-20-W	N-74-W	N-63-W	N-58-W	N-22-W	N-29-E	N-23-W

第86表 ピット計測表3

名前	401号ピット	402号ピット	403号ピット	405号ピット	406号ピット	407号ピット	408号ピット	409号ピット	410号ピット	411号ピット
位置	23区K-10	23区K-10	23区J-9	24区J-19	24区J-19	24区J-19	24区J-19	24区J-19	24区J-18	24区 K-18~19
平面形状	長円形	長円形	長円形	円形	楕丸形	長円形	楕丸形	長円形	円形	円形
規模	長(m) 0.33	0.31	0.27	0.27	0.28	0.24	0.31	0.31	0.30	0.29
幅(m)	0.31	0.27	0.24	0.27	0.26	0.22	0.28	0.30	0.29	0.27
深(m)	0.25	0.15	0.22	0.21	0.13	0.16	0.21	0.19	0.37	0.22
主軸方向(度)	N-49-E	N-2-W	N-36-W	—	N-73-W	N-50-W	N-70-E	N-43-W	N-9-E	N-70-E

第87表 ピット計測表4

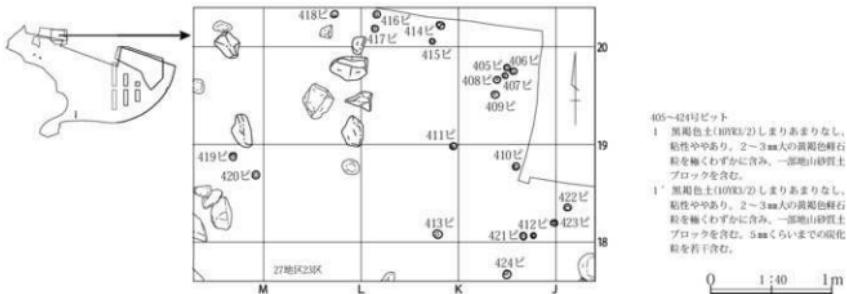
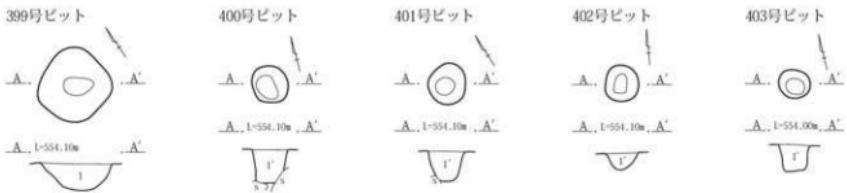
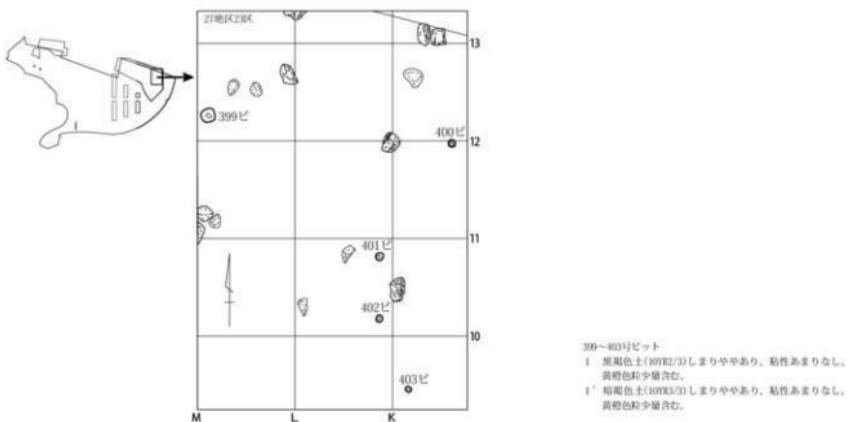
名前	412号ピット	413号ピット	414号ピット	415号ピット	416号ピット	417号ピット	418号ピット	419号ピット	420号ピット	421号ピット
位置	24区J-18	24区K-18	24区K-20	24区K-20	24区K-20	24区K-20	24区L-20	24区M-18	24区M-18	24区J-18
平面形状	長円形	長円形	長円形	円形	円形	円形	楕丸形	長円形	円形	長円形
規模	長(m) 0.25	0.38	0.36	0.25	0.31	0.29	0.33	0.33	0.33	0.30
幅(m)	0.23	0.32	0.30	0.24	0.29	0.29	0.29	0.29	0.31	0.28
深(m)	0.19	0.37	0.36	0.15	0.28	0.17	0.33	0.20	0.38	0.33
主軸方向(度)	N-2-W	N-63-W	N-64-W	N-33-W	N-71-E	—	N-37-E	N-12-W	N-10-W	N-8-W



第223図 ピット2

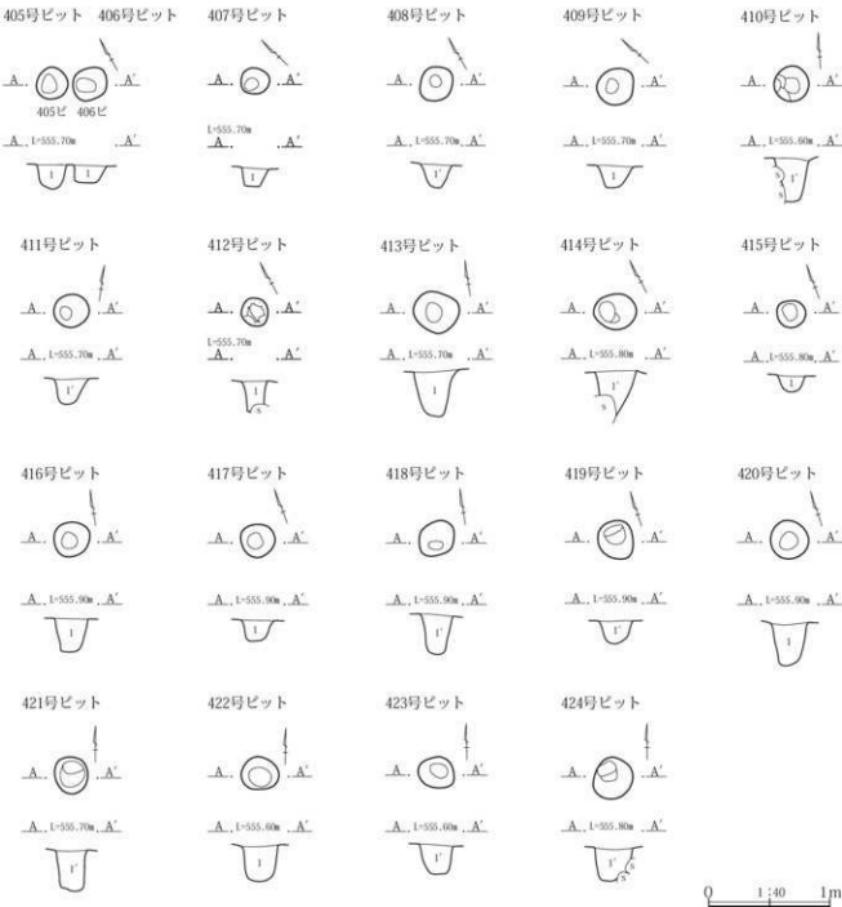
第88表 ピット計測表5

名稱	422号ピット	423号ピット	424号ピット
位置	24区 I-18	24区 I ~ J-18	24区 J-17
平面形状	長円形	長円形	長円形
規模 長(m)	0.31	0.29	0.35
周(m)	0.29	0.26	0.34
深(m)	0.30	0.25	0.29
主軸方向(度)	N-79-W	N-85-E	N-9-W



第224図 ピット3

第1節 遺構と遺物



第225図 ビット4

9 遺構出土の遺物

調査区西部の天明泥流直下の面から縄文土器加曾利E 4式の破片(2)、その下位の面から縄文土器関山II式の破片(1)が出土している。

(第226図、PL.95)



第226図 遺構出土遺物

10 遺物観察表および未掲載遺物

第89表 7号道出土遺物

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第198回 PL.92	1	鉢 新寛永	7号道路面 一部欠損	幅 2.50 厚 0.11 幅 2.50 重 2.2		背文。全体が白っぽく劣化している。背側の部の一部に削り残しが見られる。	

第90表 9号ヤッカラ出土遺物

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第201回 PL.92	1	彫刻・美濃 陶器 徳利か	9号ヤッカラ 高台部破片1/3	口 底 (5.5)	器 高	夾雜物微量/灰	底部内面と体部外下面に鉄軸。体部下位から底部は無軸。 底部は回転系切後に無調整。 江戸時代

第91表 塚出土遺物

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第202回 PL.92	1	台座	1号塚(135上坑 上位) 完形	長 45.2 幅 47.2	厚 18.4 重 55680.0	粗粒輝石安山岩	全般的に自然面であり亜円錐を利用する。下側面の一部に打削面が認められる。
第204回 PL.92	2	土製品 土人形	1号塚東辺北部 東斜面±0cm 頭部±左後ろ半 身欠損	0 0	器 高	夾雜物微量/粗	前後の型を合わせて成形。頭部は欠損、内部は空洞。和装の婦人像座。
第204回 PL.92	3	土製品 土人形	1号塚東辺北部 東斜面±0cm 1/2	0 0	器 高	夾雜物微量/粗	前後の型を合わせて成形。頭部は欠損、内部は空洞。和装の婦人像座。
第204回 PL.92	4	土製品 土人形	1号塚東辺北部 東斜面±0cm 完形	0 0	器 高	夾雜物微量/粗	前後の型を合わせて成形。和装の婦人像座。
第204回 PL.93	5	土製品 土人形	1号塚東辺北部 東斜面±0cm 完形	0 0	器 高	夾雜物微量/粗	前後の型を合わせて成形。和装の婦人像座。
第204回 PL.92	6	彫刻・美濃 陶器 瓶	1号塚東辺北部 東斜面±0cm 体部から高台部	口 底 (5.0)	器 高	夾雜物微量/灰白	底部内面と体部外下面に褐色の釉薬。体部下位から高台部は施釉後に輪を拭う。 江戸時代
第204回 PL.93	7	在地系土器 内耳皿	1号塚西斜面 部体部	口 底	器 高	夾雜物少量/褐灰	内面はナデ、外表面は炭素が吸着。 中世
第204回 PL.92	8	鉢 新寛永	1号塚南辺 1/2	幅 2.55	厚 0.9		非常に劣化が進んでおり、もろくなっている。文字は判読可能だが、とくに背側の劣化が激しい。
第204回 PL.92	9	鉢 新寛永	1号塚西北部 一部欠損	幅 2.43 幅 2.50	厚 0.13 重 1.7		文字、輪、郭が色が付いている。横方向の確かに傷が見られる。
第204回 PL.93	10	台座	1号塚(135上坑 上位) 4/5	長 35.6 幅 46.8	厚 16.8 重 38220.0	粗粒輝石安山岩	表面は全体的に平坦であり平ノミ状または棒状の工具痕が認められる。側面部と裏面は打削面で構成される。

第92表 1号墓域出土遺物1

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第214回 PL.93	1	台座	1号墓域1面 (S7) 完形	長 36.4 幅 37.2	厚 14.8 重 34320.0	粗粒輝石安山岩	表面は全体的に平坦であり棒状工具痕がわずかに認められる。側面部は全体的に打削面で構成されるが比較的明瞭に棒状工具痕が認められる。裏面は全体的に自然面であり曲面で構成されることから大形円錐を利用している可能性が高い。
第214回 PL.93	2	台座	1号墓域1面 (S8) ほぼ完形	長 36.6 幅 46.0	厚 14.6 重 34480.0	粗粒輝石安山岩	表面は全体的に平坦である。表面と側面部には棒状の工具痕が認められる。裏面は全体的に自然面であり曲面で構成されることから大形円錐を利用している可能性が高い。
第214回 PL.93	3	台座	1号墓域1面 (S9) 完形	長 45.4 幅 48.8	厚 18.8 重 51120.0	粗粒輝石安山岩	表面は平坦であり中央に円形の横くぼみ跡が認められる。表面には棒状工具痕が比較的明瞭に認められる。側面部と裏面は全体的に打削面で構成され棒状工具痕がわずかに認められる。
第214回 PL.93	4	台座	1号墓域1面 (S6) 完形	長 26.8 幅 40.8	厚 25.6 重 43360.0	粗粒輝石安山岩	表面は全体的に平坦であり自然面である。左側面の一部にも自然面が認められ垂直縦を利用。他の側面と裏面は全体的に打削面で構成される。
第215回 PL.93	5	鉢 新寛永	1号墓域2面 完形	幅 2.64 幅 3.02	厚 0.30 重 7.8		3枚が施されている。一部に紙とみられる繊維痕が残存する。

第93表 1号墓域出土遺物2

拂 図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第215図 PL.94	6	銭貨 新寛永	1号墓域2面 完形	幅 2.80	厚 2.2		3枚が施着している。2枚が新寛永であることは確認できる。	
第215図 PL.94	7	銅製品 煙管(雁首)	1号墓域2面 幅 1.6	長 5.6	高 1.6		羅字が残存する。つなぎ目が上になる。	
第215図 PL.93	8	銅製品 煙管(吸口)	1号墓域2面 部欠損	幅 1.0	長 4.1	高 0.9	羅字が残存する。表面が荒れている。回が付く。	
第215図 PL.94	9	台座	1号墓域1面 (S10) 完形	幅 48.0	長 44.4	厚 18.0	粗粒輝石安山岩 60950.0	表面は全体的に平坦であり中央に半円形の浅い凹みが作出される。表面には棒状の工具痕が多数認められる。側面部と裏面は打削面で構成されるが棒状工具痕はわずかに認められる。
第215図 PL.94	10	台座	1号墓域1面 (S11,137上坑土 位) 4/5	幅 36.8	長 33.6	厚 18.8	粗粒輝石安山岩 35400.0	表面は全体的に平坦である。表面と左側面及び下側面には平ノミあるいは棒状の工具痕が認められる。上側面には打削面で構成される。裏面は全体的に自然面であり大形円錐を利用。
第215図 PL.94	11	台座	1号墓域1面 (S12,143上坑土 位) 完形	幅 36.2	長 32.4	厚 19.2	粗粒輝石安山岩 23200.0	表面は全体的に平坦であり棒状工具痕が認められる。側面部は全体的に打削面で構成されるが下側面には棒状の工具痕がわずかに認められる。裏面は全体的に自然面で前面は曲面で構成されることから大形円錐を利用している可能性が高い。
第215図 PL.94	12	台座	1号墓域1面 (S13) 完形	幅 39.6	長 37.2	厚 16.8	粗粒輝石安山岩 44040.0	表面は全体的に平坦である。表面と左側面及び裏面は全体的に自然面であり角錐を利用する。右側面と下側面は打削面で構成される。

第94表 1号墓域出土遺物3

拂 図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第216図 PL.94	13	台座	1号墓域1面 (S14,136上坑土 位) 完形	幅 41.6	長 37.2	厚 23.6	粗粒輝石安山岩 57780.0	表面は全体的に平坦であり棒状工具痕が多数認められる。裏面は全体的に打削面で構成され棒状工具痕がわずかに認められる。裏面は打削面と自然面で構成され自然面は曲面であることから大形円錐を利用している可能性が高い。
第216図 PL.94	14	銭貨 水袋通寶	1号墓域1面 一部欠損	幅 2.50	厚 2.50	0.11 2.2		文字、縦、郭は明瞭。背側が変形により一部膨らむ。
第216図 PL.94	15	陶器 灰陶	瀬戸・美濃 泥流下 底	口 (10.0)	厚 高			
第216図 PL.94	16	陶器 灰陶	瀬戸・美濃 泥流直下-13cm 底	口 (6.5)	厚 高		裏面は全体的に打削面で構成され棒状工具痕がわずかに認められる。裏面は打削面と自然面で構成され自然面は曲面であることから大形円錐を利用している可能性が高い。	16世紀
第216図 PL.94	17	銅製品 煙管(雁首)	1号墓域(130上 坑) 道骨上 完形	幅 7.8	長 2.0	高 1.6		裏面は全体的に平坦であり棒状工具痕が多数認められる。裏面は打削面と自然面で構成され自然面は曲面であることから大形円錐を利用している可能性が高い。
第216図 PL.94	18	銅製品 煙管(吸口)	1号墓域(130上 坑) 道骨上 完形	幅 1.0	長 8.6	高 9.2		裏面は全体的に平坦であり棒状工具痕が多数認められる。裏面は打削面と自然面で構成され自然面は曲面であることから大形円錐を利用している可能性が高い。
第216図 PL.94	19	銭貨 水袋通寶	1号墓域(130上 坑) 底±0cm 一部欠損	幅 0	幅 0	厚 重	0.11 1.3	裏面は全体的に平坦であり棒状工具痕が多数認められる。裏面は打削面と自然面で構成され自然面は曲面であることから大形円錐を利用している可能性が高い。
第216図 PL.94	20	銭貨 新寛永	1号墓域(130上 坑) 底±0cm 完形	幅 2.80	幅 2.87	厚 重	0.53 12.5	4枚が施着している。その内1枚に古寛永が見られる。
第216図 PL.94	21	銭貨 新寛永	1号墓域(130上 坑) 底±0cm 完形	幅 2.13	幅 2.15	厚 重	0.18 1.4	裏面は全体的に平坦であり棒状工具痕が多数認められる。裏面は打削面と自然面で構成され自然面は曲面であることから大形円錐を利用している可能性が高い。
第216図 PL.94	22	銭貨 新寛永	1号墓域(131上 坑) 道骨上 完形	幅 2.63	幅 2.56	厚 重	0.32 7.2	3枚施着。文字はやや不明瞭。3枚の内1枚の劣化状況が激しく、孔が空き、一部欠損している。
第216図 PL.94	23	銭貨 新寛永	1号墓域(131上 坑) 道骨上 完形	幅 2.21	幅 2.21	厚 重	0.08 2.1	裏面は全体的に平坦であり棒状工具痕が多数認められる。裏面は打削面と自然面で構成され自然面は曲面であることから大形円錐を利用している可能性が高い。
第216図 PL.94	24	銭貨 新寛永	1号墓域(131上 坑) 道骨上 一部欠損	幅 2.38	幅 2.43	厚 重	0.11 2.9	裏面の一部が劣化により欠損している。一部が欠損。背の輪は不明瞭になっている。
第216図 PL.94	25	銭貨 新寛永	1号墓域(131上 坑) 道骨上 一部欠損	幅 2.25	幅 2.27	厚 重	0.09 1.8	裏面の一部が劣化により欠損している。背は不明瞭。裏面の文字は比較的明瞭。

第4章 平成29年度調査・確認された遺構と遺物

第95表 1号墓域出土遺物4

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第217回 PL.95	26	錢貨 新寛永	1号墓域(136上 坑) 底+1cm 完形	縦 幅 横	2.96 4.21 1.50	厚 重 34.0		布が残存している。9枚見られるが、布にくるまれた部分 の枚数は不明。	
第217回 PL.95	27	錢貨 新寛永	1号墓域(137上 坑) 底+5cm 完形	縦 幅 横	2.35 2.37 0.09	厚 重 1.9		文字、輪、郭ともに明瞭。	
第217回 PL.95	28	錢貨 新寛永	1号墓域(137上 坑) 底+0cm 完形	縦 幅 横	2.50 2.49 0.13	厚 重 3.1		背文。全体的に非常に彫が深い。やや劣化が見られる。	
第217回 PL.95	29	錢貨 新寛永	1号墓域(137上 坑) 遺骨上 完形	縦 幅 横	2.36 2.35 0.09	厚 重 2.1		背の彫がやや浅い。軽く錯に覆われている。	
第217回 PL.95	30	錢貨 新寛永	1号墓域(137上 坑) 遺骨上 完形	縦 幅 横	2.34 2.34 0.12	厚 重 3.5		やや文字が見えづらく、背の彫もやや浅い。	
第217回 PL.95	31	錢貨 新寛永	1号墓域(137上 坑) 底+15cm 完形	縦 幅 横	2.27 2.30 0.08	厚 重 1.3		3片に披散している。背の彫は浅く、文字は錯により見えづらい。	
第217回 PL.95	32	錢貨 新寛永	1号墓域(138上 坑) 遺骨上 完形	縦 幅 横	2.23 2.25 0.08	厚 重 1.2		輪の一部が劣化により欠損している。	
第217回 PL.95	33	錢貨 新寛永	1号墓域(138上 坑) 底+0cm 完形	縦 幅 横	2.23 2.25 0.08	厚 重 1.2		有機質が残存し、4枚が接着している。文字は明瞭。	
第217回 PL.95	34	錢貨 新寛永	1号墓域(138上 坑) 底+0cm 完形	縦 幅 横	2.45 2.46 0.20	厚 重 2.3		文字、輪、郭が明瞭。一部に有機質が残存する。	
第217回 PL.95	35	銅製品 煙管	1号墓域(138上 坑) 遺骨上 吸口一部欠損	縦 幅 横	14.4 1.6 高 重	2.00 11.1		羅宇が一部残存。斜があり、つなぎ目は上になる。	

第96表 1号墓域出土遺物5

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第218回 PL.95	36	錢貨	1号墓域(141上 坑) 底+0cm	縦 幅 横	2.73 3.57 13.9	厚 重 0.894		4枚接着した状態。錯に覆われており、錢種は不明。	
第218回 PL.95	37	錢貨	1号墓域(141上 坑) 底+0cm	縦 幅 横	2.78 3.44 9.2	厚 重 0.90		2枚が接着している。鉄錢のため、錯による劣化が激しい。	
第218回 PL.95	38	銅製品 煙管	1号墓域(142上 坑) 底+8cm は延び形	縦 幅 横	2.28 2.27 2.0	厚 重 0.09		つなぎ目は上にあり、羅宇が一部残存している。	
第218回 PL.95	39	錢貨 古寛永	1号墓域(142上 坑) 遺骨上 完形	縦 幅 横	2.28 2.27 2.0	厚 重 0.09		径がやや小さく、一部に布痕が残存する。	
第218回 PL.95	40	錢貨 新寛永	1号墓域(142上 坑) 遺骨上 完形	縦 幅 横	2.44 2.45 9.9	厚 重 0.47		4枚が接着している。新寛永が2枚観察できる。1枚は彫 が深く明瞭だが、もう1枚はやや劣化により不明瞭。	
第218回 PL.95	41	錢貨 新寛永	1号墓域(142上 坑) 遺骨上 完形	縦 幅 横	2.23 2.23 1.8	厚 重 0.07		面の文字は明瞭。背はやや彫が深い。	

第97表 土坑出土遺物

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第221回 PL.95	1	錢貨 新寛永	139土坑 底+1cm 完形	縦 幅 横	3.78 2.83 1.05	厚 重 18.4		本質が付着する。4枚程度が接着しているように見えるが、 錯に覆われている。	

第98表 遺構外出土遺物

排 図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土・焼成・色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第226図 PL.95	1 繩文土器 深鉢	24区P-18グ リッド2面 側部破片				//	0段多条の粗・LR繩文を横位・交互に施文。内外面共にやや被熱風化。内面一部に煤状炭化物付着。中量の円磨度の進んだチヤートや少量の灰白色岩片・輝石・角閃石の粗・細砂と少量の石英隕・粗砂および鐵錆を含むやや緻密な胎土。	関山II式
第226図 PL.95	2 繩文土器 深鉢	1面 側部破片				//	楕円状の枝継ぎ文を施し、虹繩文を充填施文。中量の円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色・赤色岩片や少量の輝石・石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。	加曾利E4式

第99表 未掲載遺物(縄文、弥生)

区	面	遺構種	取り上げ番号	点数
J	2		繩文時代中期後半	1
J	2		弥生時代中期	1
K			No.11 関山II式	1
K	1	墓域	繩文時代後期中葉	3

第100表 未掲載遺物(古代)

遺構名	土師器			須恵器			内黒土器	施釉陶器	その他・不明
	小	中	大	小	中	大			
K区1面			14片 99g			1片 16g			

大小は想定器形の大小に基づく。小は杯・碗・皿など、中は高杯・小型壺など、大は甕・羽釜・壺など。
左 破片点数、右 破片重量

第101表 未掲載遺物(中近世)

区	層位・面	遺構番号	遺構種	中世		近世			
				在地系鉢・瓶		国産磁器		国産施釉陶器	
				点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
J	2		東トレンドチ					1	5
J	1面泥流下		一括			1	5	1	5
K	1		一括			2	10	7	30
K			138土坑	1	5				
K			1墓	1	5			2	10
L	1		一括					1	50

第5章 平成30年度調査・確認された遺構と遺物

第1節 遺構と遺物

第1項 調査区の概要

平成30年度は、吾妻川に突き出した舌状台地の北側と東側から南にかけて発掘調査が行われた。台地の基部に近い北側の調査区は遺構の残り具合も良好であったが、東側から南にかけての調査区は泥流に地表をえぐられ荒廃し、確認できる遺構は痕跡程度に過ぎない。なお、東側の調査区北半は平成6年度に試掘調査を行った範囲であり、南側の調査区は平成9年度に試掘調査を行った範囲に当たる。

南側の調査区では天明泥流直下の面から道1条と畠の痕跡数か所が確認されたにとどまり、この下層から遺構は検出されていない。東側の調査区北半からは天明泥流対策の復旧坑が確認されている。またこの下層から竪穴建物1棟とピット列1条、ヤックラ1基のほか土坑やピットが検出されている。また北側の調査区の天明泥流直下の面からは、建物群2組と道3条、畠21区画が確認されている。さらにこの下層から建物1棟と竪穴建物2棟、溝1条の他、土坑、ピットなどが確認されている。

北側の調査区の南北に隣接する範囲は平成28年度の調査区に当たり、建物群の一つは前回の調査でその建物の一部が確認されており、今回の調査により建物群を構成することが確認された。この件については節を改め後掲(2節)する。

第2項 建物群

北側の調査区の天明泥流直下から2組の建物群が検出されている。主となる建物とそれに隣接する附属屋と考えられる建物の組み合わせからなる建物群は、西から順にN1建物群(22号建物他)、N2建物群(26号建物他)と呼称するが、このうちN1建物群の22号建物の一部は平成28年度調査で確認されている。

編集の都合により、建物単体での検出であるが、22号建物の下層から検出された28号建物をこの項に含めた。

1 N1建物群(第227~232, 239~249図、PL.96~100, 141~146)

34区X~35区A-18~22グリッド、北側調査区の西端に位置する。東を5号道に接し、北は平成28年度調査の復旧畠に隣接する。建物群は主たる建物と思われる東西棟の礎石建物1棟(22号建物)と後架と考えられる東西棟の掘立柱建物1棟(25号建物)および堆肥などが存在する庭と思われる空間から構成される。堆肥の下からはピット1基が検出されている。

東に隣接する5号道の側溝である1号溝との境数か所から樹種は不明であるが樹木が確認されているが、建物群を囲む境界となる遺構は確認されていない。また、22号建物の一部は平成28年度に発掘調査されているが、この部分を合わせた成果については後述(2節1項)する。

(1) 22号建物(第228~230, 239~244図、PL.96, 97, 141~144)

位置 34区X~35区A-20~22グリッド、北側調査区西端、25号建物の北に位置する。

形状 硕石12個と石跡2か所が検出され、東西棟礎石建物の4間×3間が確認されている。

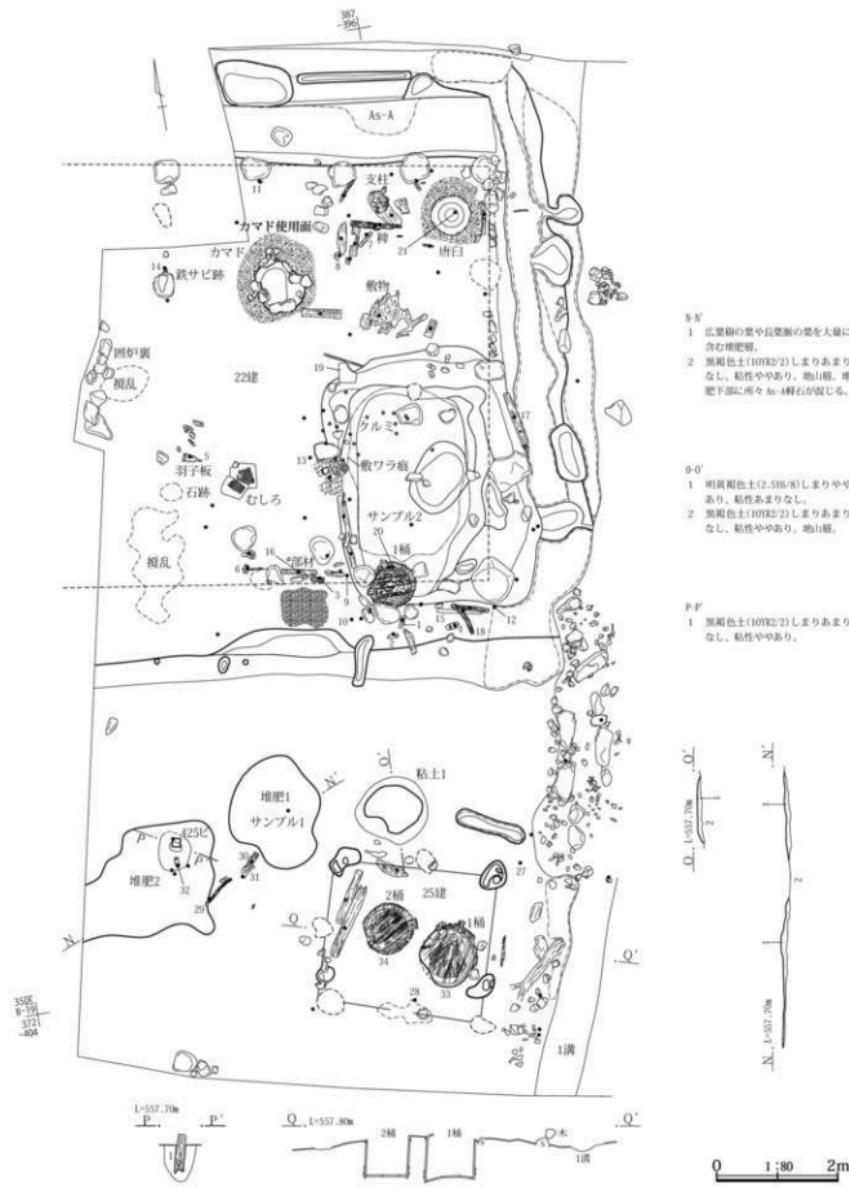
規模 梁行(3.75)m、梁間6.75m。

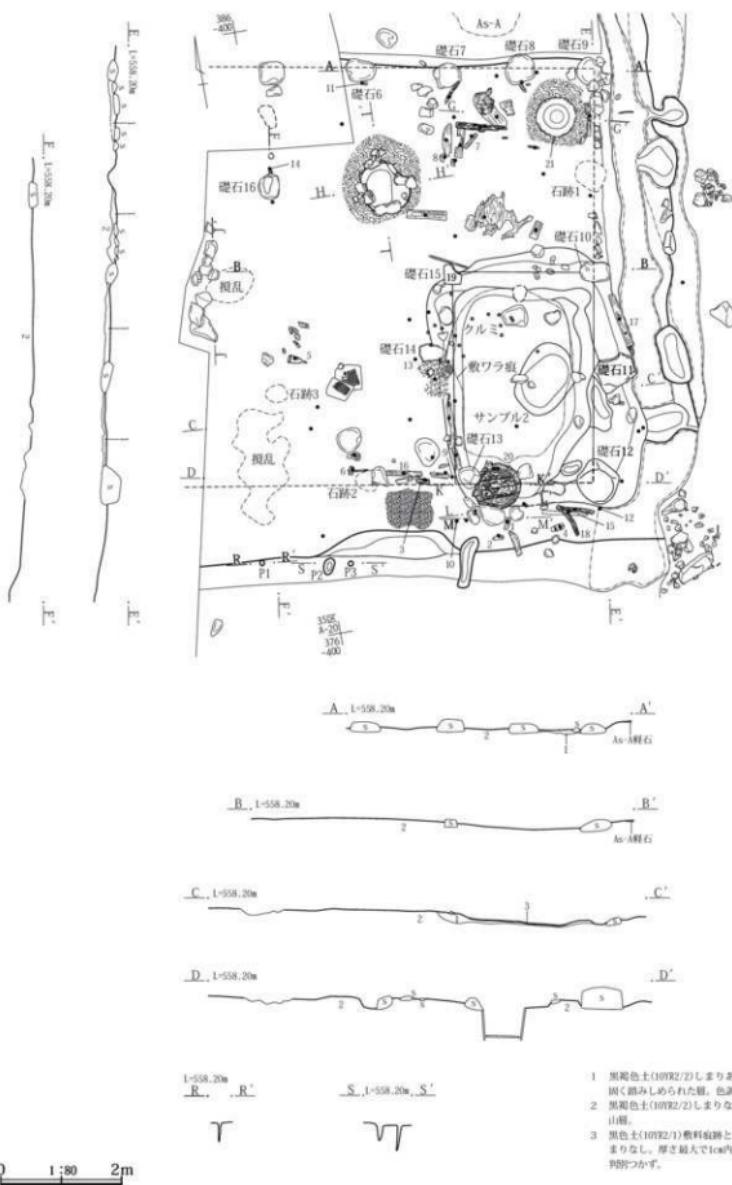
桁行方向(度) N-80-W

本体構造 敷地の南端において、南に緩やかに下る建物周辺の斜面に対し0.15m程度の段差が認められるため、傾斜を意識した整地がなされたと推察される。また、敷地南辺東寄りの部分からは建物への出入りに伴うと推察されるステップ状の崖みも確認されている。建物北東隅には唐白1基が埋設され、南東隅には馬屋が設けられている。また、馬屋からは敷き藁痕も確認されている。なお、馬屋桶と推測される埋設桶(20)が建物南辺をまたぐ位置から検出されている。確認範囲の西端からは圓炉裏の一辺と推測される石列が検出されている。

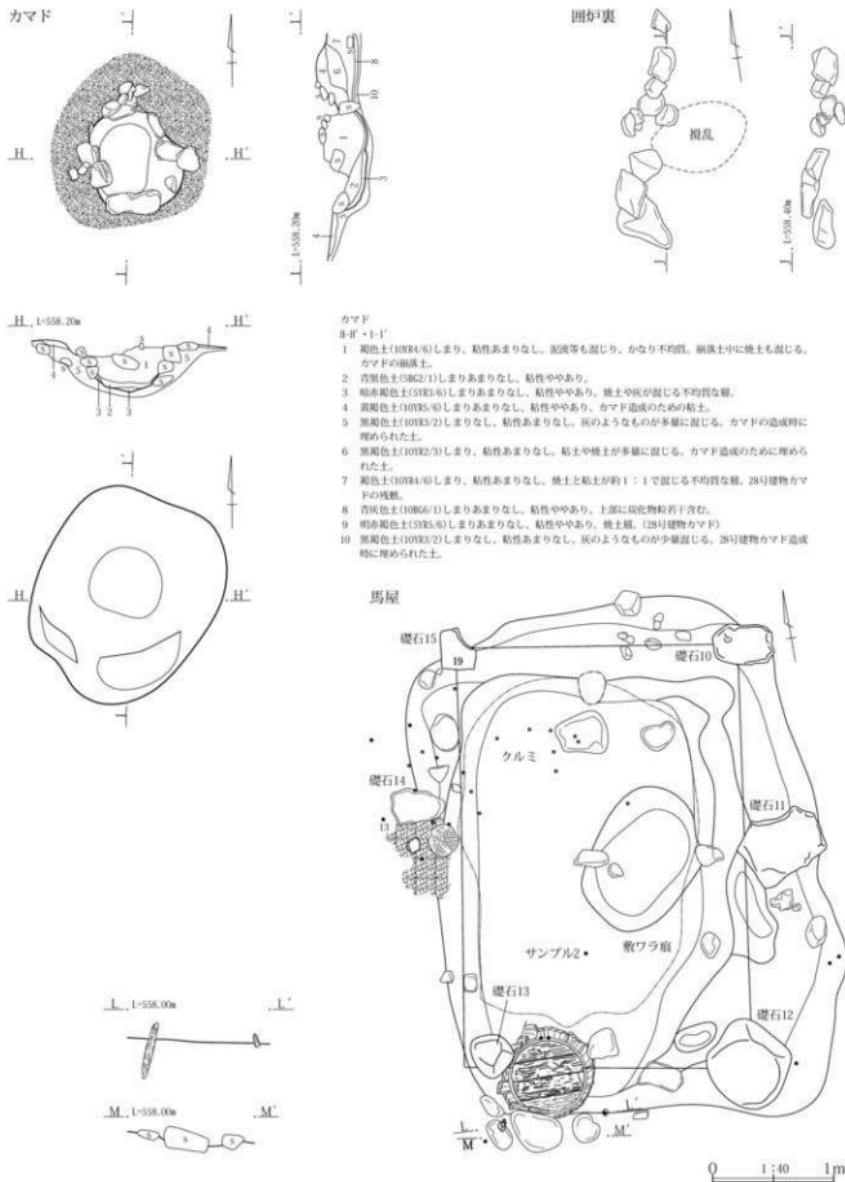
第102表 22号建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3
位置	35区A-20	35区A~34区Y-20	34区Y-20
規模 (m)	長 幅 深	0.09 0.08 0.32	0.28 0.17 0.29
平面形状	偏円形	長円形	円形
主軸方向(度)	N-5-E	N-28-E	N-81-E





第228図 22号建物 1

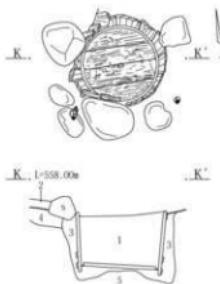


第229図 22号建物2

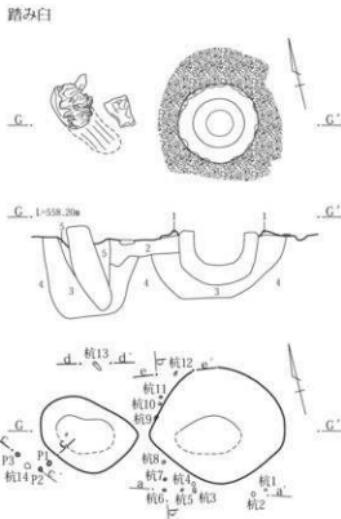
第103表 22号建物柱間計測表

	柱行柱間	柱行柱間	柱行柱間	柱行柱間	柱行				
壁石5	— 1.49 —	壁石6	— 1.44 —	壁石7	— 1.20 —	壁石8	— 1.12 —	壁石9	(5.23)
壁行柱間									
	1.87		3.31						1.70
壁石10	— 5.33 —							— 壁石11	
壁行柱間									
	3.40							1.61	
壁行柱間				壁石15	— 2.36 —			— 壁石16	
				1.30				1.69	
壁石13	— 2.66 —			壁石14	— 2.89 —			— 壁石17	
壁行柱間									
				2.11				1.83	
壁間	壁石2	— 1.71 —	壁石13	— 2.10 —				壁石12	
	6.76		6.58					6.80	

馬屋桶

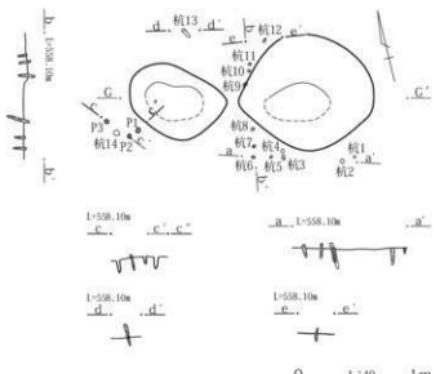


踏み白



1号柱

- K-K'
- 1 天明前流、表土を覆っている泥面に比して黒色が強い。
 - 2 天明前流の一次積残存部分。
 - 3 黒褐色土(10R2/2)しまりあまりなし。粘性ややあり。地山と比べて、5mm大的礫が少量混じり、色調が暗い。
 - 4 黑褐色土(10R2/2)しまりあまりなし。粘性ややあり。
 - 5 泥流直撃時の支柱転倒による乱れ。



第230図 22号建物3

付属施設 カマド、囲炉裏、馬屋、埋設桶、唐臼。付属施設については後述する。

遺物 瀬戸・美濃陶器小碗(11)、瀬戸・美濃陶器碗(12~14)、下駄(1~4)、羽子板(5)、木槌(6)、板材(7)、柄材(15)、曲物底板(8)、部材(16,17)、寛永通貫(10)、鉄蓋(9)などが出土している。このほかクルミ、稗などの種子類が採取されている。

所見 囲炉裏の位置から、東西棟礎石建物の東半と推測される。

備考 平成28年度調査成果を合わせた部分については後掲(2節1項1)する。

a カマド(第229図、PL.96)

位置 34区Y-21グリッド、22号建物東半北寄りに位置する。

形状等 炉床を取り囲む石列と、カマドの基部をなす粘土が残存している。

規模 (1.42)×(1.28)m

主軸方向(度) N-2-E

重複 28号建物カマド。

所見 28号建物カマドより新しい。先行する28号建物のカマドを削り埋め立てた場所の一部にかかるように構築されている。カマド南辺に平行するように横長の石が配置されており、焚口は南側に存在したと推測される。

b 囲炉裏(第229図、PL.96)

位置 35区A-21グリッド、22号建物中央付近に位置する。

形状等 南北に連なる石列が確認されている。

規模 1.61m

主軸方向(度) N-24-E

所見 石組み囲炉裏の一辺と推測される。

c 馬屋(第229図、PL.142)

位置 34区X~Y-20~21グリッド、22号建物南東隅に位置する。

形状等 東辺および南辺を22号建物外壁と共に、1間×2間。

規模 3.47×2.29m

主軸方向(度) N-10-E

遺物 前述したクルミが出土している。西北隅の柱の礎石(19)はカマド構築材・天板が転用されている。

所見 敷き藁痕が確認されており、直接的な遺物は確認されていないが、形式的な施設にとどまらない可能性は

高い。

備考 馬屋に関する自然科学分析は後掲(7章2節)する。

d 埋設桶(第230図、PL.97,142,143)

位置 34区Y-20グリッド、22号建物南東隅、馬屋南辺西寄りに位置する。

形状等 建物南辺を跨ぐように埋設され、建物外となる位置から杭2本が確認されている。泥流圧力によるものか、東下がりに3度ほどの傾きが生じている。

規模 内底径0.60m、上部外径(0.75)m、高さ0.54m、推定容量0.15m³。

遺物 煙管(22~25)が出土している。

所見 馬屋桶と推測される。桶の南、建物外の場所に外径5cmと7cmの杭が残存しており、覆い・庇等の設備の存在が想定される。

備考 調査時の名称は、1号桶。馬屋の付属施設と捉えるべきであろうが、外壁を跨ぎ設置されていることを考慮し、ここに記述した。

e 唐臼(第230図、PL.97,144)

位置 34区X~Y-21~22グリッド、22号建物北東隅に位置する。

形状等 唐臼(21)と踏み杵の支柱が残存している。支柱および唐臼周辺の床下10~15cmから、杭跡を含み外径3cm前後の杭14本が確認されている。唐臼のつくりはやや粗略である。口縁端部は内周側が低く、臼内部は口縁下7cmから12cm付近に最大径がある。

規模 (1.66)×0.66m

所見 踏み杵本体は確認されていないが、据え付けの踏み臼を構成すると思われる。

第104表 22号建物踏み臼ピット計測表

ピット	P1	P2	P3
位置	34区Y-21	34区Y-21	34区Y-21
規模 (m)	長 0.07	0.07	0.07
短 0.05	0.05	0.05	0.25
深 (0.10)	(0.07)	(0.11)	
平面形状	長円形	偏円形	偏円形
主軸方向(度)	N-30-E	N-10-E	N-46-W

(2) 25号建物(第231,232,244~249図、PL.98,99,142,144~146)

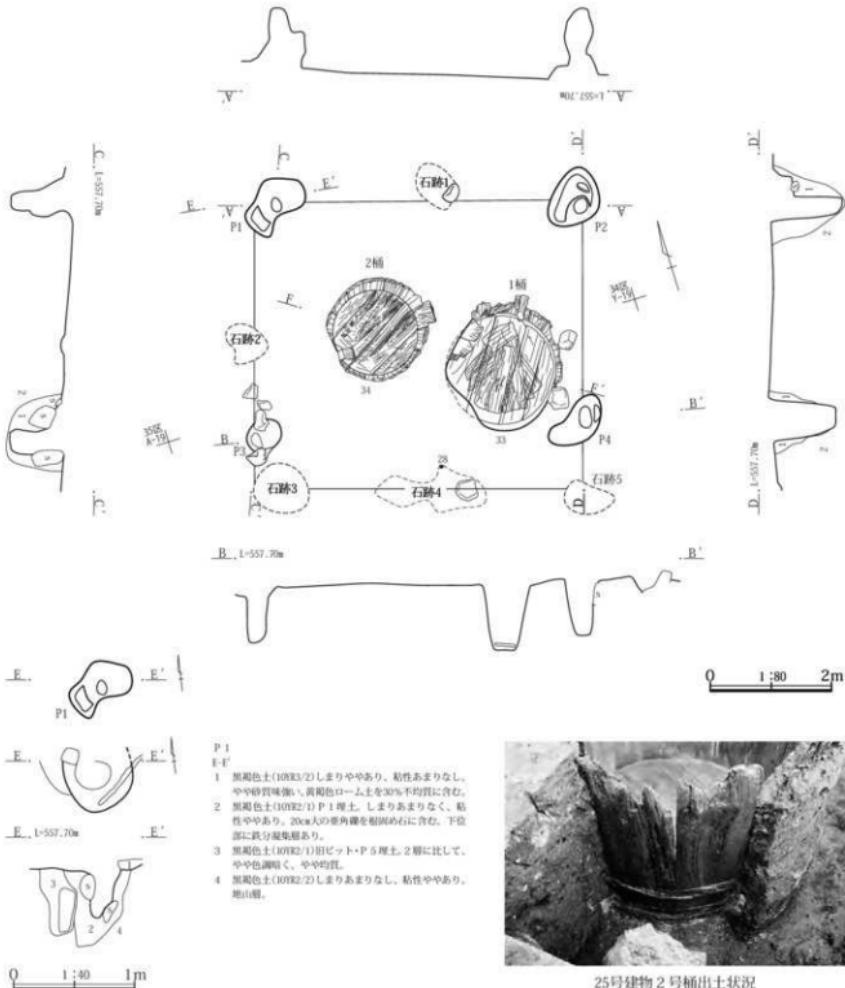
位置 34区Y-18~19グリッド、北側調査区西端、22号建物の南に位置する。

形状等 ピット4基と礎石と思われる石跡4か所が確認されている。

第105表 25号建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4
位置	34区T-19	34区T-19	34区T-18	34区T-18
規模(m)				
長	0.55	0.52	0.30	0.54
短	0.31	0.39	0.25	0.27
深	0.51	0.60	0.46	0.55
平面形状	不整形	不整形	長円形	不整形
主軸方向(度)	N-58-E	N-45-E	N-64-E	N-62-E
傾斜方位(度)			N-81-W	

- P 2 ~ P 4
 C-C' ~ D-D'
 1 黒褐色土(10YR3/2)しまりあまりなし。粘性ややあり。地山と比べて、5mmの大の塊が少量混じり、色調がかなり暗い。
 2 黒褐色土(10YR2/2)しまりあまりなし。粘性ややあり。地山解。



規模 衍行2.68m、梁間2.36m。

衍行方向(度) N-73-W

本体構造 2間×2間の東西棟掘立柱建物の南辺に張出1間を設けた略方形と推察される。建物内には埋設桶2基が存在する。

付属施設 1号桶(33)、2号桶(34)。付属施設については後述する。

遺物 潰戸・美濃陶器小碗(27)、鉄錆(28)が出土している。

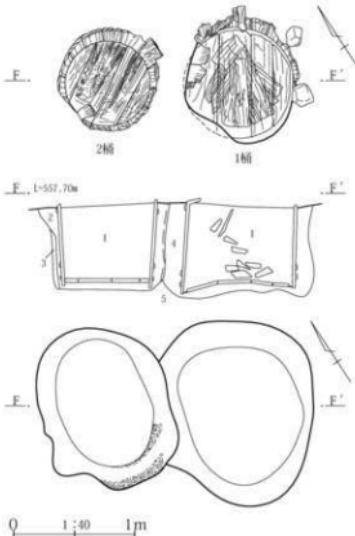
所見 埋設桶の口径がやや大振りのため、野窓の可能性を否定しえないが、建物に近接した立地から後架とした。調査所見にあるように、東北隅の柱穴に隣接して、地中に木材が残存しており、老朽化した柱の建て替えに際し、柱位置の変更があったと推察される。

a 1号桶(第231,232,246,247図、PL.98,145)

位置 34区Y-18~19グリッド、25号建物東半に位置する。

形状等 箕の痕跡は上部に1条、下部に2条が残されている。口縁端部は地上に露出していたと推測される。

規模 内底径0.90m、上部外径(0.91)m、高さ(0.80)m。



第232図 25号建物2

遺物 砥石(26)が出土している。

所見 口径の違いによるものか、隣接した2号桶に比し变形・破損の度合いが著しく、原形の推定を断念した。

b 2号桶(第231,232,248,249図、PL.99,146)

位置 34区Y-19グリッド、25号建物西半に位置する。

形状等 箕の痕跡は上部に1条、下部に2条が残されている。口縁端部は地上に露出していたと推測される。

規模 内底径0.71m、底部外径(0.73)m、上部外径(0.83)m、深さ0.65m、高さ0.72m、推定容量0.28m³。

所見 調査所見にあるように、掘り方の埋め土に2層が認められるため、埋設桶の据替が行われたと推測される。

(3) 庭(第227,245図、PL.99,100,142,144)

位置 34区X~35区A-18~20、北側調査区西端、22号建物の南に位置する。

形状等 22号建物から数mの間をおいて後架や堆肥が存在している。また後架と22号建物との間の後架寄りの位置に、不整形の粘土の一画(1.20m×1.12m×0.07m)が存在している。

規模 (7.58)×(6.63)m

第106表 25号建物柱間計測表

	衍行柱間	柱間	衍行柱間	柱間
P1	— 1.29 —	石桶1	— 1.24 —	P2 2.49
東行柱間	1.14			1.23
石桶2				
東行柱間	0.63			
P3				P4 2.72
東行柱間	0.44			2.38
石桶3	— 1.17 —	石桶4	— 1.34 —	石桶5 2.52
東間	2.32	2.48	2.38	

1号・2号桶

- F-F'
- 1 色調やや暗め、粘土が少量化じる。天明記載。
- 2 黒褐色土(00R2/2)しまりあまりなし、粘性ややあり。地山と比べて5mmの塊が少量混じり、色調が暗い。黄褐色土ブロックを少量化。
- 3 2と比べて粘土の量が少ない。掘え替えた前の柱の覆面方に相当するとと思われる。
- 4 黑褐色土(00R2/2)しまりあまりなし、粘性ややあり。地山と比べて5mmの塊が少量混じり、2の土より色調がさらに暗い。
- 5 黄褐色土(00R2/2)しまりあまりなし、粘性ややあり。黄褐色土ブロックを少量化。地山。

主軸方向(度) N-78-W

付属施設 堆肥置き場、ピット。付属施設については後述する。

遺物 堆肥置き場付近から鍼柄(29)と鍼先(30,31)、下駄(32)が出土している。

所見 堆肥の集積から、屋外での農作業が行われた場所と推測される。なお22号建物と併せ建物群として把握したため、別項とした前述の後架(25号建物)を、庭の構成要素とみなすことともできる。

a 堆肥1(第227図、PL.99)

位置 34区Y～35区A-19グリッド、22号建物の南、25号建物の西に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 1.86×1.47m、高さ0.07m。

主軸方向(度) N-26-E

所見 堆肥2も同様であるが、降灰の合間を縫うように農作業が続けられていたと推測される。

備考 調査時の名称は、1号堆肥。堆肥の自然科学分析は後掲(7章2節)する。

b 堆肥2(第227図、PL.99)

位置 35区A-19グリッド、22号建物の南、25号建物の西に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 (2.80)×2.15m、高さ0.11m。

主軸方向(度) N-78-E

重複 425号ピット。

所見 425号ピットより新しい。

備考 調査時の名称は、2号堆肥。堆肥の自然科学分析は後掲(7章2節)する。

c 425号ピット(第227図、PL.99)

位置 35区A-19グリッド、22号建物の南、25号建物の西、堆肥2の中に位置する。

形状等 0.14×0.14×(0.64)mの角材が残存する。掘り方は偏円形。

規模 (掘り方) 0.62×0.54m、深さ0.60m。

主軸方向(度) (掘り方) N-32-E

埋没土 埋め土はしまりがあまりなく、粘性のややある黒褐色土。

重複 堆肥2。

遺物 桁が残存していた。

所見 調査所見では22号建物下位(1面下)の28号建物に付随する遺構とされていたが、残存する杭上端部の標高(557.56m)が堆肥下部・地表面の標高(557.54～557.47m)を上回るためにここに含めた。堆肥2に先行する。

備考 掘り方確認面の標高は557.38mである。

2 N2建物群(第233～238,250,251図、PL.100～102,147)

34区Q～T-18～21グリッド、北側調査区の西半に位置する。南は11号道に接し、三方を畑に囲まれている。建物群は主たる建物と思われる東西棟の礎石建物1棟(26号建物)と後架と考えられる方形の掘立柱建物1棟(27号建物)、およびこの二棟の間に広がる庭と思われる空間と、その一部でもある11号道との通路から構成されている。

N2建物群の東に隣接する畑(76号畑)の歴史は周囲の畑の歴史と大きく相違する。また76号畑とN2建物群とを合わせた面積は、この両側の畑(75号畑、77号畑)の個々の面積をやや下回る程度であり、N2建物群と76号畑を合わせた範囲の東西幅は、11号道を挟んでN2建物群の南に位置する82号畑の東西幅に近い。76号畑を含めてひとつの区画・単位であった可能性が高い。

N2建物群と西の75号畑との間にはゆるやかな段差が認められるが、これは26号建物の敷地を整地する際に生じたものであり、建物群を囲囲し境界を形成する遺構は確認されていない。なお、N2建物群と北に隣接する44号畑との境から石列が検出されているが、これは6号石垣に含まれる。44号畑の立地する面とN2建物群の立地する面とでは0.4m程度の標高差が存在するため、上位のテラスを養生するための土留めとして6号石垣が機能している。

(1) 26号建物(第234,235,250,251図、PL.101,147)

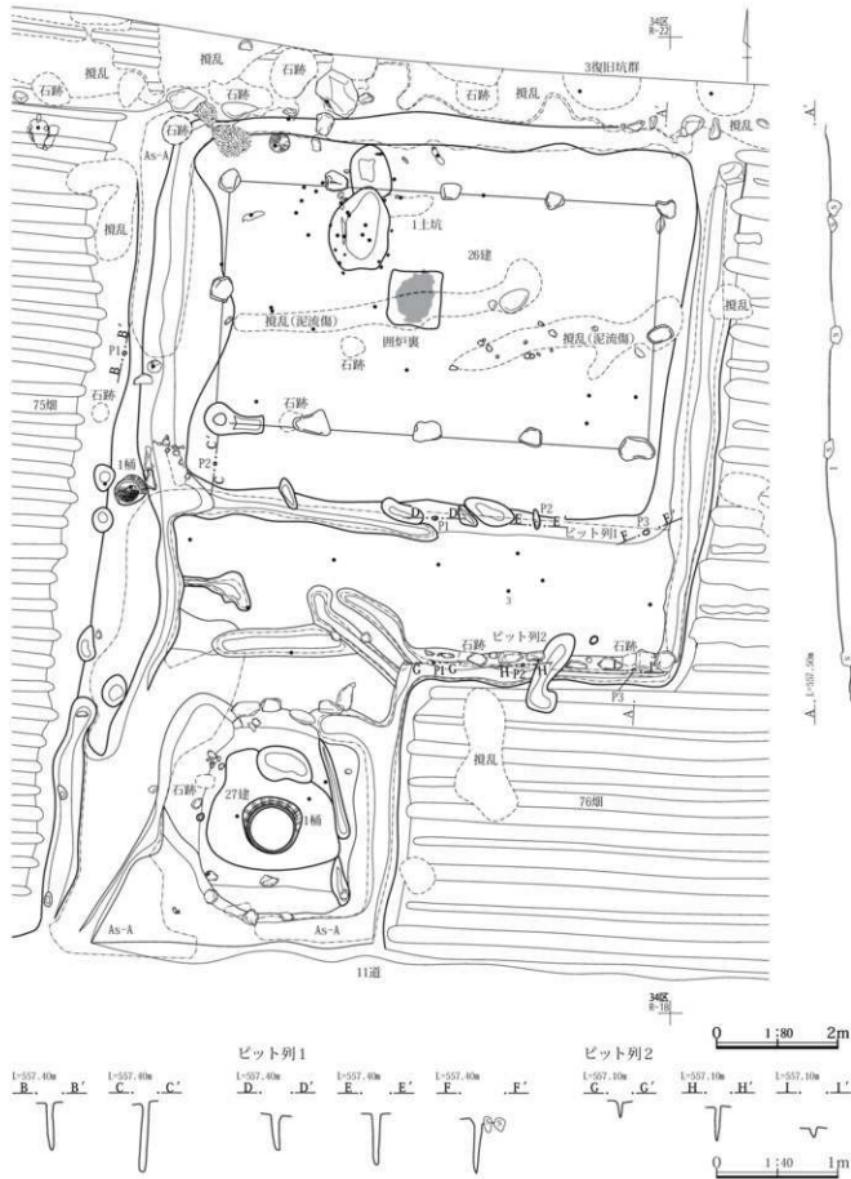
位置 34区Q～T-19～21グリッド、北側調査区西半、27号建物の北に位置する。

形状等 磚石11個と礎石があったと思われる石跡1か所が確認されている。

規模 桁行7.09m、梁間3.99m。

桁行方向(度) N-86-W

本体構造 26号建物の敷地は、緩やかに南に下る斜面の北側を研ぎ敷地面が作り出されており、敷地南端はその



第233図 N2建物群

第5章 平成30年度調査・確認された遺構と遺物

南に位置する庭よりも8cmほど高くなっている。建物中央辺から囲炉裏が検出されているが、カマドは確認されていない。2間×4間の東西棟礎石建物。桁行の柱間平均1.76m。梁間の柱間平均1.98m。

付属施設 囲炉裏、土坑。付属施設については後述する。

遺物 濱戸・美濃陶器小碗(1)、濱戸陶器すり鉢(2,4)、鉄製鍵(10)、火箸(7)、煙管(5)が出土している。

所見 26号建物は敷地のやや北寄りに位置しており、南辺と北辺との軒の長さが相違していた可能性もある。なお、下田遺跡の尿桶を伴う建物は、その建物南辺に接して桶が埋設される傾向が認められるため、建物南西、75号烟との境近くに位置する埋設桶を26号建物の付属施設に含めなかった。

a 1号炉(第235図、PL.101)

位置 34区R～S-20～21グリッド、26号建物中央辺に位置する。

形状等 方形。焼土層を覆う粘土層が確認されているが、枠組み等の構造は確認されていない。

規模 0.87×0.84m

主軸方向(度) N-85-W

所見 粘土層の下位に焼土層が存在することから、囲炉裏が再構築された可能性が高い。

b 1号土坑(第234,250図、PL.101,147)

位置 34区S-21グリッド、26号建物北半西寄りに位置する。

形状等 双円型。建物北辺を跨いで位置する。土坑南北縁辺付近から12か所のピットが確認されている。1段深く掘り込まれている南半は、一部が埋め戻されて北半と深さが揃えられている。

規模 2.09×1.00m

主軸方向(度) N-11-E

埋没土 埋土は上面に炭化物粒を少量含

む黒褐色土。

遺物 煙管(6)が出土している。

所見 建物北辺の床面に深さ0.2m程度の窪みが生じていたと推測される。

(2) 27号建物(第236図、PL.101)

位置 34区S～T-18～19グリッド、北側調査区西半、11号道の北、26号建物の南に位置する。

形状等 1間×2間。礎石3個とピット2基が確認されている。

規模 桁行2.24m、梁間2.24m。

桁行方向(度) N-89-E

本体構造 棟方向不明。

付属施設 埋設桶。付属施設については後述する。

所見 遺構周辺の軽石の堆積状況から規模を推定した。

北辺からの南入と仮定し桁行方向とした。

a 1号橋(第236図、PL.101)

位置 34区S-18グリッド、27号建物中央に位置する。

形状等 底部付近の2条の縦が圧痕として残されている。

規模 内底径0.72m、上部外径(0.78)m、高さ(0.58)m。

遺物 なし。

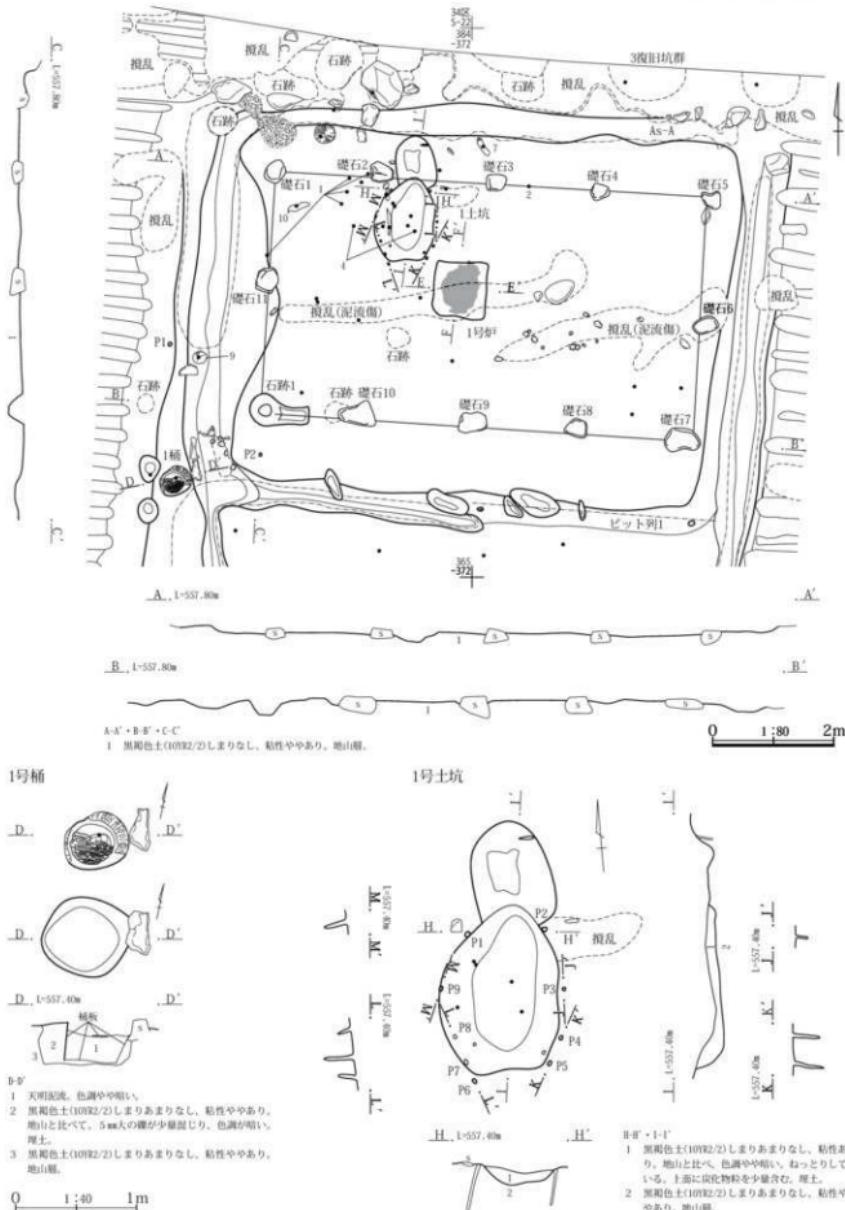
所見 変形の度合いが著しく、規模等については推定の域を出ない。

第107表 26号建物柱間計測表

	桁行 柱間	桁行 柱間	桁行 柱間	桁行 柱間	桁行
礎石1	-1.75-	-1.86-	-1.72-	-1.83-	7.17
梁行柱間	1.79				2.08
梁行柱間	2.12				1.91
石脚	-1.46-	-1.95-	-1.74-	-1.73-	7.20
梁間	3.92	3.99	3.94	3.91	3.97

第108表 26号建物1号土坑ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9
位置	34区S-21	34区S-21	34区S-21	34区S-21	34区S-21	34区S-21	34区S-21	34区S-21	34区S-21
規模(m)	長 0.05	0.04	0.03	0.04	0.04	0.04	0.05	0.04	0.04
	短 0.04	0.04	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02	0.03
	深 0.40	0.31	0.10	0.22	0.24	0.15	0.24	0.10	0.19
平面形状	偏円形	台形	円形	偏円形	長円形	長円形	偏円形	長円形	長円形
主軸方向(度)	N-52-E	N-51-E	N-42-E	N-32-E	N-38-E	N-40-W	N-22-W	N-30-W	N-24-E



第234図 26号建物1

(3) 庭(第233, 250図、PL.100~102, 147)

位置 34区Q~T-19グリッド、26号建物の南に位置する。
形状等 鉤の手状を呈する。

規模 10.05×7.82m

主軸方向(度) N-86-W

付属施設 埋設桶、ピット列。付属施設については後述する。

遺物 石鉢(9)が出土しているほか、天明泥流直下の面の下0.1m付近から瀬戸・美濃陶器二次加工品(3)他5片が検出されている。

所見 26号建物敷地南端に位置するピット列1付近では敷地を囲む浅い溝がとぎれ、また経石の堆積も確認されておらず、26号建物への出入りには主として敷地南辺東半が用いられていたと推測される。なお、ピット列1と



第235図 26号建物2

これに平行するピット列2を南北2辺とする上屋も想定できるが、柱材の太さは6cm前後のため、差し掛け小屋程度の軽めの覆いと推察される。

a 1号桶(第234, 250図、PL.102, 147)

位置 34区T-20グリッド、26号建物南西に位置する。

形状等 桶材の痕跡を残すのみであり、詳細は不明。

規模 0.55×0.44m

主軸方向(度) N-52-E

遺物 あて小判(8)が出土している。

所見 26号建物敷地西辺に沿い残された経石が、1号桶の付近で途切れしており、26号建物と75号烟との間に行き来が行われていたと推測される。22号建物とやや離れてはいるが、建物群に含めた。隣接して深さ5cmの窪み2か所があるが、覆い等は確認されていない。

第109表 N2建物群ピット列1計測表

ピット	確認長 3.47m			主軸方位 N-86-W
	P1	P2	P3	
規模(m)	長	0.10	0.32	0.11
	短	0.06	0.10	0.08
	深	0.29	0.41	0.45
平面形状	偏円形	不整形	長円形	
主軸方向(度)	N-89-W	N-7-W	N-77-W	
次軸間隔	1.67m	1.81m		
旧名称	P3	P4	P5	

第110表 N2建物群ピット列2計測表

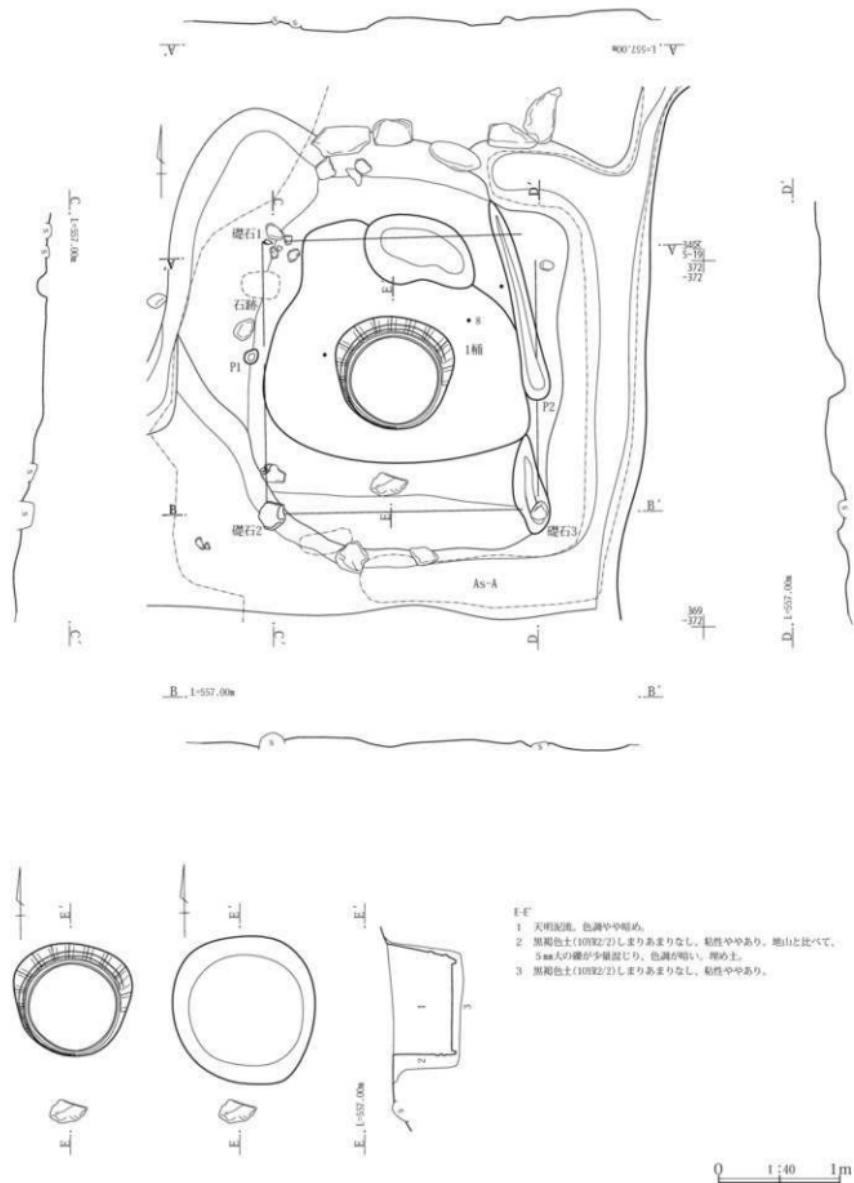
ピット	確認長 3.30m			主軸方向 N-87-W
	P1	P2	P3	
規模(m)	長	0.05	0.06	0.06
	短	0.06	0.05	(0.05)
	深	0.13	0.28	0.09
平面形状	長円形	円形	長円形	
主軸方向(度)	N-87-E	N-85-E	N-87-E	
次軸間隔	1.46m	1.84m		
旧名称	P6	P7	P8	

第111表 27号建物ピット計測表

ピット	P1	P2
位置	34区S-18	34区S-18~19
規模(m)	長	0.16
	短	0.13
	深	0.18
平面形状	偏円形	誤圓形
主軸方向(度)	N-40-E	N-13-W

第112表 27号建物柱間計測表

柱間計測		梁間
M61	-	
梁行柱間 0.96		
P1		P2 2.36
梁行柱間 1.31		
M62	-	2.17
		M61 2.17
相行	2.26	



第236図 27号建物

b ピット列1(第233,234図、PL.101)

位置 34区R-19~20グリッド、26号建物敷地の南辺東半に位置する。

形状等 ピット3基が確認されている。

規模 3.47m

主軸方向(度) N-86-W

所見 柵とした場合には、南北に通行するための出入口を伴う必要が生じる。

c ピット列2(第233図、PL.101)

位置 34区R-19グリッド、26号建物の南、ピット列1に平行する位置に存在する。

形状等 ピット3基が確認されている。

規模 3.30m

主軸方向(度) N-87-W

所見 ピット列1と組み合わされないのであれば、柵との境界柵となる。なお、ピット列に平行する石列は、南に下がる斜面を形成する庭南端の土留めと理解される。

3 28号建物(第237,238,251図、PL.102,

103,147)

位置 34区X~35区A-19~22グリッド、北側調査区西端、22号建物の下位に位置する。

形状等 カマド、炉等が検出されたにとどまり、建物の構造や規模を示唆する遺構は検出されていない。

規模 衍行方向 不明。

重複 22号建物カマド。

付属施設 カマド、炉、焼土遺構、土坑、石積遺構。付属施設については後述する。

遺物 種子類が採取されている。周辺からは肥前磁器柴付碗(5)、瀬戸・美濃陶器二次加工品(6,7)、曲げ物底板(8)、石製品(2)が出土している。

所見 28号建物のカマド、圓炉裏とした遺構は、22号建物の付属施設としては北に寄りすぎており、22号建物建築以前の遺構とした。柱痕が確認されていない事から、礎石建物の可能性が高い。本遺構の帰属年代は中世にさかのぼる可能性を否定できないが、出土遺物から近世遺構の可能性が高い。

22号建物カマドに先行する。

備考 遺構の確認面は、1面下位2面上位。なお、周辺遺物の検出面は1.5面であり、28号建物床下出土を含む。

(1)カマド(第238,251図、PL.102)

位置 34区Y-21~22グリッド、調査区北側、22号建物の下位に位置する。

形状等 不整形、カマド基部の2/3程度が残存する。

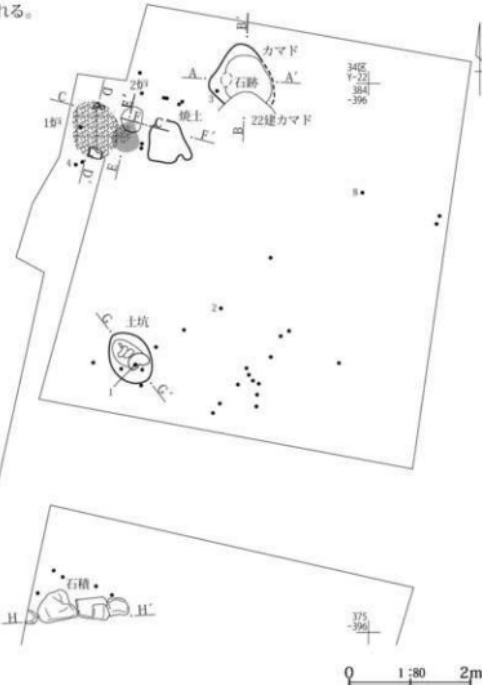
規模 (1.05)×(1.06)m

主軸方向(度) N-4-W

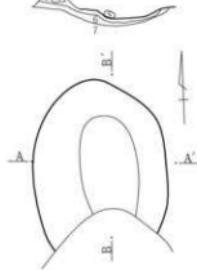
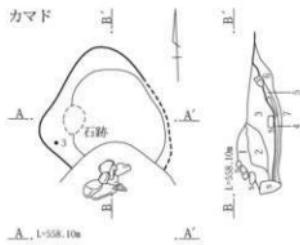
重複 22号建物カマド。

遺物 瀬戸・美濃陶器碗(3)が出土している。

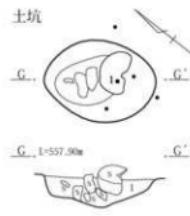
所見 22号建物カマドの0.8m程度北側に位置しており、28号建物カマドを潰し、均したのちに22号建物カマドが構築されている。22号建物カマドに先行する。



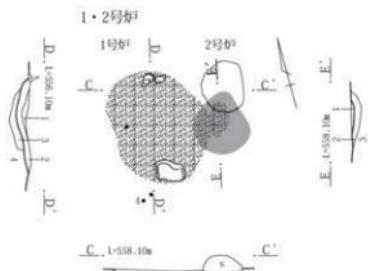
第237図 28号建物1



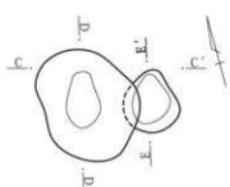
- A-A'・B-B'
- 黄褐色土(30YR5/6)しまりあまりなし、粘性ややあり。
2号建物カマド造成のための粘土。
 - 黄褐色土(10YR2/3)しまり、粘性あまりなし。粘土や
砂土が多層に混じる。2号建物カマド造成のための埋
め土。
 - 黄褐色土(10YR4/6)しまり、粘性あまりなし。粘土と粘
土が約1:1で混じる平均的な組成。カマドの残土。
 - 青灰褐色土(10B6/6)しまりあまりなし、粘性ややあり。
上部に炭化物粒若干混じる。
 - 明赤褐色土(5YR5/6)しまりあまりなし、粘性ややあり。
塊土層。
 - 黄褐色土(30YR2/2)しまりなし、粘性ややあり。炭化
物の造成時に埋められた土か？
 - 黒褐色土(10YR2/2)しまりなし、粘性ややあり。地山層。



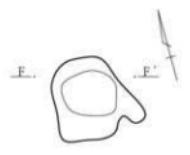
G-G'
1 黄褐色土(10YR2/3)しまりなし。粘
性あまりなし。黄褐色土若干含む。
炭化物粒若干含む。



- C-C'・D-D'
- 灰黄褐色土(10B6/2)しまりあまりなし、粘性ややあり。安定した灰層。
上面に炭化物粒が多層に混じる。
 - 明赤褐色土(30YR5/6)しまりあまりなし、粘性ややあり。安定した土層。
 - 黒褐色土(10YR2/2)しまりあまりなし、粘性ややあり。地山層。



- C-C'・D-D'
- 青褐色土(5B2/1)しまりあまりなし、粘性
ややあり。
 - 灰青褐色土(10B6/2)しまりあまりなし、
粘性ややあり。安定した灰層。上面に炭化
物粒が多層に混じる。
 - 明赤褐色土(30YR5/6)しまりあまりなし、粘
性ややあり。安定した土層。
 - 黒褐色土(10YR2/2)しまりあまりなし、粘
性ややあり。地山層。



- F-F'
- 明褐色土(7.5YR5/8)しまり、粘性あ
まりなし。粘土と砂土がブロック状
に混じるから不均質な層。
 - 黒褐色土(10YR2/2)しまりあまりなし
し、粘性ややあり。地山層。



0 1:40 1m

第238図 28号建物2

第5章 平成30年度調査・確認された遺構と遺物

(2) 1号炉(第238,251図、PL.102,147)

位置 35区A-21グリッド、調査区北側、22号建物の下位に位置する。22号建物カマドの1.4m程度西に位置する。

形状等 長円形。焼土と灰層が残存する。

規模 0.99×0.82m

主軸方向(度) N-8-W

重複 2号炉。

遺物 瀬戸・美濃陶器二次加工品(4)が出土している。

所見 焼土を覆う灰層の上に、カマド焼土の上に堆積する青黒色土と同様の堆積が確認されおり、カマドと同時に廃棄されたと推測される。2号炉より新しい。

備考 調査時の名称は、1号圓炉裏。

(3) 2号炉(第238図、PL.102)

位置 34区Y～35区A-21グリッド、調査区北側、22号建物の下位に位置する。

形状等 不整形。散乱した灰の下から焼土が確認された。

規模 0.52×(0.49)m

主軸方向(度) N-19-E

重複 1号炉。22号建物礎石16。

所見 1号炉を設置するに際して廃棄された可能性が高いが、28号建物に先行する可能性がある。1号炉および22号建物礎石16に先行する。

備考 調査時の名称は、2号圓炉裏。

(4) 焼土遺構(第238図、PL.102)

位置 34区Y-21グリッド、調査区北側、22号建物の下位に位置する。

形状等 不整形。粘土と焼土がブロック状に混じり検出されている。

規模 0.85×0.68m

主軸方向(度) N-44-W

重複 なし。

所見 調査所見に基づき焼土遺構としたが、崩された炉の可能性も否定しえない。2号炉等との関係は不明である。

(5) 土坑(第238,251図、PL.102,103,147)

位置 34区Y～35区A～20グリッド、調査区北側、22号

建物の下位に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 0.92×0.68m

主軸方向(度) N-37-W

埋没土 黄橙色粒と炭化物粒を若干含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 石臼(1)が出土している。

所見 土坑埋没土は28号建物のカマドや炉の埋没土と相違するため、28号建物に先行する可能性も高いが、埋没土自体は近世のものと推定されるため、ここに含めた。28号建物の規模を22号建物と同程度と仮定すれば、建物南辺に位置したと推測される。

備考 調査時の名称は、1号土坑。

(6) 石積遺構(第238図、PL.103)

位置 34区Y～35区A-19グリッド、28号建物の南に位置する。

形状等 東西方向に並べられた石組みの東端と推測される。

規模 (1.74)m

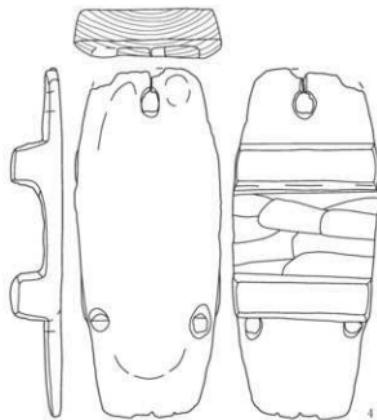
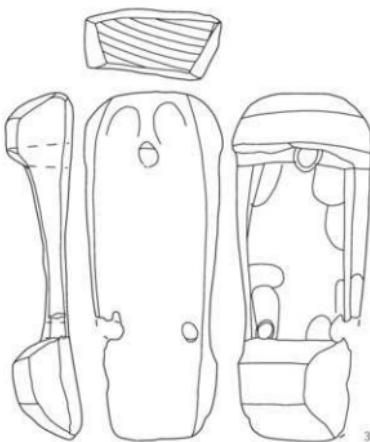
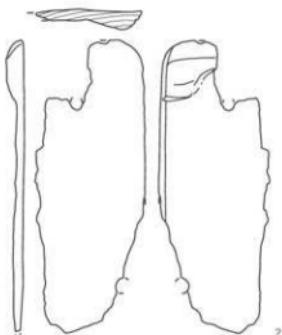
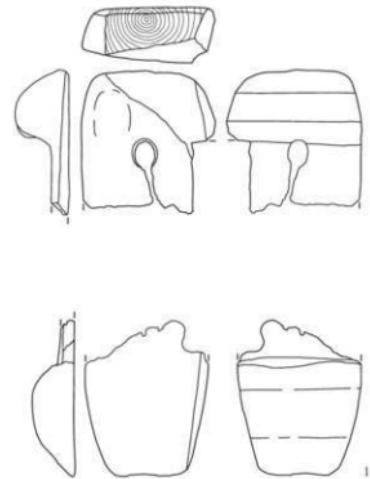
主軸方向(度) N-85-E

重複 なし。

所見 調査所見に基づき28号建物の付随施設としたが、建物に伴うことを明確に示唆する資料は確認されていない。28号建物の建物規模を22号建物と同程度と仮定した場合、本遺構は建物の南4m程の処に位置することが予想される。28号建物は緩やかに南に下る斜面に立地するため、28号建物の立地する敷地南端の養生を意図した石組みと推察される。

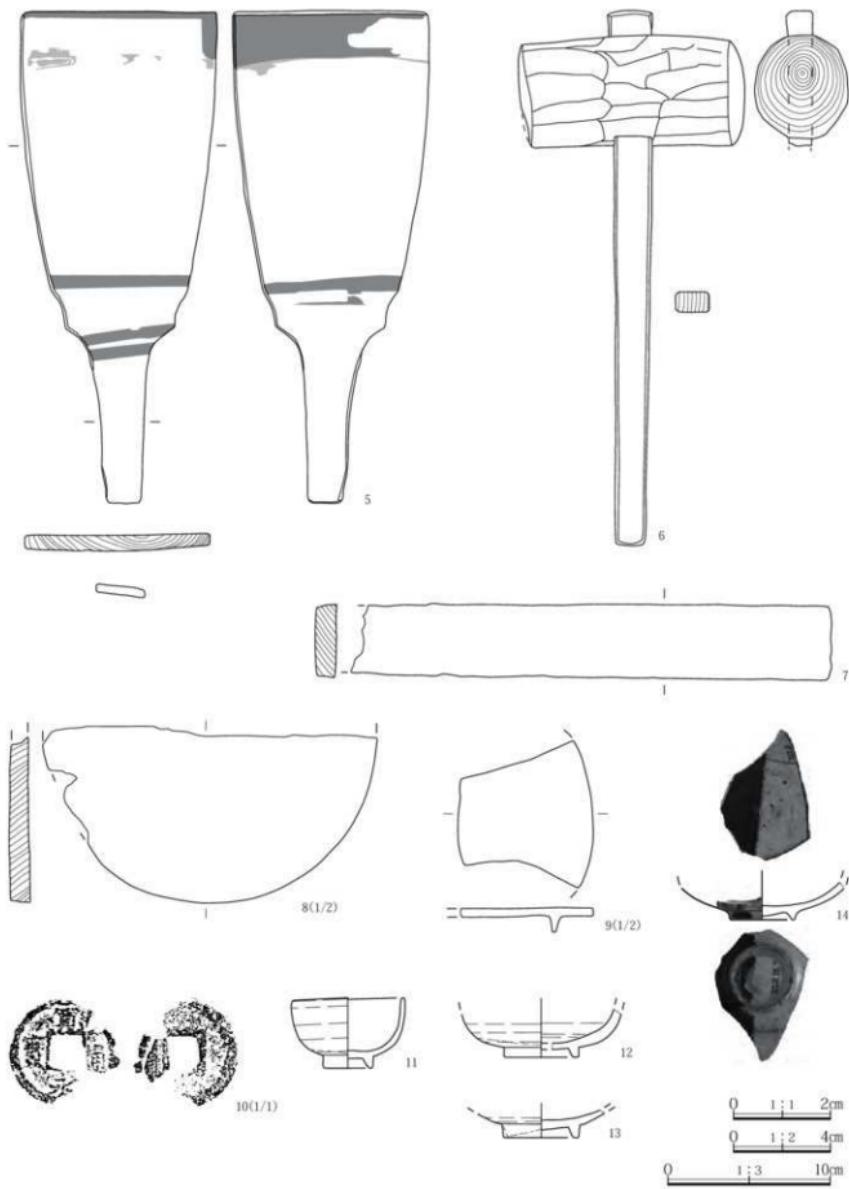
第3項 竪穴建物

平成30年度調査区の、天明泥流直下である1面の下層に位置する2面から、3棟の竪穴建物が確認されている。北側調査区の西半から2棟、東側調査区の北端から1棟のあわせて3棟であり、いずれも遺跡の立地する舌状台地の付け根側に位置する。下田遺跡では、遺跡の立地する舌状台地の基部近く(北側)から竪穴建物が確認される傾向にあり、今回の調査成果も同様である。ただし台地の先端側(南側)は水害による搅乱や削平が著しく、南側にも竪穴建物が存在していた可能性は否定できない。

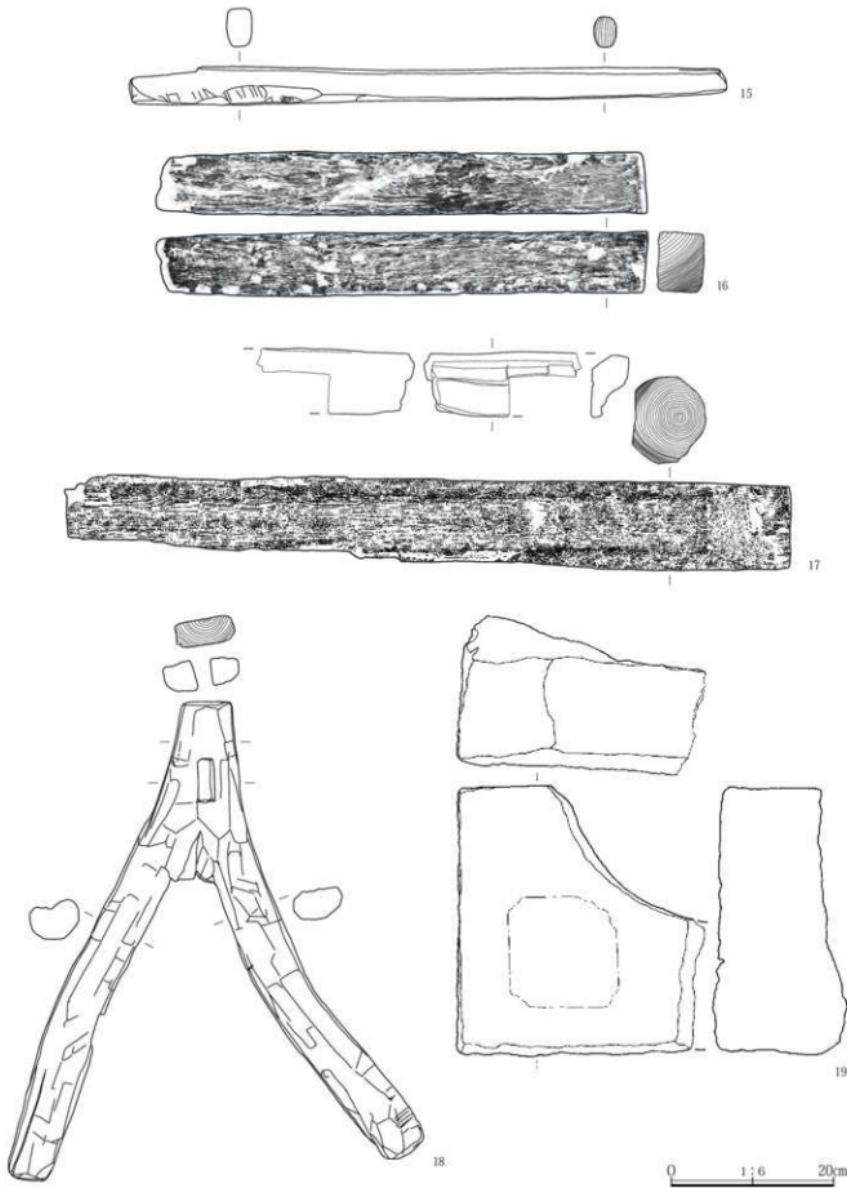


0 1:3 10cm

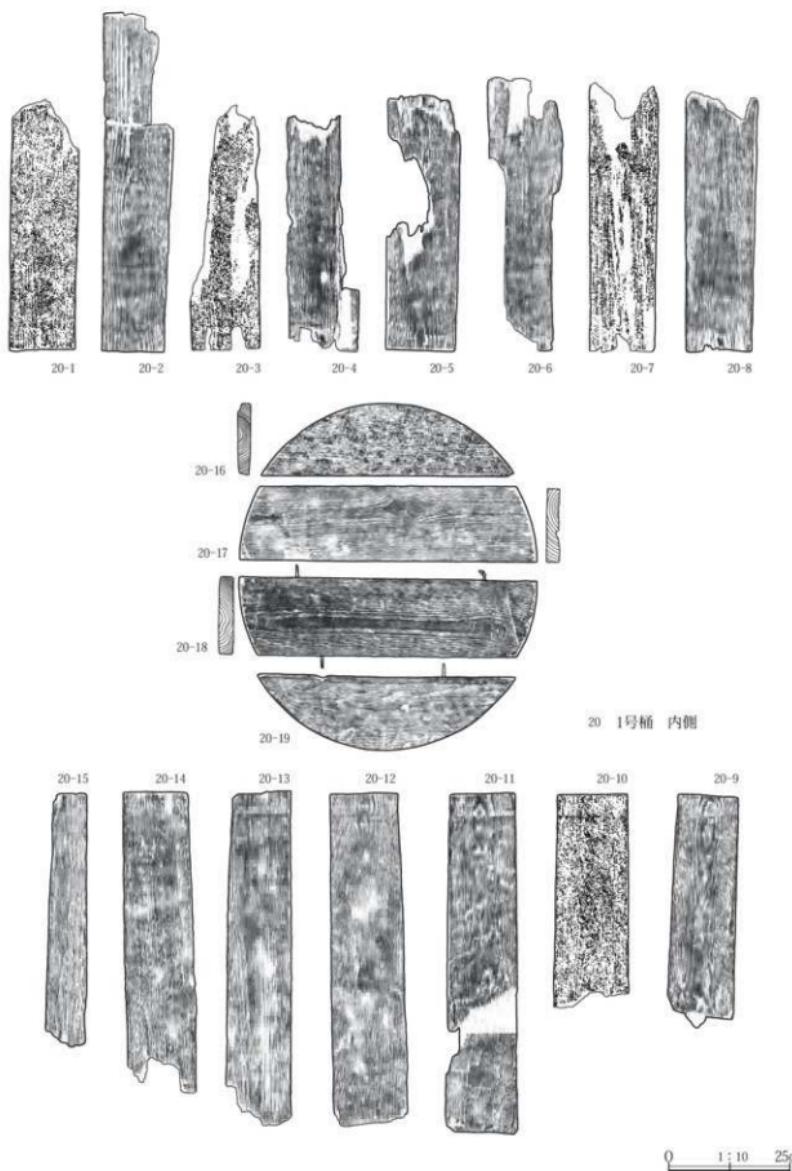
第239図 22号建物出土遺物 1



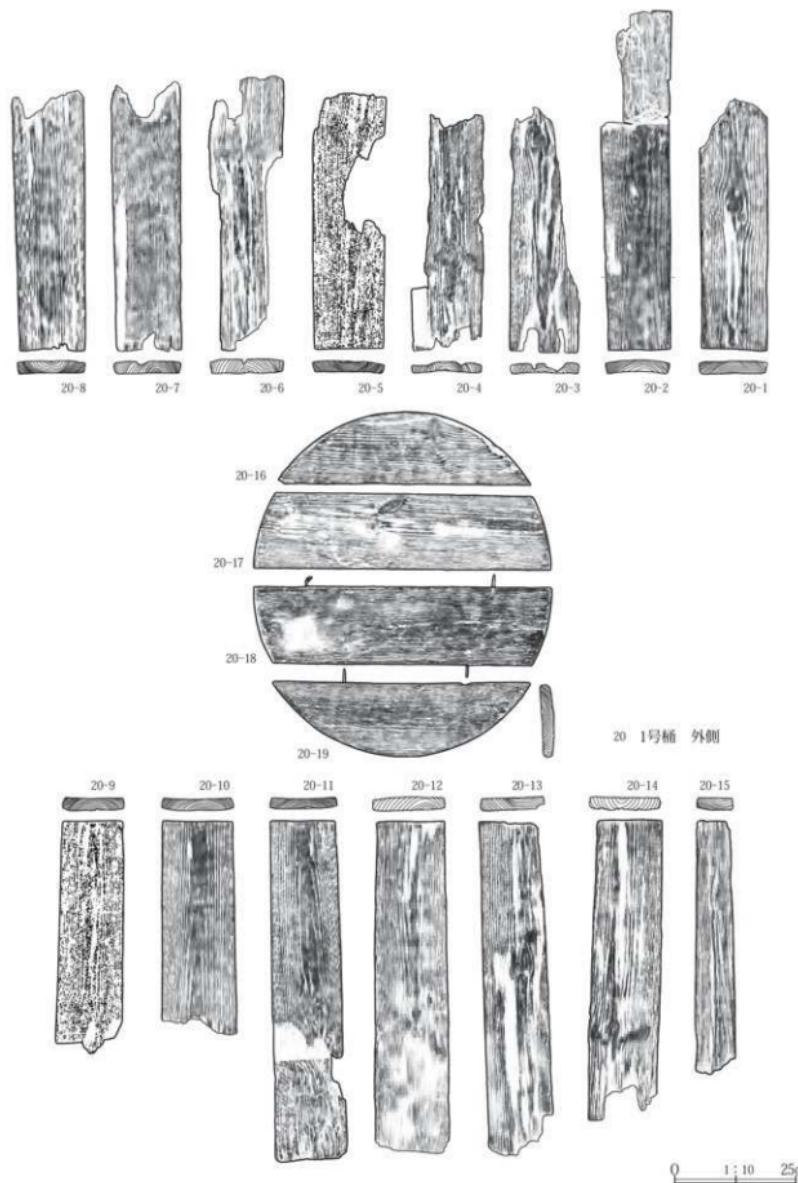
第240図 22号建物出土遺物 2



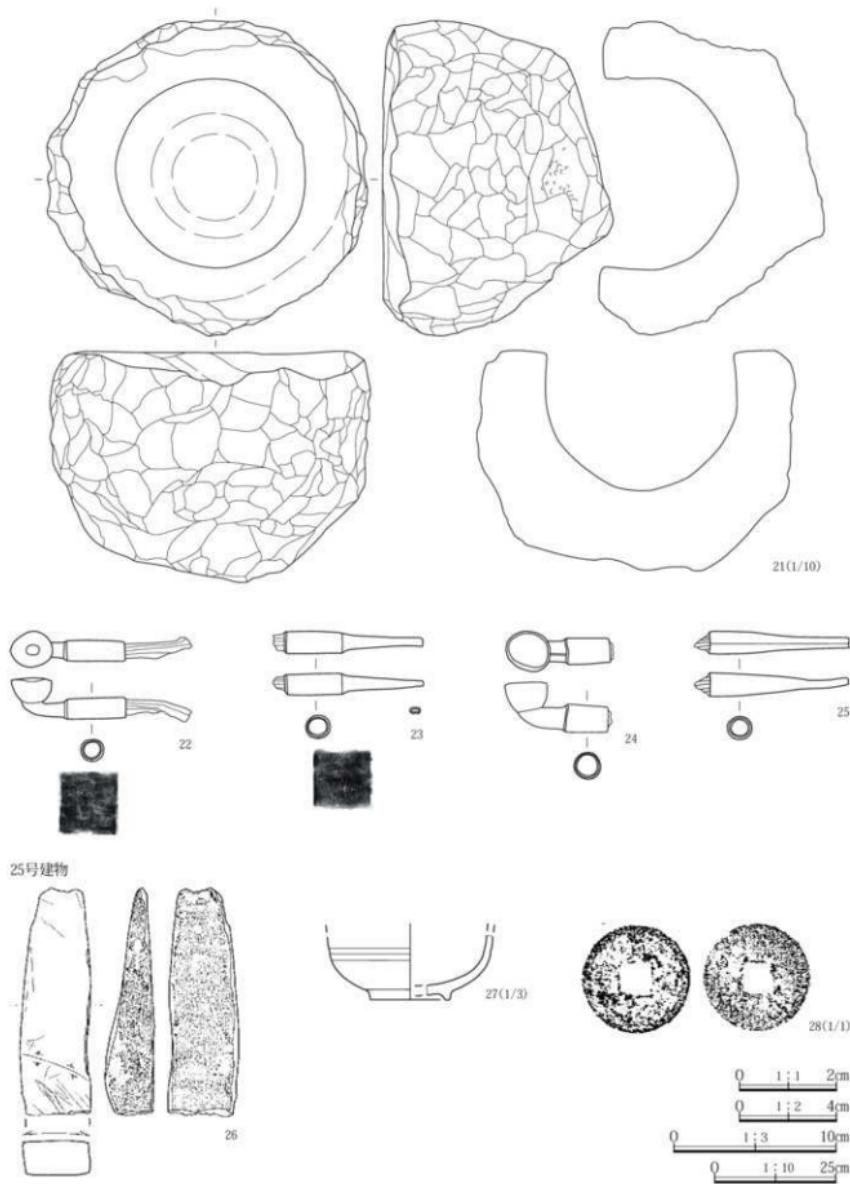
第241図 22号建物出土遺物 3



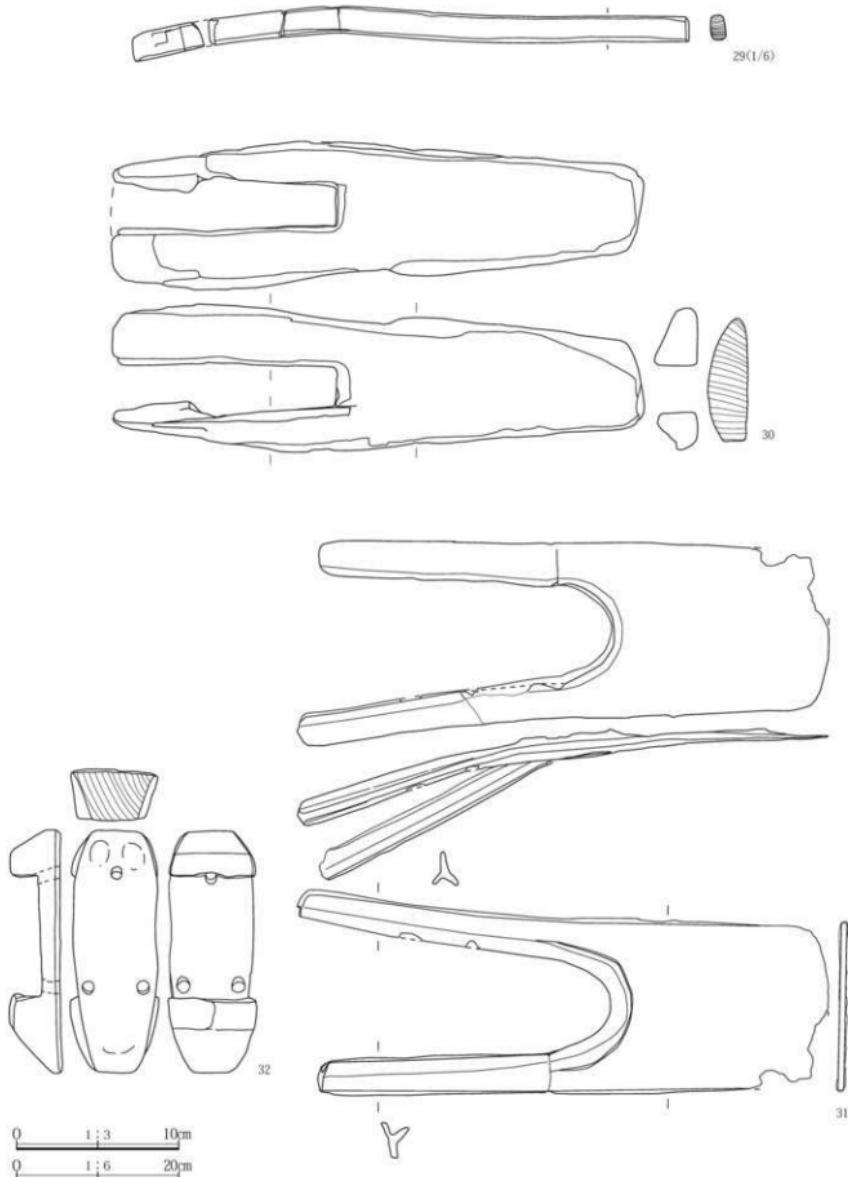
第242図 22号建物出土遺物 4



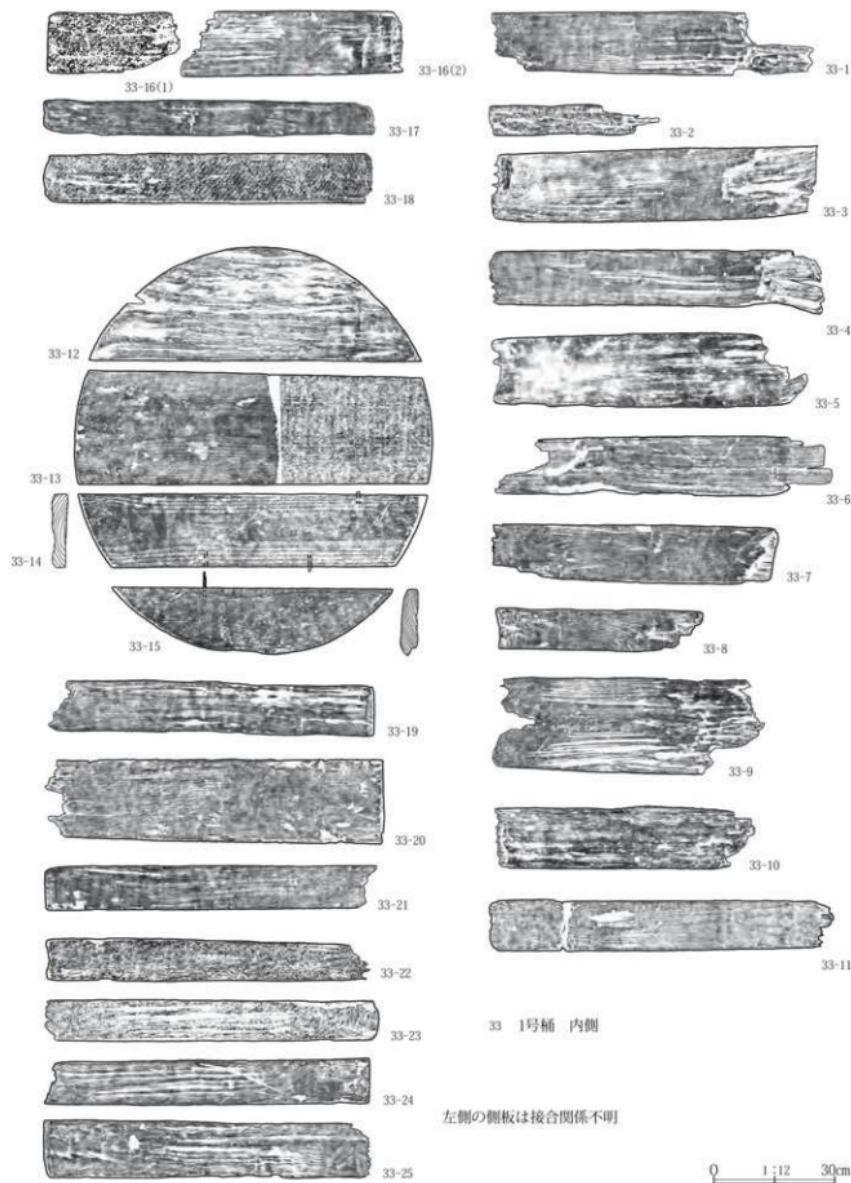
第243図 22号建物出土遺物 5



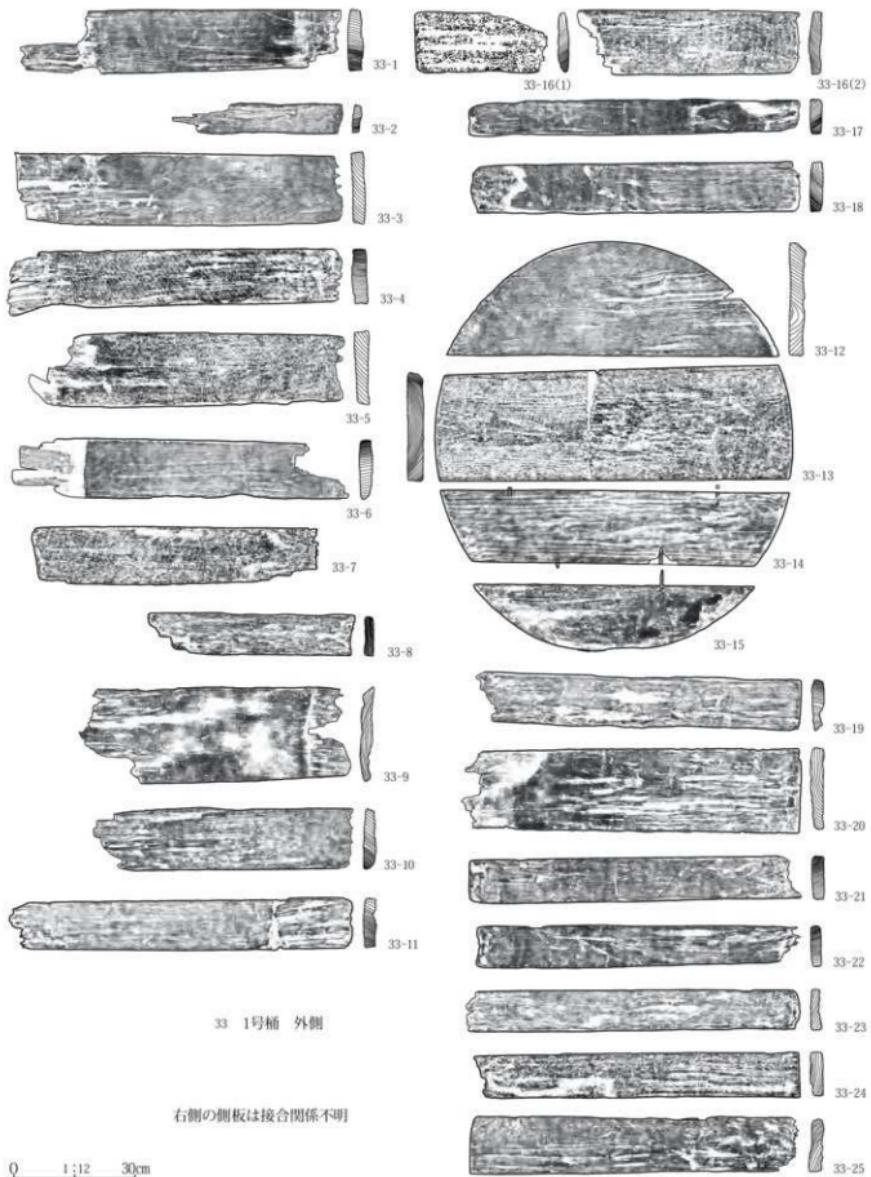
第244図 22号建物出土遺物 6 と 25号建物出土遺物 1



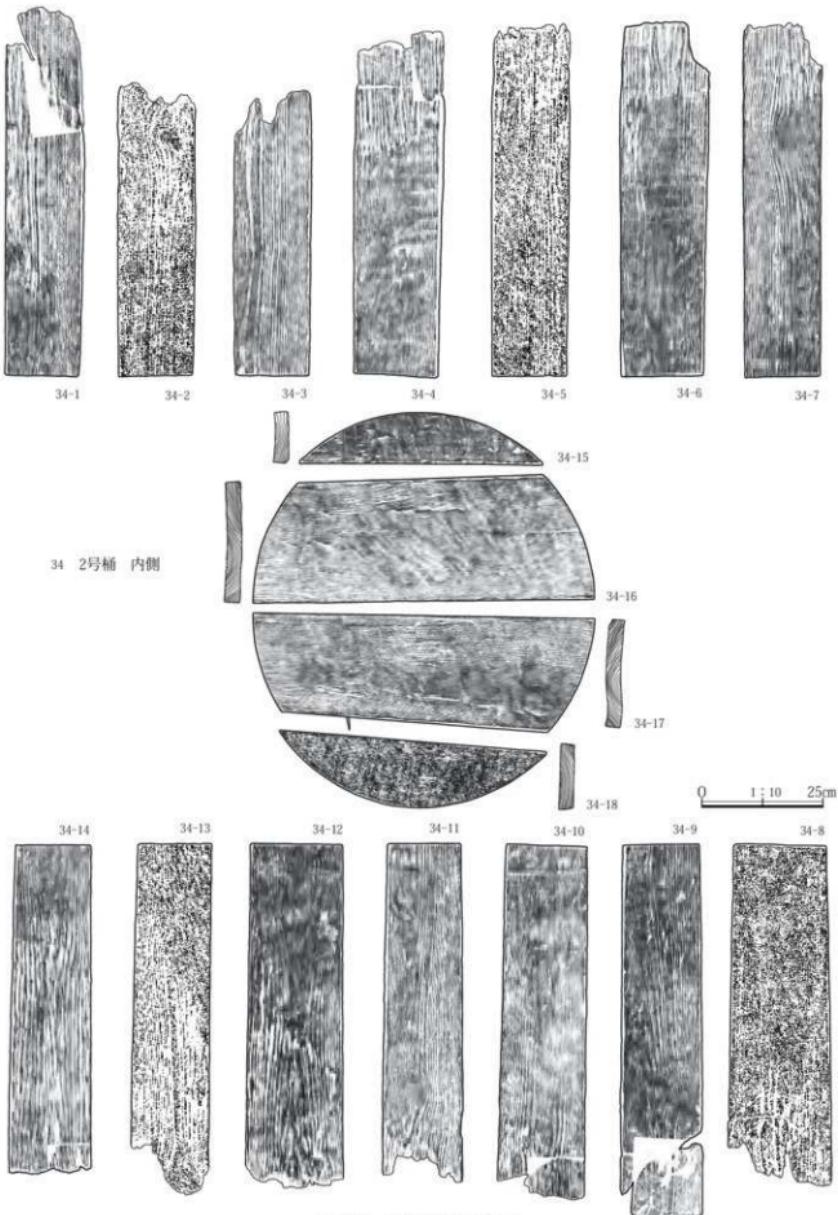
第245図 庭出土遺物



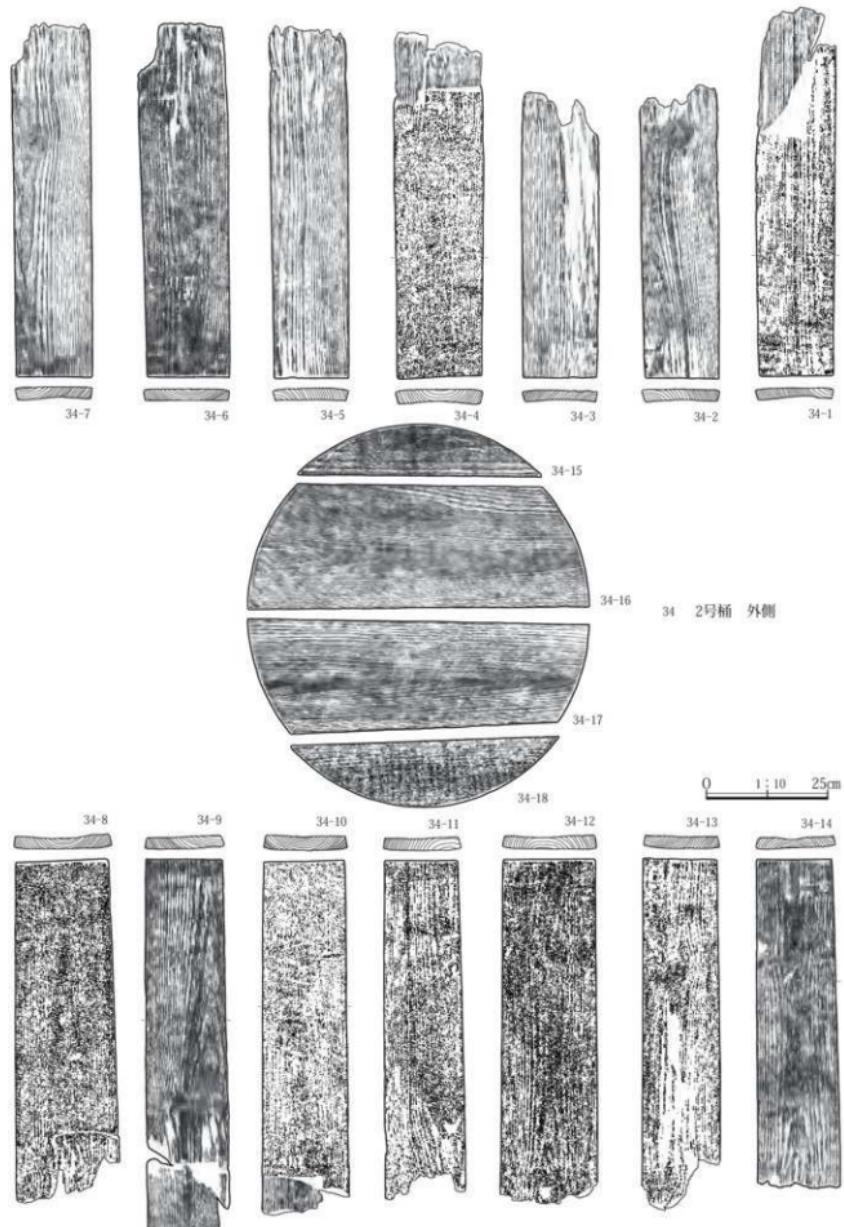
第246図 25号建物出土遺物2



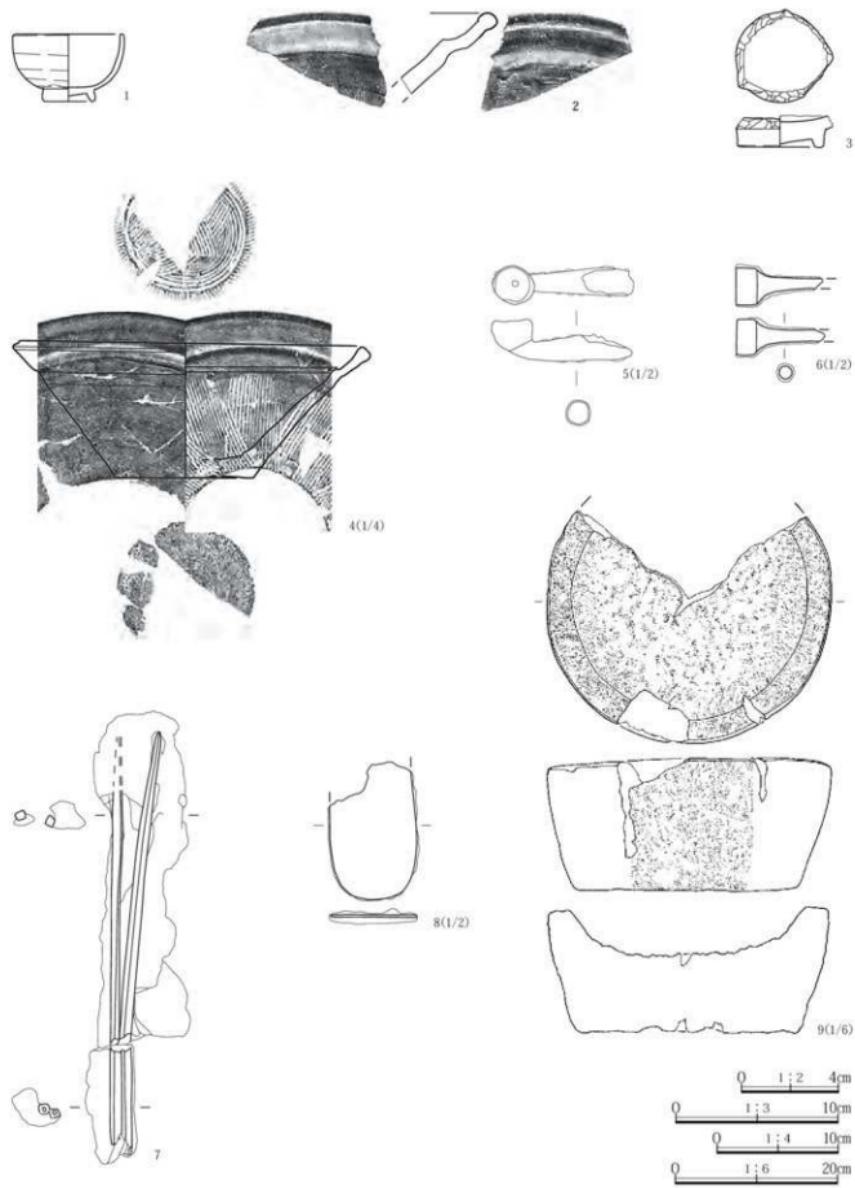
第247図 25号建物出土遺物 3



第248図 25号建物出土遺物 4

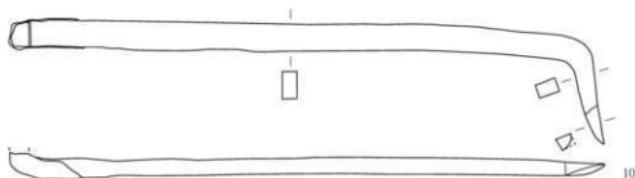


第249図 25号建物出土遺物 5

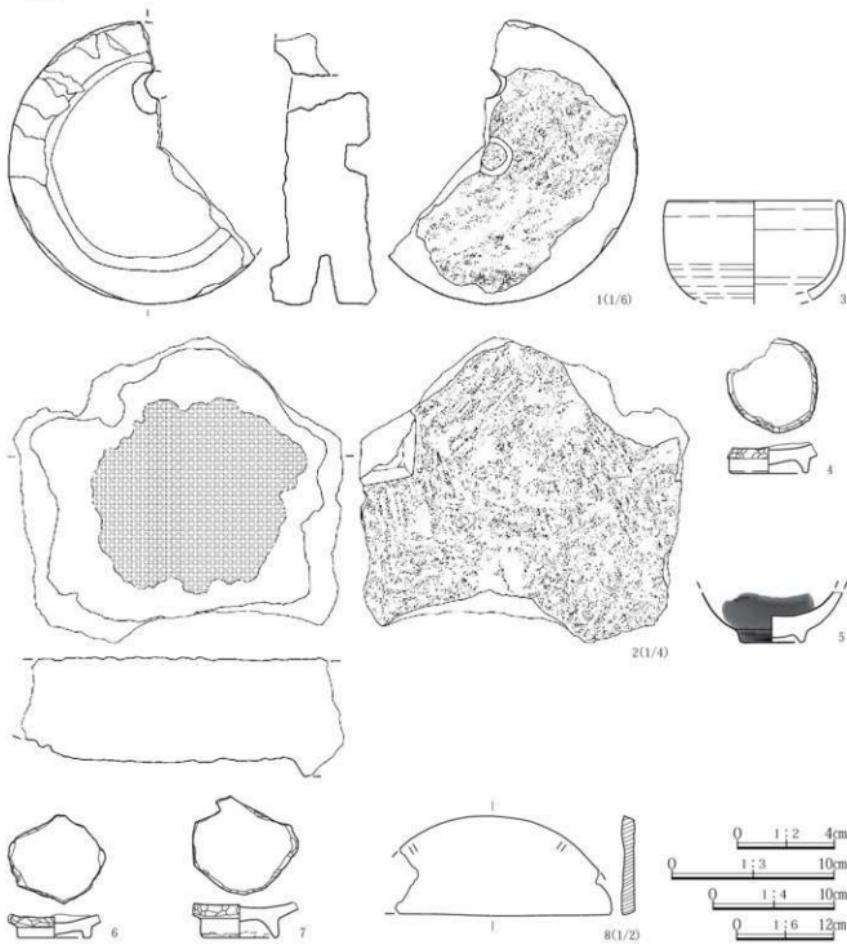


第250図 N2建物群出土遺物 1

N2建物群



28号建物



第251図 N2建物群出土遺物 2 と28号建物出土遺物

第5章 平成30年度調査・確認された遺構と遺物

1 13号竪穴建物(第252~254図、PL.103,104,148)

位置 34区U～V-19～20グリッド、北側調査区西半に位置する。

形状等 東辺北半が未確認であるが概ね方形。カマド脇の南東隅から貯蔵穴が、カマド手前からは床下土坑が検出されている。

規模 9.21×10.54m。深さ0.11m。

主軸方向(度) N-80-E

埋没土 南辺から黄褐色土ブロックと1cm大の炭化物粒をわずかに含む黒褐色土の崩落土が確認されている。

カマド 東辺南半に位置する。カマドの袖を形成した粘土の基部のみを残し、カマド本体は崩され均されている。炉床は壁線の内側に位置するが、カマド奥壁の北側がよく焼けている。煙道部は確認されていない。

掘り方 建物西半に浅い貼床が確認されているが、カマド周辺からは検出されていない。またカマドに対面する西辺の南半から深さ3cm程度の壁溝が検出されている。
重複 190～192号土坑、570号ピット、571号ピット、573号ピットと平面位置は重なるが、いずれとも重複関係ではない。

遺物 床面から灰釉陶器皿(1)、須恵器甕(6)、鉄鎌(7)、刀子(8)が、埋没土から土師器甕(4)、貯蔵穴埋没土から須恵器杯(2,3)、床下土坑埋め土からは羽釜(5)が出土している。この他、須恵器や内黒土器、灰釉陶器などの破片37片(1,162g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。190～192号土坑、570号ピット、571号ピット、573号ピットのいずれよりも新しい。

2 14号竪穴建物(第255図、PL.104,148)

位置 34区P～Q-17～18グリッド、北側調査区西半に位置する。

形状等 東北隅が未確認であるが、概ね隅丸方形を呈する。

規模 (6.09)×7.63m。深さ0.23m。

主軸方向(度) N-15-E

埋没土 小礫を含み、全体に強固な鉄分凝集層を形成する暗赤色土。なお、東辺からは地山崩落土が確認されている。

カマド 北辺中央やや東寄りに位置する。カマド西袖基

部の粘土と炉床が残存しているが、カマド奥の煙道付近を含め、残存状態は良好とはいえない。カマド西袖残存部の南端からは石の痕が確認され、西袖部からは2点の石が検出されている。東袖は基盤部分を残すのみであるが、西袖と対になる位置には石の痕が残る。炉床は残存するカマド袖の開口部に近い位置にあり、焚口はさらに南に位置した可能性が高い。

掘り方 埋め土は白色軽石粒を不均質に少量含む黒褐色土。東北隅から床下土坑2基、西北隅から深い掘り込み1か所が確認されている。

重複 なし。

遺物 遺構に伴うものではないが、埋没土より土師器の有段口縁杯(1)が出土している。南東隅の床面から棒状礫が多数出土している。この他、土師器片3片(25g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、13号竪穴建物掘り方の土と類似した土が本遺構の掘り方からも確認されることから、平安時代に比定されるが、中世に帰属する可能性もある。

3 15号竪穴建物(第256図、PL.105,148)

位置 33区A～B-7～8グリッド、東側調査区北端に位置する。

形状等 遺構下端と、上端の一部のみの検出であるが、概ね方形。カマド脇に貯蔵穴を作り、西辺中央付近に1.1×0.9×0.7mの上面がほぼ平らな石が残存する。

規模 (8.82)×(8.19)m。深さ0.28m。

主軸方向(度) N-53-E

埋没土 地山よりも白色軽石と黄色軽石を乱れて含む黒褐色土。

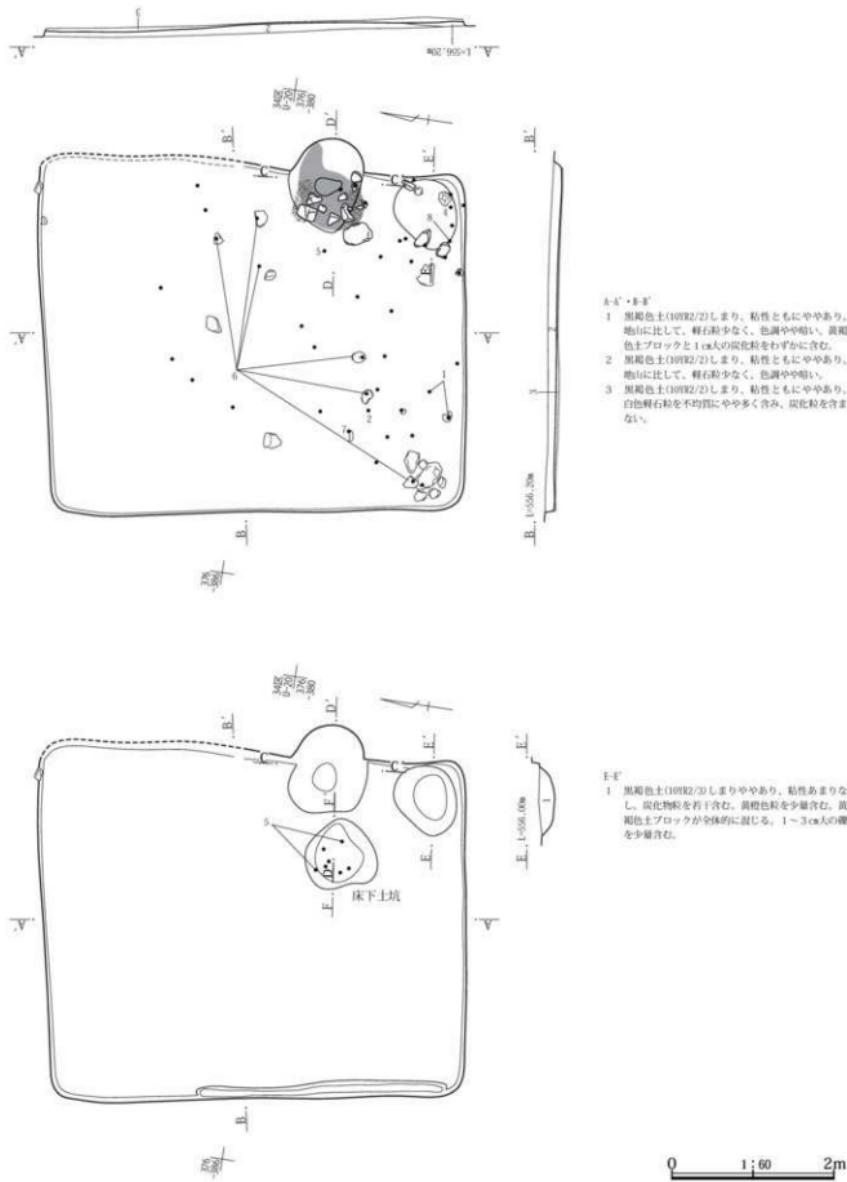
カマド 掘り方のみ検出した。

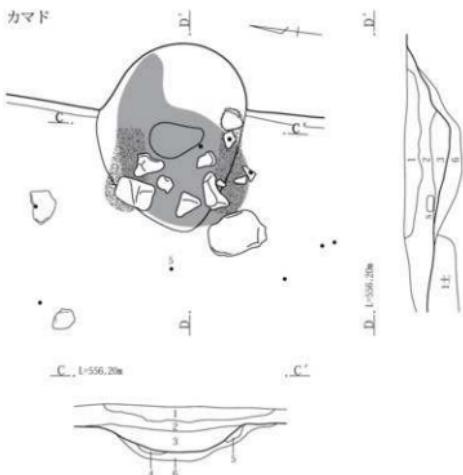
掘り方 なし。

重複 なし。

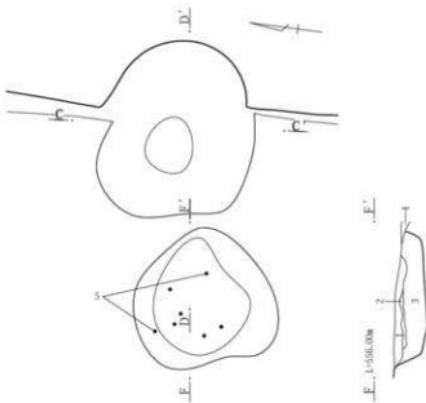
遺物 床面より灰釉陶器皿(1)が出土している。この他須恵器や灰釉陶器などの破片6片(22g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(9世紀後半～10世紀前半)に比定される。なお、遺構確認面直上の埋没土(2層)から瀬戸・美濃陶器徳利(2)が出土している。後世に削平されたと推察される。



*C-C' - D-D'*

- 1 黒褐色土(10R2/2)しまり、粘性ともにややあり、地山に比して、軽石粉少く、色調や空隙少く、わずかに埴土粒子混け込む。
- 2 黒褐色土(10R2/2)しまり、粘性ともにややあり、地山に比して、軽石粉少く、色調や空隙少く、地土ブロックを含み不均質。
- 3 赤褐色土(2.5TH4/6)埴土灰、埴土ブロックを中心としやや不均質。
- 4 白褐色土(10YR4/1)しまりあまりなし。粘性ややあり。埴土粒子を多く含む。
- 5 黑褐色土(10R2/2)しまり、粘性ともにややあり。軽石少いが、粒径やや大きい。色調や空隙少く、地土相混。
- 6 白褐色土(10YR4/1)しまりあまりなし。粘性ややあり。白色軽石を含まない。やや均質。

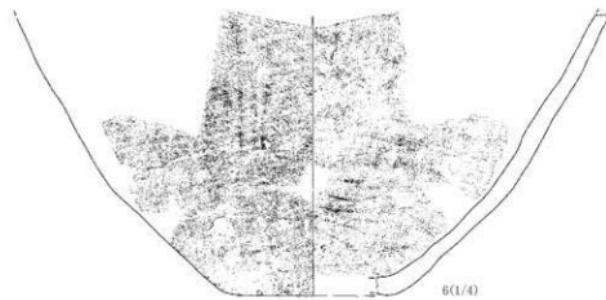
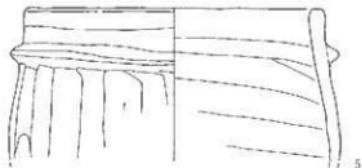
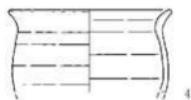
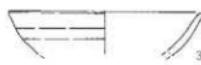
*F-F'*

- 1 黒褐色土(10R3/2)しまりややあり、粘性あまりなし。
- 2 白褐色土(10YR4/6)しまりややあり、粘性あまりなし。
- 3 白褐色土(7.5YR4/6)しまりややあり。粘性あまりなし。黄褐色粒若干混む。
- 4 白褐色土(10YR4/1)しまりあまりなし。粘性ややあり。白色軽石を含まない。やや均質。

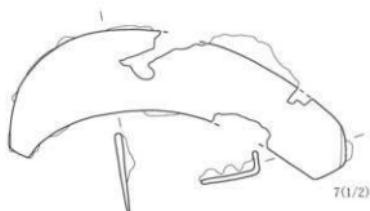
0 1:30 1m

第253図 13号竪穴建物2

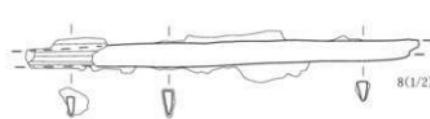
第1節 遺構と遺物



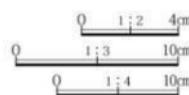
6(1/4)



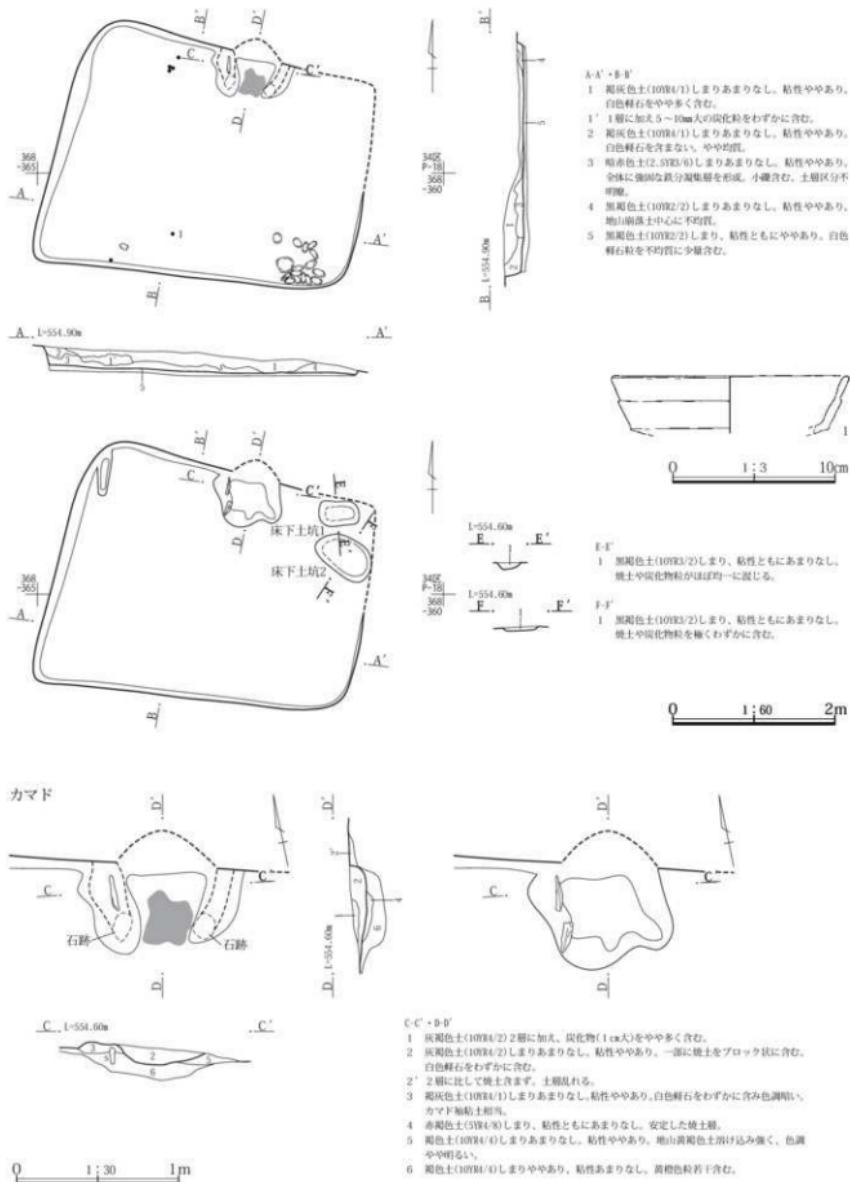
7(1/2)



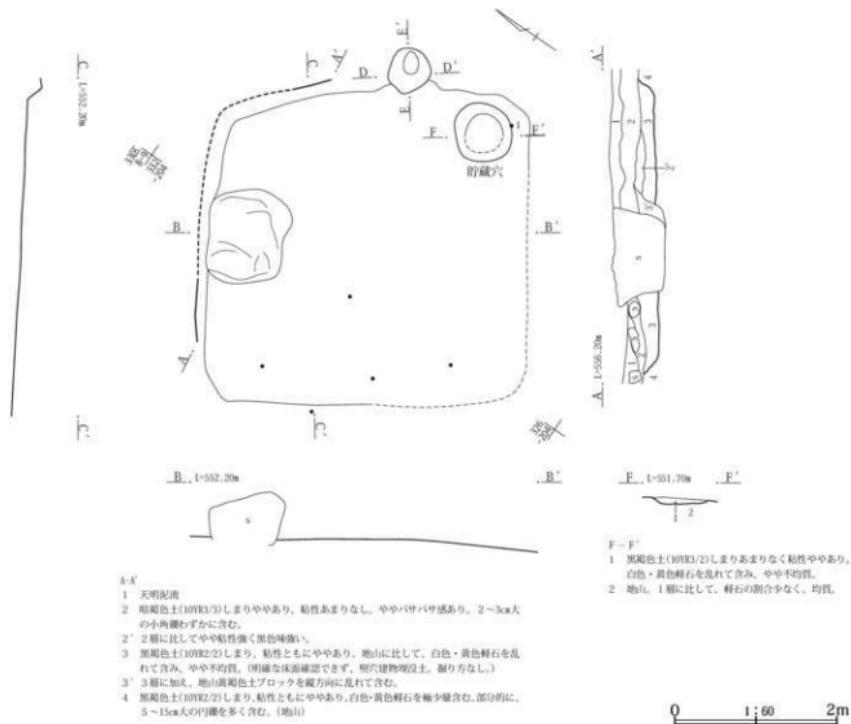
8(1/2)



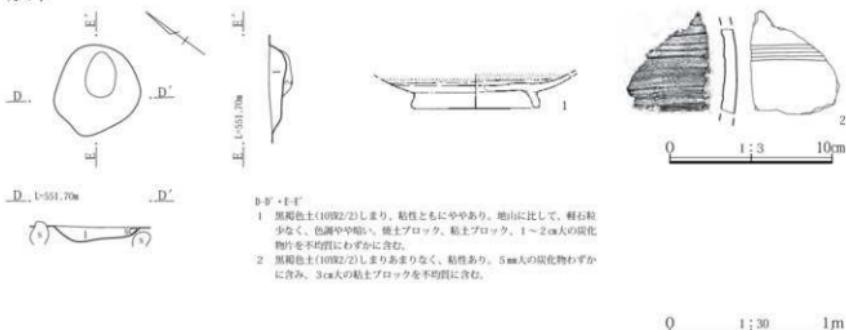
第254図 13号堅穴建物出土遺物



第255図 14号堅穴建物と出土遺物



カマド



第256図 15号堅穴建物と出土遺物

第4項 道

平成30年度調査区の天明泥流直下の面から5条の道が検出されており、このうち1号道と5号道の2条は側溝を作り、10号道は南側調査区から検出されているが、残り4条はいずれも北側調査区から検出されている。なお、今回検出された1号道と5号道は、平成28年度発掘調査時に確認された各道の延長部分であり、今回の検出は前回未調査であった領域を補うものである。過年度の調査成果をあわせた姿については後掲(2節)する。

1 1号道(第257, 258図、PL.105)

今回検出された1号道は、平成28年度に確認された1号道(3章1節4項1)の西側の支道の北に連なる部分である。道の北半、隣接している4号ヤックラの南端で10号溝と接し、以南は並行するため、10号溝を1号道の側溝とし、ここに含めた。

(1)道路部分(第257図、PL.105)

位置 33区Y～34区B-14～21グリッド、北側調査区中央辺に位置する。

形状等 調査区の傾斜にあわせ、北から南に下る。北半で4号ヤックラと接し、南端で10号溝と接する。

規模 (27.28)m、幅0.51～0.76m。

走行方向(度) N-12-E

付属施設 4号ヤックラ、11号ヤックラ。付属施設については後述する。

重複 1号井戸。

所見 下田遺跡を東西に抜ける1号道から分かれ、北側に抜ける支道である。1号井戸に先行する。

a 4号ヤックラ(第258図、PL.105)

位置 33区Y～34区A-18～20グリッド、北側調査区中央辺、1号道の東に隣接する。

形状等 1号道の西側に位置する39号烟の立地するテラスと、1号道の東側に位置する65号烟の立地するテラスとの境となる東下がりの斜面の下半に存在する。

規模 (9.82)×(2.08)m

主軸方向(度) N-32-E

遺物 瀬戸・美濃陶器碗(1)が出土している。

所見 1号道と65号烟との間に存在する標高差を補い、土留めの用を果たすことを意図して設置されたと推測される。

b 11号ヤックラ(第258図、PL.105)

位置 35区A～B-14～15グリッド、北側調査区中央辺、1号道の東に隣接する。

形状等 調査区南端付近に存在する、道沿いのくぼんだ地形に合わせ存在する。

規模 (2.04)×0.49m

主軸方向(度) N-3-W

遺物 なし。

所見 1号道の傾斜が緩くなる地点に周辺の不要な石が集められたと推測される。11号ヤックラの南からは10号溝は検出されていないので、10号溝の終端であることも予想される。

(2)側溝部分(第257図、PL.105)

位置 33区Y～34区A-15～19グリッド、北側調査区中央辺、1号道の東に位置する。

形状等 北半は4号ヤックラ沿いに南西に下り、4号ヤックラ南端で1号道に沿う。溝南端は11号ヤックラに到る。

規模 (18.48)m、幅0.46～1.10m、深さ0.26m。確認された両端部の標高差は1.54m。

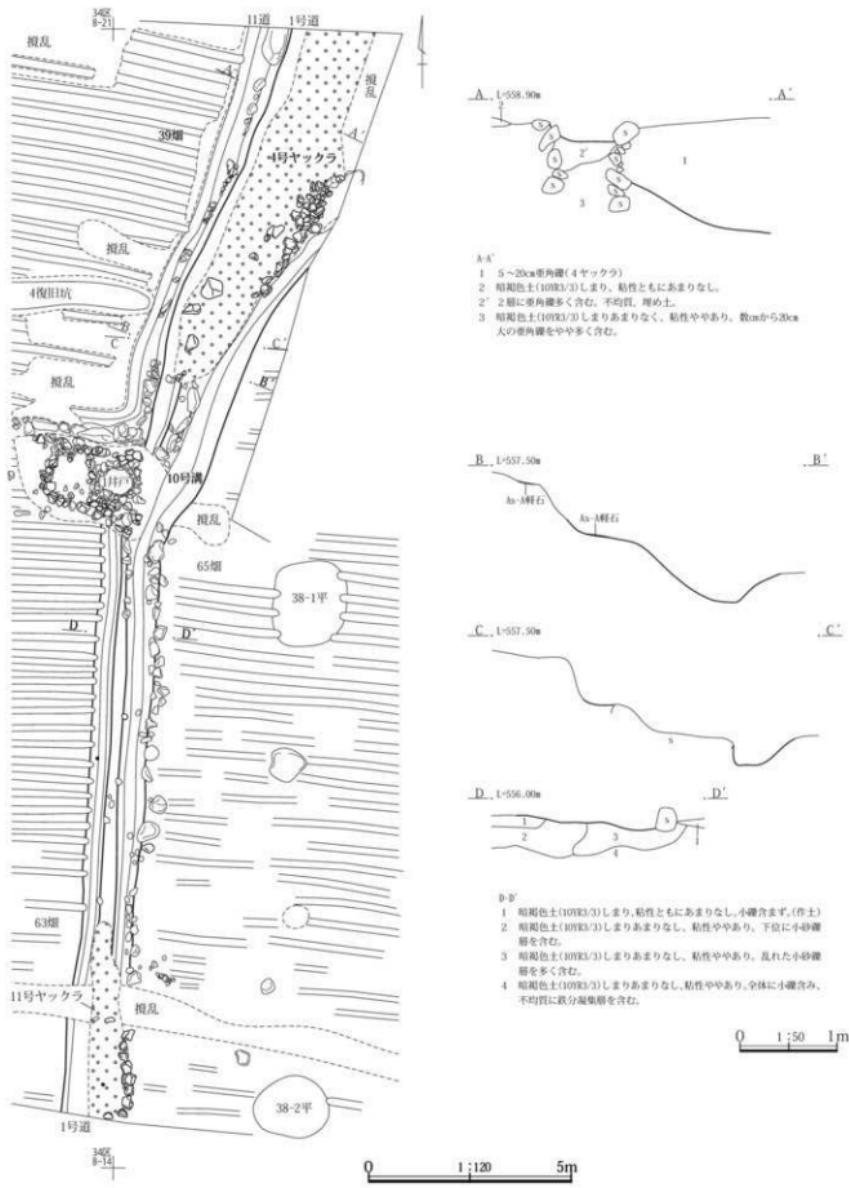
走行方向(度) N-16-E

所見 1号道と65号烟の排水を意図して設置されたと推測される。南端で11号ヤックラと接するが、これより南から溝は検出されていない。11号ヤックラの南に未調査域が存在するため、遺構は確認されていないが、11号ヤックラ付近から、地形なりに東流あるいは伏流していたとも想定される。なお、約30m東には5号溝が位置する。

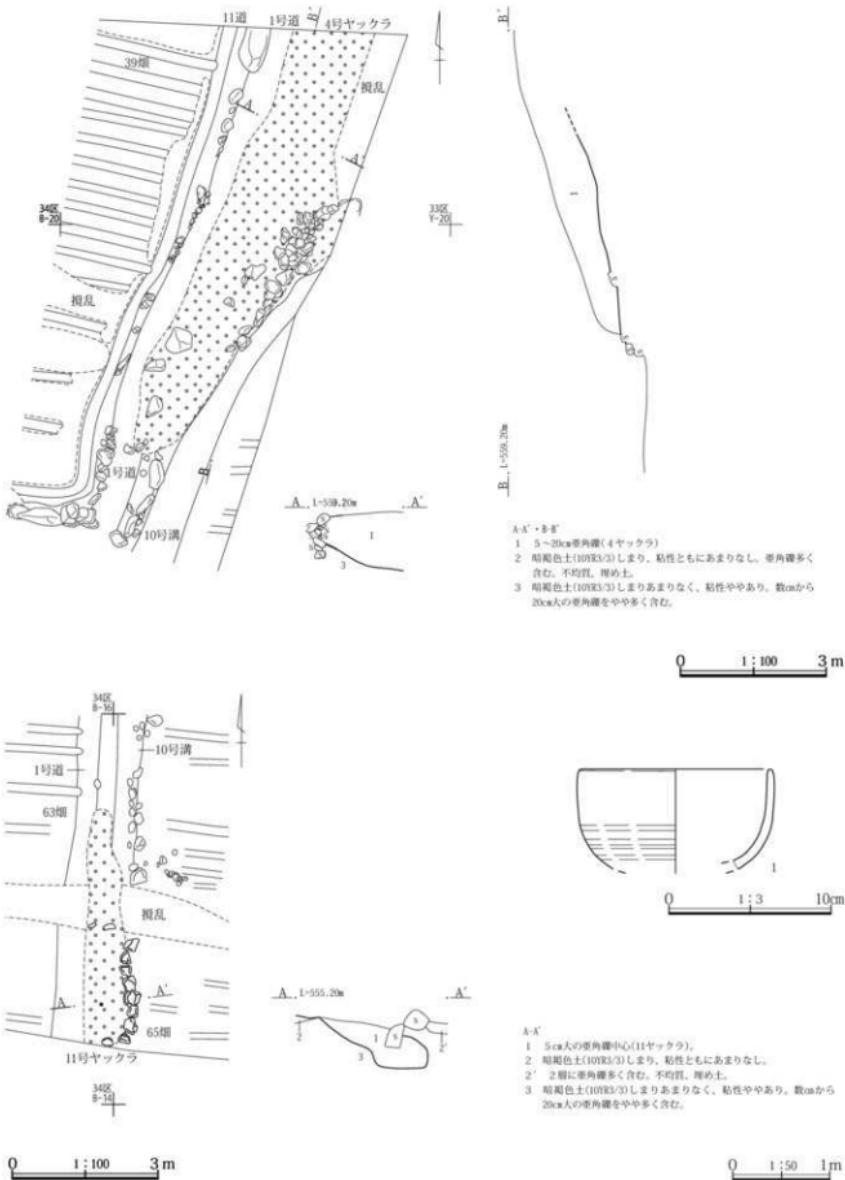
備考 調査時の名称は、10号溝。

2 5号道(第259, 260図、PL.105, 106, 148)

今回検出された5号道は、平成28年度に発掘調査された5号道(3章1節4項4)の南北に分断されていた未調査部分に相当する。道の西端に1号溝を作り、なお、5号道は上位の段丘面につづく通路に連なると想定されている。



第257図 1号道1



第258図 1号道2と出土遺物

(1) 道路部分(第259図、PL.105,106)

位置 34区W～Y-18～22グリッド、北側調査区西端、N1建物群の東、75号烟の西に位置する。

形状等 N1建物群の立地するテラスの東端に位置し、地形なりにテラスを区分するべく南北にのびる。調査区南端で11号道が分岐する。

規模 (17.0)m. 幅0.97～1.33m。

走行方向(度) N-13-E

付属施設 石垣。付属施設については後述する。

遺物 なし。

所見 N1建物群の位置する遺構面は、その北の復旧烟や44号烟の位置するテラスより1段低い面のため、5号道は北から南に下り傾斜を持つ盛土の上に設けられている。

a 石垣(第259,260図、PL.106,148)

位置 34区W～X-18～22グリッド、北側調査区西端、5号道の東に位置する。

形状等 5号道の位置するテラス東端を南北に延びる。廃棄された石臼など、不要となった石材も用いられ、野面積みされている。

規模 (16.20)m. 高さ0.48m。

走行方向(度) N-12-E

遺物 潟戸・美濃陶器碗(2)、肥前陶器皿(4)、瀧戸・美濃陶器片口(5)が出土しているほか、路肩を構成する石材の中には、石臼や唐臼(1)なども含まれている。

所見 5号道の路肩を構成し、5号道の位置するテラスの東端を保護する土留めとして機能している。

備考 調査時の名称は、5号石垣。

(2) 割溝部分(第259,260図、PL.105,106,148)

位置 34区W～Y-18～22グリッド、北側調査区中央辺、5号道の西に接する。

形状等 5号道沿いに南流する。整備が施されることもあったと推察されるが、発掘された時点では土砂の堆積がみられた。

規模 (17.00)m. 幅0.49～0.83m、深さ0.23m。両端の標高差1.09m。

走行方向(度) N-13-E

遺物 潟戸・美濃陶器碗(3)が出土している。

所見 溝西辺の残存状態は良好とは言い難いが、2号樹

木と3号樹木の間に存在する配石が、N1建物群の入り口と推察される。

備考 調査時の名称は、1号溝。1号溝と22号建物や25号建物との境から、樹種は不明であるが4本の樹木が確認されているが、街路樹とすべきか否かの根拠となる資料は確認されていない。

3 10号道(第261図、PL.106)

位置 24区H～L-12～14グリッド、南側調査区西北部に位置する。

形状等 天明泥流により荒らされた遺構面にとぎれとぎれではあるが、西北西から東南東に続く路面が確認されている。

規模 (16.84)m. 幅0.24m～0.79m。

走行方向(度) N-65-W

所見 西は平成29年度に確認された7号道ないし8号道(4章1節2)につながり、遺跡南部を東に延びると期待される。

4 11号道(第262～264図、PL.106,107)

位置 34区A～X-17～20グリッド、北側調査区西側に位置する。

形状等 39号烟や75号烟などの立地するテラスの南端に位置する。5号道から分岐し、地形なりに東に延びて1号道西側支道沿いに北上する。

規模 東西部90.88m、幅0.16～0.75m。南北部(10.02)m、幅0.16～0.30m。

走行方向(度) 東西部N-89-E、南北部N-18-E。

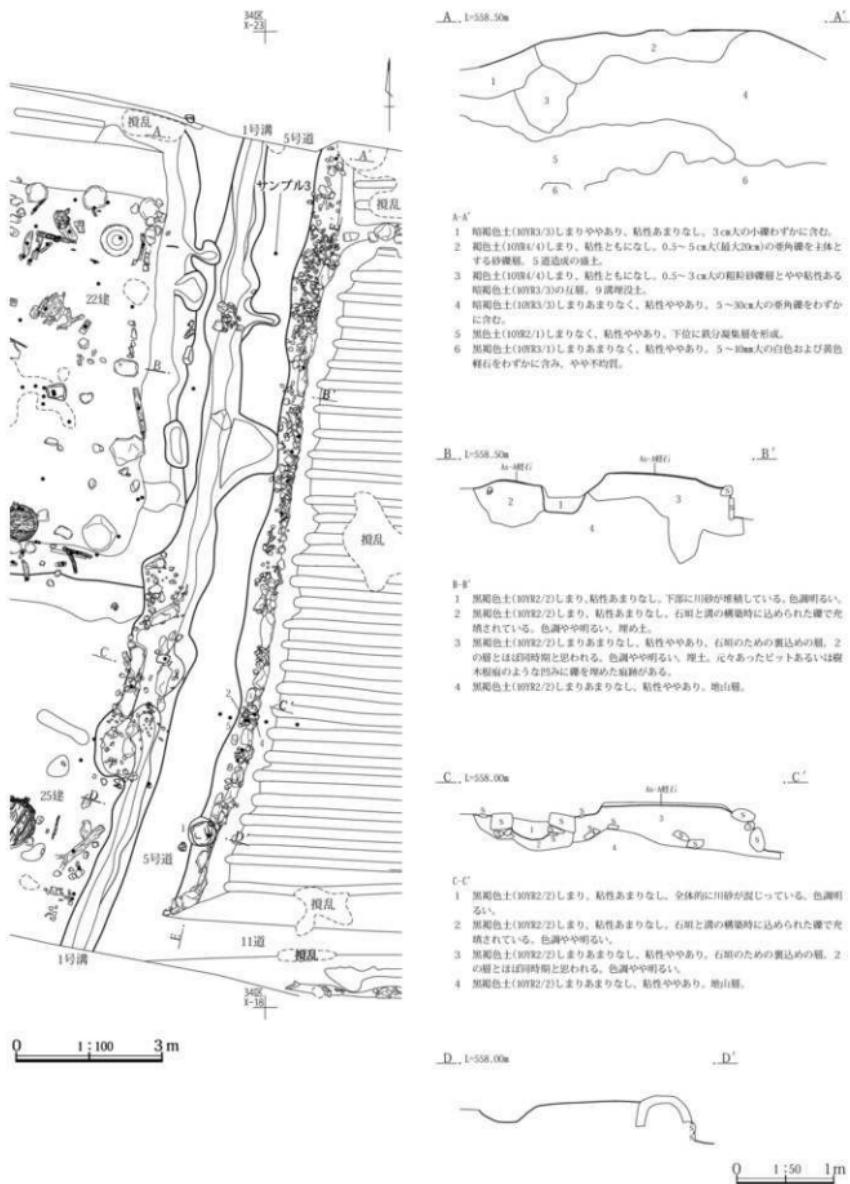
付属施設 石垣。付属施設については後述する。

所見 5号道から分岐し、11号道の位置するテラス南端沿いに東の1号道に至る。東西路としては1号道も同様であるが、11号道東半はより踏み分け道に近く、11号道のほうが1号道よりも副次的な通路と推測される。

(1) 石垣(第262～264図、PL.106,107)

位置 34区A～W-17～20グリッド、北側調査区、11号道に接する。

形状等 11号道の位置するテラスの端部に位置し、11号道の路肩を構成する。5号道と1号道との間は地形なりに東西に延び、1号道と接してからは地形なりに北に続



第259圖 5號道 1

く。N2建物群の南、82号畠付近の2か所で石組みが途切れる。切り石や碎石等を用いて乱積みされている。

規模 東西部88.03m、高さ0.47~0.98m。南北部(10.86)m、0.42m。

走行方向(度) 東西部N-89-E、南北部N-20-E。

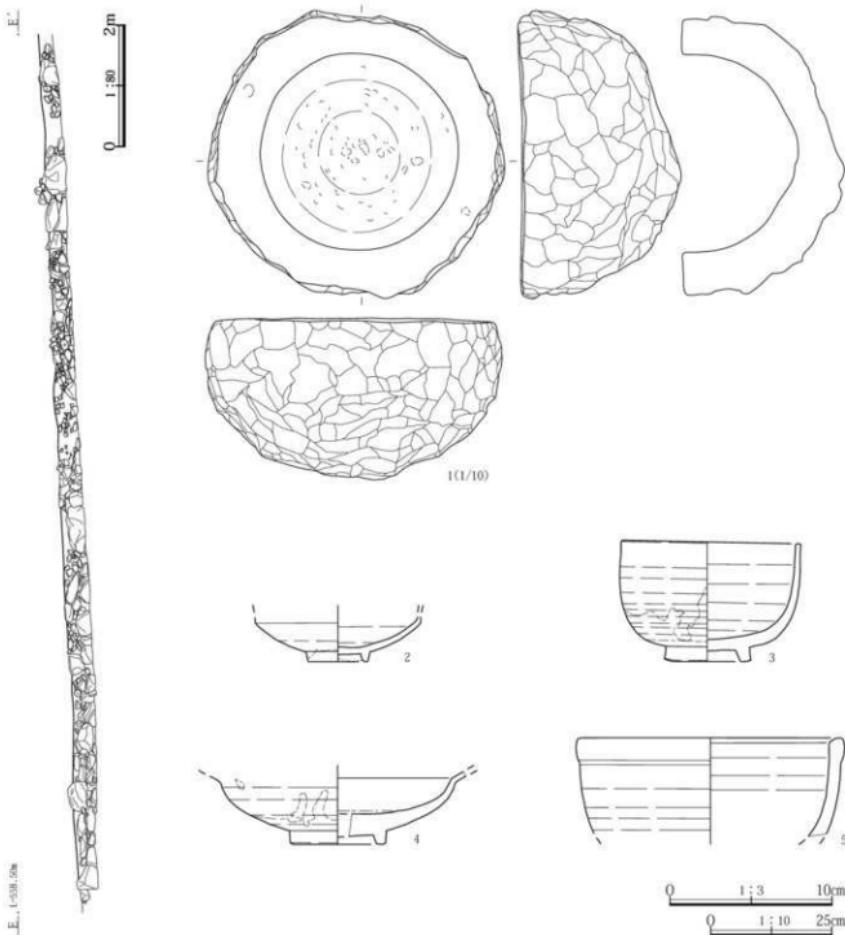
重複 1号井戸。

遺物 瀬戸・美濃陶器皿(2)、瀬戸・美濃陶器香炉(1)

が出土している。

所見 1号道と接する部分の路肩は、石列が散見し、法面には石組みが見られないものであるが、9号石垣の延長に含めた。11号道の路肩を構成し、11号道の位置するテラス端部の土留めとして機能している。1号井戸に先行する。

備考 調査時の名称は、7~9号石垣。



第260図 5号道2と出土遺物

5 12号道(第265図、Pl.107, 108)

位置 33区K～T-14～17グリッド、北側調査区東半に位置する。

形状等 岩盤露頭の南辺を囲う踏み分け道と、その東に位置する2層ヤックラを結ぶ。

規模 36.11m、幅0.21~2.14m

走行方向(度) N-69-W

付属施設 10号ヤックラ。付属施設については後述する。
所見 道として提示した範囲には路肩とみなすべき斜面部分も含まれるように見受けられるので、道の最大幅は1.4m以下と推測される。雨水の排水を兼ねると推察される。

(1) 10号ヤックラ(第265図、PL.107,108)

位置 33区Q～T-15～17グリッド、12号道北に隣接する。

形状等 12号道と岩盤露頭との間に弧状に存在する。

規模 $10.98 \times 3.76\text{m}$

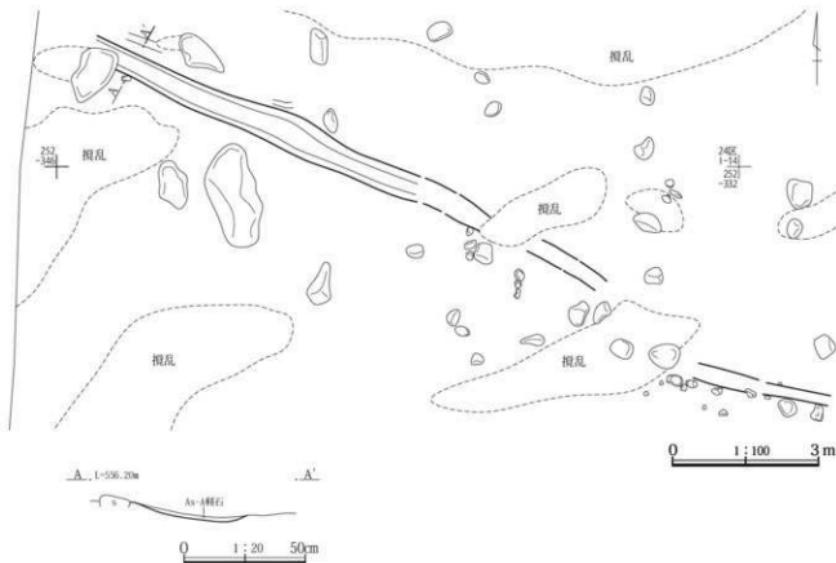
主軸方向(度) N-69-W

所見 岩盤露頭周辺の農作業に支障となる石を、集めたものと推察される。

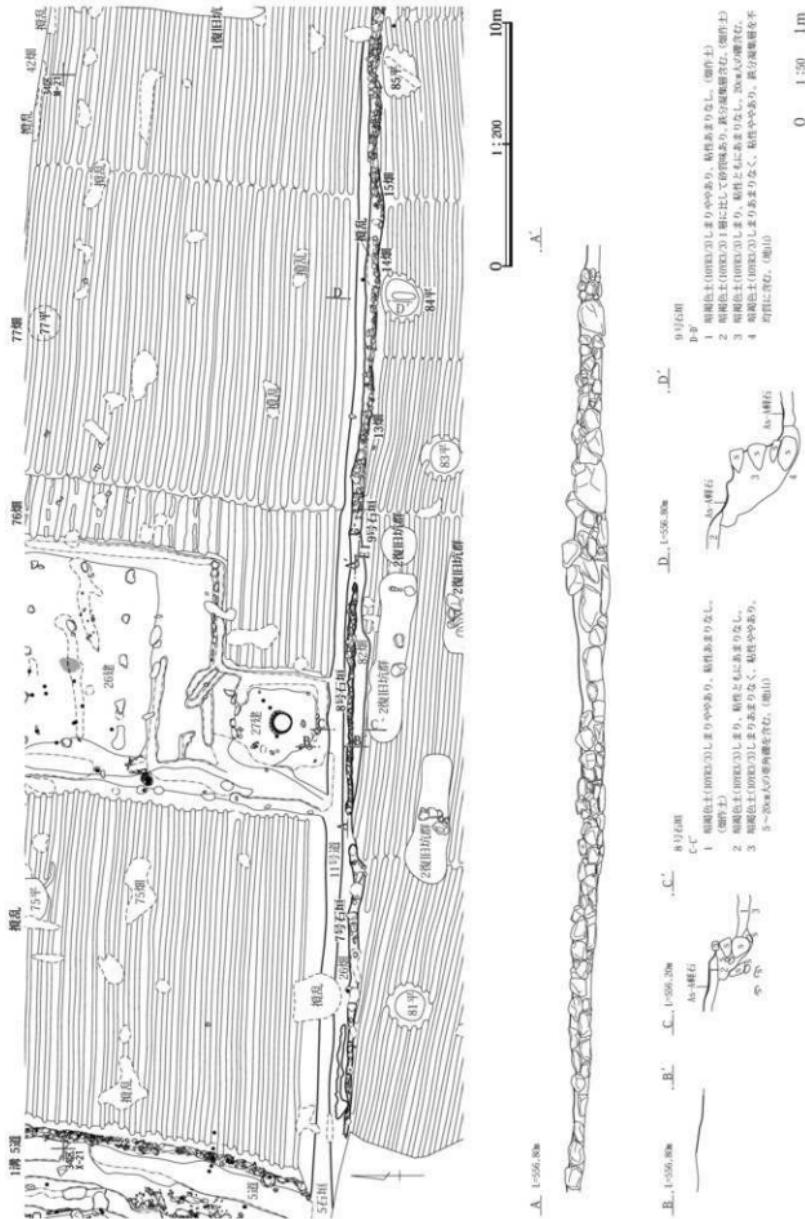
第5項 溝

道路に伴う溝を除き、平成30年度調査区からは3条の溝が検出されている。5号溝と9号溝は北側調査区から検出され、7号溝は南側調査区から検出されている。なお、5号溝と7号溝は天明泥流直下からの検出であるが、9号溝はその下位の層において確認されている。

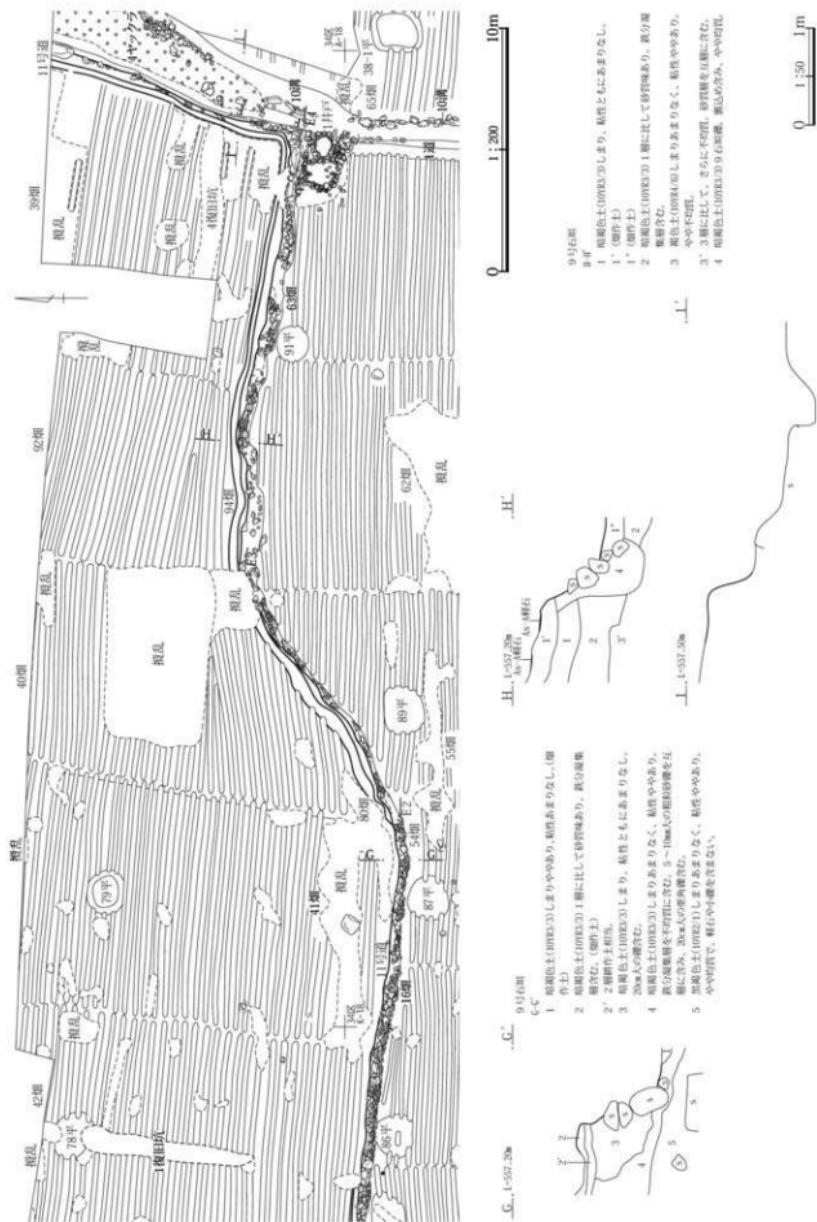
今回検出された5号溝は平成28年度調査で検出された5号溝の北辺であり、また7号溝は平成29年度調査で検出された7号溝の西端である。過年度の調査成果と合わせた姿については後掲(2節)する。



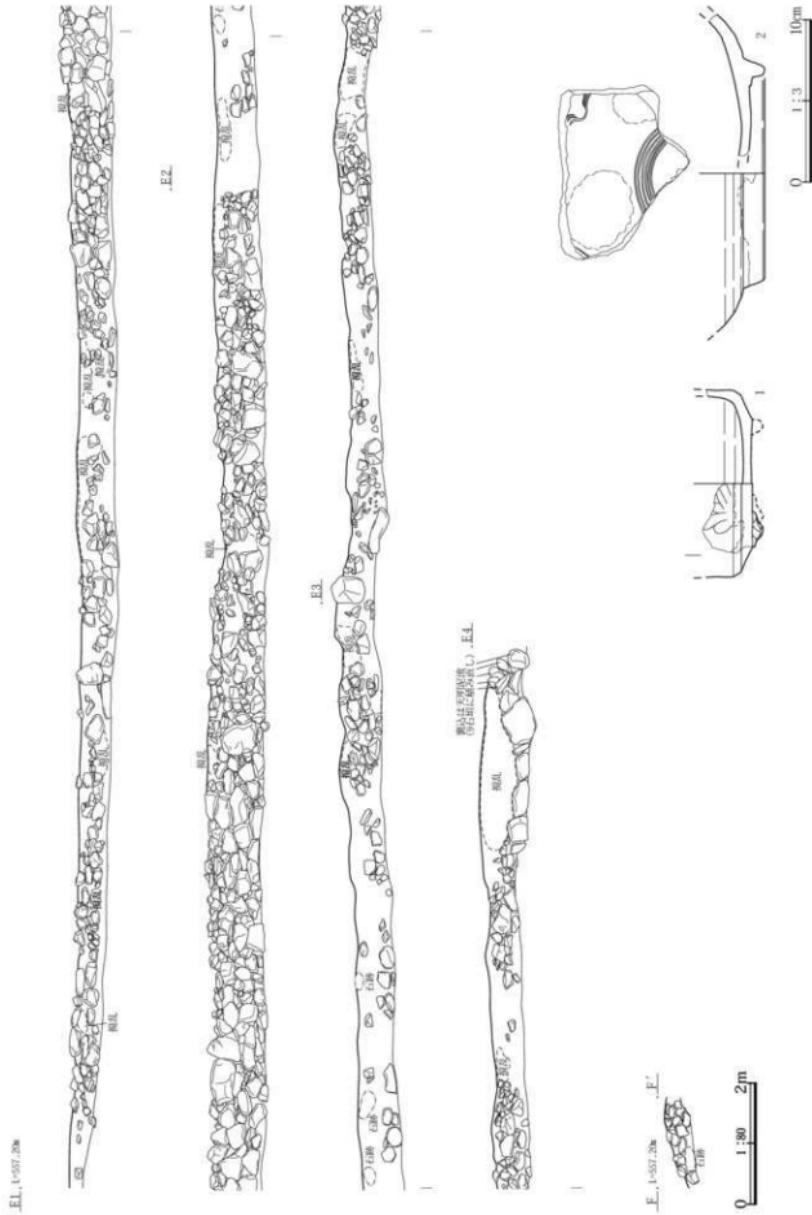
第261圖 10号道



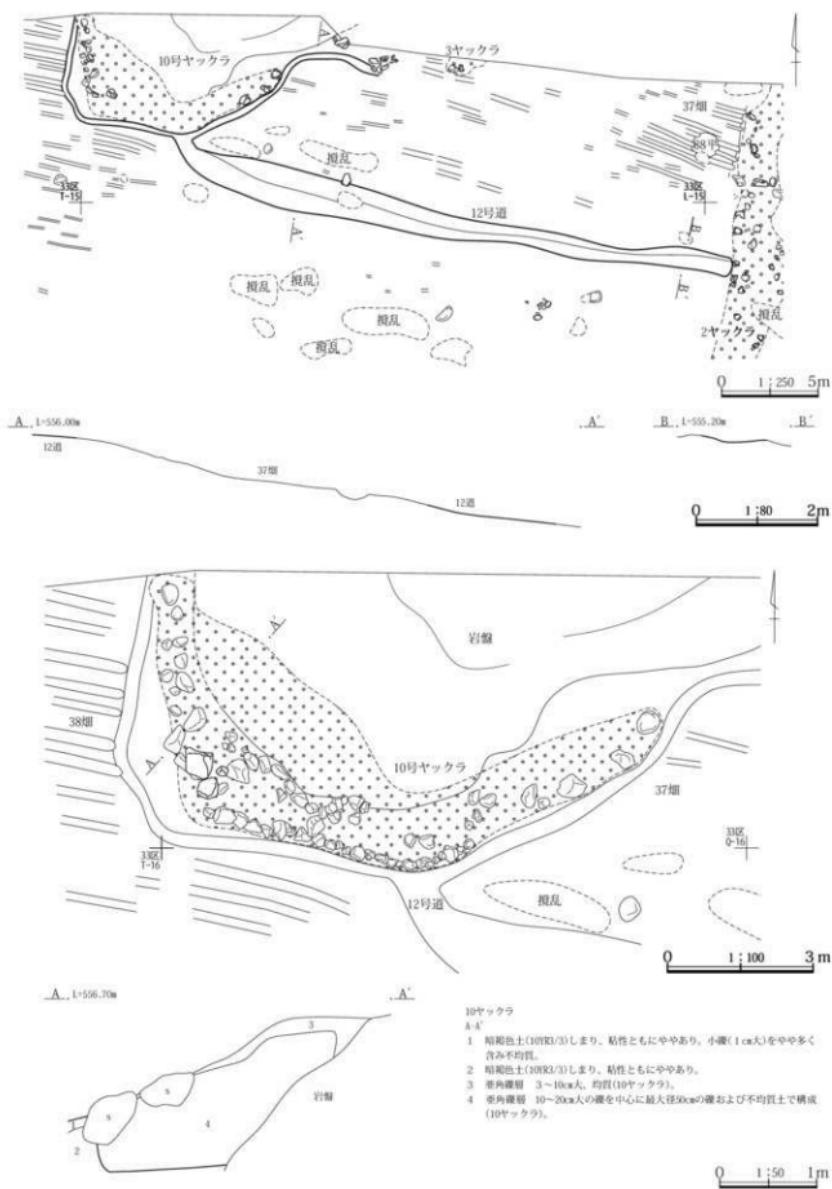
第262回 11号



第263回 11号道2



第264図 11号道3と出土遺物



第265図 12号道

1 5号溝(第266図)

位置 33区P～R-12～13グリッド、北側調査区東半に位置する。

形状等 平成28年度に検出された5号溝(3章1節5項4)の北沢の一部が確認された。

規模 (7.97)m

走行方向(度) N-76-W

所見 確認された溝北辺の西端の位置は、確認されている溝西端よりも東の地点にとどまる。5号溝の西端は地形なりの緩やかな傾斜で始まると推察される。

2 7号溝(第266図)

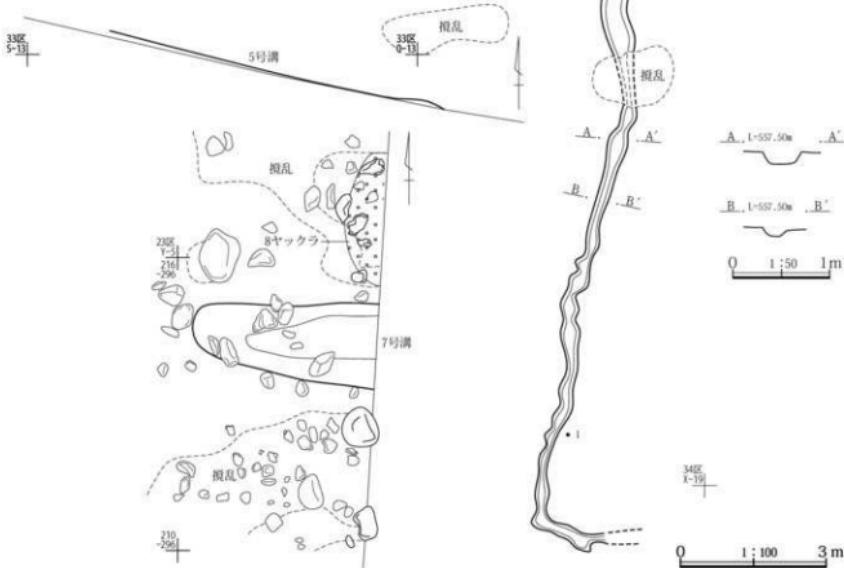
位置 23区W～X-4グリッド、南側調査区に位置する。

形状等 平成29年度に確認された7号溝(4章1節3(1))の先端部が検出された。

規模 (3.85)m. 幅1.75m.

走行方向(度) N-84-W

所見 北に近接する8号ヤックラは、7号溝を掘り下げるに際して作成された可能性がある。



第266図 5号溝、7号溝、9号溝と出土遺物

走行方向(度) 南北部N-9-E、東西部N-78-W。

埋没土 0.5~3cm大の粗粒砂礫層とやや粘性ある暗褐色土の互層。

遺物 遺構内からの出土ではないが、溝南端近くの確認面から寛永通寶(1)が出土している。

所見 本遺構の年代は、1面下位に位置することから近世以前に比定される。経年変化により河床の上昇がもたらされ、5号道造成時に埋め立てられたと推察される。1号溝は9号溝の1m東に位置しており、9号溝の代替として1号溝が掘られたと推察される。

備考 調査時の検出面は、1.5面。

第6項 煙

平成30年度調査区の天明泥流直下の面から、26区画の煙が確認されている。このうち17区画はこれまでの発掘調査で確認されている煙に連なる遺構である。煙のほとんどは北側調査区から出土しており、天明泥流により遺構面が荒れている南側調査区からは2区画の煙と煙の痕跡数か所が確認されたにとどまり、東側調査区からは痕跡すら確認されていない。

調査時点においては、平坦面などを境界とする小単位・小区域に基づく遺構区分が行われている煙も多数あるが、調査区全体を通観した場合、全容を把握できない遺構がその多数を占めるため、小単位に基づく遺構区分は行っていない。報告にあたり、調査時に個別の面・単位とされたものであっても、その所在および畠のピッチとその走向から一つにまとめた。

平成30年度調査で確認された平坦面は17基である。このうち2基が両隣の煙の間に位置する。今回検出された平坦面の差し渡しはいずれも1mに満たず、その平均は0.86mとなる。なお、外形に伴う溝の確認された平坦面は6基である。

畠のピッチは、畠1条とその谷・溝1条をあわせて1単位とし、耕作地の中から連続して3単位以上が確認できる部位を選び、その幅を測り単位数で除したものである。畠幅あるいは床幅ではない。1畠に1条を植えた場合の条と隣の畠との間隔あるいは畠立幅の推計値に近い。計測は縮尺1/40の遺構図を対象とした。

なお、耕作状況についての調査所見のあるものはこれを参考に付記した。分類の詳細については、「VII考察1

4. 天明3年泥流煙の耕作状況『久々戸遺跡・中畠II遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』(2003、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団)を参照されたい。

1 13号煙(第268,276図、PL.108)

位置 34区O~Q-16~17グリッド、北側調査区西半に位置する。

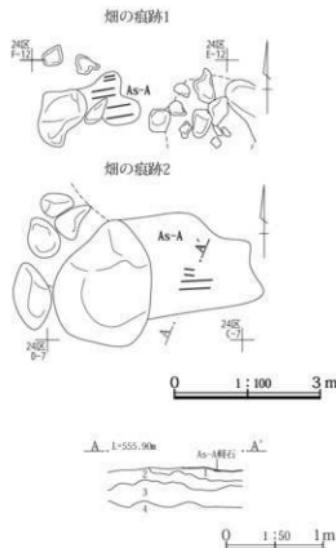
畠のピッチ 0.39m

畠の走行方向(度) N-86-W

付属施設 83号平坦面。

所見 平成28年度調査の13号煙の北に連なることから、一連の煙とした。

備考 調査時の名称は、83号煙。調査時所見は耕作状況を7類とする。



第267図 煙の痕跡

(1) 83号平坦面(第276図、PL.108)

位置 34区P～Q-16～17グリッド。

規模 外周0.95×0.95m、内周0.68×0.62m。

主軸方向(度) N-23-W

2 14号烟(第268、276図、PL.108)

位置 34区N～O-15～17グリッド、北側調査区西半に位置する。

敵のピッチ 0.39m

敵の走行方向(度) N-88-W

付属施設 84号平坦面。

所見 平成28年度調査の14号烟の北に連なることから、一連の烟とした。

備考 調査時の名称は、84号烟。調査時所見は耕作状況を7類とする。

(1) 84号平坦面(第276図、PL.108)

位置 34区O-17グリッド。

規模 外周1.06×0.86m、内周0.80×0.64m。

主軸方向(度) N-51-E

3 15号烟(第268、277、279図、PL.108,109,149)

位置 34区L～N-15～17グリッド、北側調査区西半に位置する。

敵のピッチ 0.39m

敵の走行方向(度) N-88-E

付属施設 85号平坦面。

遺物 肥前陶器陶胎染付碗(1)が出土している。

所見 平成28年度調査の15号烟の北に連なることから、一連の烟とした。

備考 調査時の名称は、85号烟。調査時所見は耕作状況を7類とする。

(1) 85号平坦面(第277図、PL.109)

位置 34区L～M-17グリッド。

規模 1.12×0.68m

主軸方向(度) N-87-E

4 16号烟(第270、277図、PL.109)

位置 34区J～L-15～17グリッド、北側調査区西半に

位置する。

敵のピッチ 0.37m

敵の走行方向(度) N-89-W

付属施設 86号平坦面。

遺物 烟北端の石垣近くに建築部材と思われる木材が確認されている。

所見 平成28年度調査の16号烟の北に連なることから、一連の烟とした。

備考 調査時の名称は、86号烟。調査時所見は耕作状況を7類とする。

(1) 86号平坦面(第277図、PL.109)

位置 34区K～L-17グリッド。

規模 0.89×(0.75)m

主軸方向(度) N-84-W

5 26号烟(第268、276、279図、PL.109,149)

位置 34区U～X-16～18グリッド、北側調査区西端に位置する。

敵のピッチ 0.42m

敵の走行方向(度) N-77-W

付属施設 81号平坦面。

重複 2号復旧坑群に属する復旧坑2基。21号焼土遺構、22号焼土遺構。

遺物 濑戸・美濃陶器碗(2)、砥石(3)が出土している。

所見 平成28年度調査の26号烟の北に連なることから、一連の烟とした。2号復旧坑群に先行し、21号焼土遺構、22号焼土遺構より新しい。

備考 調査時の名称は、81号烟。調査時所見は耕作状況を7類とする。

(1) 81号平坦面(第276図)

位置 34区V-17グリッド。

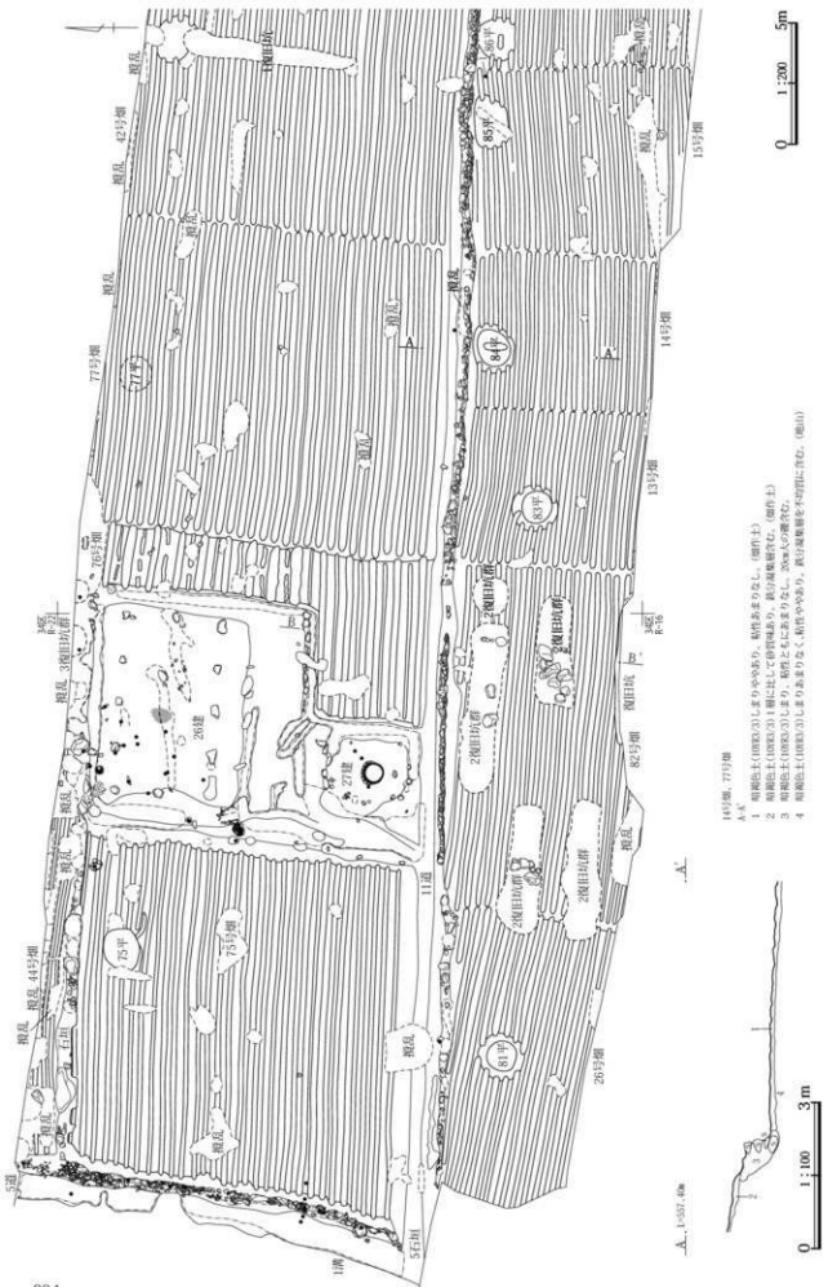
規模 外周0.96×0.92m、内周0.61×0.60m。

主軸方向(度) N-20-E

6 37号烟(第273、274、277図、PL.109)

位置 33区K～Q-13～16グリッド、北側調査区東半に位置する。

敵のピッチ 0.46m



敵の走行方向(度) N-24-E

付属施設 88号平坦面、2号ヤックラ、3号ヤックラ。

付属施設については後述する。

所見 平成28年度調査の37号煙の南に連なり、同一の斜面に位置することから一連の煙とした。

備考 調査時の名称は、88号煙。

(1) 88号平坦面(第277図)

位置 33区K～L-15グリッド。

規模 0.70×(0.58)m

主軸方向(度) N-68-W

(2) 2号ヤックラ(第274図、PL.109)

位置 33区J～L-12～16グリッド、37号煙の東に接する。

規模 (16.99)×3.38m

主軸方向(度) N-14-E

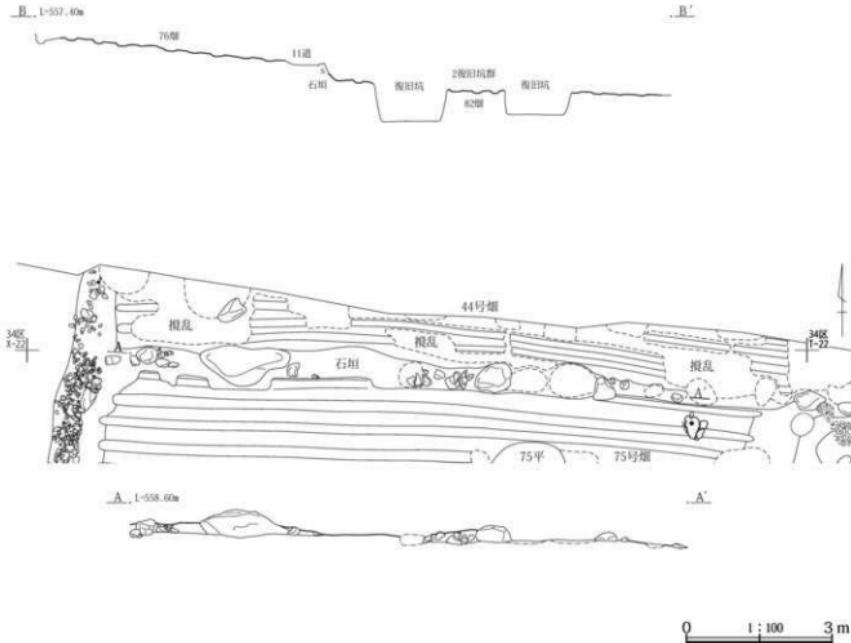
所見 平成28年度調査の2号ヤックラの南に連なるため、一連の遺構とした。なお、未確認部分を間に挟むが、2号ヤックラの延長線上の南には、平成28年度調査で確認された4号溝が存在する。4号溝は天明3年時点では石捨て場として機能していたと推測されるため、2号ヤックラの南端をなす可能性が高い。過年度の調査成果と合わせた姿は後掲(2節)する。

(3) 3号ヤックラ(第274図、PL.109)

位置 33区N～O-16グリッド、37号煙の北に隣接する。

規模 (0.86)×1.86m

所見 平成28年度調査の3号ヤックラの南に連なるため、一連の遺構とした。3号ヤックラの南端となる。過年度の調査成果と合わせた姿は後掲(2節)する。



第269図 煙2



第270回 烟3

7 38号烟(第272, 275, 279図、PL149)

位置 33区T～W-16～17グリッド、北側調査区中央辺に位置する。

敵のピッチ 0.56m

敵の走行方向(度) N-76-W

付属施設 38-3号平坦面。

遺物 煙管(4)が出土している。

所見 65号烟との境界が明瞭とはいがたいが、敵のピッチと敵の走向方向が相違することに基づき区分した。未調査域を間に挟むが、平成28年度調査の38号烟の南に位置することから一連の烟とした。

備考 調査時の名称は、38号烟。

(1) 38-3号平坦面(第275図)

位置 33区V-17グリッド。

規模 0.80×(0.58)m

主軸方向(度) N-81-W

8 39号烟(第272図)

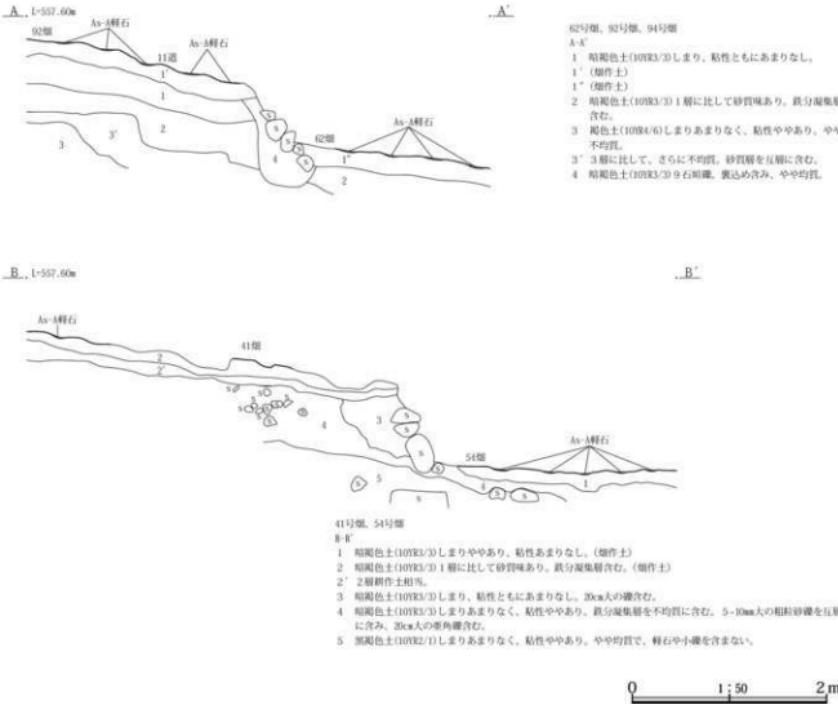
位置 34区A～D-18～21グリッド、北側調査区中央辺に位置する。

敵のピッチ 0.48m

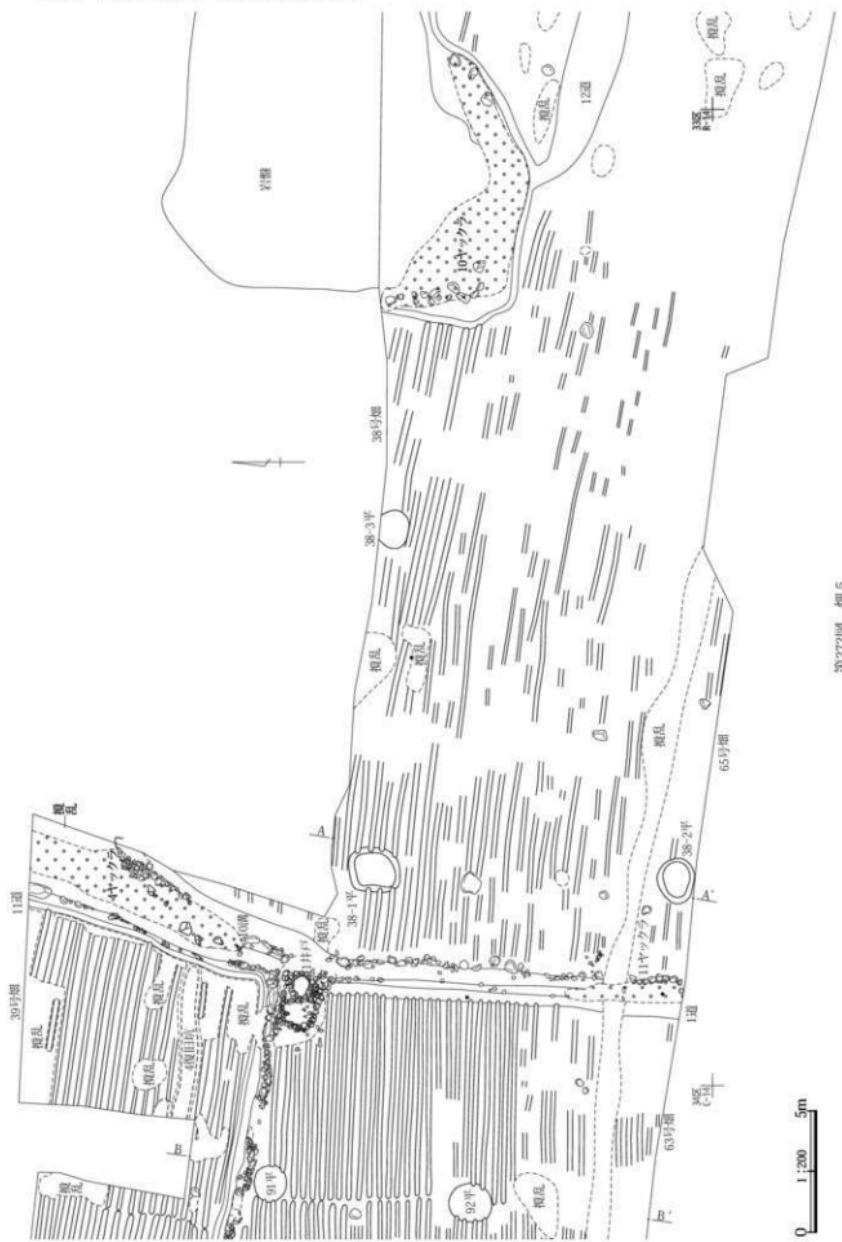
敵の走行方向(度) N-79-W

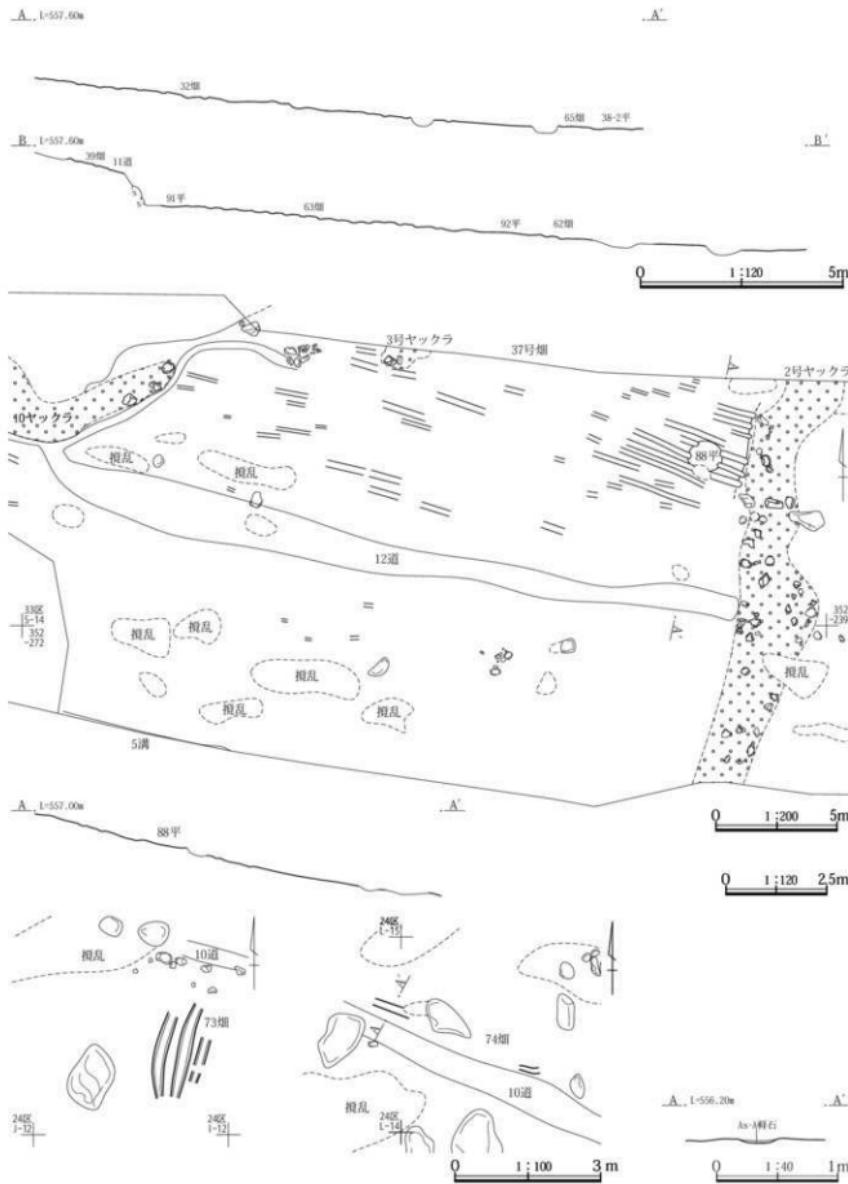
付属施設 なし。

重複 4号復旧坑。



第271図 烟4





第273図 煙 6

第5章 平成30年度調査・確認された遺構と遺物

所見 平成28年度調査の39号烟を間に挟むことから一連の烟とした。4号復旧坑に先行する。

備考 調査時の名称は、93号烟。

9 40号烟(第270図)

位置 34区F～H-18～21グリッド、北側調査区中央辺に位置する。

敵のピッチ 北部0.44m

敵の走行方向(度) 北部N-82-W

付属施設 なし。

所見 調査時の区画範囲はその南北で敵のピッチや走行方向に相違がみられたため、南北で別区画とした。区画の北側は平成28年度調査の40号烟の南に連なるため、一連の烟とした。

備考 調査時の名称は、80号烟。

10 41号烟(第270,276図、PL.110)

位置 34区H～K-17～21グリッド、北側調査区中央辺に位置する。

敵のピッチ 0.42m

敵の走行方向(度) N-83-W

付属施設 79号平坦面。

所見 平成28年度調査の41号烟の南に連なることから、一連の烟とした。

備考 調査時の名称は、79号烟。調査時所見は耕作状況を3類とする。

(1) 79号平坦面(第276図、PL.110)

位置 34区I-20グリッド。

規模 外周0.93×(0.75)m、0.67×0.57m。

主軸方向(度) N-72-W

11 42号烟(第270,276図、PL.110)

位置 34区J～N-17～21グリッド、北側調査区西半に位置する。

敵のピッチ 0.45m

敵の走行方向(度) N-85-W

付属施設 78号平坦面。

重複 1号復旧坑。

所見 平成28年度調査の42号烟の南に連なることから、

一連の烟とした。42号烟の歟の長さは、11号道を挟み南に位置する15号烟の1.5倍程度であり、42号烟の南北に位置する烟と相違する。1号復旧坑に先行する。

備考 調査時の名称は、78号烟。調査時所見は耕作状況を7類とする。

(1) 78号平坦面(第276図)

位置 34区K～L-20～21グリッド。

規模 0.99×0.78m

主軸方向(度) N-62-W

12 44号烟(第268,269,279図、PL.110)

位置 34区T～Y-21～22グリッド、北側調査区西半に位置する。

敵のピッチ 測定不能。

敵の走行方向(度) N-86-W

付属施設 6号石垣。付属施設については後述する。

重複 3号復旧坑群4基。

遺物 磁器小碗(5)が出土している。

所見 平成28年度調査の44号烟の南に連なることから、一連の烟とした。3号復旧坑群に先行する。

備考 調査時の名称は、45号烟。

(1) 石垣(第269,279図、PL.110)

位置 34区T～Y-21グリッド、44号烟南端に位置する。

形状等 44号烟の南端に沿って、大小の石が並べられ烟の境界となっている。

規模 15.68m

主軸方向 N-86-W

遺物 濑戸・美濃陶器片口(7)、瀬戸・美濃陶器すり鉢(6)が出土している。

所見 44号烟とその南に位置する75号烟とでは、遺構面に0.3m程度の標高差が存在するため、44号烟の土留めを意図して構築されたと推測される。泥流のもたらした擾乱と復旧坑のため旧状が把握できなくなっているが、石垣は南東に位置するN2建物群26号建物の北辺付近まで続いていると推察される。

備考 調査時の名称は、6号石垣。

13 54号烟(第270,277,279図、PL110,149)

位置 34区H～J-14～17グリッド、北側調査区
中央辺に位置する。

竪のピッチ 0.41m

竪の走行方向(度) N-87-W

付属施設 87号平坦面。

遺物 濱戸・美濃陶器碗(8)が出土している。

所見 平成28年度調査の54号烟の北に連なることから、一連の烟とした。

備考 調査時の名称は、87号烟。調査時所見は耕作状況を7類ないし9類とする。



第274図 烟7

第5章 平成30年度調査・確認された遺構と遺物

(1) 87号平坦面(第277図)

位置 34区 I-16～17グリッド。

規模 $0.90 \times 0.89m$

主軸方向(度) N-55-W

14 55号烟(第270,277図)

位置 34区 F～H-14～18グリッド、北側調査区中央辺に位置する。

敵のピッチ $0.39m$

敵の走行方向(度) N-89-W

付属施設 89号平坦面。

所見 平成28年度調査の55号烟の北に連なることから、一連の烟とした。

備考 調査時の名称は、89号烟。調査時所見は耕作状況を2類とする。

(1) 89号平坦面(第277図)

位置 34区 G～H-17グリッド。

規模 $1.01 \times 0.83m$

主軸方向(度) N-87-E

15 62号烟(第270,277図)

位置 34区 D～F-14～18グリッド、北側調査区中央辺に位置する。

敵のピッチ $0.39m$

敵の走行方向(度) N-89-W

付属施設 91号平坦面、92号平坦面。

所見 間に未調査域を挟むが、平成28年度調査の62号烟の北に位置し、敵のピッチや走行方向が類似することから、一連の烟とした。

備考 調査時の名称は、90号烟。平坦面は2基とも東に接する63号烟との境界に位置する。調査時所見は耕作状況を2類とする。

(1) 91号平坦面(第277図)

位置 34区 C～D-18グリッド。

規模 $0.77 \times 0.67m$

主軸方向(度) N-77-W

(2) 92号平坦面(第277図)

位置 34区 C～D-16グリッド。

規模 $0.89 \times 0.80m$

主軸方向(度) N-11-E

16 63号烟(第270,277図)

位置 34区 B～D-14～18グリッド、北側調査区中央辺に位置する。

敵のピッチ $0.39m$

敵の走行方向(度) N-89-W

付属施設 91号平坦面、92号平坦面。

重複 1号井戸。

所見 間に未調査域を挟むが、平成28年度調査の63号烟の北に位置し、敵のピッチや走行方向が類似することから、一連の烟とした。1号井戸に先行する。

備考 調査時の名称は、91号烟。平坦面は2基とも西に接する62号烟との境界に位置する(前述)。調査時所見は耕作状況を2類とする。

17 65号烟(第272,275図)

位置 33区 S～34区 A-13～17グリッド、北側調査区西半に位置する。

敵のピッチ $0.50m$

敵の走行方向(度) N-83-W

付属施設 38-1号平坦面、38-2号平坦面。

所見 38号烟との境界が明瞭とはいがたいが、敵のピッチと敵の走向方向が相違することに基づき区分した。平成28年度調査の65号烟の北に接することから、一連の烟とした。

備考 調査時の名称は、38号烟。

(1) 38-1号平坦面(第275図)

位置 33区 Y～34区 A-17グリッド。

規模 外周 $1.03 \times 0.94m$ 、内周 $0.77 \times 0.68m$ 。

主軸方向(度) N-10-W

(2) 38-2号平坦面(第275図)

位置 33区 Y～34区 A-14グリッド。

規模 外周 $0.95 \times 0.78m$ 、内周 $0.73 \times 0.56m$ 。

主軸方向(度) N-90-W

18 73号烟(第273図、PL.111)

位置 24区 I-12グリッド、南側調査区西半に位置する。

敵のピッチ 計測不能。

敵の走行方向(度) N-18-E

付属施設 なし。

所見 石陰に残されていた2条の歯から烟地と推測されたが、区画等は不明である。

19 74号烟(第273図、PL.111)

位置 24区 K～L-14グリッド、南側調査区西半に位置する。

敵のピッチ 計測不能。

敵の走行方向(度) N-67-W

付属施設 なし。

所見 点々と残された3か所の歯跡から烟地と推測されたが、区画等は不明である。

20 75号烟(第268、275、279図、PL.149)

位置 34区 T～X-18～22グリッド、北側調査区西端、5号道の東に位置する。

敵のピッチ 北部0.46m、南部0.43m。

敵の走行方向(度) 北部N-87-W、南部N-89-W。

付属施設 75号平坦面。

遺物 濑戸・美濃陶器碗(9)、鉄鍋(10)が出土している。

所見 75号烟の歯の長さは、11号道を挟み南に位置する

26号烟とは近しいが、13号烟や14号烟の2倍程度ある。

烟の南北で歯のピッチが相違する。

備考 調査時所見は耕作状況を2類とする。

(1) 75号平坦面(第275図)

位置 34区 U-21グリッド。

規模 0.91×0.76m

主軸方向(度) N-63-E

21 76号烟(第268図)

位置 34区 Q～S-18～21グリッド、北側調査区西半、26号建物の東に位置する。

敵のピッチ 北部0.95m、南部1.02m。

敵の走行方向(度) 北部N-84-W、南部N-88-W。

付属施設 なし。

所見 76号烟は周辺の烟よりも歯幅が広く、歯の両側から歯が起こされた痕跡が確認されている。26号建物に隣接した立地もあり、他の烟と異なり自家栽培的な用途と推察される。

備考 調査時所見は耕作状況を7類ないし9類とする。

22 77号烟(第268、276図)

位置 34区 M～Q-18～21グリッド、北側調査区西半に位置する。

敵のピッチ 0.45m

敵の走行方向(度) N-85-W

付属施設 77号平坦面。

所見 77号烟の歯の長さは11号道を挟み南に位置する13号烟と14号烟の歯の長さを合わせたに等しく、また77号烟の南北に位置する烟と相違する。

(1) 77号平坦面(第276図)

位置 34区 O-21グリッド。

規模 0.72×0.67m

主軸方向(度) N-52-W

23 80号烟(第270図)

位置 34区 F～H-17～21グリッド、北側調査区中央辺に位置する。

敵のピッチ 0.45m

敵の走行方向(度) N-89-E

所見 調査時点での80号烟の区画は、その南北で歯の走向方向が相違している。旧区画の南側を80号烟とし、北側を40号烟とした。

24 82号烟(第268図)

位置 34区 Q～U-16～18グリッド、北側調査区西半に位置する。

敵のピッチ 0.41m

敵の走行方向(度) N-86-W

重複 2号復旧坑群復旧坑5基。

付属施設 なし。

所見 82号烟の歯の幅は、南に連なる11号烟と12号烟の歯の幅を合わせたに等しいため、異なる区画とした。なお平成28年度調査の11号烟と12号烟の北端に、隣り合う

第5章 平成30年度調査・確認された遺構と遺物

歯が途切れず、両端の歯が繋がっている範囲が存在する。この範囲を含め82号烟とする。2号復旧坑群に先行する。

25 92号烟(第270図)

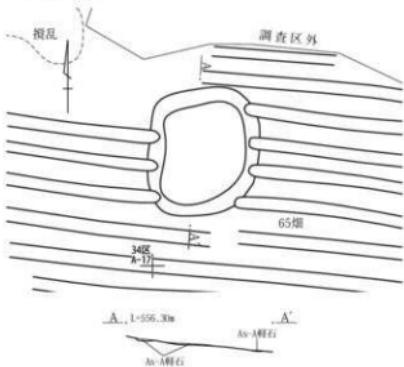
位置 34区 D～F-19～21グリッド、北側調査区中央辺に位置する。

歯のピッチ 0.48m

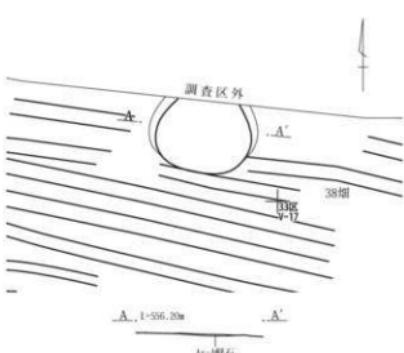
歯の走行方向(度) N-80-W

所見 92号烟の北から東にかけて39号烟が隣接している。92号烟と39号烟との東西境界線の北に搅乱部分が存在し、境界の北端が確認できないため、調査範囲の北端

38-1号平坦面



38-3号平坦面



までを92号烟とした。

26 94号烟(第270図)

位置 34区 D～F-19～21グリッド、北側調査区中央辺に位置する。

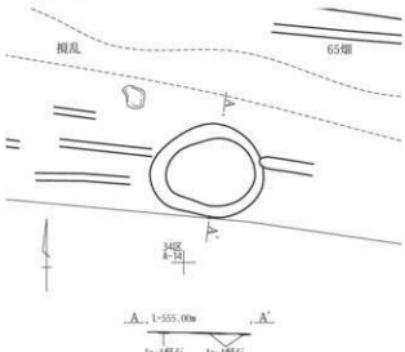
歯のピッチ 0.48m

歯の走行方向(度) N-87-W

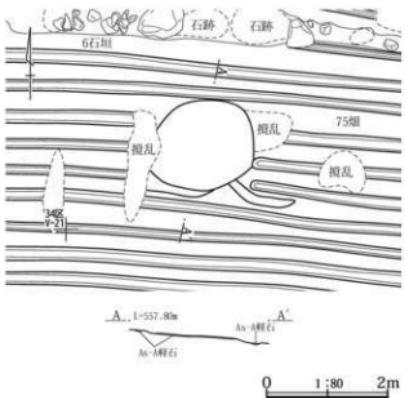
所見 調査時点での92号烟の区画は、その南北で歯の走向方向が相違しているため、南端部分を94号烟とした。

備考 調査時の名称は、92号烟。

38-2号平坦面

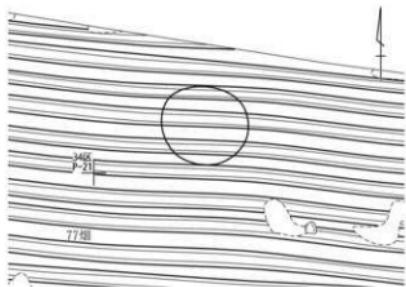


75号平坦面

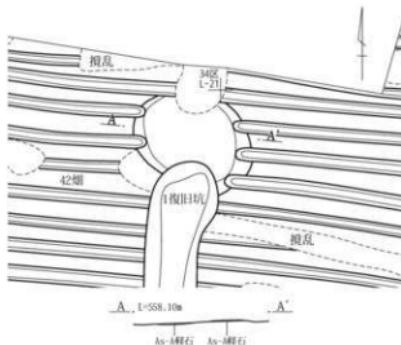


第275図 平坦面1

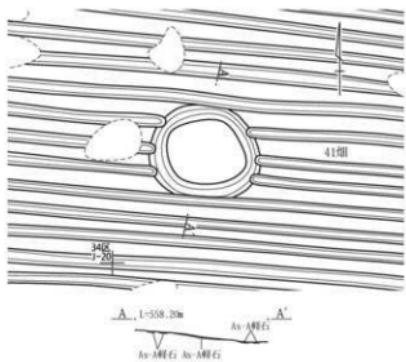
77号平坦面



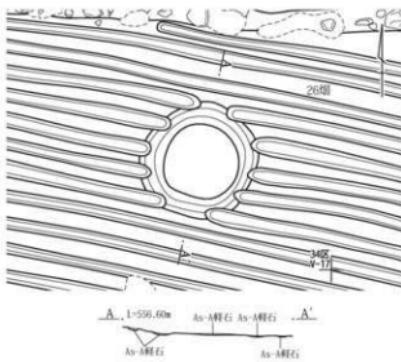
78号平坦面



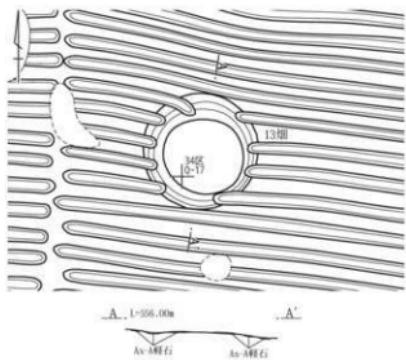
79号平坦面



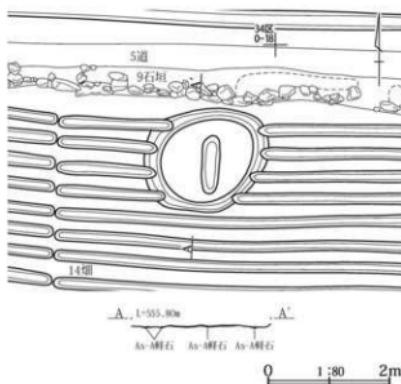
81号平坦面



83号平坦面

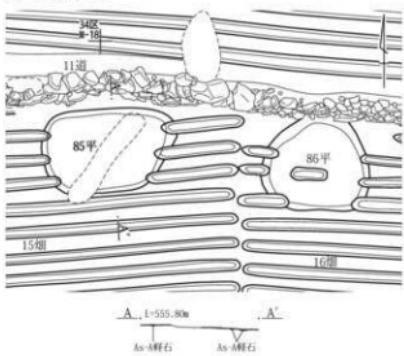


84号平坦面

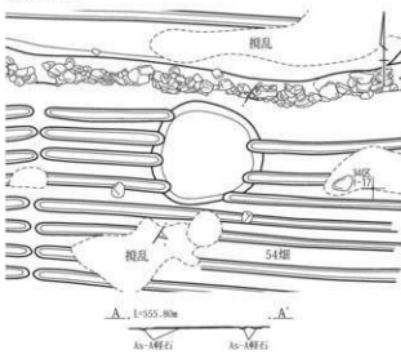


第276図 平坦面2

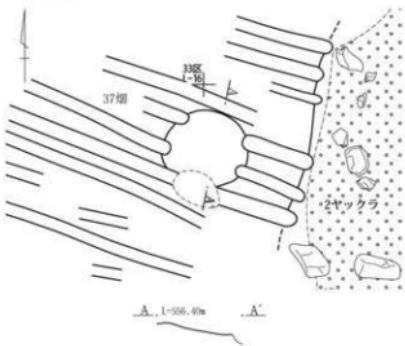
85・86号平坦面



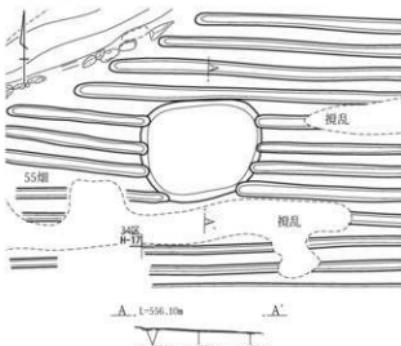
87号平坦面



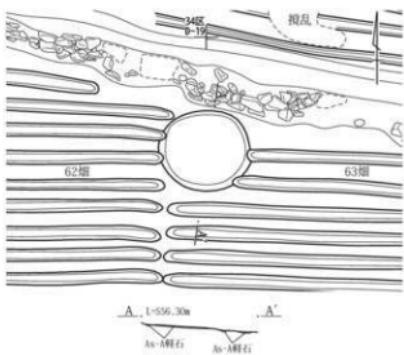
88号平坦面



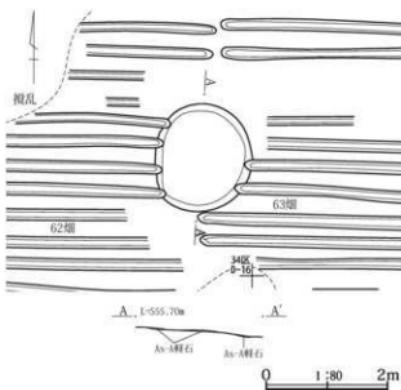
89号平坦面



91号平坦面



92号平坦面



0 1:80 2m

第277図 平坦面3



第7項 土坑

平成30年度調査区で確認された72基の土坑は、北側の調査区と東側の調査区から検出されたものであり、南側の調査区からの検出例はない。144号土坑は天明泥流直下の面(1面)と、平安時代から中世の遺構を中心とするが近世や繩文時代の遺構も検出される面(2面)との間(1.5面)から検出されている。これを除き、他はすべて2面からの検出である。

(1) 144号土坑(第280図、PL.111)

位置 34区X-Y-20グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $1.17 \times 0.90 \times 0.29m$

主軸方向(度) N-46-W

埋没土 黄褐色土と白色粒を若干含む黒褐色土。

重複 下位に150号土坑、461号ピット。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、2面上位からの検出であり中近世に比定される。150号土坑および461号ピットのいずれよりも新しい。

(2) 146号土坑(第280図、PL.111)

位置 34区X-Y-19グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 円形を呈する。

規模 $0.49 \times 0.43 \times 0.20m$

主軸方向(度) N-18-W

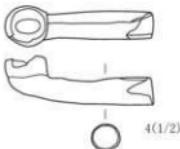
埋没土 白色および黄色軽石粒をわずかに含む黒褐色土。

重複 なし。

15号烟



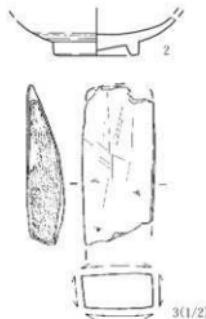
38号烟



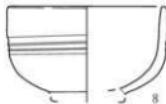
44号烟



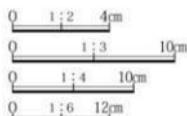
26号烟



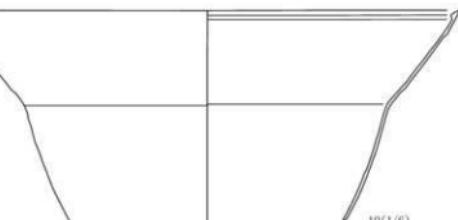
54号烟

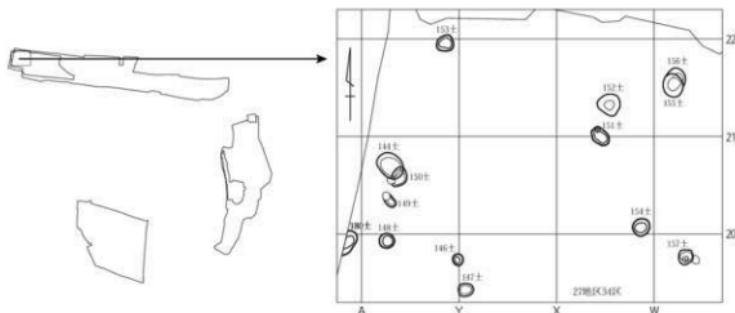


75号烟

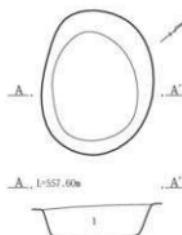


第279図 烟出土遺物

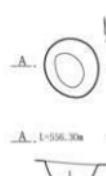




144号土坑



146号土坑



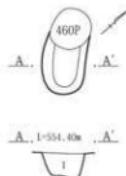
147号土坑



148号土坑



149号土坑



1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性あまりなし。黄色砂粒若干含む。白色粒若干含む。

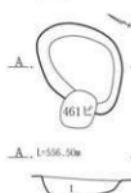
1 黒褐色土(10YR3/1)しまり、粘性ともにあまりなし。白色・黄色粗石軽わざかに含む。

1 黑褐色土(10YR3/3)しまり、粘性ともにあまりなし。5~10mm大の亜角礫や多く含む。

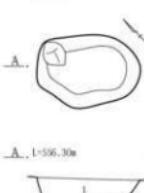
1 黑褐色土(10YR3/3)しまり、粘性ともにあまりなし。5~10mm大の亜角礫や多く含む。

1 黑褐色土(10YR3/1)しまり、粘性ともにあまりなし。白色・黄色粗石軽わざかに含む。

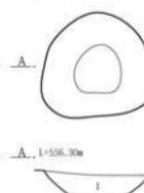
150号土坑



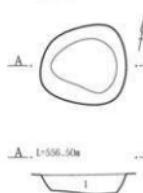
151号土坑



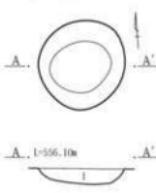
152号土坑



153号土坑



154号土坑



1 黑褐色土(10YR3/3)しまり、粘性ともにあまりなし。5cm大の亜角礫少量含む。

1 黑褐色土(10YR3/1)しまり、粘性ともにあまりなし。20cm大の円礫含む。

1 黑褐色土(10YR3/3)しまり、粘性ともにあまりなし。5~10mm大の亜角礫や含む。

1 黑褐色土(10YR3/1)しまり、粘性ともにあまりなし。白色・黄色粗石軽わざかに含む。

1 に赤い黒褐色土(10YR4/3)しまり、粘性ともにあまりなし。白色・黄色粗石軽わざかに含み、土塊混れる。土器含む。

0 1:40 1m

第280図 土坑1

第5章 平成30年度調査・確認された遺構と遺物

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(3) 147号土坑(第280図、PL.112)

位置 34区X～Y-19グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $0.62 \times 0.53 \times 0.24m$

主軸方向(度) N-81-E

埋没土 5～10cm大の亜角礫をやや多く含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(4) 148号土坑(第280図、PL.112)

位置 34区Y-19～20グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 円形を呈する。

規模 $0.64 \times 0.62 \times 0.15m$

主軸方向(度) N-82-W

埋没土 As-YPkと思われる粒子を疎らに含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(5) 149号土坑(第280図、PL.112)

位置 34区Y-20グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $(0.38) \times 0.35 \times 0.19m$

主軸方向(度) N-40-W

埋没土 白色および黄色軽石粒わずかに含む黒褐色土。

重複 460号ピット。

遺物 資料化には至らなかったが、埋没土から縄文土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。460号ピットに先行する。

(6) 150号土坑(第280図、PL.112)

位置 34区Y-20グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 不整形を呈する。

規模 $0.83 \times 0.63 \times 0.17m$

主軸方向(度) N-32-E

埋没土 5cm大の亜角礫を少量含む暗褐色土。

重複 461号ピット、上位に144号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。144号土坑と461号ピットのいずれにも先行する。

(7) 151号土坑(第280図、PL.113)

位置 34区W-20～21グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $0.84 \times 0.59 \times 0.26m$

主軸方向(度) N-45-W

埋没土 20cm大の円礫を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(8) 152号土坑(第280図、PL.113)

位置 34区W-21グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 不整形を呈する。

規模 $0.94 \times 0.88 \times 0.19m$

主軸方向(度) N-84-W

埋没土 As-YPkと思われる粒子を含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

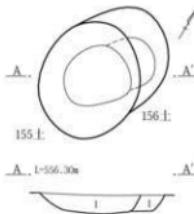
(9) 153号土坑(第280図、PL.113)

位置 34区Y-21～22グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 円形を呈する。

規模 $0.69 \times 0.66 \times 0.16m$

155・156号土坑



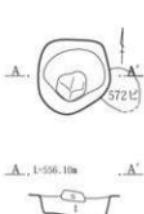
155号土坑

1 黒褐色土(10R3/1)しまり。
粘性ともにあまりなし。白色、
黄色軽石粉ごくわずかに含む。

156号土坑

1 黒褐色土(10R3/1)しまり。
粘性ともにあまりなし。白色、
黄色軽石粉含まない。

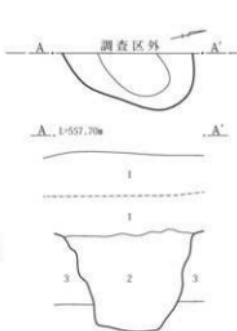
157号土坑



157号土坑

1 黒褐色土(10R3/1)しまり。
粘性ともにあまりなし。地山黒褐色土
ブロック1:1に含み、不均質。

180号土坑



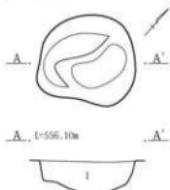
180号土坑

1 黒褐色土(10R3/3)しまり。粘性ともに
あまりなし。小礫および亜角礫をわずかに
含む。所により多くの礫層含む。
全体に分凝集層を形成。底部に小砂礫
を含む礫層(土砂流入層?)。

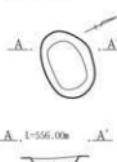
2 黒褐色土(10R3/1)しまり。粘性ともに
あまりなし。白色、黄色軽石粉を含む。

3 黑色土(10R2/1)しまり。粘性や
色あり。白色および黄褐色土、赤色
風化岩屑を含み、色調のくろ黒色味。

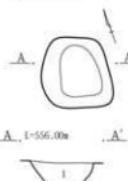
145号土坑



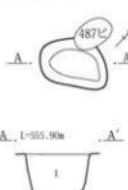
158号土坑



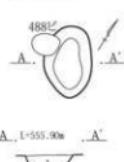
159号土坑



160号土坑



161号土坑



1 黒褐色土(10R3/1)しまり。
粘性ともにあまりなし。
20cm大の円礫含み、不均質。

1 黒褐色土(10R3/1)しまり。粘性
ともにあまりなし。白色、黄色軽
石粉を含む。

1 黒褐色土(10R3/1)しまり。粘性
ともにあまりなし。白色、黄色軽
石粉を含む。

1 黒色土(10R2/1)しまり。粘
性ともにあまりなし。均質で
白色、黄色軽石粉含まず、わ
ずかに炭化物を含む。底部に
地山フロック含み、礫含まず。

1 黒褐色土(10R3/1)しまり。
粘性ともにあまりなし。白色、
黄色軽石粉を含む。

第281図 土坑2

0 1:40 1m

第5章 平成30年度調査・確認された遺構と遺物

主軸方向(度) N-79-E

埋没土 白色および黄色軽石粒をわずかに含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(10) 154号土坑(第280,287図、PL.113,149)

位置 34区W-19~20グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 円形を呈する。

規模 $0.73 \times 0.71 \times 0.12m$

主軸方向(度) N-7-E

埋没土 白色および黄色軽石粒を少量含み、土層が乱れる鈍い黄褐色土。

重複 なし。

遺物 埋没土から縄文土器・五領ヶ台2式の深鉢片(1)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代に比定される。

(11) 155号土坑(第281,287図、PL.114,149)

位置 34区V-21グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 円形を呈する。

規模 $0.96 \times 0.83 \times 0.15m$

主軸方向(度) N-22-W

埋没土 白色および黄色軽石粒を少量含む黒褐色土。

重複 156号土坑。

遺物 埋没土から縄文土器・五領ヶ台2式の深鉢片(2)が出土しているほか、資料化には至らなかったが、土師器片1片(19g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。156号土坑より新しい。

(12) 156号土坑(第281図)

位置 34区V-21グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 155号土坑と重複し不明。

規模 $0.80 \times (0.5) \times 0.13m$

主軸方向(度) N-59-W

埋没土 白色および黄色軽石粒を含まない黒褐色土。

重複 155号土坑。

遺物 埋没土から縄文土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。155号土坑に先行する。

(13) 157号土坑(第281図、PL.114)

位置 34区V-19グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 不整形を呈する。

規模 $0.61 \times 0.59 \times 0.16m$

主軸方向(度) N-6-E

埋没土 地山黄褐色土ブロックを1対1に含み、不均質な黒褐色土。

重複 572号ピット。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。572号ピットに先行する。

(14) 180号土坑(第281図、PL.119)

位置 35区A-19~20グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 西半が未調査域に及び不明。

規模 $1.07 \times (0.47) \times 0.82m$

主軸方向(度) N-13-E

埋没土 白色および黄色軽石粒をわずかに含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(15) 145号土坑(第281図、PL.111)

位置 34区X-19グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 不整形を呈する。

規模 $0.77 \times 0.73 \times 0.25m$

主軸方向(度) N-48-E

埋没土 20cm大の円礫を含み、不均質な黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(16) 158号土坑(第281図、PL.114)

位置 34区V-19グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $0.57 \times 0.42 \times 0.12m$

主軸方向(度) N-86-W

埋没土 白色および黄色軽石をわずかに含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(17) 159号土坑(第281図、PL.114)

位置 34区V-18～19グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 台形を呈する。

規模 $0.59 \times 0.58 \times 0.21m$

主軸方向(度) N-23-E

埋没土 白色および黄色軽石をごくわずかに含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(18) 160号土坑(第281図、PL.114, 115)

位置 34区W-18グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 台形を呈する。

規模 $0.53 \times 0.39 \times 0.35m$

主軸方向(度) N-47-E

埋没土 均質で白色および黄色軽石を含まず、下層に地山ブロックを含み、礫を含まない黒色土。

重複 487号ピット。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。487号ピットに先行する。

(19) 161号土坑(第281図、PL.115)

位置 34区W-18グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $0.59 \times 0.39 \times 0.14m$

主軸方向(度) N-31-W

埋没土 白色および黄色軽石をわずかに含む黒褐色土。

重複 488号ピット。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。488号ピットに先行する。

(20) 162号土坑(第282図、PL.115)

位置 34区W-18グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 円形を呈する。

規模 $0.46 \times 0.42 \times 0.12m$

主軸方向(度) N-57-W

埋没土 白色および黄色軽石をわずかに含み、地山黒褐色土ブロックを多く含み、不均質な黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(21) 163号土坑(第282図、PL.115)

位置 34区W-18グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $0.52 \times 0.42 \times 0.14m$

主軸方向(度) N-37-E

埋没土 白色および黄色軽石をごくわずか含み、3～5cm大の礫をやや多く含む黒褐色土。

重複 164号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。164号土坑より新しい。

(22) 164号土坑(第282図、PL.115, 116)

位置 34区W-17～18グリッド、北側調査区西端に位置する。

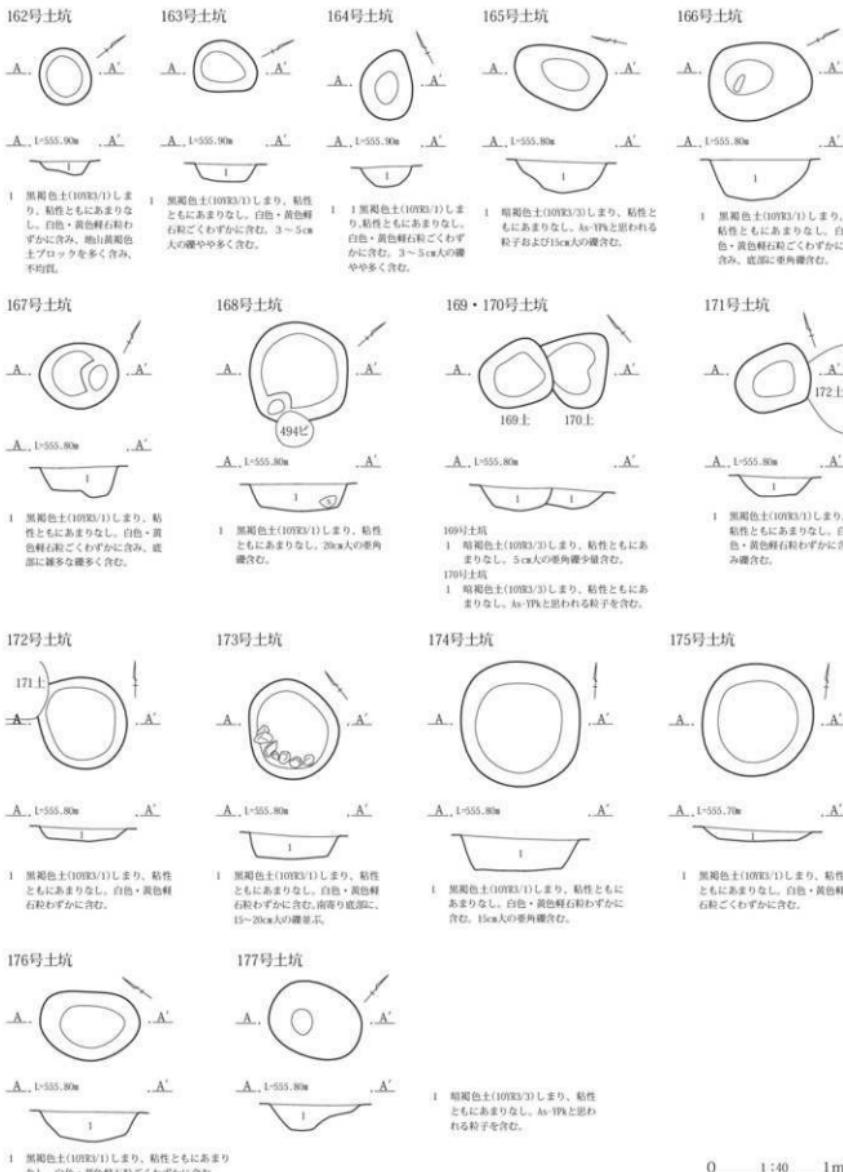
形状 偏円形を呈する。

規模 $0.57 \times 0.43 \times 0.16m$

主軸方向(度) N-40-E

埋没土 白色および黄色軽石をごくわずか含み、3～5cm大の礫をやや多く含む黒褐色土。

重複 163号土坑。



0 1:40 1m

第282図 土坑3

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。163号土坑に先行する。

(23) 165号土坑(第282図、PL.116)

位置 34区V～W-17グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $0.74 \times 0.48 \times 0.25m$

主軸方向(度) N-9-E

埋没土 As-Ypkと思われる粒子と15cm大の礫を含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(24) 166号土坑(第282図、PL.116)

位置 34区V-17～18グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $0.83 \times 0.63 \times 0.33m$

主軸方向(度) N-19-E

埋没土 白色および黄色軽石粒をごく僅か含み、下層に亜角礫を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(25) 167号土坑(第282図、PL.116)

位置 34区V-17グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $0.64 \times 0.54 \times 0.25m$

主軸方向(度) N-57-E

埋没土 白色および黄色軽石粒をごくわずか含み、下層に雑多な礫を多く含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(26) 168号土坑(第282図、PL.116, 117)

位置 34区V-17グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 方形を呈する。

規模 $0.82 \times 0.81 \times 0.22m$

主軸方向(度) N-60-W

埋没土 20cm大の亜角礫を含む黒褐色土。

重複 494号ピット。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。494号ピットに先行する。

(27) 169号土坑(第282図、PL.117)

位置 34区V-17グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 台形を呈する。

規模 $0.59 \times 0.52 \times 0.19m$

主軸方向(度) N-73-W

埋没土 5cm大の亜角礫を少量含む暗褐色土。

重複 170号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。調査所見によると、170号土坑に先行する。

(28) 170号土坑(第282図)

位置 34区U～V-17グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 台形を呈する。

規模 $0.69 \times (0.45) \times 0.16m$

主軸方向(度) N-35-E

埋没土 As-Ypkと思われる粒子を含む暗褐色土。

重複 169号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。調査所見によると、169号土坑よりも新しい。

(29) 171号土坑(第282, 287図、PL.117, 149)

位置 34区V-18グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $0.63 \times 0.52 \times 0.16m$

主軸方向(度) N-86-W

埋没土 白色および黄色軽石粒をわずかに含み、礫を含む黒褐色土。

重複 172号土坑。

遺物 埋没土から縄文土器・五領ヶ台2式の深鉢片(3)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代に比定される。172号土坑より新しい。

(30) 172号土坑(第282図、PL.117)

位置 34区V-18グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 円形を呈する。

規模 0.80×0.73×0.11m

主軸方向(度) N-41-W

埋没土 白色および黄色軽石粒をわずかに含む黒褐色土。

重複 171号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、171号土坑に先行するため、縄文時代に帰属すると推測される。

(31) 173号土坑(第282図、PL.117,118)

位置 34区U→V-17~18グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 偏円形を呈する。

規模 0.82×0.73×0.19m

主軸方向(度) N-5-E

埋没土 白色および黄色軽石粒をわずかに含む黒褐色土。南寄りの底部に、15~20cm大的礫が並ぶ。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(32) 174号土坑(第282図、PL.118)

位置 34区U-17~18グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 潛丸形を呈する。

規模 1.03×0.98×0.28m

主軸方向(度) N-10-W

埋没土 白色および黄色軽石粒をわずかに含み、15cm大

の亜角礫を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(33) 175号土坑(第282図、PL.118)

位置 34区U-18グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 円形を呈する。

規模 0.96×0.91×0.09m

主軸方向(度) N-60-W

埋没土 白色および黄色軽石粒をごくわずか含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(34) 176号土坑(第282図、PL.118)

位置 34区U-18グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 0.82×0.56×0.25m

主軸方向(度) N-39-W

埋没土 白色および黄色軽石粒をごくわずか含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(35) 177号土坑(第282図、PL.118,119)

位置 34区U-18グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 0.77×0.60×0.21m

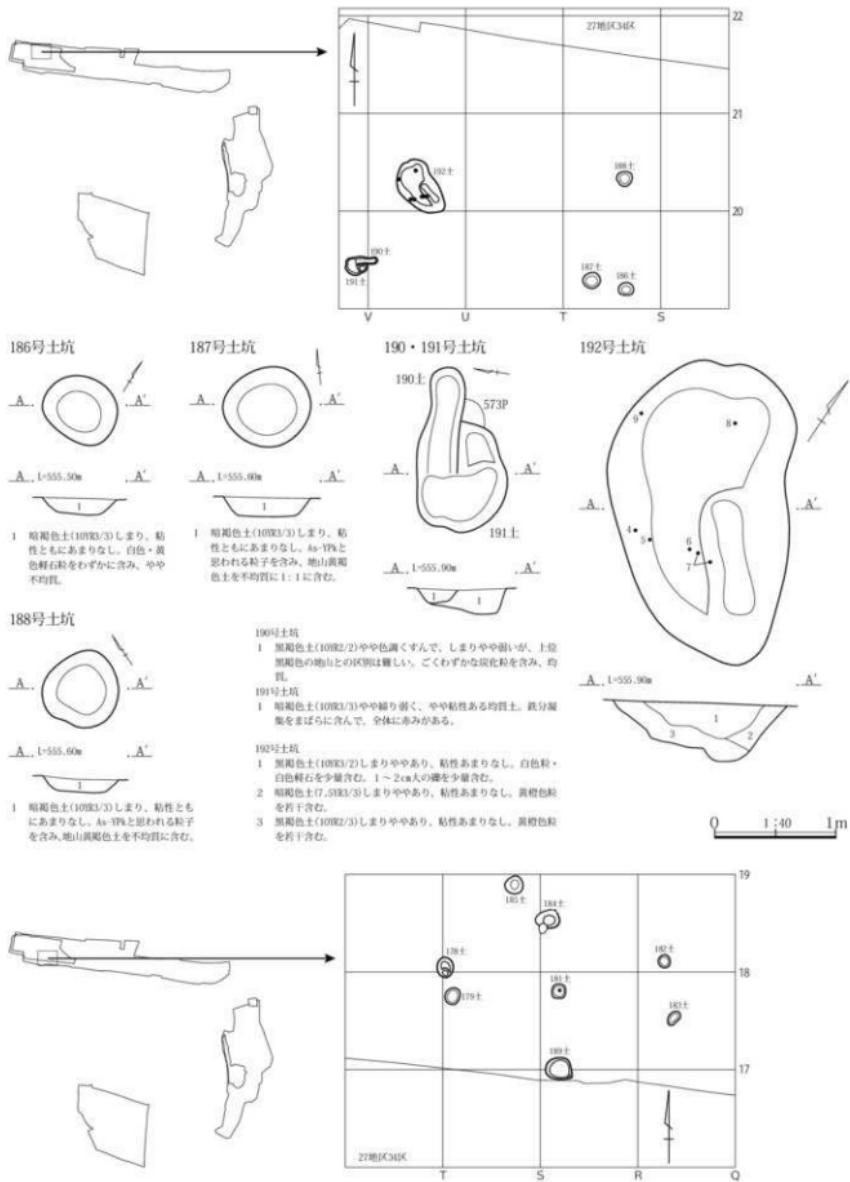
主軸方向(度) N-66-E

埋没土 As-Ypkと思われる粒子を含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。



第283図 土坑4

第5章 平成30年度調査・確認された遺構と遺物

(36) 186号土坑(第283図、PL.121)

位置 34区S-19グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 円形を呈する。

規模 $0.62 \times 0.55 \times 0.13m$

主軸方向(度) N-65-E

埋没土 白色および黄色軽石粒をわずかに含み、やや不均質な暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(37) 187号土坑(第283図、PL.121)

位置 34区S-19グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 方形を呈する。

規模 $0.72 \times 0.66 \times 0.15m$

主軸方向(度) N-84-W

埋没土 As-YPkと思われる粒子を含み、地山黄褐色土を不均質に1対1に含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(38) 188号土坑(第283図、PL.121)

位置 34区S-20グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 猪の目形を呈する。

規模 $0.67 \times 0.64 \times 0.11m$

主軸方向(度) N-57-E

埋没土 As-YPkと思われる粒子を含み、地山黄褐色土を不均質に含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(39) 190号土坑(第283図、PL.122)

位置 34区U-19～V-19グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $(0.99) \times 0.33 \times 0.12m$

主軸方向(度) N-85-E

埋没土 ごくわずかな炭化粒を含み、均質な黒褐色土。

重複 191号土坑、573号ピット。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。191号土坑、573号ピットのいずれよりも新しい。

(40) 191号土坑(第283図、PL.122)

位置 34区V-19グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $0.91 \times 0.74 \times 0.20m$

主軸方向(度) N-82-E

埋没土 鉄分凝集をまばらに含み、全体に赤みがある均質な暗褐色土。

重複 190号土坑、573号ピット。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。190号土坑に先行し、573号ピットよりも新しい。

(41) 192号土坑(第283、287図、PL.122,149)

位置 34区U-19～20グリッド、北側調査区西端に位置する。

形状 不整形を呈する。

規模 $2.49 \times 1.52 \times 0.48m$

主軸方向(度) N-38-W

埋没土 黄橙色粒を若干含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 埋没土から縄文土器・五領ヶ台2式の深鉢片(4～9)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代に比定される。

(42) 178号土坑(第284図、PL.119)

位置 34区S～T-17～18グリッド、北側調査区西半に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $0.84 \times 0.67 \times 0.32m$

主軸方向(度) N-5-W

埋没土 均質で白色・黄色軽石粒をわずかに含む黒色土。

重複 なし。

遺物 埋没土から繩文土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(43) 179号土坑(第284図、PL.119)

位置 34区 S-17グリッド、北側調査区西半に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 0.69×0.60×0.25m

主軸方向(度) N-77-W

埋没土 しまり、粘性ともにあまりない暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(44) 181号土坑(第284図、PL.119, 120)

位置 34区 R-17グリッド、北側調査区西半に位置する。

形状 方形を呈する。

規模 0.59×0.56×0.15m

主軸方向(度) N-87-W

埋没土 白色および黄色軽石粒をわずかに含み、15cm大の亜角礫を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 図化には至らなかったが、埋没土より施釉陶器すり鉢片1片が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から近世に比定される。

(45) 182号土坑(第284図、PL.120)

位置 34区 Q-18グリッド、北側調査区西半に位置する。

形状 円形を呈する。

規模 0.53×0.48×0.12m

主軸方向(度) N-22-W

埋没土 As-Ypkと思われる粒子を含み、地山の黄褐色土を不均質に1対1に含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世

以前に比定される。

(46) 183号土坑(第284図、PL.120)

位置 34区 Q-17グリッド、北側調査区西半に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 0.66×0.42×0.20m

主軸方向(度) N-56-W

埋没土 砂礫とAs-Ypkと思われる粒子を含み、地山黄褐色土を不均質に1対1に含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(47) 184号土坑(第284図、PL.120)

位置 34区 R-S-18グリッド、北側調査区西半に位置する。

形状 偏円形を呈する。

規模 0.96×0.76×0.28m

主軸方向(度) N-77-E

埋没土 白色および黄色軽石粒をわずかに含み、礫と20cm大の亜角礫を含む黒褐色土。

重複 533号ピット。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。533号ピットに先行する。

(48) 185号土坑(第284図、PL.121)

位置 34区 S-18グリッド、北側調査区西半に位置する。

形状 円形を呈する。

規模 0.75×0.73×0.28m

主軸方向(度) N-51-E

埋没土 白色および黄色軽石粒をごくわずかに含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

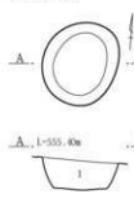
第5章 平成30年度調査・確認された遺構と遺物

178号土坑



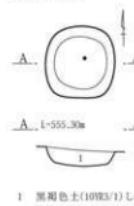
I 黒褐色土(10R3/1)しまり。粘性ともにあまりなし。均質で白色、黄色軽石粒わずかに含む。

179号土坑



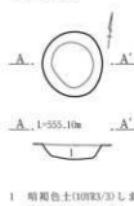
I 黑褐色土(10R3/3)しまり。粘性ともにあまりなし。

181号土坑



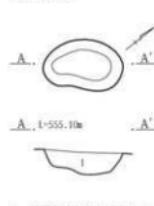
I 黑褐色土(10R3/1)しまり。粘性ともにあまりなし。白色・黄色軽石粒わずかに含む。15cm大的の巣内隕石。

182号土坑



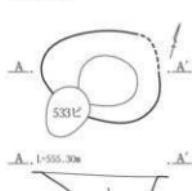
I 黑褐色土(10R3/3)しまり。粘性ともにあまりなし。白色・黄色軽石粒わずかに含む。15cm大的の巣内隕石。

183号土坑



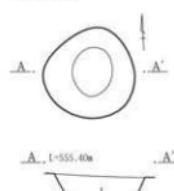
I 黑褐色土(10R3/3)しまり。粘性ともにあまりなし。白色・黄色軽石粒わずかに含む。地山黄褐色土を不均質に1:1に含む。

184号土坑



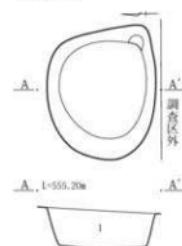
I 黑褐色土(10R3/1)しまり。粘性ともにあまりなし。白色・黄色軽石粒わずかに含み鐵含み、20cm大的の巣内隕石。

185号土坑

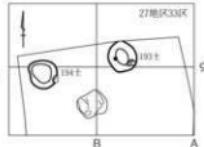


I 黑褐色土(10R3/1)しまり。粘性ともにあまりなし。白色・黄色軽石粒ごくわずかに含む。

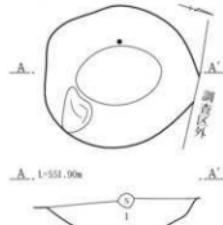
189号土坑



I 黑褐色土(10R3/1)しまり。粘性ともにあまりなし。白色・黄色軽石粒わずかに含み。色調やや明るい。

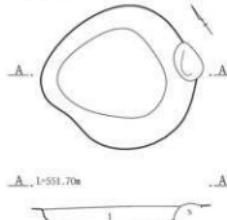


193号土坑



I 黑褐色土(10R2/2)しまり。粘性ともにややあり。10cm大的円隕石含む。

194号土坑



I 黑褐色土(10R2/2)しまり。粘性ともにややあり。白色・黄色軽石粒わずかに含み、5~20cm大的円隕石含む。地山黄褐色土ブロックを不均質に30%乱れて含む。

0 1:40 1m

第284図 土坑5

(49) 189号土坑(第284図、PL.122)

位置 34区R-16～17グリッド、北側調査区西半に位置する。

形状 不整形を呈する。

規模 $1.14 \times 0.98 \times 0.32\text{m}$

主軸方向(度) N-57-W

埋没土 白色および黄色軽石粒をごくわずか含み、色調のやや明るい黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(50) 193号土坑(第284図、PL.122,123)

位置 33区A-8～9 グリッド、東側調査区北端に位置する。

形状 偏円形を呈する。

規模 $1.27 \times 1.16 \times 0.24\text{m}$

主軸方向(度) N-16-W

埋没土 10cm大の円礫を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 資料化には至らなかったが、埋没土より須恵器片1片(55g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(51) 194号土坑(第284図、PL.123)

位置 33区B-8～9 グリッド、東側調査区北端に位置する。

形状 偏円形を呈する。

規模 $1.26 \times 1.17 \times 0.18\text{m}$

主軸方向(度) N-52-W

埋没土 白色および黄色軽石粒をわずかに含み、5～20cm大の円礫を含み、地山黄褐色土ブロックを不均質に30%含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(52) 198号土坑(第285図、PL.124)

位置 23区E～F-18グリッド、東側調査区中央辺に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $1.04 \times 0.73 \times 0.26\text{m}$

主軸方向(度) N-26-E

埋没土 黄橙色粒を少量含み、黄褐色土ブロックを少量含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(53) 199号土坑(第285図、PL.124)

位置 23区F-18グリッド、東側調査区中央辺に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $0.67 \times 0.58 \times 0.14\text{m}$

主軸方向(度) N-48-E

埋没土 黄橙色粒を少量含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(54) 200号土坑(第285図、PL.124)

位置 23区D～E-18グリッド、東側調査区中央辺に位置する。

形状 不整形を呈する。

規模 $0.82 \times 0.76 \times 0.21\text{m}$

主軸方向(度) N-29-E

埋没土 黄橙色粒を少量含む暗褐色土。

重複 632号ピット。

遺物 なし。

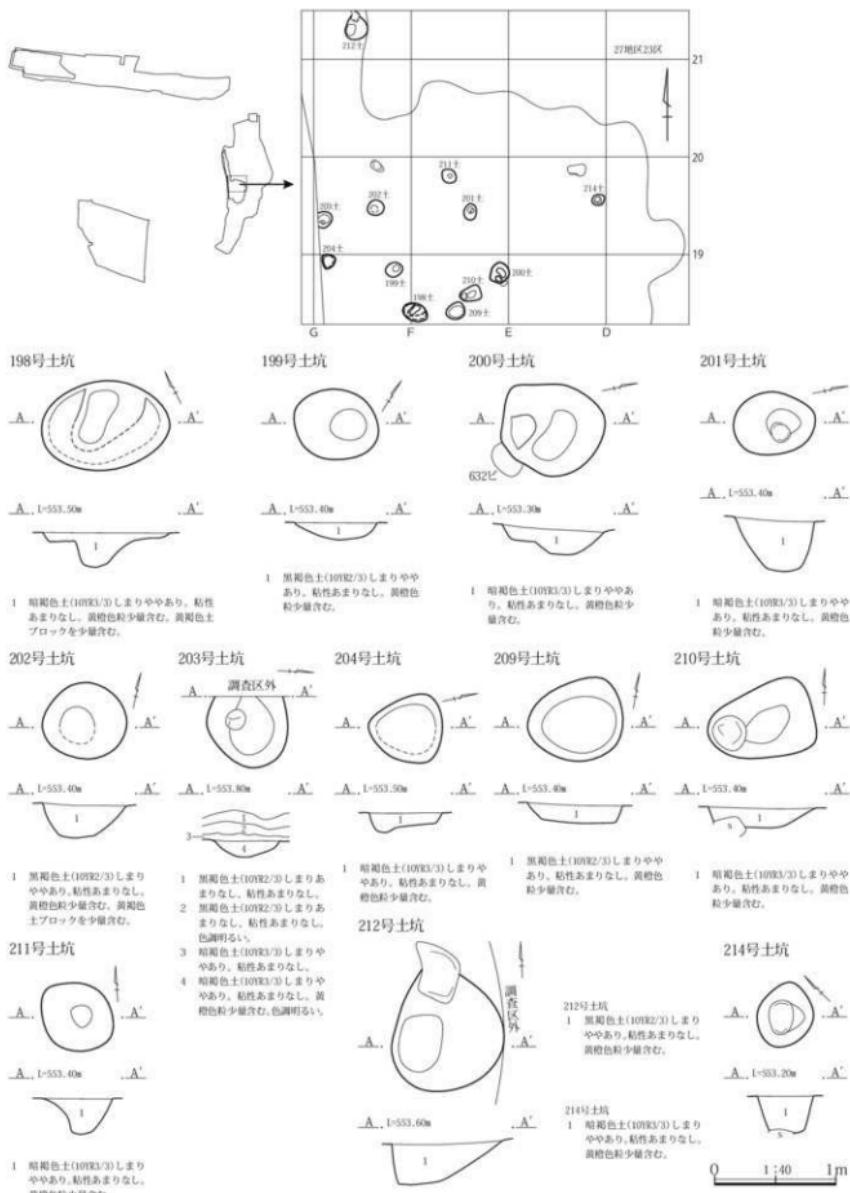
所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。632号ピットより新しい。

(55) 201号土坑(第285図、PL.124,125)

位置 23区E-19グリッド、東側調査区中央辺に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $0.67 \times 0.51 \times 0.42\text{m}$



第285図 土坑6

主軸方向(度) N-9-E

埋没土 黄橙色粒を少量含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(56) 202号土坑(第285図、PL.125)

位置 23区F-19グリッド、東側調査区中央辺に位置する。

形状 側円形を呈する。

規模 0.68×0.63×0.26m

主軸方向(度) N-63-E

埋没土 黄橙色粒を少量含み、黄褐色土ブロックを少量含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(57) 203号土坑(第285図、PL.125)

位置 23区F-19グリッド、東側調査区中央辺に位置する。

形状 西端が未調査域に及び不明。

規模 0.67×(0.63)×0.13m

主軸方向(度) N-37-W

埋没土 黄橙色粒を少量含む、色調の明るい暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(58) 204号土坑(第285図、PL.125)

位置 23区F-18～19グリッド、東側調査区中央辺に位置する。

形状 側円形を呈する。

規模 0.60×0.57×0.15m

主軸方向(度) N-17-E

埋没土 黄橙色粒を少量含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世

以前に比定される。

(59) 209号土坑(第285図、PL.126)

位置 23区E-18グリッド、東側調査区中央辺に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 0.78×0.66×0.14m

主軸方向(度) N-69-E

埋没土 黄橙色粒を少量含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(60) 210号土坑(第285図、PL.127)

位置 23区E-18グリッド、東側調査区中央辺に位置する。

形状 台形を呈する。

規模 0.86×0.62×0.16m

主軸方向(度) N-71-E

埋没土 黄橙色粒を少量含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(61) 211号土坑(第285図、PL.127)

位置 23区E-19グリッド、東側調査区中央辺に位置する。

形状 方形を呈する。

規模 0.66×0.56×0.28m

主軸方向(度) N-49-W

埋没土 黄橙色粒を少量含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(62) 212号土坑(第285図、PL.127)

位置 23区F-21グリッド、東側調査区中央辺に位置する。

形状 側円形を呈する。

規模 1.03×0.94×0.33m

主軸方向(度) N-17-W

第5章 平成30年度調査・確認された遺構と遺物

埋没土 黄褐色粒を少量含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

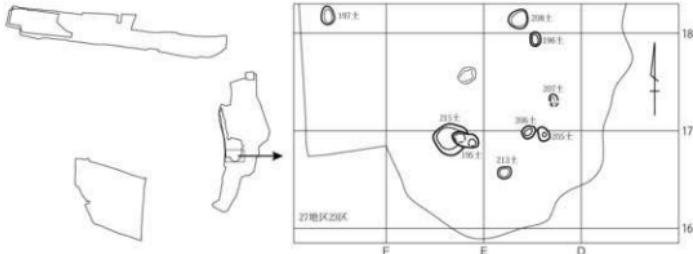
(63) 214号土坑(第285図、PL.128)

位置 23区 D-19グリッド、東側調査区中央辺に位置する。

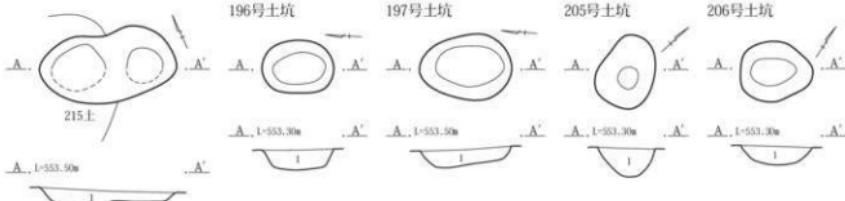
形状 長円形を呈する。

規模 $0.54 \times 0.46 \times 0.30\text{m}$

主軸方向(度) N-52°E



195号土坑



1 黒褐色土(10YR3/3)しまりややあり。粘性あまりなし。黄褐色粒少額含む。

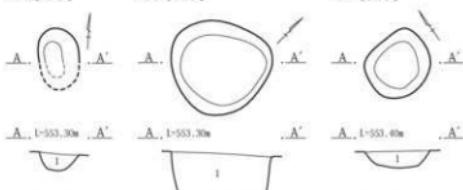
1 精褐色土(10YR3/3)しまりややあり。粘性あまりなし。黄褐色粒少額含む。

1 黒褐色土(10YR3/3)しまりややあり。粘性あまりなし。黄褐色粒少額含む。

1 精褐色土(10YR3/3)しまりややあり。粘性あまりなし。黄褐色粒少額含む。

1 精褐色土(10YR3/3)しまりややあり。粘性あまりなし。黄褐色粒少額含む。

207号土坑

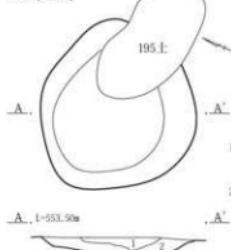


1 黒褐色土(10YR2/3)しまりややあり。粘性あまりなし。黄褐色粒少額含む。

1 精褐色土(10YR3/3)しまりややあり。粘性あまりなし。黄褐色粒少額含む。

1 精褐色土(10YR3/3)しまりややあり。粘性あまりなし。黄褐色粒少額含む。

215号土坑



1 精褐色土(10YR3/3)しまりあまりなし。粘性ややあり。炭化物粒若干含む。

2 精褐色土(10YR3/3)しまりややあり。粘性あまりなし。黄褐色粒少額含む。

0 1:40 1m

第286図 土坑 7

埋没土 黄橙色粒を少量含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(64) 195号土坑(第286図、PL.123)

位置 23区E-16グリッド、東側調査区中央辺に位置する。

形状 双円形を呈する。

規模 $1.10 \times 0.57 \times 0.13m$

主軸方向(度) N-72-W

埋没土 黄橙色粒を少量含む黒褐色土。

重複 215号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。215号土坑より新しい。

(65) 196号土坑(第286図、PL.123)

位置 23区D-16～17グリッド、東側調査区中央辺に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $0.59 \times 0.42 \times 0.16m$

主軸方向(度) N-7-W

埋没土 黄橙色粒を少量含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(66) 197号土坑(第286図、PL.123, 124)

位置 23区F-18グリッド、東側調査区中央辺に位置する。

形状 偏円形を呈する。

規模 $0.76 \times 0.53 \times 0.15m$

主軸方向(度) N-9-W

埋没土 黄橙色粒を少量含み、炭化物粒を若干含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(67) 205号土坑(第286図、PL.125)

位置 23区D-16～17グリッド、東側調査区中央辺に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $0.50 \times 0.46 \times 0.24m$

主軸方向(度) N-29-W

埋没土 黄橙色粒を少量含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(68) 206号土坑(第286図、PL.126)

位置 23区D-16～17グリッド、東側調査区中央辺に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $0.59 \times 0.50 \times 0.15m$

主軸方向(度) N-57-E

埋没土 黄橙色粒を少量含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(69) 207号土坑(第286図、PL.126)

位置 23区D-17グリッド、東側調査区中央辺に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $(0.51) \times 0.33 \times 0.14m$

主軸方向(度) N-15-W

埋没土 黄橙色粒を少量含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(70) 208号土坑(第286図、PL.126)

位置 23区D-18グリッド、東側調査区中央辺に位置する。

形状 偏円形を呈する。

規模 $0.82 \times 0.78 \times 0.38\text{m}$

主軸方向(度) N-26°E

埋没土 黄橙色粒を少量含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(71) 213号土坑(第286図、PL.127)

位置 23区D-16グリッド、東側調査区中央辺に位置する。

形状 方形を呈する。

規模 $0.59 \times 0.53 \times 0.13\text{m}$

主軸方向(度) N-49°E

埋没土 黄橙色粒を少量含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

(72) 215号土坑(第286図、PL.128)

位置 23区E-16~17グリッド、東側調査区中央辺に位置する。

形状 台形を呈する。

規模 $1.36 \times 1.25 \times 0.15\text{m}$

主軸方向(度) N-56°E

埋没土 黄橙色粒を少量含む暗褐色土。

重複 195号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。195号土坑に先行する。

第8項 ピット列およびピット

本項では天明泥流直下の面よりも下位から検出されたピットとピット列を提示する。平成30年度調査区で確認されたピットは、土坑と同様に北側の調査区と東側の調査区から検出されており、南側の調査区からの検出例はない。東側の調査区からは、1条のピット列と55基のピットが確認されている。また北側の調査区からは148基のピットが検出されている。この遺構確認面(2面)は平安時代から中世の遺構を主とするが、近世や繩文時代の遺構も検出されている。

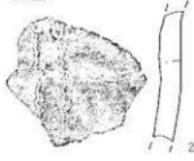
154土



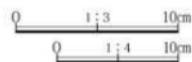
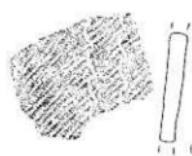
192土



155土



171土



第287図 土坑出土遺物

1 ピット列

東側調査区北半の、平成25年度調査で確認された3号掘立柱建物に至近の地点から1条のピット列が確認されている。主軸方向はほぼ建物に並行するが、埋没土に地山の土が含まれない点において相違する。

(1) 6号ピット列(第288図、PL.128,129)

位置 23区F～G-21～23グリッド、東側調査区北半に位置する。

形状 南北に並ぶ5基のピットが確認されている。

規模 確認長5.62m

主軸方向(度) N-17-E

埋没土 黄褐色粒を少量含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、中世から近世にかけての遺構にみられることの多い埋没土から中世と推測される。

備考 調査時の名称は、607～611号ピット。

2 ピット(第289～298図、PL.129～140)

北側の調査区から148基、東側の調査区から55基検出されたピットは、北側調査区検出の1基(426号ピット)を除きいずれも2面から検出されている。なお、426号ピットは、天明泥流直下である1面と、平安時代の遺構も検出された2面との間に位置する面(1.5面)から検出されている。

いずれも資料化には至らなかったが、471号ピット埋没土から土師器片1片(59g)が、453号ピットと491号ピット埋没土からはそれぞれ縄文土器片1片が出土している。

460号ピットは149号土坑と重複し、149号土坑よりも新しい。

461号ピットは150号土坑と重複し、150号土坑よりも新しい。

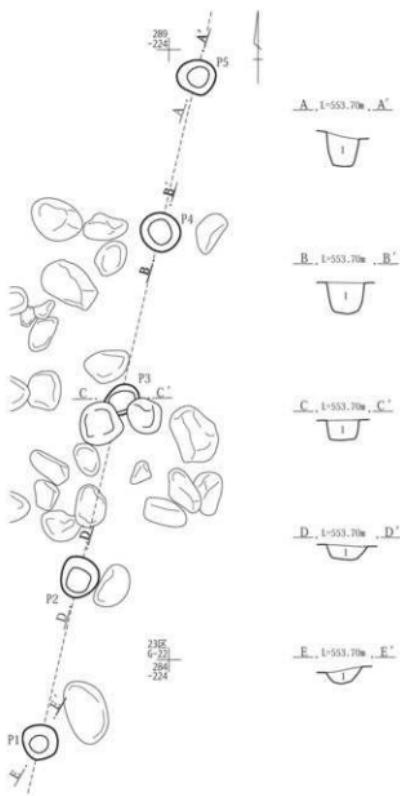
487号ピットは160号土坑と重複し、160号土坑よりも新しい。

488号ピットは161号土坑と重複し、161号土坑よりも新しい。

494号ピットは168号土坑と重複し、168号土坑よりも新しい。

第113表 6号ピット列計測表

ピット	確認長		主軸方向(度)		N-17-E
	P1	P2	P3	P4	
規模(m)	長	0.31	0.33	(0.28)	0.32
	短	0.29	0.32	(0.23)	0.30
	深	0.29	0.26	0.17	0.13
平面形状	円形	円形	偏円形	円形	円形
主軸方向(度)	N-56-W	N-5-W	N-56-E	N-37-W	N-70-E
次坑間隔	1.38m	1.51m	1.42m	1.30m	
剖面名称	607P	608P	609P	610P	611P



1 黒褐色土(10R2/3)じまりやあり。粘性あまりなし。黄褐色少混合。

第288図 ピット列



第5章 平成30年度調査・確認された遺構と遺物

498号ピットと499号ピットは重複関係にあるが新旧は判読しがたい。

524号ピットは560号ピットと重複し、560号ピットよりも新しい。

533号ピットは184号土坑と重複し、184号土坑よりも新しい。

572号ピットは157号土坑と重複し、157号土坑よりも

新しい。

573号ピットは190号土坑および191号土坑と重複し、いずれにも先行する。

570号ピット、571号ピット、573号ピットはいずれも13号堅穴建物の下位に位置する。

632号ピットは200号土坑と重複し、200号土坑に先行する。

第114表 ピット計測表1

名前	426号ピット	427号ピット	428号ピット	429号ピット	430号ピット	431号ピット	432号ピット	433号ピット	434号ピット	435号ピット
位置	34区Y-20	34区Y-19	34区Y-19	34区Y-19 35区A-19	34区Y-19	34区Y-19	34区Y-19	34区X-19	34区X-19	34区V-W-18
平面形状	方形	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形	圓形	方形	方形	方形	方形
規模	長(m)	0.08	0.25	0.32	0.29	0.27	0.22	0.23	0.37	0.31
	短(m)	0.06	0.21	0.29	0.27	0.20	0.21	0.21	0.35	0.20
	深(m)	0.08	0.13	0.17	0.17	0.15	0.13	0.11	0.18	0.13
主軸方向(度)	N-78-W	N-41-W	N-48-W	N-53-W	N-66-W	N-58-E	N-10-E	N-22-E	N-11-W	N-42-W

第115表 ピット計測表2

名前	436号ピット	437号ピット	438号ピット	439号ピット	440号ピット	441号ピット	442号ピット	443号ピット	444号ピット	445号ピット
位置	34区V-19	34区V-19	34区V-19	34区W-19	34区W-19 W-19~20	34区W-19	34区W-19	34区W-19	34区W-19	34区W-19
平面形状	方形	圓形	偏円形	圓形	偏円形	圓形	圓形	偏円形	偏円形	長円形
規模	長(m)	0.29	0.23	0.27	0.16	0.23	0.15	0.18	0.23	0.33
	短(m)	0.27	0.21	0.22	0.16	0.19	0.14	0.17	0.22	0.29
	深(m)	0.15	0.16	0.16	0.11	0.10	0.17	0.20	0.18	0.15
主軸方向(度)	N-14-W	N-80-E	N-8-W	N-14-W	N-80-E	N-69-E	N-37-E	N-55-W	N-53-W	N-72-W

第116表 ピット計測表3

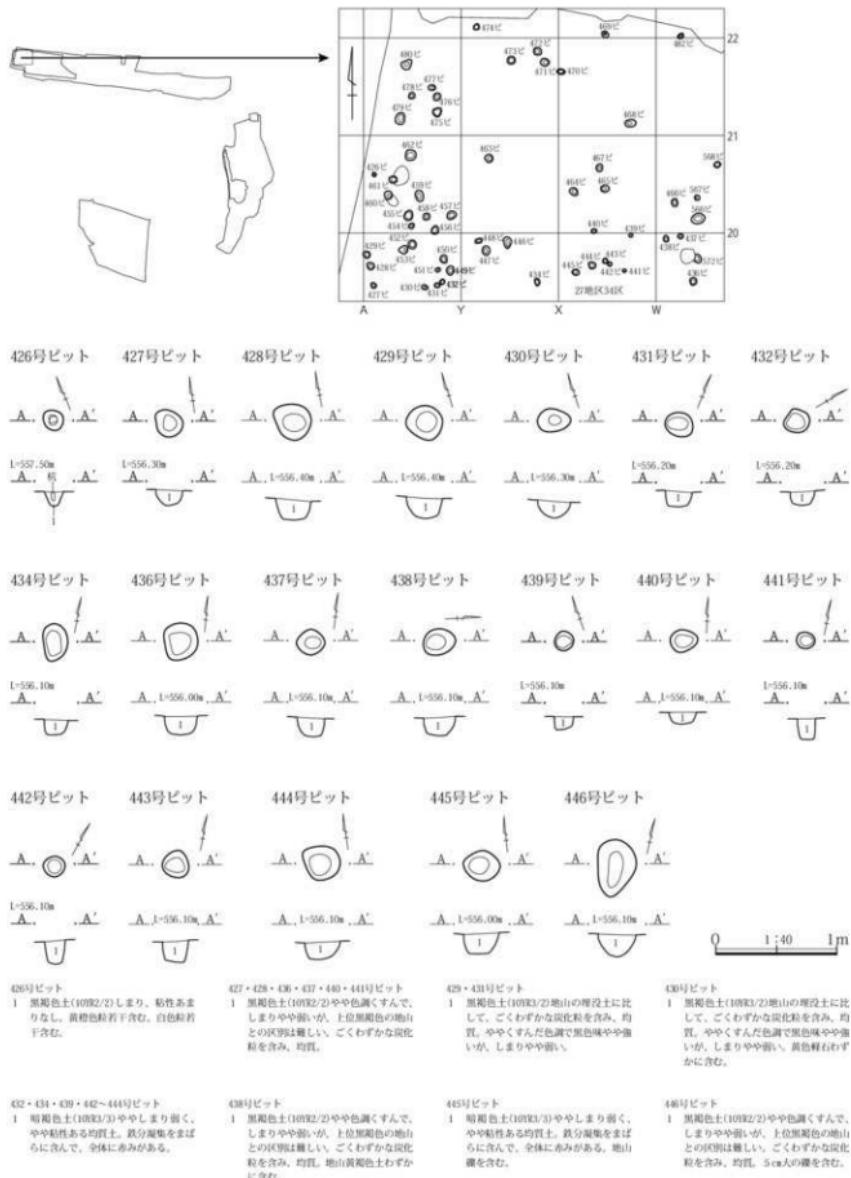
名前	446号ピット	447号ピット	448号ピット	449号ピット	450号ピット	451号ピット	452号ピット	453号ピット	454号ピット	455号ピット
位置	34区X-19	34区X-19	34区X-19	34区X-19	34区Y-19	34区Y-19	34区Y-19	34区Y-19	34区Y-20	34区Y-20
平面形状	偏円形	長円形	長円形	偏円形	台形	長円形	長円形	偏円形	長円形	偏円形
規模	長(m)	0.47	0.38	0.29	0.37	0.34	0.21	0.36	0.38	0.25
	短(m)	0.32	0.31	0.18	0.31	0.30	0.18	0.32	0.32	0.21
	深(m)	0.18	0.23	0.13	0.23	0.15	0.14	0.17	0.25	0.14
主軸方向(度)	N-5-W	N-12-W	N-80-E	N-7-W	N-26-W	N-58-E	N-16-W	N-76-E	N-35-E	N-15-E

第117表 ピット計測表4

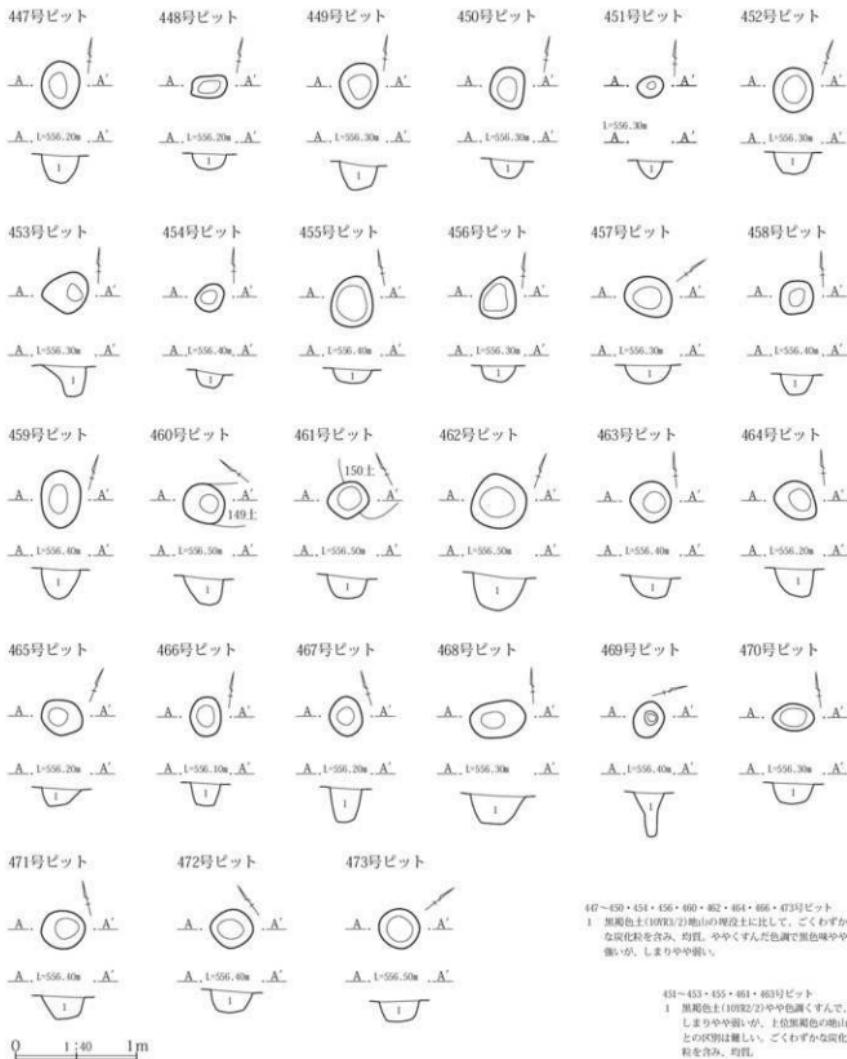
名前	456号ピット	457号ピット	458号ピット	459号ピット	460号ピット	461号ピット	462号ピット	463号ピット	464号ピット	465号ピット
位置	34区Y-19~20	34区Y-20	34区Y-20	34区Y-20	34区Y-20	34区Y-20	34区Y-20	34区X-20	34区W-20	34区W-20
平面形状	偏円形	長円形	方形	長円形	圓形	方形	方形	方形	偏円形	長円形
規模	長(m)	0.35	0.39	0.30	0.46	0.34	0.34	0.45	0.34	0.37
	短(m)	0.30	0.33	0.28	0.31	0.32	0.31	0.44	0.33	0.29
	深(m)	0.13	0.15	0.16	0.24	0.22	0.18	0.30	0.17	0.22
主軸方向(度)	N-11-E	N-41-E	N-44-E	N-16-W	N-27-W	N-63-W	N-34-E	N-1-W	N-48-W	N-69-E

第118表 ピット計測表5

名前	466号ピット	467号ピット	468号ピット	469号ピット	470号ピット	471号ピット	472号ピット	473号ピット	474号ピット	475号ピット
位置	34区Y-20	34区W-20	34区W-21	34区W-22	34区W~X-21	34区X-21	34区X-21	34区X-21	34区X-22	34区Y-21
平面形状	長円形	長円形	長円形	長円形	長円形	圓形	方形	圓形	偏円形	偏円形
規模	長(m)	0.32	0.33	0.45	0.30	0.34	0.36	0.35	0.34	0.26
	短(m)	0.26	0.27	0.30	0.24	0.23	0.32	0.32	0.33	0.36
	深(m)	0.18	0.28	0.23	0.36	0.17	0.19	0.18	0.15	0.09
主軸方向(度)	N-10-W	N-12-E	N-81-E	N-46-W	N-81-W	N-85-W	N-54-W	N-38-E	N-11-E	N-43-E



第289図 ピット1



457・459・460・467・471・472号ピット
1 黄褐色土(10R3/3)ややしまり強く、
やや粘性ある均質土。鉱分凝集をまば
らに含んで。全体に赤みがある。

458号ピット
1 黒褐色土(10R3/2)やや色調くすんで、
しまりやや弱いが、上位黒褐色の地山
との区別は難しい。ごくわずかな炭化
物を含み、均質。礫を含む(5~10mm
大)。

468号ピット
1 黄褐色土(10R3/3)ややしまり強く、
やや粘性ある均質土。鉱分凝集をまば
らに含んで。全体に赤みがある。

451~453・455・461・463号ピット
1 黑褐色土(10R2/2)やや色調くすんで、
しまりやや弱いが、上位黒褐色の地山
との区別は難しい。ごくわずかな炭化
物を含み、均質。

469・470号ピット
1 黑褐色土(10R3/2)地山の覆土に比
して、ごくわずかな炭化物を含み、均
質。ややくすんだ色調で黒褐色やや強
いが、しまりやや弱い。地山黄褐色土
を含む。

第290図 ピット2

第119表 ピット計測表6

名稱	476号ビット	477号ビット	478号ビット	479号ビット	480号ビット	481号ビット	482号ビット	483号ビット	484号ビット	485号ビット
位置	34区Y-21	34区W-17~22	34区W-17	34区W-17						
平面形状	円形	長円形	偏円形	長円形	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形	円形	円形
規模	長(m)	0.34	0.30	0.28	0.48	0.47	0.32	0.26	0.35	0.26
	短(m)	0.30	0.24	0.25	0.37	0.40	0.26	0.20	0.28	0.24
	深(m)	0.21	0.16	0.15	0.18	0.31	0.11	0.15	0.23	0.14
主軸方向(度)	N-27-E	N-83-W	N-78-W	N-14-E	N-38-E	N-87-W	N-37-E	N-36-E	N-78-W	N-52-E

第120表 ピット計測表7

名稱	486号ビット	487号ビット	488号ビット	489号ビット	490号ビット	491号ビット	492号ビット	493号ビット	494号ビット	495号ビット
位置	34区W-17~18	34区W-18	34区W-18	34区W-18	34区W-18	34区W-18	34区W-17	34区V-17	34区V-17	34区V-17
平面形状	偏円形	長円形	偏円形	円形	偏円形	偏円形	方形	方形	偏円形	方形
規模	長(m)	0.32	0.33	0.22	0.23	0.28	0.44	0.36	0.38	0.31
	短(m)	0.25	0.21	0.18	0.22	0.25	0.37	0.34	0.38	0.29
	深(m)	0.16	0.23	0.14	0.18	0.15	0.23	0.21	0.17	0.23
主軸方向(度)	N-73-W	N-12-E	N-77-E	N-80-W	N-15-W	N-73-E	N-6-E	N-37-W	N-47-E	N-37-E

第121表 ピット計測表8

名稱	496号ビット	497号ビット	498号ビット	499号ビット	500号ビット	501号ビット	502号ビット	503号ビット	504号ビット	505号ビット
位置	34区U-17	34区U-17	34区U-17	34区U-17	34区U-17	34区U-18	34区U-18	34区U-18	34区U-18	34区V-18
平面形状	長円形	長円形	長円形	円形	偏円形	偏円形	円形	方形	長円形	円形
規模	長(m)	0.34	0.31	0.29	0.25	0.31	0.29	0.23	0.34	0.29
	短(m)	0.29	0.28	0.24	0.24	0.29	0.28	0.19	0.34	0.20
	深(m)	0.16	0.18	0.28	0.21	0.35	0.14	0.15	0.13	0.14
主軸方向(度)	N-5-E	N-38-W	N-23-E	N-50-E	N-83-W	N-27-E	N-58-W	N-80-E	N-26-W	N-31-E

第122表 ピット計測表9

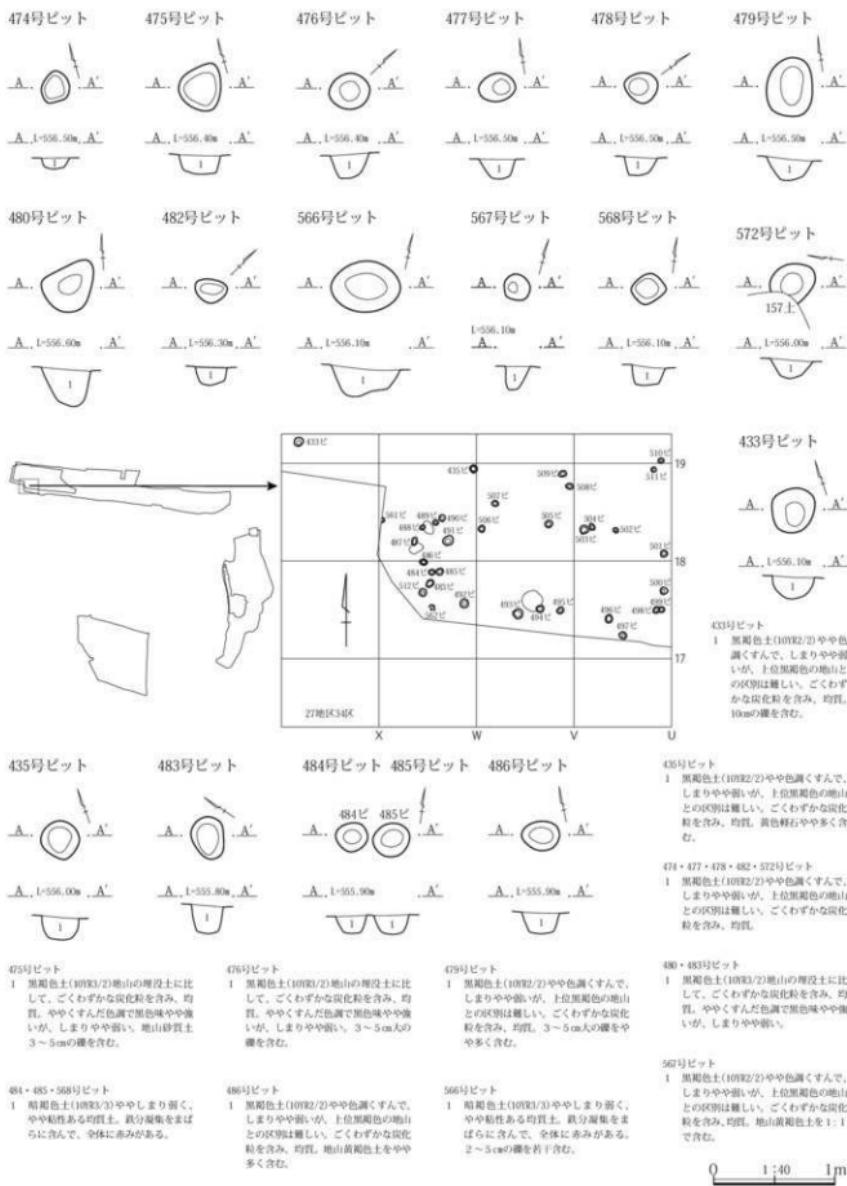
名稱	506号ビット	507号ビット	508号ビット	509号ビット	510号ビット	511号ビット	512号ビット	513号ビット	514号ビット	515号ビット
位置	34区V-18	34区V-18	34区V-18	34区V-18	34区V-18	34区U-19	34区U-18	34区U-17	34区T-18	34区T-17
平面形状	偏円形	長円形	長円形	長円形	長円形	方形	円形	長円形	円形	円形
規模	長(m)	0.28	0.28	0.29	0.32	0.24	0.22	0.32	0.23	0.26
	短(m)	0.26	0.23	0.25	0.26	0.21	0.21	0.31	0.17	0.25
	深(m)	0.13	0.08	0.17	0.16	0.17	0.16	0.18	0.19	0.24
主軸方向(度)	N-27-E	N-78-W	N-57-W	N-74-E	N-78-E	N-71-W	N-71-W	N-43-E	N-19-E	N-11-E

第123表 ピット計測表10

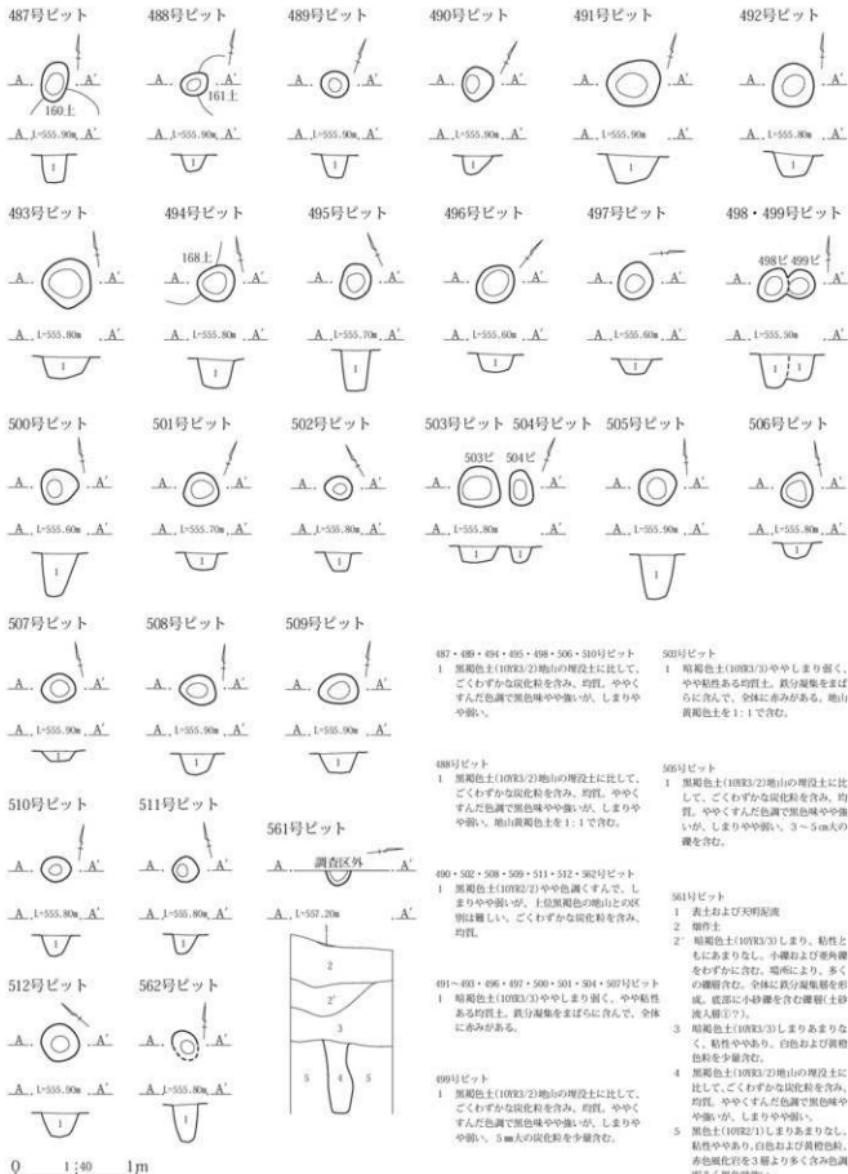
名稱	516号ビット	517号ビット	518号ビット	519号ビット	520号ビット	521号ビット	522号ビット	523号ビット	524号ビット	525号ビット
位置	34区T-17	34区T-17	34区T-17	34区S-17	34区S-17	34区S-17	34区S-17	34区S-17	34区R-17	34区R-17
平面形状	偏円形	方形	円形	偏円形	円形	長円形	方形	円形	円形	長円形
規模	長(m)	0.28	0.32	0.30	0.28	0.35	0.34	0.28	0.42	0.43
	短(m)	0.21	0.30	0.27	0.28	0.32	0.28	0.26	0.38	0.24
	深(m)	0.06	0.09	0.14	0.14	0.17	0.11	0.09	0.27	0.15
主軸方向(度)	N-15-E	N-41-W	N-43-E	N-77-W	N-80-W	N-80-E	N-50-E	N-19-E	N-23-W	N-77-W

第124表 ピット計測表11

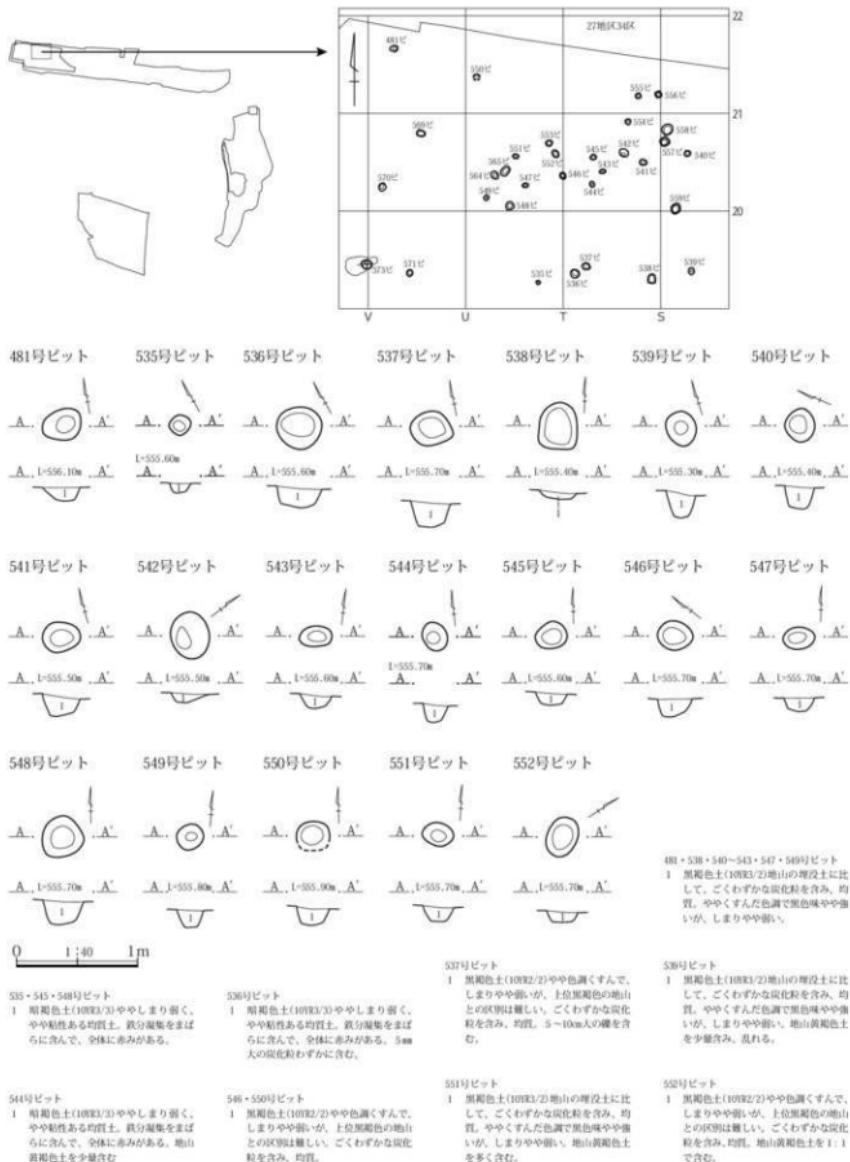
名稱	526号ビット	527号ビット	528号ビット	529号ビット	530号ビット	531号ビット	532号ビット	533号ビット	534号ビット	535号ビット
位置	34区R-16	34区R-17	34区R-17	34区Q~R-17	34区R-17	34区R-17~18	34区R-17~18	34区R-17~18	34区S-18	34区T-19
平面形状	長円形	円形	方形	方形	長円形	円形	円形	偏円形	円形	方形
規模	長(m)	0.28	0.28	0.28	0.36	0.34	0.28	0.25	0.43	0.27
	短(m)	0.24	0.26	0.26	0.29	0.26	0.27	0.22	0.34	0.25
	深(m)	0.09	0.09	0.14	0.09	0.11	0.09	0.11	0.14	0.09
主軸方向(度)	N-61-W	N-6-E	N-42-W	N-75-W	N-62-W	N-76-W	N-69-W	N-7-E	N-16-E	N-64-W

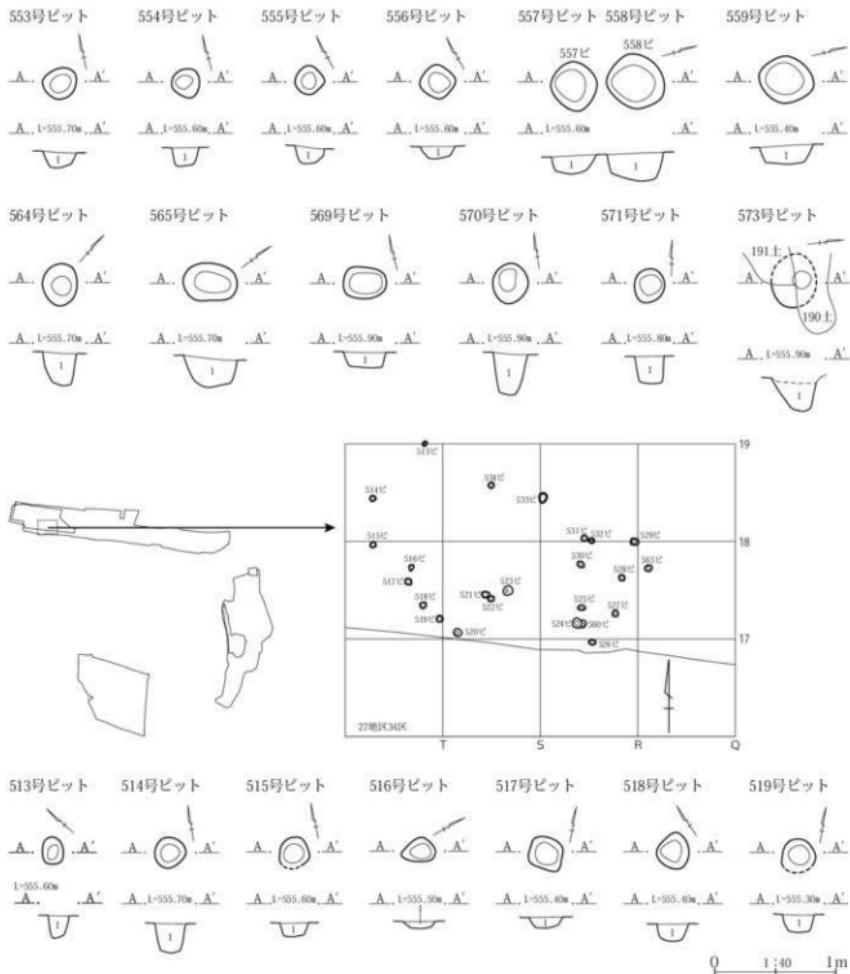


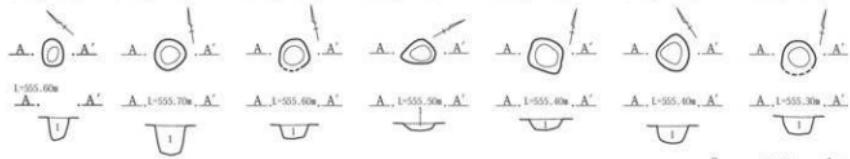
第291図 ピット3



第292図 ピット4





513号ピット 514号ピット 515号ピット 516号ピット 517号ピット 518号ピット 519号ピット
1-555.60m A-A' 1-555.70m A-A' 1-555.60m A-A' 1-555.50m A-A' 1-555.40m A-A' 1-555.40m A-A' 1-555.30m A-A'


514号ピット

1 黒褐色土(10R2/2)やや色調くすんで、しまりやや弱いが、上位黒褐色の物山との区別は難しい。ごくわずかな炭化粒を含み、均質。地山黄褐色土を多く含む。

515・516・518～519・559・564・573号ピット

1 黒褐色土(10R2/2)やや色調くすんで、しまりやや弱いが、上位黒褐色の物山との区別は難しい。ごくわずかな炭化粒を含み、均質。地山黄褐色土を多く含む。

517号ピット

1 黄褐色土(10R2/2)やや色調くすんで、しまりやや弱いが、上位黒褐色の物山との区別は難しい。ごくわずかな炭化粒を含み、均質。地山黄褐色土を多く含む。

553・565号ピット

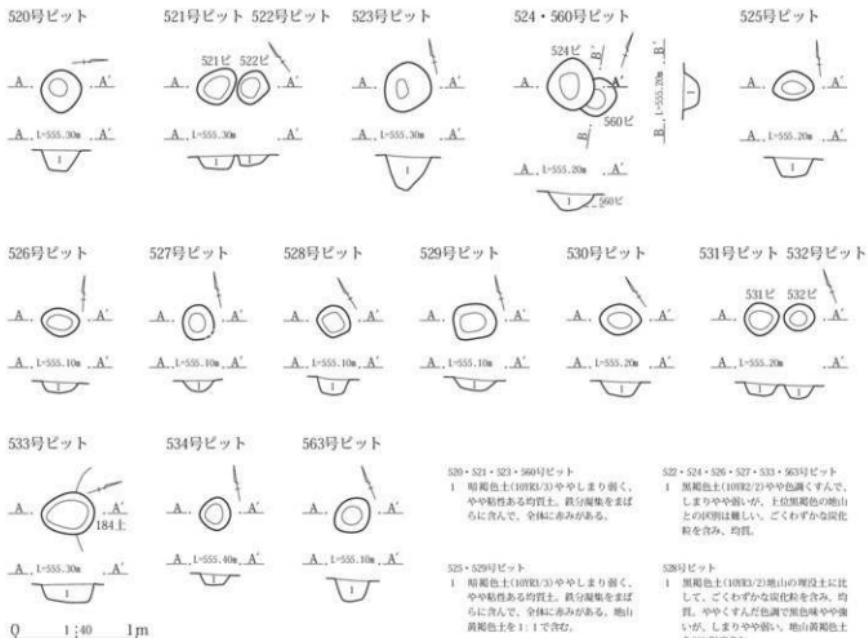
1 黑褐色土(10R2/2)地山の埋没土に比して、ごくわずかな炭化粒を含み、均質。ややくすんだ色調で黒褐色やや強いが、しまりやや弱い。

559号ピット

1 黑褐色土(10R2/2)やや色調くすんで、しまりやや弱いが、上位黒褐色の物山との区別は難しい。ごくわずかな炭化粒を含み、均質。地山黄褐色土混じて少量含む。

第294図 ピット6

第5章 平成30年度調査・確認された遺構と遺物



第295図 ピット7

第125表 ピット計測表12

名前	536号ピット	537号ピット	538号ピット	539号ピット	540号ピット	541号ピット	542号ピット	543号ピット	544号ピット	545号ピット
位置	34KS-19	34KS-19	34KS-19	34KR-19	34KR-20	34KS-20	34KS-20	34KS-20	34KS-20	34KS-20
平面形状	円形	偏円形	長円形	偏円形	円形	偏円形	長円形	長円形	長円形	偏円形
規模 長(m)	0.37	0.35	0.39	0.29	0.26	0.31	0.38	0.27	0.25	0.26
短(m)	0.34	0.30	0.31	0.24	0.24	0.25	0.32	0.17	0.20	0.21
深(m)	0.16	0.20	0.05	0.21	0.16	0.18	0.07	0.11	0.15	0.10
主軸方向(度)	N-48-W	N-58-W	N-2-E	N-5-W	N-35-E	N-76-W	N-57-W	N-72-E	N-21-W	N-80-E

第126表 ピット計測表13

名前	546号ピット	547号ピット	548号ピット	549号ピット	550号ピット	551号ピット	552号ピット	553号ピット	554号ピット	555号ピット
位置	34KT-20	34KT-20	34KT-20	34KT-20	34KT-21	34KT-20	34KT-20	34KT-20	34KS-20	34KS-21
平面形状	偏円形	長円形	偏円形	円形	円形	長円形	長円形	円形	偏円形	方形
規模 長(m)	0.29	0.26	0.37	0.23	0.28	0.26	0.33	0.29	0.25	0.24
短(m)	0.24	0.18	0.34	0.22	(0.24)	0.19	0.25	0.25	0.23	0.24
深(m)	0.15	0.11	0.20	0.14	0.15	0.12	0.09	0.13	0.15	0.14
主軸方向(度)	N-36-W	N-84-E	N-68-E	N-15-E	N-89-W	N-85-W	N-36-W	N-74-E	N-12-W	N-46-E

第127表 ピット計測表14

名前	556号ビット	557号ビット	558号ビット	559号ビット	560号ビット	561号ビット	562号ビット	563号ビット	564号ビット	565号ビット
位置	34区 R-S-21	34区 R-20	34区 R-20	34区 R-19~20	34区 R-17	34区 KW-18	34区 KW-17	34区 Q-17	34区 T-20	34区 T-20
平面形状	方形	方形	方形	方形	方形	不明	長円形	長円形	長円形	長円形
規模	長(m)	0.29	0.40	0.48	0.46	0.32	0.21	(0.26)	0.32	0.35
短(m)	0.28	0.38	0.45	0.39	(0.26)	(0.12)	(0.20)	0.28	0.29	0.30
深(m)	0.11	0.16	0.22	0.15	0.12	0.21	0.31	0.18	0.26	0.25
主軸方向(度)	N-64-W	N-80-W	N-20-E	N-24-E	N-27-E	N-7-E	N-38-W	N-60-E	N-39-W	N-39-E

第128表 ピット計測表15

名前	566号ビット	567号ビット	568号ビット	569号ビット	570号ビット	571号ビット	572号ビット	573号ビット		
位置	34区 V-20	34区 V-20	34区 V-20	34区 U-20	34区 U-20	34区 U-19	34区 V-19	34区 U		
平面形状	長円形	円形	長円形	長円形	長円形	円形	長円形	長円形		
規模	長(m)	0.57	0.23	0.29	0.35	0.33	0.29	(0.38)	0.44	
短(m)	0.43	0.22	0.24	0.26	0.29	0.25	0.32	0.38		
深(m)	0.25	0.19	0.16	0.13	0.33	0.22	0.15	0.26		
主軸方向(度)	N-77-E	N-41-W	N-20-E	N-82-E	N-8-E	N-14-E	N-32-W	N-66-W		

第129表 ピット計測表16

名前	574号ビット	575号ビット	576号ビット	577号ビット	578号ビット	579号ビット	580号ビット	581号ビット	582号ビット	583号ビット
位置	23区 E-15~16	23区 E-16	23区 D-16	23区 D-E-16	23区 E-16	23区 D-16	23区 E-16	23区 D-17	23区 D-17	23区 E-17
平面形状	長円形	偏円形	長円形	円形	偏円形	方形	長円形	円形	偏円形	方形
規模	長(m)	0.39	0.61	0.39	0.23	0.52	0.31	0.37	0.32	0.35
短(m)	0.33	0.43	0.27	0.21	0.44	0.22	0.34	0.30	0.28	0.30
深(m)	0.20	0.21	0.17	0.24	0.26	0.12	0.24	0.24	0.15	0.17
主軸方向(度)	N-70-E	N-73-W	N-86-W	N-88-W	N-71-W	N-72-W	N-10-W	N-50-W	N-64-W	N-39-E

第130表 ピット計測表17

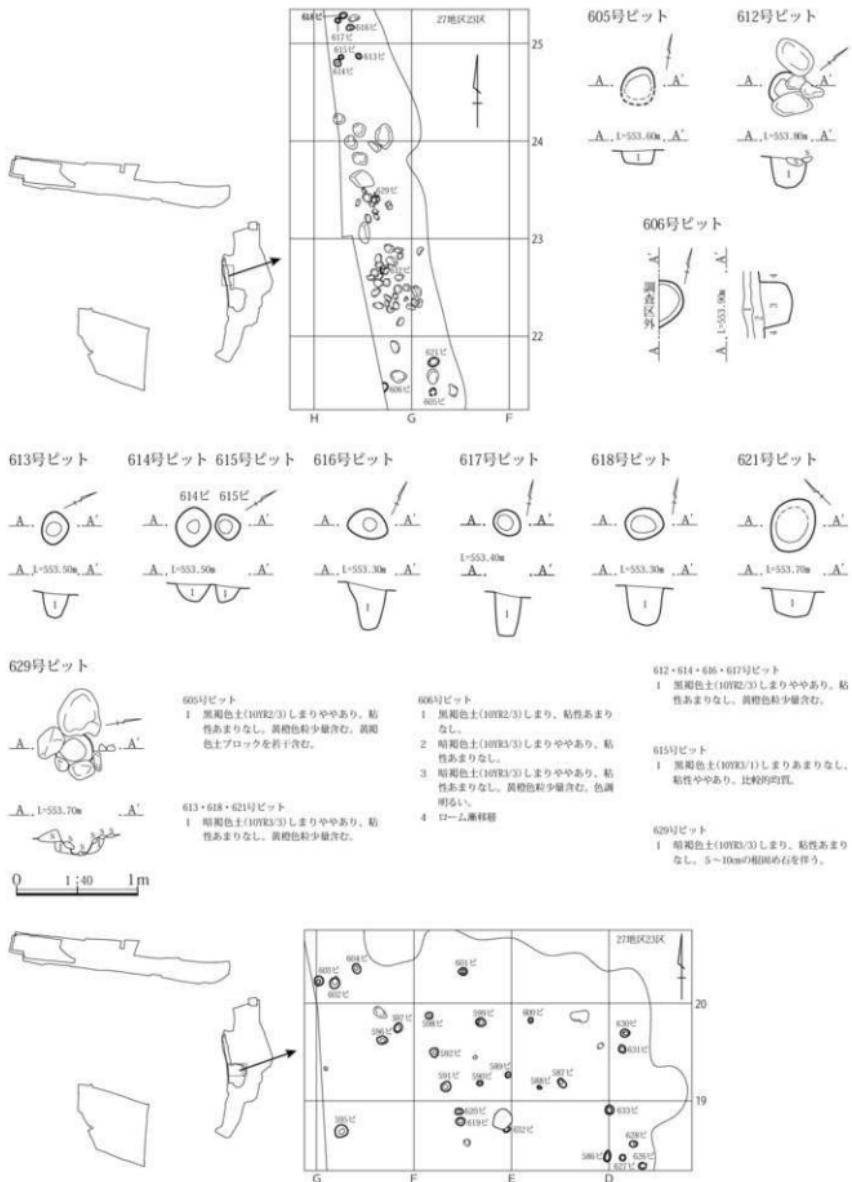
名前	584号ビット	585号ビット	586号ビット	587号ビット	588号ビット	589号ビット	590号ビット	591号ビット	592号ビット	593号ビット
位置	23区 E-17~18	23区 F-16	23区 C-D-18	23区 D-19	23区 D-19	23区 E-19	23区 E-19	23区 E-19	23区 E-19	23区 F-17
平面形状	円形	不明	長円形	方形	偏円形	偏円形	長円形	偏円形	偏円形	円形
規模	長(m)	0.42	(0.49)	0.47	0.42	0.20	0.25	0.25	0.43	0.38
短(m)	0.37	(0.30)	0.27	0.20	0.14	0.22	0.21	0.39	0.35	0.39
深(m)	0.16	0.13	0.09	0.19	0.11	0.17	0.18	0.14	0.27	0.13
主軸方向(度)	N-43-E	N-84-E	N-9-E	N-37-W	N-70-W	N-11-E	N-88-W	N-25-E	N-16-W	N-75-W

第131表 ピット計測表18

名前	594号ビット	595号ビット	596号ビット	597号ビット	598号ビット	599号ビット	600号ビット	601号ビット	602号ビット	603号ビット
位置	23区 D-17	23区 F-18	23区 F-19	23区 F-19	23区 E-19	23区 E-19	23区 D-19	23区 E-20	23区 F-20	23区 F-G-20
平面形状	長円形	円形	長円形	長円形	方形	長円形	長円形	偏円形	長円形	方形
規模	長(m)	0.57	0.55	0.43	0.42	0.29	0.41	0.23	0.35	0.47
短(m)	0.37	0.51	0.22	0.23	0.27	0.35	0.20	0.32	0.40	0.36
深(m)	0.16	0.22	0.18	0.21	0.21	0.25	0.29	0.22	0.19	0.22
主軸方向(度)	N-69-E	N-36-E	N-85-E	N-22-E	N-88-E	N-74-W	N-10-E	N-89-E	N-67-W	N-13-W

第132表 ピット計測表19

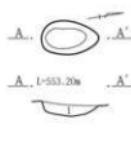
名前	604号ビット	605号ビット	606号ビット	612号ビット	613号ビット	614号ビット	615号ビット	616号ビット	617号ビット	618号ビット
位置	23区 F-20	23区 F-21	23区 G-21	23区 G-22	23区 G-24	23区 G-24	23区 G-24	23区 G-25	23区 G-25	23区 G-25
平面形状	長円形	不明	不明	不明	長円形	方形	方形	長円形	円形	長円形
規模	長(m)	0.42	(0.32)	0.38	(0.28)	0.27	0.32	0.21	0.31	0.24
短(m)	0.22	(0.27)	(0.20)	(0.21)	0.22	0.28	0.20	0.25	0.21	0.26
深(m)	0.19	0.11	0.26	0.24	0.20	0.15	0.14	0.38	0.36	0.31
主軸方向(度)	N-27-W	N-80-W	N-12-W	N-9-W	N-54-W	N-52-W	N-32-E	N-61-E	N-53-W	N-63-E



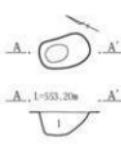
第296図 ピット8

第1節 遺構と遺物

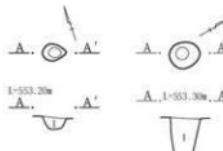
586号ビット



587号ビット



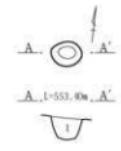
588号ビット



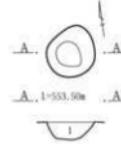
589号ビット



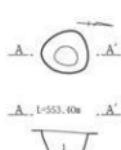
590号ビット



591号ビット



592号ビット



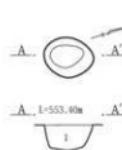
595号ビット



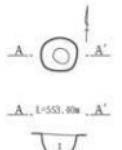
596号ビット



597号ビット



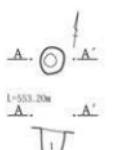
598号ビット



599号ビット



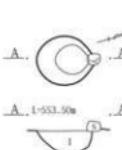
600号ビット



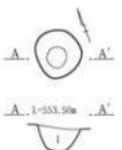
601号ビット



602号ビット



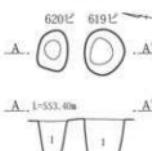
603号ビット



604号ビット



620号ビット 619号ビット



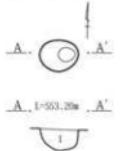
626号ビット



627号ビット



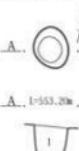
628号ビット



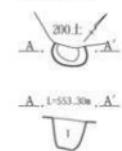
630号ビット



631号ビット



632号ビット



633号ビット



586～588・590～592・595・600・603・
604・620・632号ビット

1 黒褐色土(10R2/3)しまりややあり、
粘性あまりなし。黄褐色土少量含む。

589・596～599・619・626～628・630・633
号ビット

1 黒褐色土(10R3/3)しまりややあり、
粘性あまりなし。黄褐色土少量含む。

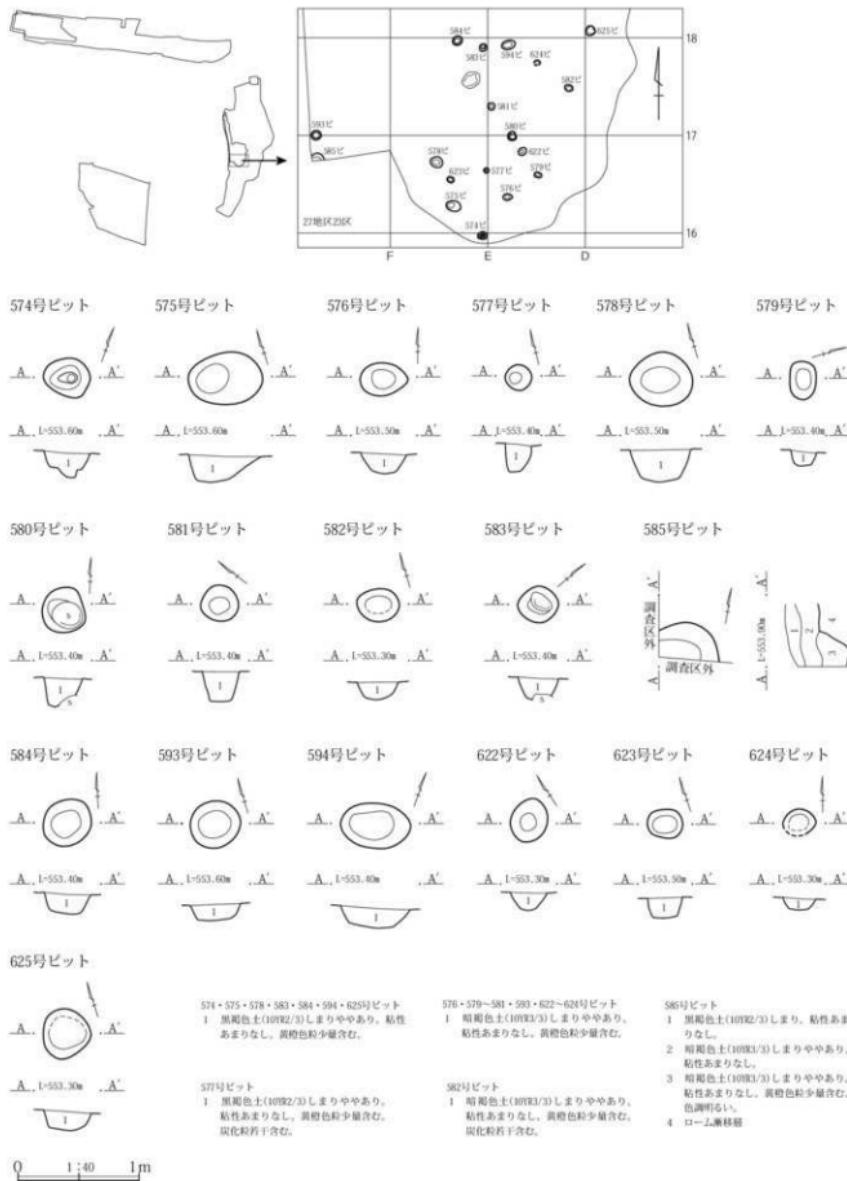
602号ビット

1 黒褐色土(10R3/3)しまりややあり、
粘性あまりなし。黄褐色土少量含む。
黄褐色土ブロックを少量含む。

608・631号ビット

1 黑褐色土(10R2/3)しまりややあり、
粘性あまりなし。黄褐色土少量含む。
炭化物若干含む。

第297図 ビット9



第298図 ピット10

第133表 ピット計測表20

名稱	619号ピット	620号ピット	621号ピット	622号ピット	623号ピット	624号ピット	625号ピット	626号ピット	627号ピット	628号ピット
位置	23区E-18	23区E-18	23区F-21	23区D-16	23区E-16	23区D-17	23区C-18	23区C-18	23区C-18	23区C-18
平面形状	長円形	長円形	長円形	長円形	長円形	円形	円形	偏円形	円形	長円形
規模	長(m)	0.37	0.33	0.43	0.36	0.29	0.27	0.42	0.33	0.26
	短(m)	0.33	0.24	0.36	0.30	0.23	0.23	0.40	0.28	0.25
	深(m)	0.41	0.32	0.23	0.14	0.16	0.09	0.15	0.14	0.09
主軸方向(度)	N-73-W	N-87-W	N-51-E	N-50-E	N-65-W	N-88-E	N-35-E	N-80-W	N-6-E	N-86-E

第134表 ピット計測表21

名稱	629号ピット	630号ピット	631号ピット	632号ピット	633号ピット
位置	23区G-23	23区C-19	23区C-19	23区E-18	23区 C-D-18
平面形状	不明	偏円形	長円形	偏円形	円形
規模	長(m)	0.30	0.38	0.34	0.28
	短(m)	(0.23)	0.33	0.28	(0.17)
	深(m)	0.13	0.31	0.29	0.26
主軸方向(度)	N-6-E	N-85-E	N-25-W	N-36-E	N-6-W

位置する。

形状等 東端を調査区境界に接し、三方を泥流のもたらした擾乱に囲まれている。

規模 2.72×(0.86)m

主軸方向(度) N-3-E

埋没土 天明泥流。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、天明泥流直下にあることから近世に比定される。平成29年度調査で検出された8号ヤッ

第9項 その他

平成30年度調査区から、ヤックラ2か所、焼土遺構2基、井戸1基が検出されている。8号ヤックラは平成29年度調査で確認された遺構の西端に相当する。過年度の調査成果とあわせた姿については後掲(2節)する。

1 8号ヤックラ(第299図)

位置 23区W-X-4～5グリッド、南側調査区東端に

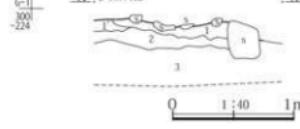
8号ヤックラ



12号ヤックラ



12号ヤックラ



A-A'

1 帽部赤土(10R3/3)しまりややあり、粘性あまりなし。

1' 1に比して色濃く、しまりあり。帽部赤土(10R3/3)しまりややあり、粘性あまりなし。黄褐色土ブロックが1:1で混じる。

3 帽部赤土(10R3/4)しまりややあり、粘性あまりなし。

第299図 8号ヤックラ、12号ヤックラ

クラの西端に相当する。

2 12号ヤックラ(第299図)

位置 23区G～H-25、33区G～H-1、東側調査区北端に位置する。

形状等 西半が調査区境界に及ぶため不明。

規模 $(9.57) \times 4.13m$

主軸方向(度) N-62-W

埋没土 不明。

重複 なし。

遺物 資料化には至らなかったが、近世の施釉陶器片2片が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から近世に比定される。遺跡の立地する舌状台地の東半を東から西に穿つ谷の北側斜面を横切るように存在すると推測される。未調査部分を間に挟み東に4mほど離れた位置にある、平成28年度に検出された1号ヤックラに関連する遺構である可能性が認められる。

備考 遺構確認面は2面。

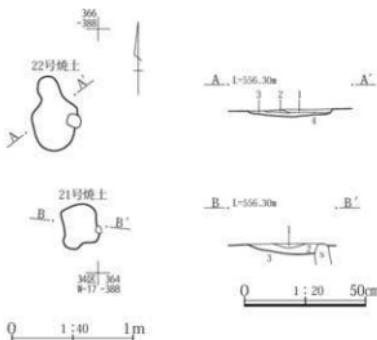
3 21号焼土遺構(第300図、PL.140)

位置 34区W-17グリッド、調査区北部西端、26号烟の0.2m下位に位置する。

形状等 不整形を呈する。灰混じりの不均質な焼土層が確認されている。

規模 $0.39 \times 0.37m$

主軸方向(度) N-31-E



埋没土 地山より明るい色調の黒褐色土。周辺に灰が散乱する。

重複 26号烟。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。26号烟に先行する。

備考 遺構確認面は26号烟下位(1面下)。

4 22号焼土遺構(第300図、PL.140)

位置 34区W-17グリッド、調査区北部西端、26号烟の0.3m下位に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 $0.61 \times 0.38m$

主軸方向(度) N-11-W

埋没土 地山より明るい色調の黒褐色土。

重複 26号烟。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。焼土層(3層)直上の焼けた穀物を含む層(2層)は、遺構周辺で採れた穀物あるいはその殻を燃やした跡と推察される。26号烟に先行する。

備考 遺構確認面は26号烟下位(1面下)。

5 1号井戸(第301図、PL.140, 149)

位置 34区A～B-17～18グリッド、北側調査区中央辺に位置する。

22号焼土

A-A'

- 1 黒褐色土(10H2/2)しまりあまりなし、粘性ややあり。地山と比して色調明るい。
- 2 青黒褐色土(0H2/1)しまり、粘性あまりなし。焼けた穀物を多量に含む層。
- 3 黑赤褐色土(0H83/8)しまり、粘性あまりなし。灰が30～40%で覆する不均質な焼土層。
- 4 黑褐色土(10H2/2)しまりあまりなし、粘性ややあり。地山層。

21号焼土

B-B'

- 1 黑褐色土(10H2/2)しまりあまりなし、粘性ややあり。地山と比して色調明るい。
- 2 黑赤褐色土(0H83/8)しまり、粘性あまりなし。灰が30～40%で覆する不均質な焼土層。
- 3 黑褐色土(10H2/2)しまりあまりなし、粘性ややあり。地山層。

第300図 21号焼土遺構、22号焼土遺構

形状等 東西に仕切られた長方形の石組みが確認されている。西側の区画は側面にのみ石組みが存在し、底面は地山が露出する。東側区画の内部は円形に整えられている。また西側よりも深く掘り込まれ、底面も石組みで覆われる。

規模 $3.03 \times 2.61 \times (2.97)$ m

主軸方向(度) N-77-W

埋没土 砂を含まず、均質で砂質味強い褐色灰色土。

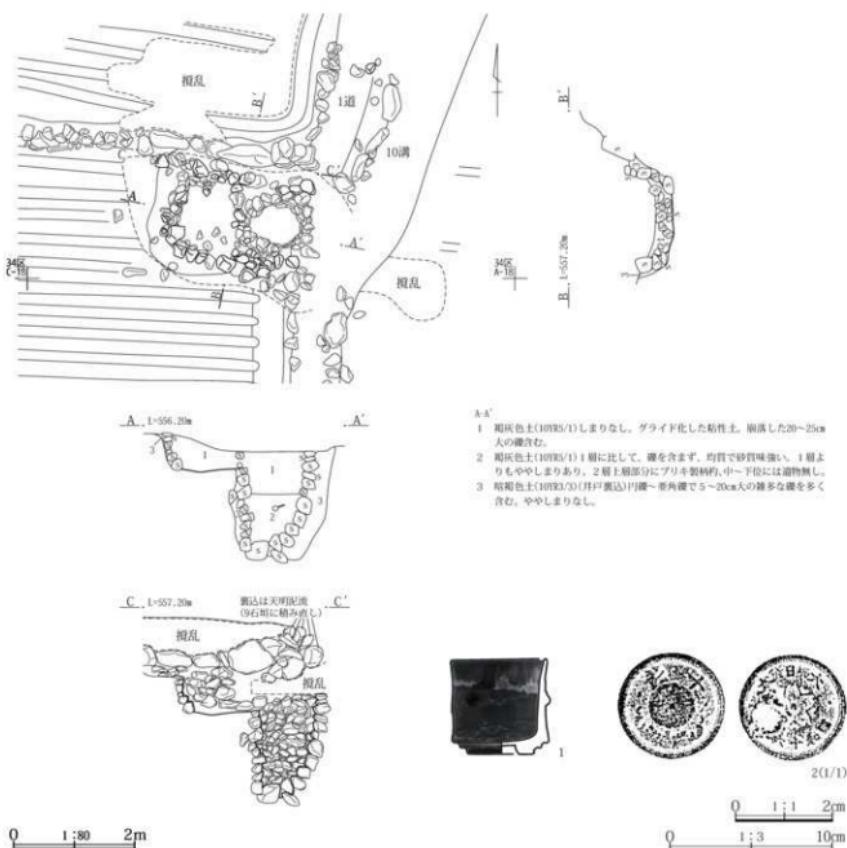
重複 9号石垣。

遺物 埋没土より近代の陶器湯呑碗(1)、昭和16年銘10

鉄硬貨(2)、ブリキ製柄杓やはみ(3)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から近代に比定される。東北隅の石組みは先行する9号石垣を利用し、さらに積み増しされている。積み増し部分の裏込めからは天明泥流が確認されており、天明泥流を貫通して掘りぬき石組みを行ったと推察される。遺構としての終末期は昭和初期と推察されるが、掘削時期を特定する資料は得られていない。溜井戸、貯水槽などの用途が想定される。

備考 調査時の名称は、1号溜井。



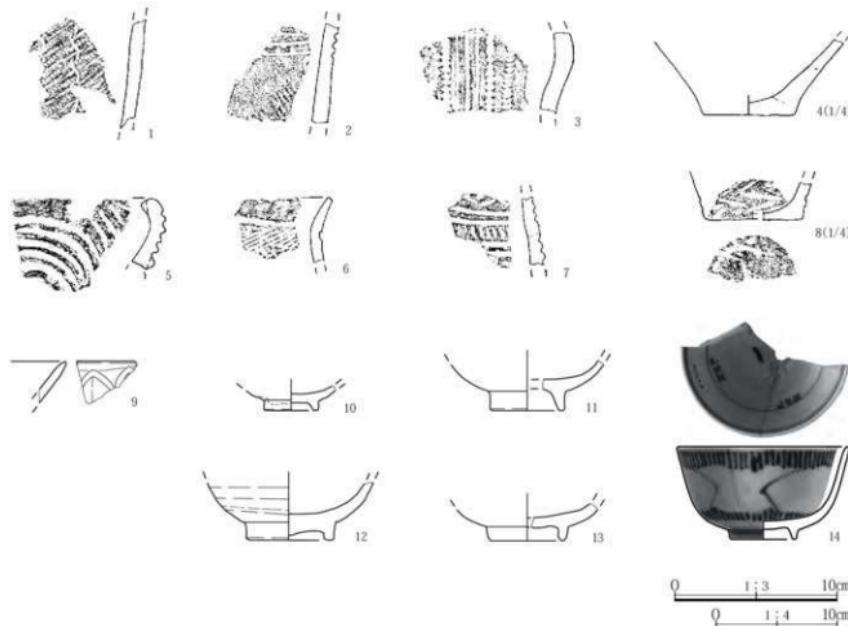
第301図 1号井戸と出土遺物

第10項 遺構外出土の遺物

北側調査区から縄文土器・五領ヶ台2式深鉢片(1)、縄文土器・勝坂2式深鉢片(3)、縄文土器・勝坂2式浅鉢片(4)、縄文土器・焼町土器深鉢片(5)の他、弥生土器壺片(6)、龍泉窯系青磁碗(9)、京・信楽系陶

器碗(10)、瀬戸・美濃陶器碗(11)、肥前陶器碗(13)、瀬戸・美濃磁器碗(14)が出土している。また東側の調査区からは弥生時代中期の壺片(7)、南側の調査区からは弥生時代中期の壺片(8)が出土している。なお26号建物北の3号復旧坑群から瀬戸・美濃陶器碗(12)が出土している。

(第302図、PL.149)



第302図 遺構外出土遺物

第11項 遺物観察表および未掲載遺物

第135表 N1建物群出土遺物

22号建物

掲 図 PL.No.	種 類 器 種	出上位置 下 肢	残 有 率	計測値		胎土/焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
				長 幅	厚			
第29図 PL.141	1 木製品	床 下肢	一部欠損	18.35 8.3	3.3		一本下駄。表が研目面で踵部分に細かな傷が見られる。	
第29図 PL.141	2 木製品	床 下肢	1/4	18.0 6.6	1.0		歯の一部がやや残存している。全体的に薄くなり、劣化が見られる。	
第29図 PL.141	3 木製品	床 下肢	3/4	21.3 8.5	4.2		一本下駄。踵部分に細かな傷が数點所見られるが、使用痕となるかは不明。	
第29図 PL.141	4 木製品	床 下肢	ほぼ完形	21.5 9.0	3.1		一本下駄。前面がやや大きい。裏面は全体的に平滑。	

掃 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土・焼成/色調 石 材・材 素 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第240回 PL.141	5	木製品 羽子板	床 完形	長 幅 30.2 厚 2.5	1.0	黒で線が引かれる。節を持つ板を使用する。	
第240回 PL.141	6	木製品 木箱	床 ほぼ完形	長 幅 34.0 厚 14.0	5.8	持ち手部分と極部分で分かれる。打面は片面がより凹む。もう一方は加工痕が残存か。一部に焦げが見られる。	
第240回 PL.141	7	木製品 不明	床 破片	長 幅 29.7 厚 4.5	1.3	板状の破片。極目で、両端が欠損している。用途不明。	
第240回 PL.141	8	木製品 桶 曲げ物 或板	床 1/2	長 幅 13.7 厚 7.3	0.7	半円形に残存する。一部劣化が見られる。側面に2か所所釘穴が見られる。	
第240回 PL.141	9	鉄製品 蓋	床 1/10	長 幅 6.0 厚 5.6 重 39.0	1.0	形状は茶釜の蓋などに見られるもの。	
第240回 PL.141	10	銅貨 新寛永	床 2/3	厚 0.08 重 0.7		劣化が激しく、一部が細かく破損している。文字は明瞭。	
第240回 PL.141	11	瀬戸・美濃 陶器 小碗	床 4/5	口 止 高 6.8 3.0	4.3	夾杂物微量/灰白 内面から体部外面下位に灰釉。体部下位から高台は無釉。	
第240回 PL.141	12	瀬戸・美濃 陶器 瓢	床 体部から高台部 底	口 止 高 (4.6)		夾杂物微量/灰 底部内面と体部外面下位に灰釉。体部外面下位から高台は無釉。高台に炭化物が付着。	
第240回 PL.141	13	瀬戸・美濃 陶器 瓢	床 体部から高台部 底	口 止 器高 4.6		底面部内面と体部外面下位から高台の一部に褐色の釉。体部下位から高台は無釉。	
第240回 PL.141	14	瀬戸・美濃 陶器 瓢	床 体部から高台部 底	口 止 高 4.0		高台端部を除き底部内面と体部外面下位から高台に鉄軸と灰釉を掛け分ける。	掛分窯
第241回 PL.141	15	木製品 舟具柄	床 一部欠損	長 幅 73.6 厚 4.8	3.3	一部に削れの跡跡が見られるか。断面は小判状から一方の端部に向って太くなり、長方形になっていく。	
第241回 PL.141	16	木製品 棍太根	床 一部欠損	長 幅 60.5 厚 7.5	6.0	途中から欠損しているため、全体像は不明。根太に近い部分とみられる。	
第241回 PL.142	17	木製品 棍太	床 一部欠損	長 幅 89.5 厚 10.8	9.2	一方の端部は上下ともに斜めに切られている。四面を平らに削るが、角は取らず、樹皮が残る状態で丸くなっている。もう一方の端部は他の部位を受ける構造を持つ。	
第241回 PL.142	18	木製品(Y 字型) 不明	床 完形	長 幅 59.0 厚 51.0	3.3	一部に加工痕が残存している。上面に四角形の穴が開き、角材を差し込む仕組みか。一面は平らに切られているが、もう一方は丸みを帯びる。	
第241回 PL.142	19	礫石(カマ 下天板転 用)	床 完形	長 幅 33.3 厚 30.6 重 23800.0	19.5	発解状況から礫石と判断される。全般的に灰白色であるが表面の中央付近にはわずかに褐色部分が認められ柱の接觸部時の可動性がある。かまと構築材を転用したものと考えられる。	
第244回 PL.144	21	唐臼	床 完形	長 幅 63.0 厚 64.0 重	47.0 計測不能	内面から縦にかけては比較的滑らかである。外側は割削面で構成される。	
第242・ 243回 PL.143	20・ 1	木製品 桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅 51.7 厚 14.0	2.6	一部が劣化し破損している。節を持つ材を使用している。	
第242・ 243回 PL.143	20・ 2	木製品 桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅 69.7 厚 14.0	2.4	内面の底部に近い部分に手斧痕が見られる。破片が残存しているが、接合関係は不明。	
第242・ 243回 PL.143	20・ 3	木製品 桶(側板)	1号桶 大きく欠損	長 幅 50.4 厚 14.3	2.2	節を持つ材を使用している。鋸痕が残存するか。全般的に劣化が激しい。	
第242・ 243回 PL.143	20・ 4	木製品 桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅 48.4 厚 14.8	1.9	一部に加工痕が残存し、節のある材を使用している。	
第242・ 243回 PL.143	20・ 5	木製品 桶(側板)	1号桶 大きく欠損	長 幅 52.5 厚 15.0	2.4	一方のみ端部まで残存するが、全般的に劣化が見られる。	
第242・ 243回 PL.143	20・ 6	木製品 桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅 56.2 厚 16.4	3.0	大きさ劣化し、内部が空洞化している。一部に加工痕と見られるものがやや残る。節がある材を使用している。	
第242・ 243回 PL.143	20・ 7	木製品 桶(側板)	1号桶 大きく欠損	長 幅 55.3 厚 14.0	2.5	全体が劣化し、節部分を中心に残存している。	
第242・ 243回 PL.143	20・ 8	木製品 桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅 53.4 厚 14.7	2.5	全般的に劣化が見られるが、一部に加工痕が残存。	
第242・ 243回 PL.143	20・ 9	木製品 桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅 47.8 厚 13.6	2.7	内面に加工痕が見られる。節のある材を使用している。	
第242・ 243回 PL.143	20・ 10	木製品 桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅 43.8 厚 15.2	2.5	加工痕が内面に比較的良好に残る。	
第242・ 243回 PL.143	20・ 11	木製品 桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅 70.0 厚 14.8	2.3	残りは悪いが、加工痕は比較的明晰。特に内面に加工痕がよく見られる。	

第5章 平成30年度調査・確認された遺構と遺物

排 国 PL.No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第242・ 243回 PL.143	20-木製品 12-桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	68.2 厚 15.4	2.7	節を持つ材を使用している。内面に手斧痕が残る。	
第242・ 243回 PL.143	20-木製品 13-桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	68.5 厚 14.2	2.7	鋸痕が内面に見られる。外表面は劣化によりヤセ、痕跡は見られない。	
第242・ 243回 PL.143	20-木製品 14-桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	61.8 厚 15.2	2.6	内面に鋸痕が見られるが、外表面は劣化によるヤセが見られる。	
第242・ 243回 PL.143	20-木製品 15-桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	52.0 厚 8.0	2.6	他の側板より板の幅が狭い。節が残る材を使用している。	
第242・ 243回 PL.143	20-木製品 16-桶(底板) 完形	1号桶 完形	長 幅	51.8 厚 15.0	2.7	底板の一部。一部加工痕が残存。片面の内周部に凹みが見られる。	
第242・ 243回 PL.143	20-木製品 17-桶(底板)	1号桶 完形	長 幅	61.0 厚 15.5	2.8	一部に鋸痕が見られる。木釘、木釘穴が残存する。	
第242・ 243回 PL.143	20-木製品 18-桶(底板) 完形	1号桶 完形	長 幅	61.3 厚 21.2	3.0	4か所に木釘と木釘穴が残存する。鋸痕が一部に残る。	
第242・ 243回 PL.143	20-木製品 19-桶(底板) ほぼ完形	1号桶 ほぼ完形	長 幅	53.0 厚 15.0	2.5	底板の一部。片面に加工痕が残存する。木釘が残存し。一方の面が非常に劣化しやせている。	
第244回 PL.142	22-銅製品 煙管	1号桶 完形(巻首)	長 幅	7.4 厚 1.5 重	0.9 8.5	羅字が一部残存。肩があり、車輪と柄紋が彫られている。	
第244回 PL.142	23-銅製品 煙管	1号桶 完形(吸口)	長 幅	6.2 厚 0.9 重	0.95 6.4	肩があり、車輪と柄紋が彫られている。同じ文様であることから、27と対になるものと見られる。	
第244回 PL.142	24-銅製品 煙管	1号桶 完形(巻首)	長 幅	4.4 厚 1.7 重	1.5 10.3	肩があり、唐草文様にタガネ痕が見られる。一部に金色に光る部分が残存する。	
第244回 PL.142	25-銅製品 煙管	1号桶 完形(吸口)	長 幅	6.4 厚 0.95 重	0.95 5.3	羅字が一部残存。一部が金色に光る。小口から吸口に向けて、黒色の滴が見られる。	

25号建物

排 国 PL.No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第244回 27	瀬戸・美濃 床 陶器 碗	体部から高台部 破片1/3	口 底 (4.9)	深 高 (4.9)	夾雜物微量/灰白	体部外端に灰釉、螺旋状凹縫が回る。高台端部を除き体部中位から下位と高台は鉄釉。底部内面は灰釉。貫入がある。	體積確 定
第244回 PL.142	28-銅貨 新寛永か 完形	床 木	幅 横 2/3	2.19 厚 2.2 重	0.14 1.8	文字面が暗く劣化により見えづらい。背側に向けて、曲がっているが、使用時の状態からは不明。	
第244回 PL.142	26-砾石	1号桶 2/3	長 幅	(9.3) 厚 2.9 重	2.0 63.5	表面に砥面が認められ上下方向に向かい研ぎ減りする。裏面と左右両側面には櫛歯タガネ痕が明晰に認められる。	
第246・ 247回 PL.145	33-木製品 1-桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	79.0 厚 15.5	3.7	一部に手斧痕が残存しているか。	
第246・ 247回 PL.145	33-木製品 2-桶(側板) 破片	1号桶 破片	長 幅	42.0 厚 7.5	2.6	残存状態が非常によくない。	
第246・ 247回 PL.145	33-木製品 3-桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	80.5 厚 17.9	3.0	内面に手斧痕が残る。外表面は一部に手斧痕が見られるか。	
第246・ 247回 PL.145	33-木製品 4-桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	83.0 厚 13.8	3.7	全体の劣化が激しく、加工痕は見られない。	
第246・ 247回 PL.145	33-木製品 5-桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	77.8 厚 18.6	4.1	内端部とも欠損。両面ともに劣化し、加工痕などの詳細は不明。	
第246・ 247回 PL.145	33-木製品 6-桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	83.0 厚 14.7	3.7	端部に加工痕が見られるか。端部が激しく折れる。	
第246・ 247回 PL.145	33-木製品 7-桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	70.7 厚 14.3	3.6	一部手斧痕が残る。端部に向けて劣化によるヤセが激しい。	
第246・ 247回 PL.145	33-木製品 8-桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	51.0 厚 10.2	2.3	内部に加工痕が一部残存する。端部は欠損している。	

種類 No. PL.No.	器種	出上位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
			長 幅	厚			
第246・ 247号 PL.145	33-木製品 9 桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	67.0 厚 23.8	3.7	両面ともに劣化により表面が荒れ、加工痕等は不明。	
第246・ 247号 PL.145	33-木製品 10 桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	64.0 厚 15.3	3.4	劣化によるヤセが激しい。	
第246・ 247号 PL.145	33-木製品 11 桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	84.5 厚 12.6	3.5	内面に加工痕が見られる。凹みがあるが、使用時のものではないと思われる。	
第246・ 247号 PL.145	33-木製品 12 桶(底板)	1号桶 ほぼ完形	長 幅	81.8 厚 28.0	3.65	底板。木釘が残存し、2か所に木釘穴が開く。木釘穴が2か所に見られる。	
第246・ 247号 PL.145	33-木製品 13 桶(底板)	1号桶 完形	長 幅	88.8 厚 28.0	4.0	底板の一部。2片に割れ、側面に木釘が見られる。表面は一部劣化する。	
第246・ 247号 PL.145	33-木製品 14 桶(底板)	1号桶 ほぼ完形	長 幅	86.0 厚 18.1	3.5	底板。4枚で構成させるとみられる底板の一つ。木釘、木釘穴が両側面にある。	
第246・ 247号 PL.145	33-木製品 15 桶(底板)	1号桶 完形	長 幅	68.0 厚 11.3	4.2	底板。木釘が残存し、2か所に木釘穴が開く。	
第246・ 247号 PL.145 (1)	33-木製品 16 桶(側板)	1号桶 破片	長 幅	32.8 厚 15.2	3.0	劣化により、加工痕などの詳細は不明。	
第246・ 247号 PL.145 (2)	33-木製品 17 桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	54.8 厚 15.5	2.8	内面の一部に加工痕が残るか、節のある材を使用している。	
第246・ 247号 PL.145	33-木製品 18 桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	81.5 厚 8.5	3.3	劣化により、加工痕は不明。節に近い材を使用。	
第246・ 247号 PL.145	33-木製品 19 桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	81.0 厚 12.4	3.5	外側と見られる一部に手斧痕が見られる。	
第246・ 247号 PL.145	33-木製品 20 桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	80.0 厚 12.7	3.2	外側と見られる部分に一部加工痕が見られる。工具は不明。	
第246・ 247号 PL.145	33-木製品 21 桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	83.9 厚 21.0	4.2	外側は劣化により加工痕等は不明。内面に一部加工痕が見られるか。	
第246・ 247号 PL.145	33-木製品 22 桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	82.0 厚 10.8	3.4	内面の一部に加工痕か。全体的に加工痕は不明瞭である。	
第246・ 247号 PL.145	33-木製品 23 桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	79.7 厚 10.6	3.0	やや細めの側板。節を持つ材を使用している。	
第246・ 247号 PL.145	33-木製品 24 桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	82.2 厚 10.3	3.2	全体的に劣化によるヤセがあり、加工は不明瞭。	
第246・ 247号 PL.145	33-木製品 25 桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	80.2 厚 11.0	3.5	内面に手斧痕の痕跡があるが、加工の詳細不明。	
第246・ 247号 PL.145	33-木製品 26 桶(側板)	1号桶 一部欠損	長 幅	80.5 厚 14.0	3.5	全体的に劣化によるヤセが見られる。内面の一部に加工痕あり。	
第248・ 249号 PL.146	34-木製品 1 桶(側板)	2号桶 一部欠損	長 幅	75.8 厚 16.2	2.4	内面の一部に加工痕がのこり、側面に細かい削痕のような痕跡が見られる。	
第248・ 249号 PL.146	34-木製品 2 桶(側板)	2号桶 一部欠損	長 幅	60.3 厚 16.0	2.5	内面の一部に手斧痕を持ち、側面に細かな鋸と見られる痕跡が見られる。	
第248・ 249号 PL.146	34-木製品 3 桶(側板)	2号桶 一部欠損	長 幅	58.6 厚 15.7	2.5	一部内面に手斧痕が残る。その他は不明瞭。	
第248・ 249号 PL.146	34-木製品 4 桶(側板)	2号桶 一部欠損	長 幅	71.0 厚 18.6	3.3	内面に手斧痕。底部に近い部分は別な道具で削り込んで底板用の調整のように見られる。上部は欠損する。	
第248・ 249号 PL.146	34-木製品 5 桶(側板)	2号桶 一部欠損	長 幅	72.4 厚 16.0	2.5	劣化によるヤセが激しく、加工痕は不明瞭。	
第248・ 249号 PL.146	34-木製品 6 桶(側板)	2号桶 一部欠損	長 幅	72.7 厚 18.2	2.4	内面の一部に加工痕が残存しているか。節を持つ材を使用している。	
第248・ 249号 PL.146	34-木製品 7 桶(側板)	2号桶 一部欠損	長 幅	72.8 厚 16.2	2.6	節を持つ材を使用している。全体的にヤセしているが、内面は手斧痕が良好。特に下部に見られる。	

第5章 平成30年度調査・確認された遺構と遺物

拂 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第248・ 249回 PL.146	34-8	木製品 桶(側板)	2号桶 一部欠損	長 幅	70.4 21.0	2.8	内面に手斧痕が残る。側面に加工痕が見られ、表面と同じ 趣による加工か。	
第248・ 249回 PL.146	34-9	木製品 桶(側板)	2号桶 一部欠損	長 幅	76.6 16.8	2.6	側板の上部は手斧痕が残り、下部は手斧痕が残る。底板を 入れる際の調整か。	
第248・ 249回 PL.146	34-10	木製品 桶(側板)	2号桶 一部欠損	長 幅	72.8 17.8	3.1	2号桶の側板は同傾向を持つ。タガの痕跡が非常に目立つ。	
第248・ 249回 PL.146	34-11	木製品 桶(側板)	2号桶 一部欠損	長 幅	69.5 16.5	2.7	内面に一部手斧痕を持つ。節を持つ材を使用している。	
第248・ 249回 PL.146	34-12	木製品 桶(側板)	2号桶 一部欠損	長 幅	70.8 20.0	2.8	一部手斧痕が見られるが、全面的にヤセており、見えづら い。	
第248・ 249回 PL.146	34-13	木製品 桶(側板)	2号桶 一部欠損	長 幅	72.1 16.0	2.6	節を持つ材を使用している。内面の一部に手斧痕が残存。 側面には節とみられる加工痕が残る。表面は劣化によりヤ せる。	
第248・ 249回 PL.146	34-14	木製品 桶(側板)	2号桶 一部欠損	長 幅	67.5 16.8	2.4	全体的に劣化により、ヤセしており、加工痕は明瞭ではない。	
第248・ 249回 PL.146	34-15	木製品 桶(底板)	2号桶 完形	長 幅	50.0 10.6	3.2	底板の一部。内面は鋸で切られ、もう一方は手斧で加工し ている。2か所木釘穴が残存する。内側の縁を削り、それ ぞれの底板のつなぎ目は外側から削る。	
第248・ 249回 PL.146	34-16	木製品 桶(底板)	2号桶 完形	長 幅	70.0 25.7	3.4	底板の一部。内面は鋸で切られ、もう一方は手斧で加工し ている。2か所木釘穴が残存する。内側の縁を削り、それ ぞれの底板のつなぎ目は外側から削る。	
第248・ 249回 PL.146	34-17	木製品 桶(底板)	2号桶 完形	長 幅	70.3 23.5	3.2	底板の一部。内面は鋸で切られ、もう一方は手斧で加工し ている。2か所木釘穴が残存する。内側の縁を削り、それ ぞれの底板のつなぎ目は外側から削る。	
第248・ 249回 PL.146	34-18	木製品 桶(底板)	2号桶 完形	長 幅	55.0 13.6	3.4	底板の一部。内面は鋸で切られ、もう一方は手斧で加工し ている。2か所木釘穴が残存する。内側の縁を削り、それ ぞれの底板のつなぎ目は外側から削る。	

庭

拂 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第245回 PL.142	29	木製品 諫柄	確認面 ほぼ完形	長 幅	54.2 3.4	2.0	断面が小判形を呈し、一部木材のヤセが見られる。	
第245回 PL.142	30	木製品 諫	庭 一部欠損	長 幅	32.7 8.7	2.6	刃を接続する部分が一部に残存する。上面は丸みを帯び、 下面是平となる。	
第245回 PL.144	31	鉄製品 諫	確認面 ほぼ完形	長 (32.0) (12.7) 重			平鍬、装着部が一部変形している。やや全体の劣化が見ら れる。	
第245回 PL.144	32	木製品 埋肥2	埋肥2 完形	長 幅	14.9 5.5	3.1	一本木製。小ぶりなもので、指輪のようなものが見られる。 裏は板で補り込んでいる様子が見られる。	

第136表 N2建物群出土遺物

26号建物

拂 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第250回 PL.147	1	瀬戸・美濃 陶器 小碗	床 2/3	口 底	6.8 3.2	4.2	6点の小片からなっている。内面から体部外下面に灰軸、 貫入がある。体部下位から高台は無軸。	
第250回 PL.147	2	瀬戸陶器 すり鉢	床 口縁部破片	口 底		器 高	刃を接続する部分が一部に残存する。上面は丸みを帯び、 下面是平となる。	
第250回 PL.147	4	瀬戸陶器 すり鉢	床 1/2	口 底	29.4 11.3	11.1	口縁端部は外側に傾斜する。体部上方はくびれ、屈曲する。 内面に16本一単位のクシ目。体部外表面は回転ヘラケズリ。 内外面に鉛軸。	
第250回 PL.147	5	陶製品 煙管(椎首)	床 一部欠損	長 幅	5.8 高 1.6 重	1.2 22.9	羅宇が一部残存。羅で覆われており、劣化も見られる。	
第250回 PL.147	7	鉄製品 鍔	床 4/5	長 幅	27.9 5.6 重	4.9 349.0	全体が固く厚い筋で覆われている。持ち手に当たる部分は ねじられている。	
第250回 PL.147	10	鉄製品 鍔	床 一部欠損	長 幅	36.6 高 6.9 重	1.5 385.0	内鍔部が、90°異なる方向に折れ曲がる。形状は羅に似て いる。	
第250回 PL.147	6	銅製品 煙管(吸口) か	1号土坑 一部欠損	羅 幅	3.6 高 1.75 重	1.6 4.4	吸口状の銅製品。小口部分が非常に厚く、3層の網が覆っ ているよう見られる。	

底

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2504 PL.147	3	陶器 一次加工品	確認面 高台部	口 底	5.2	器 高	夾雜物微量/灰	底部内面は褐色の胎土。高台は無釉。高台脇と高台の一部を細かく叩き出して円盤状に加工。	底
第2506 PL.147	8	耐製品 あて小判	1号柄 ほぼ完形	長 幅	(5.7)	3.6	重	小判形に薄く延ばされた鋸板。非常にもりい状態である。	
第2508 PL.147	9	石鉢	確認面 2/3	径 幅	34.8	厚 重	16.5 11000.0	粗粒輝石安山岩	鉢内面の底部は滑らかでなく小さな凹凸が認められる。縁から外面向けての加工は「序」であり比較的滑らかである。底面の加工は比較的粗く棒状の工具痕が認められる。 3点接合 (5道5石 No.12、 5道1溝 No.2)

第137表 28号建物出土遺物

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2514 PL.147	1	石臼(上)	上坑 2/3	径 幅	35.4	厚 重	(12.9) 12400.0	粗粒輝石安山岩	底面のすり合わせ面には挽き手の痕跡は認められない。供給孔の一部が認められる。側面には喇叭形の挽き手孔が認められる。軸受孔の直径約4cm。
第2514 PL.147	2	不明	建物周辺 不明	長 幅	(24.9) (27.0)	厚 重	(9.8) 5850.0	粗粒輝石安山岩	表面は比較的平坦であり全体的に小さな凹凸面で構成され棒状の工具痕が明瞭に認められる。表面の中央付近には黒色物質の付着が認められる。底面には棒状あるいは平盤状の工具痕が認められ脚の一部が残る。
第2514 PL.147	3	陶器 一次加工品	カマド 口縁部から体部 底 破片1/5	口 底	10.5	器 高		夾雜物微量/灰	外側面に褐色の胎土。
第2514 PL.147	4	陶器 二次加工品	1号柄 高台部	口 底	4.6	器 高		夾雜物微量/にぶい赤褐	底部内面は褐色の胎土。体部外側下位から高台は釉を施してから拭う。高台脇を細かく叩き出して円盤状に加工。
第2514 PL.147	5	肥前織田 染付碗	建物周辺 体部から高台部 破片	口 底	(3.8)	器 高		夾雜物なし/灰白	体部外側に不明文。体部下位と高台境、高台に巻線。内面は無文か。
第2514 PL.147	6	陶器 二次加工品	建物周辺 高台部	口 底	4.5	器 高		夾雜物微量/灰	底部内面は灰釉。体部外側下位から高台は無釉。高台脇を細かく叩き出して円盤状に加工。
第2514 PL.147	7	陶器 二次加工品	建物周辺 高台部	口 底	4.6	器 高		夾雜物微量/灰	底部内面と高台端部を除き体部外側下位から高台は灰釉、買入が入る。高台脇を細かく叩き出して円盤状に加工。
第2514 PL.147	8	木製品	建物周辺 曲げ木底板	長 幅	8.8	厚	0.5		半円形に残存する。側面に2か所側板をとめる穴が開いている。

第138表 積穴建物出土遺物

13号堅穴建物

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2544 PL.148	1	灰釉陶器 杯	床面 1/2	口 底	13.2 6.6	高 6.6	3.3 微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ右回転か。底部は回転ラナデ。高台は貼付。施釉方法は刷毛塗りか。底面外周に墨書き、判読不能。	光ヶ丘1 号窯式期
第2544 PL.148	6	須恵器 甕	床~0.5cm 制限部位1/4	底	13.6		粗砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	外側は平行引き瓶がかかるが残るが、ほとんどがナデ消されている。内面もテテ具瓶が残るが、ほとんどナデ消されている。	
第2544 PL.148	7	鐵製品 鍵	床+2cm 一部欠損	長 幅	13.4 5.3	厚 重	1.63	折り返しによる耳のある鍵。劣化が激しい。	
第2544 PL.148	8	鐵製品 刀子	床+1cm 先端部欠損	長 幅	16.1 2.1	高 重	1.2 22.9	鞘部分の本質が残存。劣化しており、空洞化している。	
第2544 PL.148	2	須恵器 杯	貯藏穴 口縁部~体部下 位	口	13.0		粗砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ右回転か。	
第2544 PL.148	3	須恵器 甕	貯藏穴 口縁部	口	11.8		粗砂粒/酸化焰/暗 青	ロクロ整形、回転方向不明。	
第2544 PL.148	4	上飾器 埋没(ロクロ 甕)	埋没上 口縁部~胴部片	口	9.8		粗砂粒/良好/にぶい 黄褐色	ロクロ整形、回転方向不明。甕は貼付。胴部は下位から跨へ向けてのヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第2544 PL.148	5	須恵器 羽釜	床下上坑 口縁部~胴部 1/3	口	10.0		粗砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 褐色		

第5章 平成30年度調査・確認された遺構と遺物

14号竪穴建物

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 余 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第255図 PL.148	1	土師器 杯(有段口 縁杯)	埋没土 口縁部～底部片	口	14.4		粗砂粒/良好・燃 し/黒	口縁部に段を有する。口縁部は横ナデ、底下はヘラ削り。	

15号竪穴建物

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 余 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第256図 PL.148	1	灰釉陶器 皿	床+1cm 体部下位～底部	底	7.4		微砂粒/還元焰/灰 白	クロロ右回転か。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。施釉 方法は溶け掛けか。底部外面に墨書き、判読不能。	大原2号 窯式期
第256図 PL.148	2	瀬戸・美濃 陶器 徳利か	道標面直上 埋没土(2層) 体部破片	口 底	器 高		夾雜物微量/灰灰	体部外面に螺旋状凹線が巡る。体部外面は灰釉、貫入が入 る。内面は無釉。	

第139表 その他遺構出土遺物

道

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 余 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第258図 PL.148	1	瀬戸・美濃 陶器 碗	1号道4号ヤツ クラ 口縁部から体部 破片	口 底	(11.6)	器 高	夾雜物微量/灰	内外面に灰釉。	江戸時代
第260図 PL.148	3	瀬戸・美濃 陶器 碗	5号道1号溝脇 1/2	口 底	(10.8) 5.3	器 高	7.5 夾雜物微量/灰	内面から体部外面下位に灰釉。体部下位から高台は無釉。	江戸時代
第260図 PL.148	1	唐白	5号道5号石垣 遺構面 完形	長 幅	56.0 59.0	厚 重	-30.3 計測不 能	内面から縁にかけては比較的滑らかである。外面は打削面 で構成される。	
第260図 PL.148	2	瀬戸・美濃 陶器 碗	5号道5号石垣 体部から高台部 破片1/3	口 底	(3.6)	器 高	夾雜物微量/灰白	口縁部は直立気味に立ち上がる可能性が高い。高台端部を除き底部内面と体部外面と高台に灰釉。貫入がある。	18世紀後 半 せんじ窯 か
第260図 PL.148	4	肥前陶器 皿	5号道5号石垣 内1/3	口 底	(5.9)	器 高	夾雜物微量/灰黄	底部内面に蛇の目釉剥落。内面から体部外面下位に灰釉、 貫入がある。体部下位から高台は無釉。	18世紀前 半
第260図 PL.148	5	瀬戸・美濃 陶器 片口	5号道5号石垣 遺構面 口縁部から体部 破片	口 底	(16.1)	器 高	夾雜物少量/淡黄	口縁端部は平坦をなし、口縁部の外側は段をなして厚づす る。内外面に褐色の脂釉。	18世紀中 葉
第264図 PL.149	1	瀬戸・美濃 陶器 香炉	11号道9号石垣 体部から底部破 片	口 底	(8.0)	器 高	夾雜物微量/灰白	体部外面下位に丸ノミ削ぎで半菊文を描く。体部から腰部 は褐色の脂釉。内面と底部外面は無釉で、脚が1か所残存。	18世紀
第264図 PL.149	2	瀬戸・美濃 陶器 皿か	11号道9号石垣 体部から高台部 破片	口 底	(13.1)	器 高	夾雜物少量/灰白	体部内面下位と底部中央にクシ目。中央に銅鉢輪。内面と 体部外面下位から高台の一部に灰釉。体部外面は回転ヘラ ケズリ。高台は無釉。底部内面に2か所の牡丹餅状重ね燒 き痕。	江戸時代

溝

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 余 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第265図 PL.149	1	銘賀 新寛永	9号溝周辺 完形	縦 横	2.43 2.44	厚 重	0.07 2.4	郭の形がやや浅く、細い。文字は明瞭。	

10

種類 P.L.No.	種類 器	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第279回 PL.149	1 腹前陶器 陶器附身碗	15号烟 1/3	口 底 (9.8) (4.2) 器 高	5.4	夾雜物微量/灰	口縫端部直下外面と体部下位を圓錐で区画し、東屋山水文を描く。高台に圓錐。内面は無文か。高台端部を除き内外面に透明釉、買入がある。	18世紀 江戸時代
第279回 PL.149	2 瀬戸・美濃 陶器碗	26号烟 体部から高台部	口 底 5.2 高	5.2 高	夾雜物微量/灰白	底部内部と体部下面下位に灰釉。体部下位から高台は無釉。	江戸時代
第279回 PL.149	3 砥石	26号烟 1/2	長 幅 (6.5) (3.0) 厚 重	1.5 38.3	砥沢石	表面は上下方向に向かい研ぎ減りし主に縱方向の綫条痕が認められる重要な紙面と考えられる。裏面は全体的に滑らかであり底面と判断される。左右両側面には櫛齒整齊がわずかに認められるが滑な部分が広範囲に渡り便宜的な紙面と考えられる。	
第279回 PL.149	4 鉄製品 煙管(雁首)	38号烟 ほぼ完形	長 幅 6.1 1.7 重	2.0 7.7		上になぎ目がある。筋で覆われ、劣化している部分も見られる。	
第279回 PL.149	5 磁器 小碗	44号烟 口縫部から体部 破片	口 底 (7.2)	器 高	夾雜物なし/灰白	内外面に透明釉。	
第279回 PL.149	6 陶器 すり鉢	44号烟 6号石垣 体部から底部破 底	口 底 (11.2)	器 高	夾雜物少量/灰	体部外面下位に黒色釉、体部下位から底部は無釉。底部は回転式切面に無調整。内面にはクシ目。内外面に炭化物が付着。	
第279回 PL.149	7 瀬戸・美濃 陶器 口力丸	44号烟 6号石垣 口縫部破片	口 底	器 高	夾雜物少量/灰白	口縫端部は平坦をなし、口縫端部下外面に円輪が巡る。内面に灰釉を施し、外面部に縦斜線を捺す。	江戸時代
第279回 PL.149	8 瀬戸・美濃 陶器 碗	54号烟 口縫部から体部 2/3	口 底 9.5 高	器 高	夾雜物微量/灰白	小片からなっている。内面から体部外面中心に灰釉、買入がある。体部中位に螺旋状凹線が巡る。体部外面中位から下位は褐色の鉄釉。	江戸時代 鐵釉
第279回 PL.149	9 陶器 碗	75号烟 体部から高台部	口 底 4.4	器 高	夾雜物微量/灰白	底部内部と体部下面下位に黄灰色の釉。体部下位から高台は無釉。	江戸時代
第279回 PL.149	10 鉄製品 鍋	75号烟 1/4	長 幅 31.0 23.0 厚 重	0.5		口が大きくなっているが、カマドにかける網と考えられる。	

十一

番 国 PL.No.	種 類 器	出上位置 残 空 余	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第28784 PL.149	1 國文上器 深鉢	15号上坑 埋没土 制部破片	口 高	— 底	— ■■石英・雲母/良 好/赤褐色	外反する体部上半。羅位沈線による懸垂文構成か。羅位LR を施す。内面平滑な撫で調整。	五領ヶ台 2式
第28785 PL.149	2 國文上器 深鉢	15号上坑 埋没土 制部破片	口 高	— 底	— ■■石英・輝石/良 好/暗赤褐色	外反する体部上半。沈線によるU字状意匠以下小波状沈線 による懸垂文が2条配される。厚手で内外面撫で調整。	五領ヶ台 2式
第28786 PL.149	3 國文上器 深鉢	17号上坑 埋没土 制部破片	口 高	— 底	— ■■輝石・片岩粒/良 好/赤褐色	低位垂下線による懸垂文構成。側面に平行沈線と交叉刻 文。地及び隣線上に羅位亂を施す。内面弱い研磨。	五領ヶ台 2式
第28786 PL.149	4 國文上器 深鉢	192号上坑 埋没土 口縁部破片	口 高	— 底	— ■■石英・輝石・片 岩粒/良好/明赤 褐色	口縁部内凹。口部外に袋切目。口縁部は羅位に画された 間を横位沈線と交叉刻文。結節沈線文が施される。口頭 部は横位沈線で画され端部端沈線を充填する。内面は平滑 な撫で調整を施す。	五領ヶ台 2式
第28787 PL.149	5 國文上器 深鉢	192号上坑 埋没土 制部破片	口 高	— 底	— ■■石英(多)・褐 色粒/良好/黄褐色	長脚状の体部か。羅位結節端沈線が複数。結節部2条の施 文。内面撫で調整。6~8同一個体か。	五領ヶ台 2式
第28788 PL.149	6 國文上器 深鉢	192号上坑 埋没土 制部破片	口 高	— 底	— ■■石英/褐色粒/ 良好/にぶい黄褐色	結節端沈線位施文。結節部2条。内面撫で調整。	五領ヶ台 2式
第28789 PL.149	7 國文上器 深鉢	192号上坑 埋没土 制部破片	口 高	— 底	— ■■石英・褐色粒/ 良好/黄褐色	羅位結節端文虹。結節部2条の施文。内面撫で調整。	五領ヶ台 2式
第28790 PL.149	8 國文上器 深鉢	192号上坑 埋没土 制部破片	口 高	— 底	— ■■石英/褐色粒/ 良好/黄褐色	結節端沈線位施文。結節部2条。内面撫で調整。	五領ヶ台 2式
第28791 PL.149	9 國文上器 深鉢	192号上坑 埋没土 底部のみ残存	口 高	— 底	6.8 ■■:石英・輝石/ 良好/赤褐色	端部側からに突出し、外反気味に立ち上がる。底面は平坦で 弱い撫で調整。内面も撫で調整を施し傷が付着する。	五領ヶ台 2式

第5章 平成30年度調査・確認された遺構と遺物

井戸

井戸 PL.No.	No.	種類 器	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第301回 PL.149	1	陶器 湯呑碗	埋没土 完形	口 底	5.8 4.0	器 高	5.8 夾雜物微量/黒褐色	体部外面に粘土塊を貼り付け、陽刻の木実文様を入れる。底部下位は櫛彫。高台は蛇の目凹形高台。高台端部を除き内面には灰釉。外側の口縁部に灰釉化を軽描け。高台端部は鉄鋸。	近現代
第301回 PL.149	2	鐵貨 十銭	埋没土 完形	縦 横	2.17 2.18	厚 重	0.16	昭和十六年。一部劣化により、凹みが見られる。	
PL.149	3	鐵製品 網杓・のみ	埋没土 一部欠損	縦 横	16.5 23.2	厚 重	10.5 88.3	近代の柄杓。ブリキと見られる。同時に馬具のハミの一郎が出土している。	

遺構外

井戸 PL.No.	No.	種類 器	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第302回 PL.149	1	縄文土器 深鉢	N区西4層下 制部破片	口 高	—	底 —	—	縄文石・雲母/良好にぶい黄褐色	縦位結節沈線文を施す。縦位部2条の施文。外側器壁剥落。内面丁字な横位撫で調整。
第302回 PL.149	2	縄文土器 深鉢	N区西4層下 制部破片	口 高	—	底 —	—	縄石英(少)/鮮 石英(少)/良好/明赤褐色	小径で段状の体部。体部上半に横位沈線と交互斜突文を重ねる。下半は縦位L字を施し沈線を重ねる。縦位波状沈線文か。内面は黒色で丁寧な横位撫で調整を施す。
第302回 PL.149	3	縄文土器 深鉢	N区 制部破片	口 高	—	底 —	—	縄石英・輝石・白 色粒/良好/明赤褐色	内溝する体部上半。縦位平行沈線と2種類の縦位連続斜突文が施される。内面平滑な撫。
第302回 PL.149	4	縄文土器 浅鉢	N区西4層下 底部破片	口 高	—	底 —	(7.8)	縄石英(少)/鮮 石英(少)/白色粒/良 好/明赤褐色	体部下半は外反気味に強く開く。外面は縦位・斜位研磨、内面は横位研磨を施す。底面網代痕(1超1潜1送)。
第302回 PL.149	5	縄文土器 深鉢	13号窓穴建物 埋没土 口縁部破片	口 高	—	底 —	—	粗石英・雲母/良 好にぶい赤褐色	口縁部内溝。弧状隆線に沿って内皮による半隠起沈線が重複施される。内面弱い撫で調整。
第302回 PL.149	6	弥生土器 甕	N区9号トレーン 制部破片	口 高	—	底 —	—	粗;石英/やや軟 質/淡黄色	小波状口縁を呈する。口縁部屈曲部に横位沈線を設け。上位は横位撫を施す。やや軟質で器面摩滅する。
第302回 PL.149	7	弥生土器 甕	P区2面 制部破片	口 高	—	底 —	—	粗;石英/良好に ぶい褐色	長縦部破片。横位沈線で多段に画された間を縦位矢羽状短沈線。縦位短沈線を重ねる。内面器壁削落。
第302回 PL.149	8	弥生土器 甕	M区東 底部破片	口 高	—	底 —	(7.8)	粗;石英・輝石・白 色粒/良好にぶい 橙色	底面中央は薄手。体部下半は開く。横位矢羽状短沈線を施す。内面は平滑な撫で。器面摩滅。
第302回 PL.149	9	鹿屋窯系青 磁	N区東A下 口縁部破片	口 底	—	高 —	—	夾雜物なし/灰白	口縁部外面に縦連弁文。内外面に青磁釉。
第302回 PL.149	10	京・信楽系 陶器か 瓶	N区基本土層2 層下面 体部から高台部	口 底	3.3	器 高	—	夾雜物微量/灰白	底部内面と体部外面下位から高台の一部に灰釉、買入が入る。体部下位から高台は無釉。割り出した高台は、ややシャープな作り。
第302回 PL.149	11	瀬戸・美濃 陶器 碗	N区東 体部から高台部 破片1/2	口 底	(4.4)	器 高	—	夾雜物微量/灰	底部内面と高台端部を除き体部外面下位から高台は灰釉。買入が入る。高台端部は無釉。
第302回 PL.149	12	瀬戸・美濃 陶器 碗	3号復旧坑 体部から高台部 破片1/2	口 底	5.4	器 高	—	夾雜物微量/灰白	底部内面と体部外面下位に褐色の断釉。体部下位から高台は無釉。高台脇を細かく叩き出している。
第302回 PL.149	13	肥前陶器 碗	N区西4層下 高台部破片	口 底	(4.5)	器 高	—	夾雜物微量にぶ い赤褐色	底部内面は白土を化粧掛けし。高台端部を除き内外面は長石釉。
第302回 PL.149	14	瀬戸・美濃 磁器 染付碗	O区2号トレーン 1/2	口 底	(10.4) (4.0)	器 高	—	夾雜物なし/白	口縁端部は外側に少し端反る。口縁部直下の外側に圓線。口縁部と体部下位に短い縦縞文を描き、間にレンズ状の白抜き文様を描く。高台脇と高台に圓線。口縁部直下内面に二重圓線。見込みに圓線。中央に不明跡。

第140表 未掲載遺物(縦文、彌生)

出土地点	土器型式	点数
南側	M区トレンチ 不明	1
北側	13号竪穴建物 五頭ケ台2式 腹之内2式 不明 13号竪穴建物カマド 五頭ケ台2式 13号竪穴建物掘り方 五頭ケ台2式 149号上坑 五頭ケ台2式 154号上坑 五頭ケ台2式 156号上坑 五頭ケ台2式 178号上坑 五頭ケ台2式 192号上坑 五頭ケ台2式 453号ピット 獣版2式 491号ピット 五頭ケ台2式 N区東 彌生 N区西4層下面 五頭ケ台2式	3 1 1 3 1 4 1 1 1 4 1 1 23
東側	P区2面 諸磯c式 五頭ケ台2式 獣版2式	1 7 1

第141表 未掲載遺物(古代)

地区	区	遺構名	土師器			須恵器			内黒土器	施釉陶器	その他・不明
			小	中	大	小	中	大			
		13号竪穴建物		9片	129g	3片	11g		16片	967g	2片 14g
		14号竪穴建物		3片	25g				2片	26g	1片 15g
		15号竪穴建物		2片	5g	1片	5g				1片 2g
		155上		1片	19g				1片	55g	
		193上									
		471P		1片	59g						
		26建物		1片	20g						
		28建物		1片	24g						
27	33	D7グリッド					1片	14g			
27	33	A8グリッド	1片	2g		1片	1g				
27	33	A6グリッド							1片	12g	1片 1g
27	33	C6グリッド		1片	5g		1片	23g			
27	33	B7グリッド		2片	9g	1片	2g		3片	49g	2片 3g
27	33	E4グリッド							1片	37g	
27	33	N区中央				1片	18g				
27	33	2トレンチ				2片	2g				1片 1g
27	33	3トレンチ		1片	3g	1片	6g	3片	25g	1片 20g	
27	33	N区No29_4tr				1片	10g				
27	33	N区1面下限認面								1片 14g	
27	33	N区4層下面				1片	4g			1片 27g	
27	33	N区No12=2tr				1片	1g				
27	33	N区No14=2tr									1片 1g
27	33	N区No15=2tr				1片	1g				
27	33	N区No16=3tr		1片	3g						
27	33	N区No18=3tr					1片	6g		1片 20g	
27	33	N区No19=3tr							1片	2g	
27	33	N区No20=3tr							1片	4g	
27	33	3trNo25							1片	19g	

大小は想定器形の大小に基づく。小は杯・碗・皿など、中は高杯・小型壺など、大は甕・羽釜・壺など。

左 破片点数、右 破片重量

第5章 平成30年度調査・確認された遺構と遺物

第142表 未掲載遺物(中近世)

区 別 位 ・面	遺構番号	遺構種	中 世						近 世						近 現 代					
			中国磁器		国产焼陶器		在地系鉢・鍋		国产磁器		国产焼陶器		陶器・磁器		土器類		ガラス			
			点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量		
M	泥流直下								1	1										
M	泥流	一括							1	2										
M	1	西側							1	5	1	20								
N		一括							2	10	6	20								
N	1	一括									9	65								
N	2	一括					2	10												
N		東一括							1	10	4	20								
N		西一括									1	15								
N	26										2	25								
N	6						2	70			13	110								
N	1層	11			1	4														
N	4層下	一括														1	65			
P	2	一括	1	2							1	2								
N	7	トレンチ							1	5	1	10								
N	6	トレンチ									1	5								
N	2	復旧溝									1	5								
N	5	道									1	5								
N	5	石垣							1	5	10	170								
N	1	溝							1	5	4	85								
N	11	道					1	5	1	2	8	20								
N	9	石垣							1	30										
N	1	井戸														1	95			
N	14	烟									1	5								
N	15	烟									2	40								
N	26	烟							1	5	19	135								
N	37	烟									2	5								
N	41	烟									3	30								
N	42	烟									1	5								
N	54	烟									2	10								
N	62	烟							1	20	1	5				2	10			
N	63	烟																		
N	75	烟									21	340								
N	76	烟							1	5	4	20								
N	77	烟							1	5										
N	82	烟									5	50								
N	92	烟							3	5	1	5								
N	22	建物							1	5	6	30								
N	22	建物112									20	210								
N	堆肥置場	1・2	トレンチ								1	2								
N	2	堆肥									3	5								
N	25	建物5									4	30								
N	Z号桶	25	建物								1	5								
N	1号桶	26	建物								1	10								
N	26	建物									1	5								
N	26	建物3							5	30	18	215								
N	1号土坑	26	建物								1	10								
N	27	建物									1	5								
N	27	建物1			1	50			1	2										
N	28	建物1									27	250								
N	28	建物									2	10								
N	1	石積み							2	10	3	20								
P	12	ヤッカラ									2	10								
P	11	ヤッカラ									2	5								
N	18I	土坑									1	70								
計			2	6	1	50	5	85	27	162	219	219	2	10	1	65	1	95		

第2節 平成30年度調査と以前の調査

平成30年度の発掘調査では、これまで未調査であった国道部分が対象とされた。この調査により、複数遺構の未調査部分の成果を得ることができた。本節はこうした過年度の調査成果と関連する遺構をとりあげ、年度ごとの成果を統合して一体として掲載する。なお、以下に掲示した遺構はいずれも天明泥流直下に位置する。

第1項 磐石建物

1 N1建物群2号建物(第304図)

位置 34区X～35区B-20～22グリッド、北側調査区西半に位置する。

形状等 4間×8間の南平入の東西棟磐石建物が確認された。

規模 桁行12.62m、梁間6.75m。桁行柱間平均1.57m、梁間柱間平均1.71m。

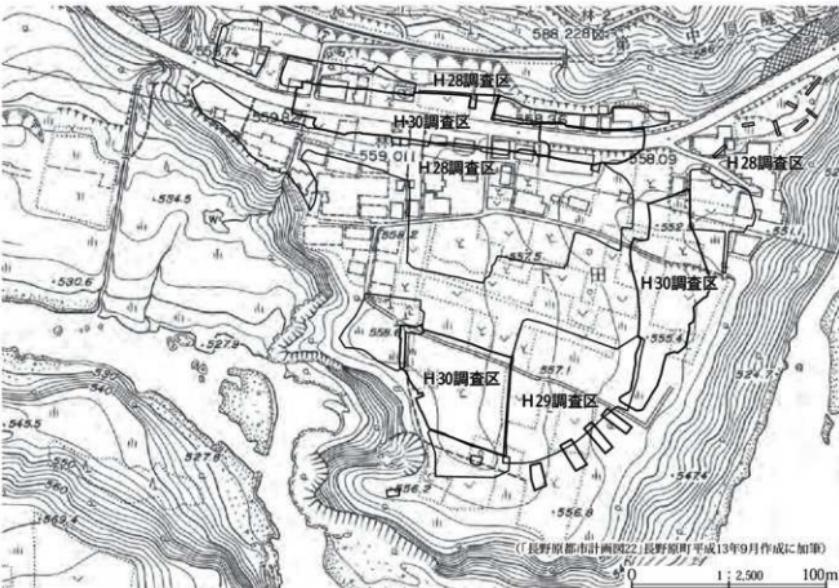
桁行方向(度) N-80-W

本体構造 平成28年度調査の建物北西部は建物外周の礎石間に小振りの石を連ねた列石状態となっているのに対し、平成30年度調査の建物東半は礎石間に石は置かれていない。また桁行柱間も西半の平均1.83mに対し、東半は1.31mとなっている。

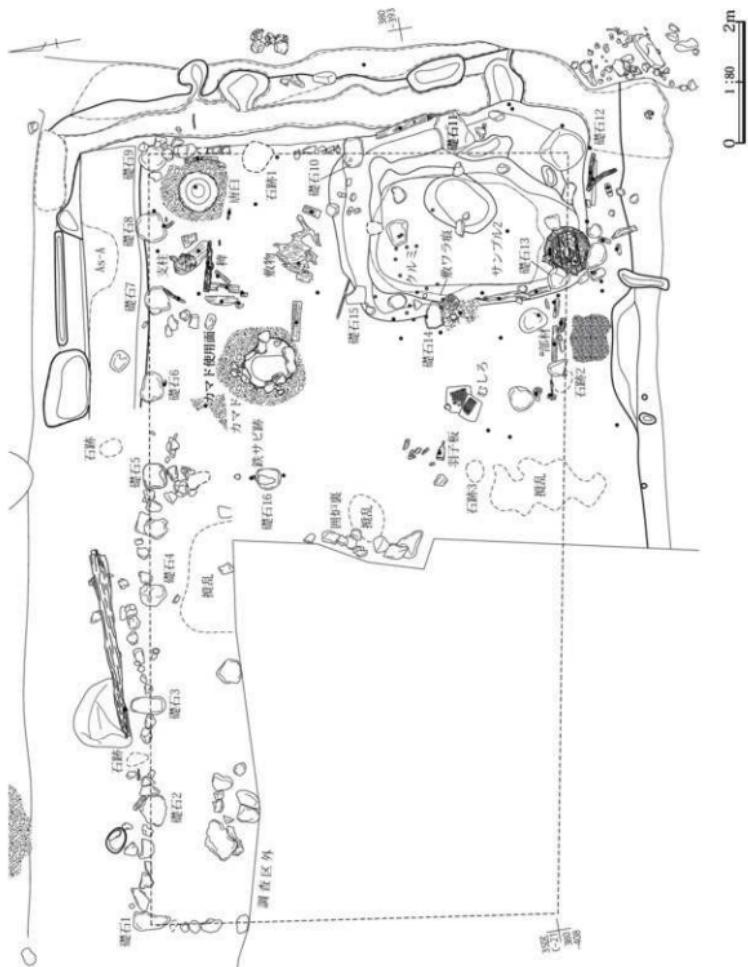
付属施設 カマド、囲炉裏、馬屋、埋設桶、台唐。

遺物 肥前磁器染付碗、瀬戸・美濃陶器小碗、瀬戸・美濃陶器碗、瀬戸・美濃陶器すり鉢、石臼、砥石、鉄鍋、鉄蓋、漆椀蓋、鎌等の柄、羽子板、木槌、曲げ物底板、下駄、部材や種子類が出土している(詳細は、本書3章1節3項1および5章1節2項1(1)参照)。

所見 建物西南隅の一画が未調査ではあるが、建物東半に作業空間である土間、建物西半に居住空間である土座あるいは板敷を設ける構造と推測される。光付けを施された横架材が出土しており、建物西半には敷き土台あるいは柱根方での足固めが用いられたと推察される。礎石間に小振りな石を並べ列石とする西半に対し、東半桁行柱間は礎石間に石を並べた痕跡が認められず、柱根方の固定方法が相違すると推測される。ただし、建物東辺に



第303図 年度毎の調査区



第304回 22号建物

第143表 22号建物柱間計測表

相行 柱間	相行 柱間	相行 柱間	相行 柱間	相行 柱間	相行 柱間	相行 柱間	相行 柱間	相行 柱間	相行 柱間
■G61	- 1.88 - ■G62	- 1.70 - ■G63	- 1.85 - ■G64	- 1.89 - ■G65	- 1.49 - ■G66	- 1.44 - ■G67	- 1.20 - ■G68	- 1.12 - ■G69	12.57
梁行柱間									
				1.87		3.31		1.70	
				■G616	- 5.33			- ■G61	
梁行柱間									
				3.40				1.61	
				■G615	- 2.36			- ■G610	
梁行柱間									
				1.30				1.69	
				■G613	- 2.66			- ■G614	- 2.89
梁行柱間									
				2.11				1.83	
				■G602	- 1.71 - ■G603	- 2.10		- ■G612	
梁間				6.76	6.58			6.88	

小振りな石が散見されるため、西半と同様な構造であった可能性は残る。

第2項 道

1 1号道(第305、306図)

位置 33区O～Y-3～20グリッド、34区A～W-1～20グリッド、24区Q～R-22～25グリッド。北側調査区中央辺に位置する。

形状等 遺跡を東西に走る。北に抜ける支道2条と南に抜ける支道1条を持つ。

規模 東西部(85.6)m、幅0.32~1.24m。南への支道(25.3)m、幅0.33~0.75m。東側の支道8.41m、幅0.27~0.34m。西側の支道(59.91)m、幅0.29~0.94m。

走行方向(度) 東西部N-88-W。南への支道N-14-E。

付属施設 10号溝、4号ヤックラ、11号ヤックラ。(10
号溝と11号ヤックラについては5章(第4節)を参照)

所見 1号道の西側支道は、台地北端の上位段丘の崖下まで続いていたと推察されるが、上位段丘へと続く道筋との接続については確認されていない。ただし調査時点において、上位段丘の南端から西へと斜めに下り、崖下へ到る道が存在しており、当時においても連絡路が存在していたと思われる。

(1) 4号ヤックラ(第306図)

位置 33区X~34区A-18~20グリッド、1号道の北へ

抜けた西側支道北端に位置する

規模 (9.82) × 4.70m

主軸方向(度) N-32-E

所見 1号道に並走する10号溝は、4号ヤックラを間に挟み1号道と分離する。4号ヤックラの平成28年度調査範囲は損乱部分に囲まれるため、ヤックラの東側から10号溝は確認されていないが、4号ヤックラ東辺沿いに北に続くと推察される。

2 5号道(第306図)

位置 34区W~35区B-10~25グリッド。北側調査区西端に位置する。

形状等 間に未調査部分を挟むが、遺跡西側を南北に抜ける。

規模 (59.91)m、幅0.92~1.56m。

走行方向(度) N-17-E

付属施設 1号溝、5号石垣。(5号石垣については5章1節4項2参照)

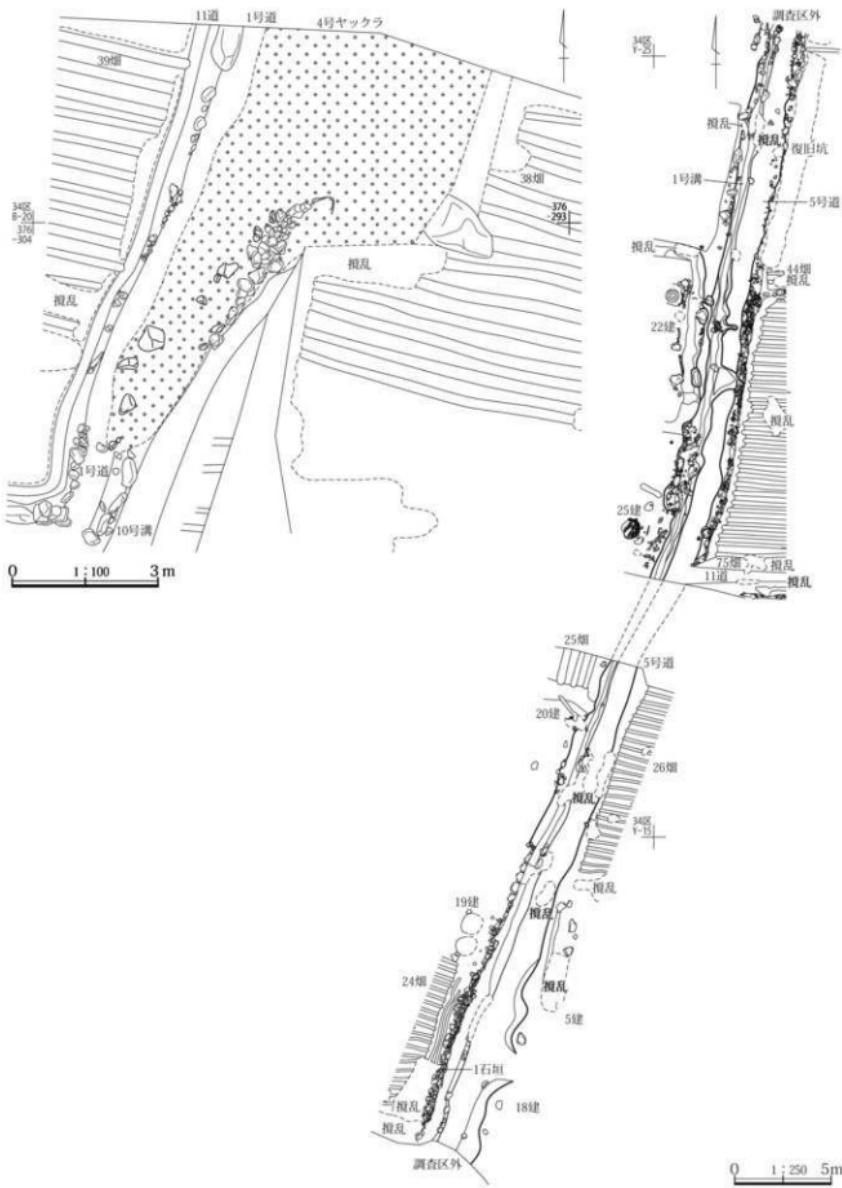
所見 1号道北端は、上位段丘に続く道に接続すると推測される。なお調査時点において、この地点と上位段丘をつなぐ道筋は2ルート存在している。また、5号道南端は1号道西端と接続すると推察される。

(1) 1号溝(第306図)

位置 34区W~35区B-11~25グリッド、5号道の西に隣接する。



第305回 1号道1



第306図 1号道2、5号道

形状等 間に未調査部分を挟むが、遺跡西側を北から南に流れる。

規模 (60.42)m、幅0.36~0.83m、深さ0.23m。両端部の標高差4.82m。

走行方向(度) N-18-E

所見 1号溝の流域は、遺跡の立地する台地上では標高の高い場所であり、給水源として機能しえる立地といえる。

第3項 溝

1 5号溝(第307図)

位置 33区P~S-12~13グリッド、調査区北側東半に位置する。

形状等 台地を東西に横切る谷の北斜面に位置し、谷筋に平行に存在する。

規模 (12.8)m、幅1.03m、深さ0.41m。両端部の標高差0.03m。

走行方向(度) N-76-W

所見 北辺が確認されたことにより溝幅が確定した。西端が確認されていないが、西端には明確な境界が存在しない可能性が高い。

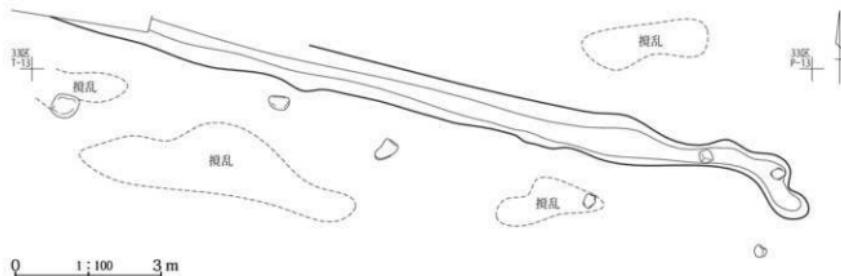
2 7号溝(第308図)

位置 23区K~X-3~6グリッド、南側調査区に位置する。

形状等 台地南部の東下がりの斜面を、西から東に位置する。

規模 (54.95)m、幅2.91m、深さ0.33m。両端の標高差1.27m。

走行方向(度) N-89-W



第307図 5号溝

所見 遺構西端は天明泥流による荒廃の著しい場所であり、確認された西端に到る水の流れは確認されていない。

第4項 煙

幾区画もの煙が年度を異にして調査されている。これらの煙は調査範囲が接していることもあり、本文中の記述にとどめた。ただし下記の遺構については年度により取扱が異なることもあり本項に掲載した。

1 37号煙2号ヤックラ(第308図)

位置 33区J~L-12~18グリッド、北側調査区東端に位置する。

規模 (23.28)×3.38m

主軸方向(度) N-11-E

所見 平成28年度調査により確認された4号溝(3章1節5項3)は、天明3年時点ではヤックラとして機能していたと推測される。その4号溝は2号ヤックラの南に位置し、間に未確認部分を挟むが、2号ヤックラの延長線上に位置する。4号溝の該当部分までを2号ヤックラに含めると仮定すれば、全長35.81m、主軸方向(度)N-15-Eが得られる。

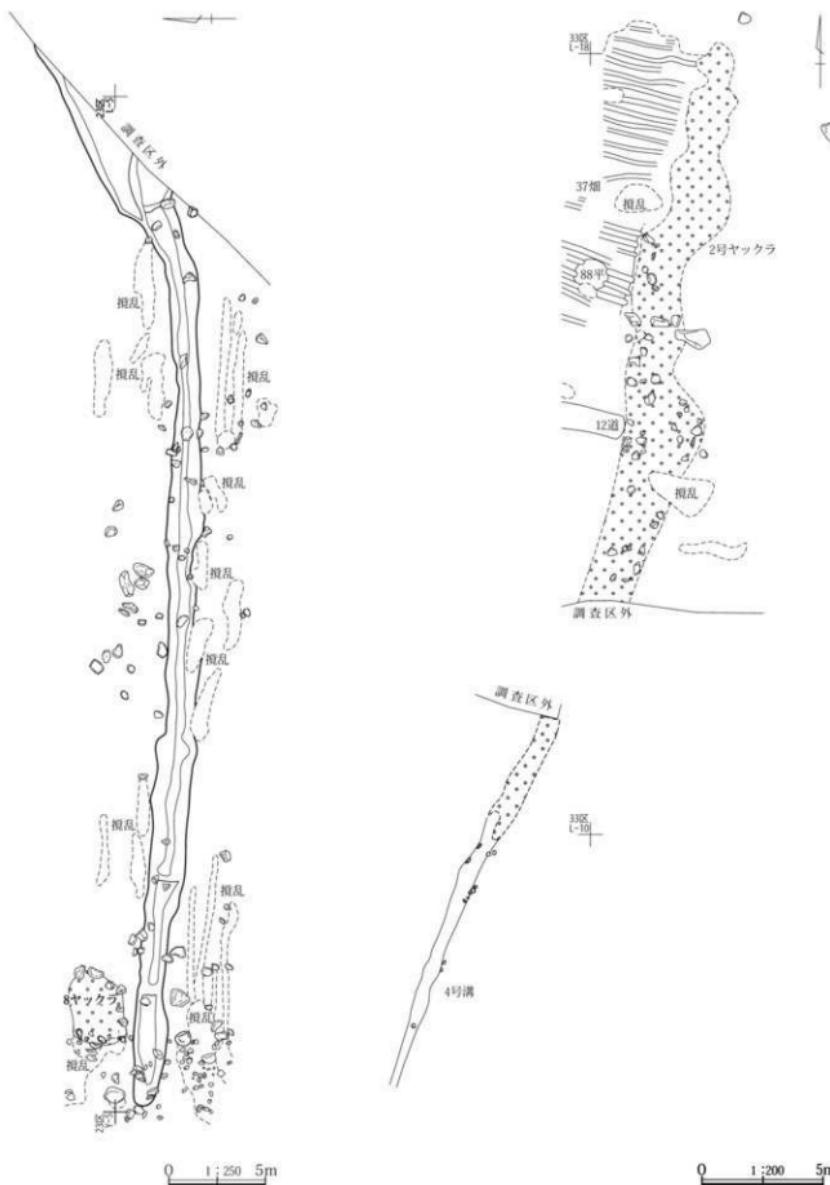
2 37号煙3号ヤックラ(第309図)

位置 33区M~O-16~17グリッド、北側調査区東端に位置する。

規模 7.41×2.48m

主軸方向(度) N-53-E

所見 3号ヤックラの西側は擾乱部分に隣接しているため、西端は確認されていないが、遺構の西にある岩盤露



第308図 7号溝、37号煙突

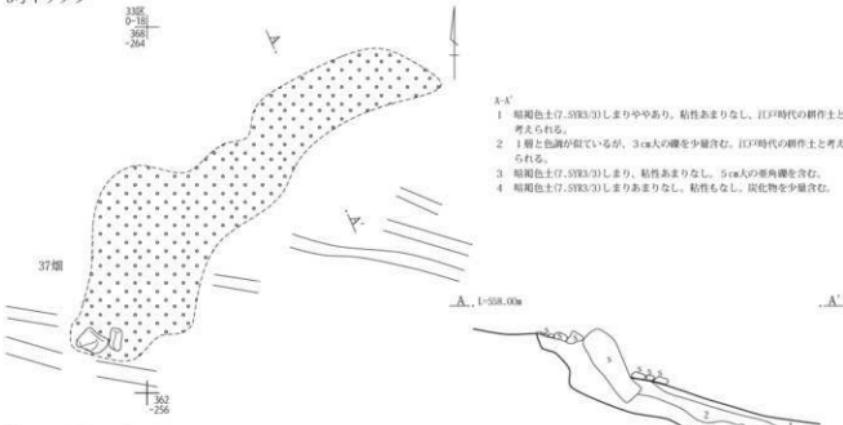
頭までが遺構範囲である可能性は高い。

第5項 その他

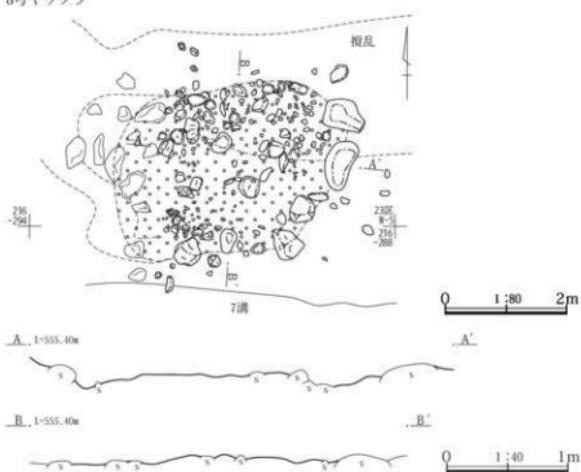
8号ヤックラ(第309図)

位置 23区W~X-4~5 グリッド、南側調査区に位置する。

3号ヤックラ



8号ヤックラ



第309図 37号烟2、8号ヤックラ

規模 3.93×2.75m

主軸方向(度) N-77-E

所見 下田遺跡南部は河川疊が散乱する場所であり、本遺構は河川疊が高密度域に散乱する範囲の東南端に位置する。また7号溝の西端に近接する地点でもあり、溝を開くに際し不要な石を集めた可能性も想起される。

第6章 平成31年度調査・確認された遺構と遺物

第1節 1面の遺構と遺物

第1項 1面の概要

平成31年度調査区は、南北を平成28年度調査区に挟まれ、東を平成30年度調査区に接する、下田遺跡西北端に近い一角である。調査区は、その西側が微高地となり南東に緩やかに下る斜面となっている。

1面は天明3(1783)年の「浅間山噴火」がもたらした泥流堆積物(基本土層第2層)直下の面である。調査区西側は泥流による荒廃の影響が大きく、遺構が検出されたのは中央から東端にかけての部分である。建物群2組、礎石建物2棟、畑5区画、道3条が確認されている。このうち建物群2組、道3条と畑4区画はいずれも過年度に調査された遺構に連なる遺構である。これまでの調査成果と合わせた全容については節を改め後掲(3節)する。

礎石建物の1棟(29号建物)は粗く六面体に整えた石材を方形に組んで基礎とした、土壁の蔵と思われる建物であり、調査区西半の4号道沿いに他の建物から独立して存在する。

第2項 建物群

1 D1建物群(第310図)

35区H～I-20～21グリッド、調査区西半に位置する。主たる建物である15号建物の東北隅と、建物を囲む通路が確認された。なお、東に接する4号道と北に接する2号道の辻から検出された立木痕を、街路樹とせず建物群に含めた。建物群としての全体像は節を改め後掲(3節)する。

(1) 15号建物(第310図、PL.150)

位置 35区H～I-20～21グリッド、調査区西半に位置する。

形状等 2号道の南1.74m、4号道の西1.53mの地点から礎石1個が出土した。礎

石周辺にはAs-Aの堆積しない範囲がひろがる。

規模 衍行(5.84)m、梁間(3.05)m。

衍行方向(度) N-82-W

本体構造 建物東北隅の礎石が確認され、平成28年度調査で検出された15号建物の四隅が確定された。

付属施設 なし。

遺物 なし。

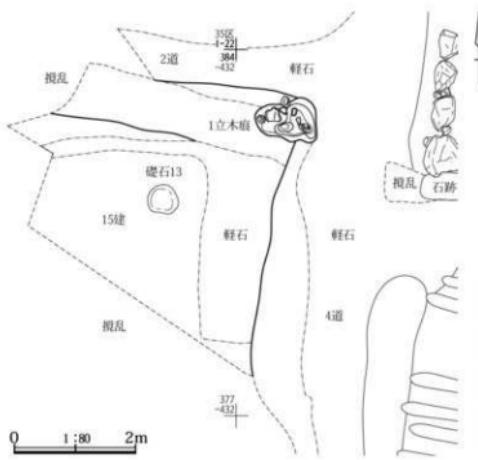
所見 南下がりの斜面に立地するため、建物の北側は切土され、建物敷地として整地されたと推測される。平成28年度調査成果と合わせた全体像は後述する。

2 N1建物群(第311、312図、PL.150)

34区Y～35区C-18～22グリッド、調査区東端に位置する。主たる建物である22号建物の西南部と庭の西半および25号建物の南に位置する庭南端が確認された。建物群の全体像については後掲(3節)する。

(1) 22号建物(第312図、PL.150)

位置 35区A～B-20～22グリッド、調査区東端に位置する。



第310図 D1建物群

形状等 碓石5個(礎石19はカマド天板の転用)と石の痕2か所、建物南面から雨落ち跡が検出された。

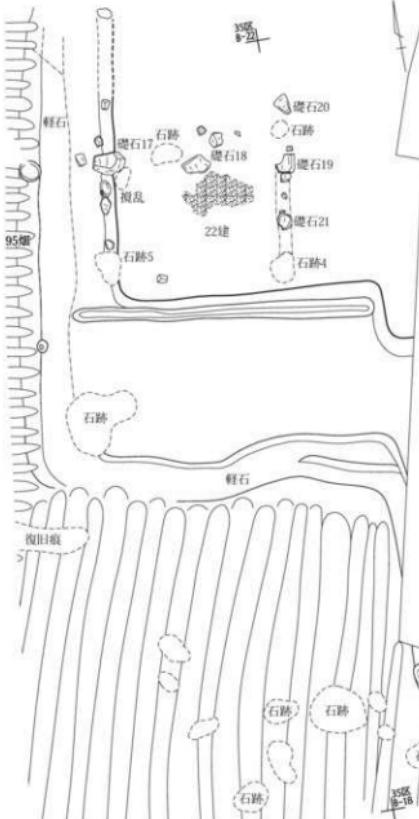
規模 衍行(6.14)m、梁間(5.02)m。

衍行方向(度) N~80~W

本体構造 建物の立地する敷地の南端において、南に緩やかに下る建物周辺の斜面に対し0.05m程度の段差が認められるため、傾斜を意識した整地がなされたと推察される。

付属施設 なし。

遺物 資料化には至らなかったが、落とし蓋などを含む近世の磁器片2片、陶器片15片が出土している。



第311図 N1建物群

所見 平成28年度と平成30年度の調査により検出された22号建物の四辺が確定された。礎石に囲まれた床面に敷物の痕跡が残る場所が存在することから、建物西半は土座であった可能性が高い。過年度の調査成果と合わせた全容は後述する。

第3項 磎石建物

1 29号建物(第313,314図、PL.151,160)

位置 35区 F~H-21~22グリッド、調査区西半に位置する。

形状 構ね長方体に切り出された石材を並べ、方形に組み合わせた基礎と、腐食し粘土化した大引きと根太が検出された。方形に組まれた基礎の中央、床組の下からは東石と思われる石が出土している。また基礎の上面には土壁と思われる粘土帯が残存する。基礎北辺中央外側に踏み石が置かれる。

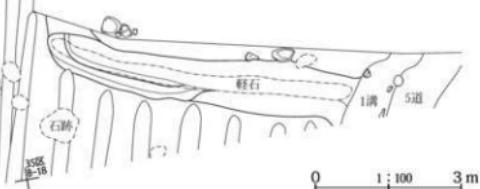
規模 基礎外寸(4.18+0.28)×3.58m、土壁外寸4.02×3.41m、土壁内寸3.68×3.03m。

衍行方向(度) N~5~W

第144表 22号建物柱間計測表

柱間	衍行柱間		縦(20)
	柱間	柱間	
梁行柱間			1.21
礎石17	— 1.85 —	礎石20	礎石19
	1	1	1
梁行柱間	2.14	2.18	1
	1	1	1
石跡5	— 3.56 —	石跡4	
	1	1	
雨落跡	0.97	0.83	
	1	1	
雨落跡	雨落跡	雨落跡	
雨間	6.78	6.81	

礎石19と石跡4の間にある礎石21は間柱に類すると思われるため表に組み入れていない。なお、礎石19と礎石21の柱間は1.18m、礎石21と石跡4の柱間は1.02m。



本体構造 建物の立地する場所は緩やかに南に下る斜面であり、凹凸の存在する地形でもあるため、建物敷地を確保するための整地が行われている。盛土された建物敷地の北面を除く三方には、建物敷地の保護を意図した石垣が組まれている。なお、造成範囲は建物敷地を囲む通路部分にまで及んでいる。

基礎は長さ0.77~1.72mの切り石11個を用い方形に組まれ、その北辺には基礎に接して切り石2個がおかれる。土壁の基部と推測される幅0.18m前後の粘土帯が基礎の上面に残存している。幅0.18m前後の大引きが建物平面の中軸線上に置かれ、その左右に0.60mの間隔で幅0.12m前後の根太が配置されている。

付属施設 なし。

遺物 砥石(2)と寛永通寶(1)のほか、資料化には至らなかったが近世の磁器片4片、陶器片2片、中世の在地系土器片1片が出土している。

所見 本遺構は桁行3.53m、梁間2.88mの南北棟北側妻入りの建物であり、粘土帯の厚さから土壁の蔵と推測される。床組は、中央を束で支えられた6寸幅の大引きの左右に4寸幅の根太5組が配置されていたものと推測される。布基礎上面に残る粘土帯の内側には15cm程度の空

きが残されており、5寸角の柱であれば基礎の上に据えることは可能である。柱根方の固定方法は土台ないしは足固めのいずれかと思われるが推測の域出ない。基礎北辺の粘土帯は中央付近が建物内側に1段突出し、入り口を構成していると推測される。内扉は存在しても引き戸とはならない可能性もあるが、床上に設けられたと推測される。なお、入り口を設けた建物北辺は3間構成とし、東西辺は根太を受けるために間柱を含めた6間とし、南辺は2間と推察されるが、確証を得ない。

2 30号建物(第315図、PL.152)

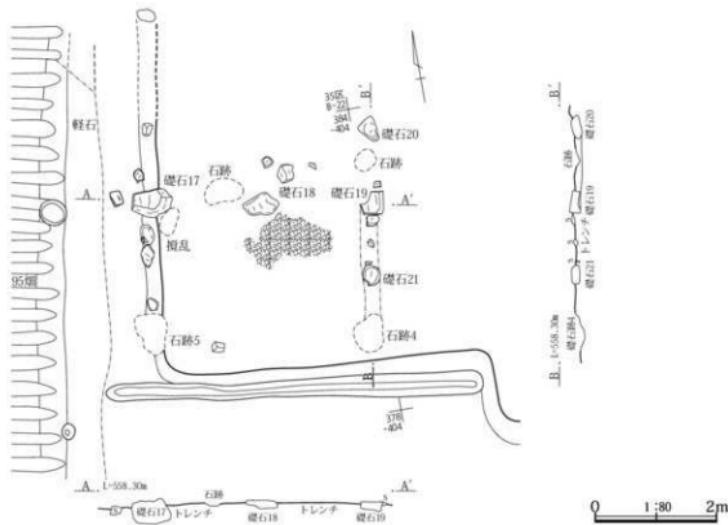
位置 35区 I ~ K-22~23グリッド、調査区西半に位置する。

形状等 砥石1個、石の痕1か所と炉が確認されている。石跡の東0.57m付近から東にはAs-Aの堆積が認められ、この西側に位置する砥石や炉の周囲からAs-Aは検出されていない。

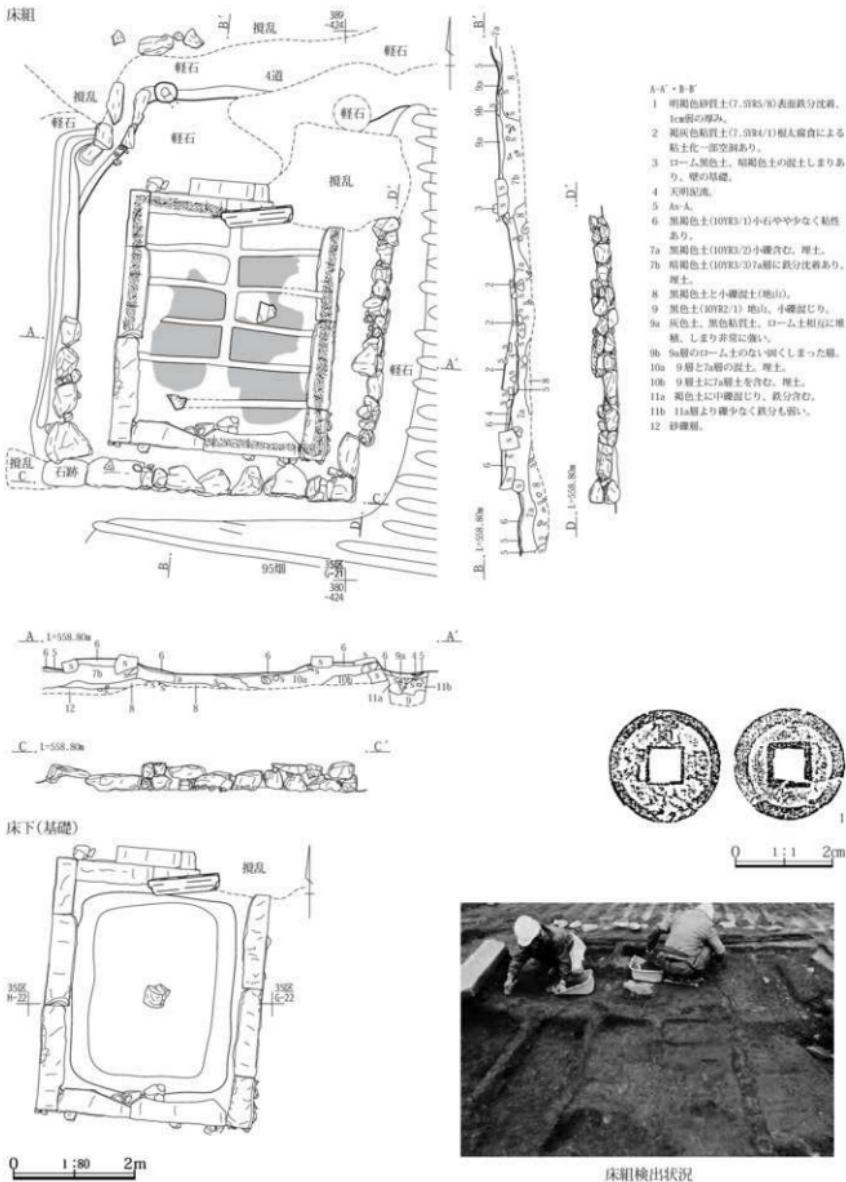
規模 (4.50) × (2.58)m。柱間1.68m。

桁行方向(度) 不明。

本体構造 建物南辺の東端を構成すると思われる石跡とこれに連なる砥石が検出されたにとどまり、棟方向・規



第312図 22号建物



第313図 29号建物と出土遺物 1

模等は不明である。建物敷地は2号道に面しており、敷地の標高は道路側より0.15m程度高いため、土留めのための石積みが存在する。

付属施設 炉。

遺物 なし。

所見 建物東辺を跨いで炉が存在することから、少なくとも東辺には壁が設けられていなかったと推察される。あくまでも推測の域を出ないのであるが、30号建物が23号建物に付随する建物である可能性も否定しがたい。

(1)炉(第315図、PL.152)

位置 35区J-23グリッド、建物東辺に位置する。

形状 不整形を呈する。U字状の焼土に囲まれた黒変した土壤が残る。

規模 0.42×(0.37)m

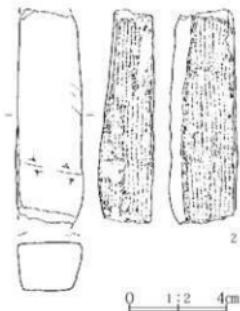
平行方向(度) N-82-W

遺物 なし。

所見 上部構造などを推察し得る痕跡もなく、用途等不明である。

第4項 道

天明泥流直下の調査区西半から2条、東端から1条の道が確認されている。西半の2条は調査区を南北に抜ける4号道と、これから分岐し西に延びる2号道であり、東端の1条は調査区を南北に抜ける5号道である。2号道を除きいずれも側溝を伴う。なお、3条ともに過年度に確認された遺構に連なるものであり、その全体像については節を改め後掲(3節)する。



第314図 29号建物出土遺物2

1 2号道(第316図、PL.152)

位置 35区H～J-21～22グリッド、調査区西半に位置する。

形状等 29号建物の西で4号道から分岐する。

規模 (1.53)m、幅0.26m。

走行方向(度) N-85-W

遺物 なし。

所見 29号建物の西で4号道から分岐し、30号建物と15号建物の間を抜け、平成28年度に検出された遺跡西端部に続くと推察される。その全体像については節を改め後述する。

2 4号道(第316図、PL.152)

(1)道路部分

位置 35区F～H-23～19グリッド、調査区西半に位置する。

形状等 鋸の手状を呈し、側溝を伴う。

規模 東西部(3.08)m、幅0.30～0.47m。南北部(4.44)m、幅0.40～1.05m。

走行方向(度) 東西部N-77-E、南北部N-6-E。

遺物 なし。

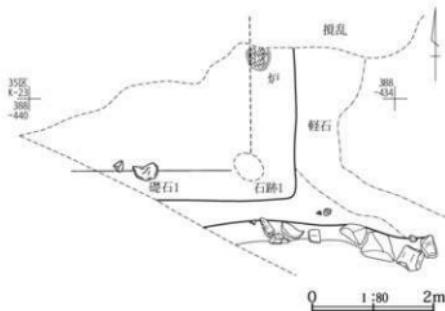
所見 29号建物と15号建物の間を抜け、南に続く。

(2)側溝部分・北側

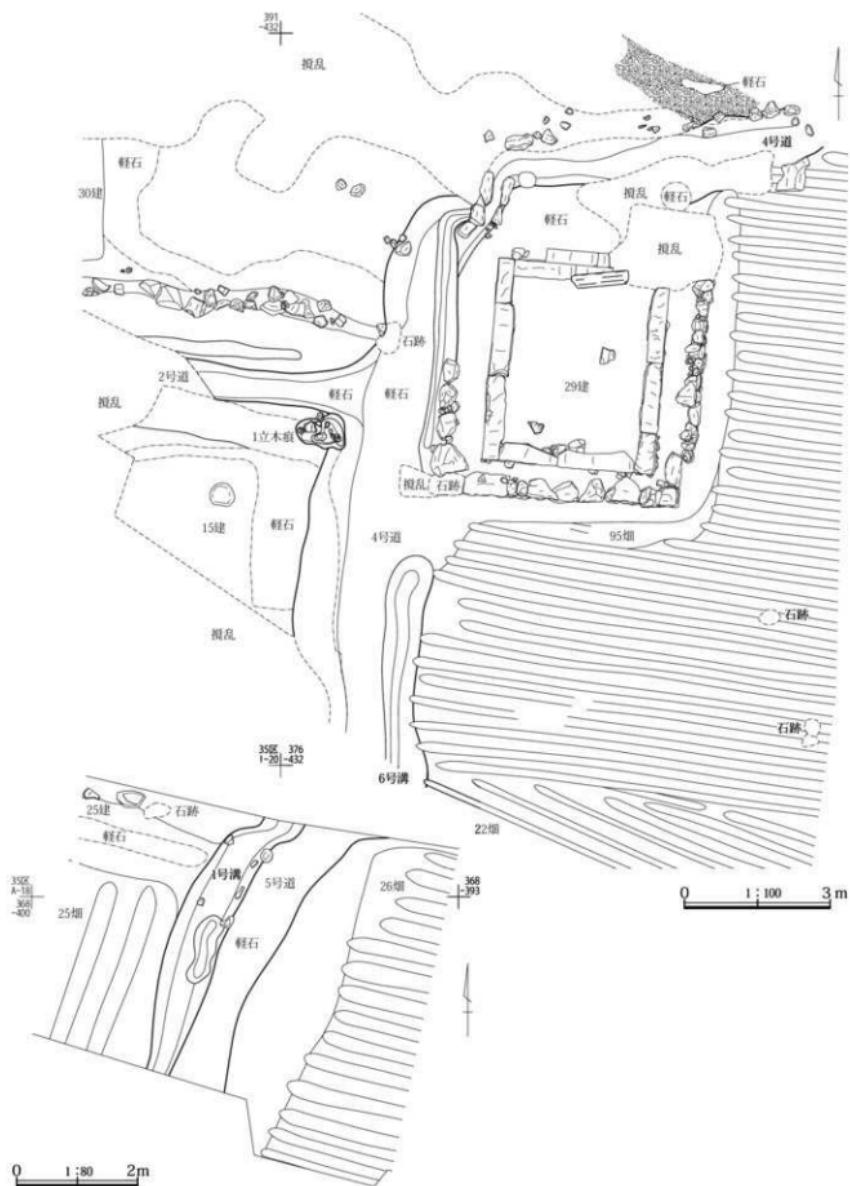
位置 35区H-21～22グリッド、調査区西半、29号建物の西に位置する。

形状等 鋸の手状を呈する。

規模 東西部0.58m、幅0.27m、深さ0.07m。南北部



第315図 30号建物



第316図 2号道、4号道、5号道

5.28m、幅0.41～0.50m、深さ0.03m。南北部底部標高(北端) 558.53m、(南端) 558.29m、標高差0.24m。

走行方向(度) 東西部N-85-E、南北部N-5-E。

遺物 なし。

所見 4号道の排水の他、29号建物敷地の地下水位を下げ乾燥化を図る意図も兼ねると推察される。

(3)側溝部分・南側

位置 35区H-19～21グリッド、調査区西半、95号烟との境に位置する。

形状等 29号建物の南1.35m付近から端を発し南流する。

規模 (1.90)m、幅0.33、深さ0.12m。底部標高(北端) 557.97m、(南端) 557.81m、標高差0.16m。

走行方向(度) N-8-E

遺物 なし。

所見 4号道の排水を意図し構築されたものと推察される。

備考 調査時の名称は、6号溝。

3 5号道(第316図、PL.152)

(1)道路部分

位置 34区X～Y-17～18グリッド、調査区東端に位置する。

形状等 側溝を伴う。

規模 (4.73)m、幅0.59～0.85m。

走行方向(度) N-28-E

遺物 なし。

所見 平成28年度および平成30年度調査の未調査部分を補間する。

(2)側溝部分

位置 34区X～Y-17～18グリッド、調査区東端に位置する。

形状 北端で地形なりに屈曲する。

規模 (4.63)m、幅0.38～0.86m、深さ0.07m。底部標高(北端) 557.3m、(南端) 557.1m、標高差0.20m。

走行方向(度) N-28-E

遺物 なし。

所見 平成28年度および平成30年度調査の未調査部分を補間する。

備考 調査時の名称は、1号溝。

第5項 煙

平成31年度調査区の天明泥流直下の面から、5区画の煙が検出されている。このうち95号烟を除き平成28年度に調査された煙に連なる。また26号烟は平成30年度に調査された煙にも連なる。

調査時点においては、平坦面などを境界とする小単位・小区画に基づく遺構区分が行われている煙も多数あるが、調査区全体を通観した場合、全容を把握できない遺構がその多数を占めるため、小単位に基づく遺構区分は行っていない。報告にあたり、調査時に個別の面・単位とされたものであっても、その所在および歎のピッチとその走向から一つにまとめた。

平成31年度調査で確認された平坦面は2基である。このうち1基(94B平坦面)は2区画の煙の境界に位置する。

歎のピッチは、歎1条とその谷・溝1条をあわせて1単位とし、耕作地の中から連続して3単位以上が確認できる部位を選び、その幅を測り単位数で除したものである。歎幅あるいは床幅ではない。1歎に1条を植えた場合の条と隣の歎の条との間隔あるいは歎立幅の推計値に近い。計測は縮尺1/40の遺構図を対象とした。

1 22号烟(第317図、PL.152)

位置 35区C～H-18～19グリッド、調査区南辺に位置する。

歎のピッチ 0.39m

歎の走行方向(度) N-79-W

付属施設 なし。

所見 南に連なる平成28年度調査の22号烟より走向方向が9度ほど西に寄るが、歎のピッチに差異がないため一連の煙とした。

2 25号烟(第317図、PL.152)

位置 34区Y～35区D-17～19グリッド、調査区東半に位置する。

歎のピッチ (西部) 0.86m、(東部) 0.83m。

歎の走行方向(度) (西部) N-17-E、(東部) N-15-E。

付属施設 なし。

所見 南に連なる平成28年度調査の25号烟より走向方向

第6章 平成31年度調査・確認された遺構と遺物

が3度ほど東に寄るが、歎のピッチに差異がないため一連の烟とした。

3 26号烟(第317図)

位置 34区W～Y-16～18グリッド、調査区東端に位置する。

歎のピッチ 0.42m

歎の走行方向(度) N-75-W

付属施設 なし。

所見 南に連なる平成28年度調査の26号烟より走向方向が3度ほど東に寄るが歎のピッチに大差なく、また東に連なる平成30年度調査の26号烟より走向方向が2度ほど東に寄るが歎のピッチも大差ないため一連の烟とした。

4 47号烟(第317図、PL.153)

位置 35区C～E-22～23グリッド調査区北辺に位置する。

歎のピッチ 0.41m

歎の走行方向(度) N-83-W

付属施設 94B平坦面。

所見 東に連なる平成28年度調査の47号烟と走向方向、

歎のピッチ共に差異がないため一連の烟とした。

備考 調査時の名称は、94号烟。

(1) 94B平坦面(第318図、PL.153)

位置 35区D～E-22～23グリッド、47号烟と95号烟の境に位置する。

規模 1.49×1.38m

主軸方向(度) N-76-W

備考 調査時の名称は、(拡張部) 94号烟A平坦面。

5 95号烟(第317図、PL.153)

位置 35区C～H-19～22グリッド、調査区中央に位置する。

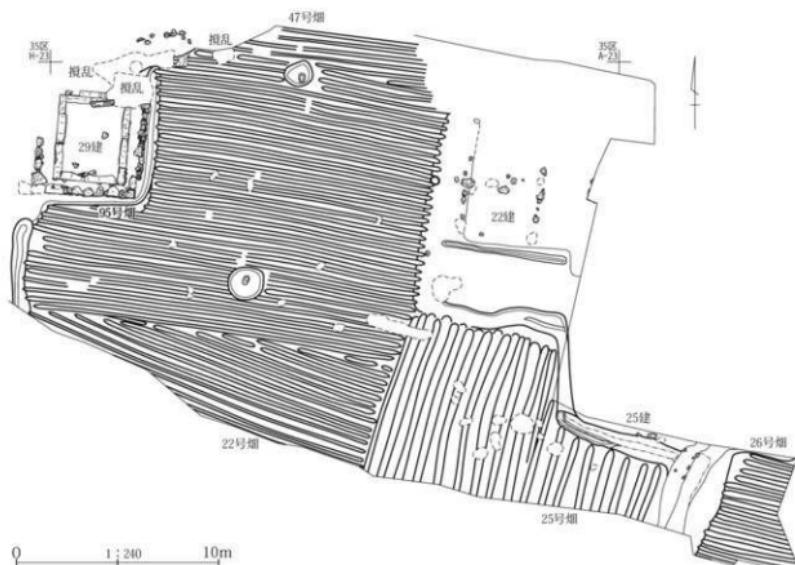
歎のピッチ (北部) 0.39m、(南部) 0.39m。

歎の走行方向(度) (北部) N-79-W、(南部) N-80-W。

付属施設 94A平坦面、94B平坦面。

所見 北に接する47号烟および南に接する22号烟と歎筋が交差することから別の区画とした。

備考 調査時の名称は、94号烟。



第317図 22号烟、25号烟、26号烟、47号烟、95号烟

(1) 94A平坦面(第318図、PL.153)

位置 35区E-20グリッド、95号烟南半に位置する。

規模 1.85×1.68m

主軸方向(度) N-56-E

備考 調査時の名称は、94号烟A平坦面。

第6項 遺物観察表および未掲載遺物

第145表 29号建物出土遺物1

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土・焼成・色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				床下泥流中	縦横			
第313図 PL.160	1	銭貨 古鏡	完形	2.29 2.27	厚 重	0.12 1.9	2片に割れる。背の部分がやや浅い。文字は鋳により、一部見えづらい。	

第146表 29号建物出土遺物2

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土・焼成・色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	(8.8) 2.8			
第314図 PL.160	2	砥石	1/2	2.3 83.3	厚 重	83.3	表面に砥面が認められ上下方向に向かい研ぎ減りする。左右内側面と裏面には柳葉タガネ痕が明瞭に認められる。	

第147表 未掲載遺物(中近世)

区	層位・面	遺構番号	遺構種	中世		近世		近現代	
				在地系跡・鍋		国産磁器		国産施釉陶器	
				点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
			22建物			2	5	8	94
Aトレンチ	29建物	1	24	1	15				
礎石振り方	22建物					7	35		
	219土坑					1	69		
	29建物			3	65	2	40		
1	一括					4	22		
	17建物					1	10		
計				1	24	6	85	23	270
								0	0



下田遺跡平成31年度調査区2面全景(東南から)

第2節 2面の遺構と遺物

第1項 2面の概要

2面は天明泥流直下である1面の下位に位置する。調査区の東西両側は天明泥流により削平され遺構は失われている。2面で確認された遺構はいずれも調査区の中央部からの検出である。

竪穴建物2棟、掘立柱建物2棟のほか、土坑11基、ピット21基、流路1条が確認されている。

第2項 竪穴建物

調査区中央東寄りの近接した場所から2棟の竪穴建物が検出されている。

1 16号竪穴建物(第319,320図、PL153,160)

位置 35区D～E-19～20グリッド、調査区中央東寄りに位置する。

形状 方形。カマド脇に貯蔵穴を伴う。

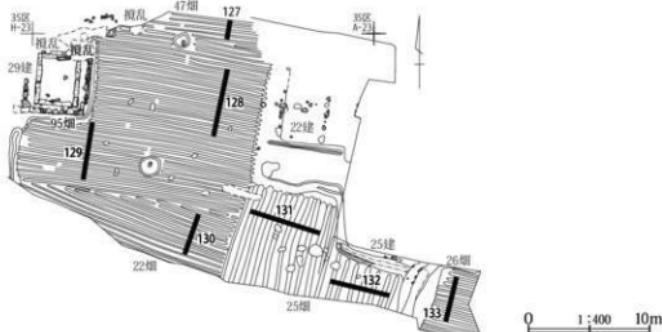
規模 4.89×4.19m、深さ0.40m。

主軸方向(度) N-0

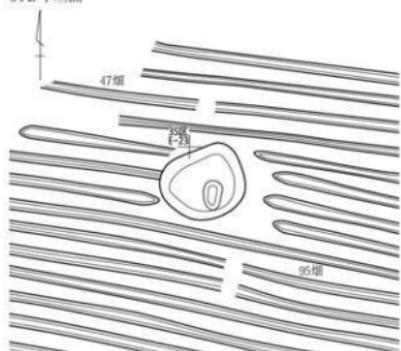
埋没土 鉄分の沈着がみられる褐色土。

カマド 北辺中央やや東寄りに位置する。突き崩され、天井石やカマド構築粘土などにより埋もれて検出されたが、カマド袖基部や袖石は左右ともに残り、煙道部を含め原形のうかがえる形状を留める。燃焼部は床面より1段深く設けられている。なお焼土化した炉床および灰層は確認されていない。

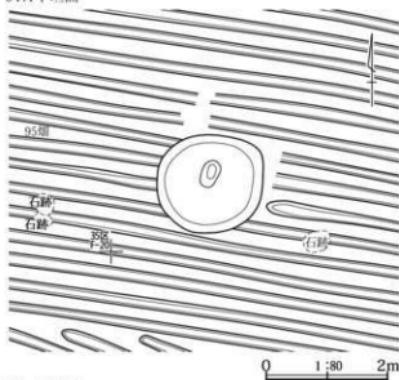
壁溝 挖り方から検出されている。



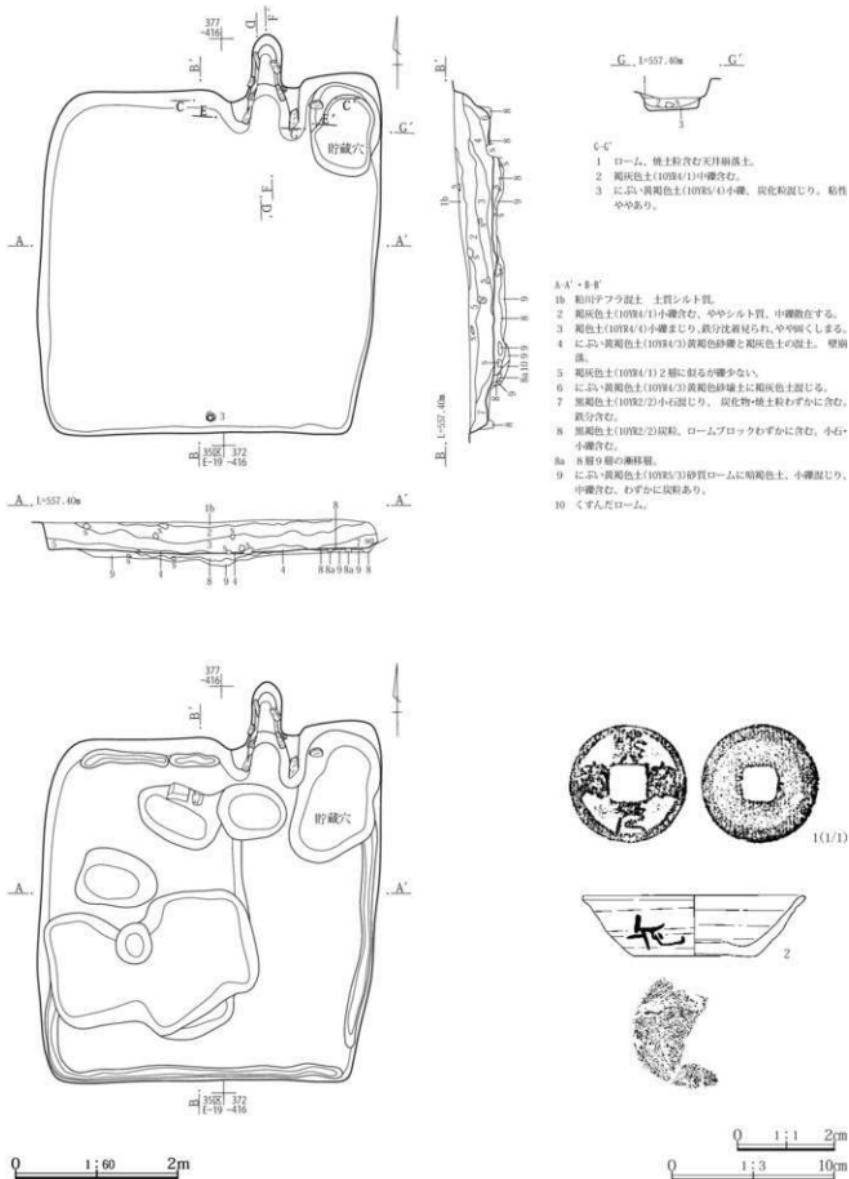
94B 平坦面



94A 平坦面



第318図 煙計測位置、平坦面



第319図 16号竪穴建物1と出土遺物1

掘り方 西北隅を中心に建物西半は一段深く彫り込まれている。

重複 なし。

遺物 床面から灰釉陶器皿(3)、貯蔵穴から須恵器杯(2)、カマド埋没土から熙寧元寶(1)が出土している。このほか黒色土器や灰釉陶器などの破片11片(100g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(9世紀後半から10世紀前半)に比定される。

2 17号竪穴建物(第321,322図、PL.154,160)

位置 35区D～E-20～21グリッド、調査区中央東寄りに位置する。

形状 方形。カマド脇に貯蔵穴を伴う。

規模 3.97×3.98m、深さ0.41m。

主軸方向(度) N-16-W

埋没土 砂混じりの褐灰色土。

カマド 北辺中央東寄りに位置する。両袖共に袖基部と袖石が残存する。石組みは崩され、カマド内は崩落土などで埋もれているが、天井石の一部も残っており、煙道部を含め比較的原形を留める。

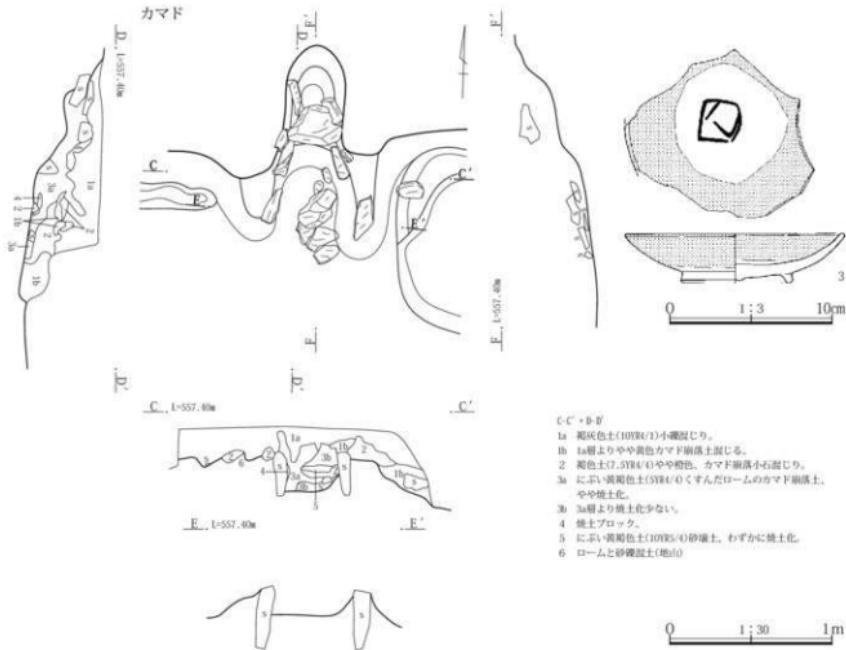
壁溝 西北隅から東南隅にかけて、幅0.16m、深さ0.04mの溝が確認されている。

掘り方 建物西辺沿いから床下土坑とピット、南辺中央からピットが検出されている。

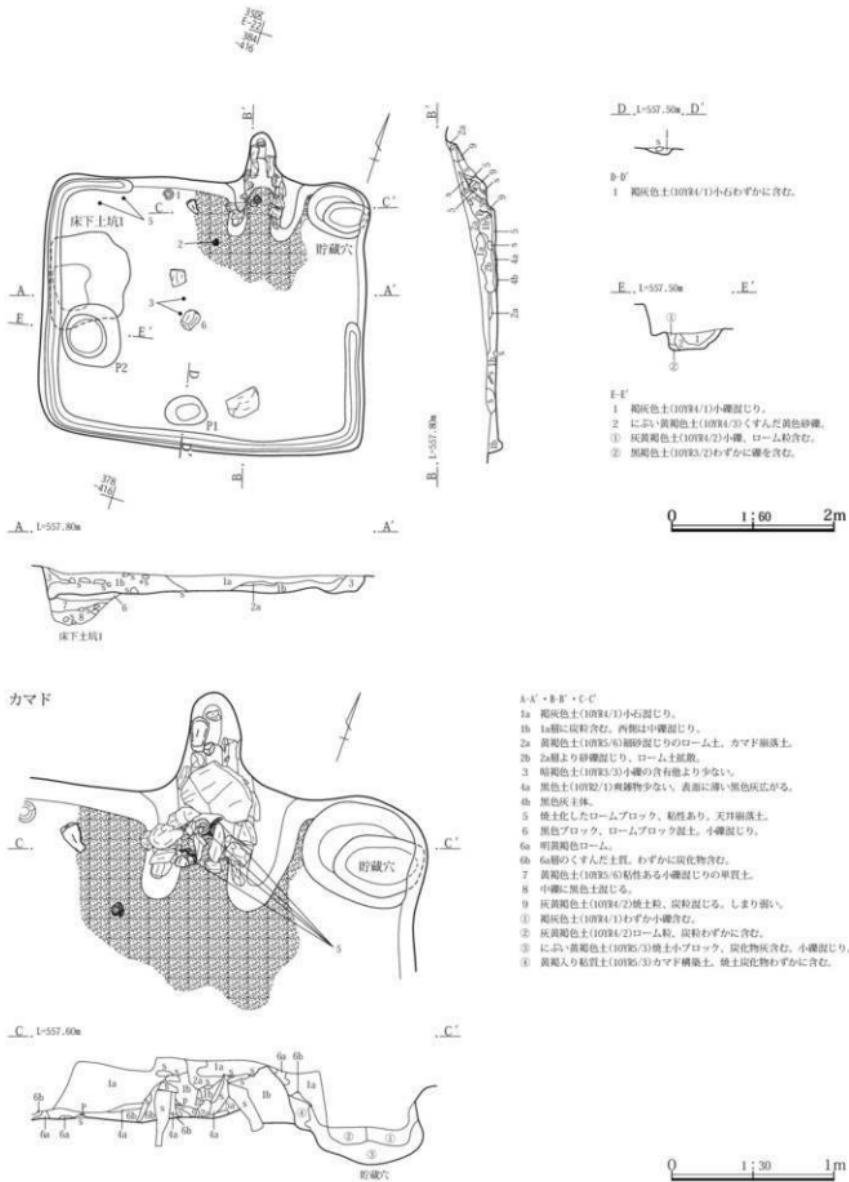
重複 226号土坑。

遺物 床面から黑色土器杯(1～3)、砥石(6)、カマドから土師器甕(5)、埋没土から土師器甕(4)が出土しているほか、黒色土器や灰釉陶器、須恵器などの破片19片(129g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(9世紀後半から10世紀前半)に比定される。226号土坑より新しい。



第320図 16号竪穴建物2と出土遺物2



第321図 17号竖穴建物

第3項 掘立柱建物

調査区中央の近接した場所から2棟の掘立柱建物が検出されている。

1 14号掘立柱建物(第323図、PL.155)

位置 35区 E ~ F-21~23グリッド、調査区中央に位置する。

形状等 柱穴6基が確認されている。南北棟。

規模 桁行(5.36)m、梁間4.85m。

桁行方向(度) N-3-E

付属施設 なし。

埋没土 小石を含む暗褐色土。

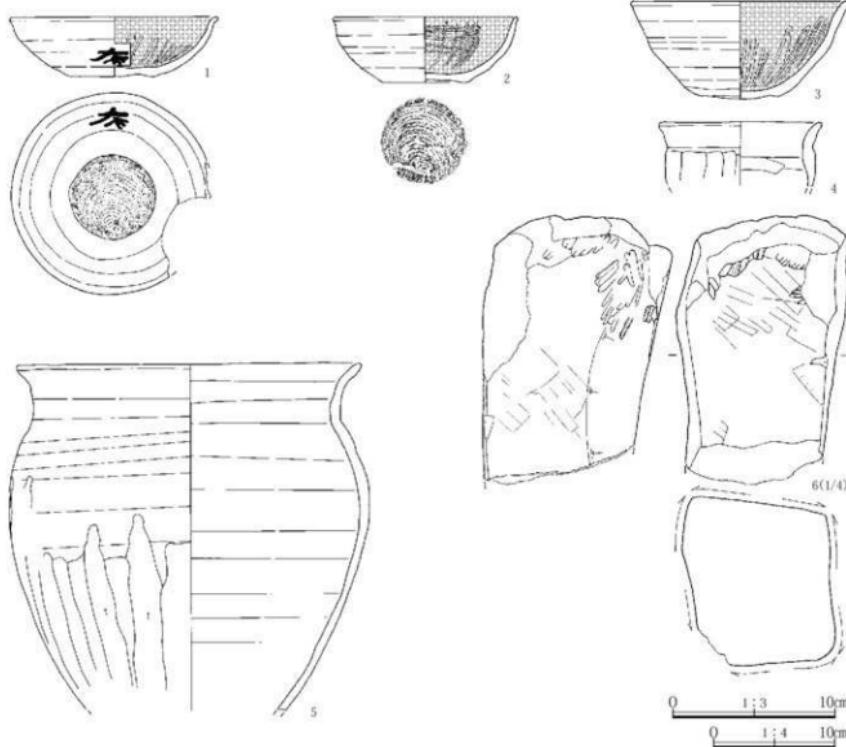
重複 222号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、16号竪穴建物埋没土と類似のピット埋没土が認められることから、中世以前に比定される。南北棟の2間×3間の建物と推察される。222号土坑より新しい。

第148表 14号掘立柱建物柱間計測表

	桁行柱間	梁行柱間	
P1	— 2.72 —	P2	— 2.65 —
梁行柱間	2.38		
N			
梁行柱間	2.49		
P5	— 2.46 —	P6	
梁間	4.87		5.08



第322図 17号竪穴建物出土遺物

備考 調査時の名称は、6号掘立柱建物。

2 15号掘立柱建物(第324図、PL155、156)

位置 35区 G ~ H-20~22グリッド、調査区中央に位置する。

形状等 柱穴 6基が確認されている。南北棟。

規模 柱行4.75m、梁間3.59m。

柱行方向(度) N-2-E

付属施設 なし。

埋没土 不明。

重複 1号流路。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位に位置することから近世以前に比定される。南北棟の2間×3間の建物と推察される。1号流路より新しい。

備考 調査時の名称は、7号掘立柱建物。

第149表 14号掘立柱建物ピット計測表

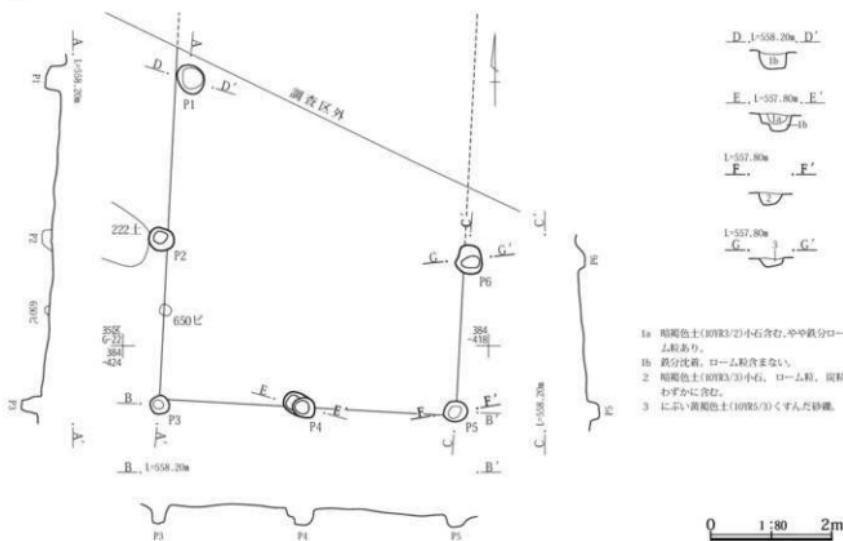
名称	P1	P2	P3	P4	P5	P6
位置	35区 F-23	35区 F-22	35区 F-21	35区 F-21	35区 E-21	35区 E-22
平面形状	長円形	不整形	円形	長円形	円形	不整形
規模	長(m)	0.51	0.44	0.33	0.55	0.42
	短(m)	0.42	0.39	0.31	0.36	0.36
	深(m)	0.35	0.17	0.33	0.29	0.21
主軸方向(度)	N-30-W	N-60-W	N-64-W	N-58-W	N-75-E	N-32-W
重複	222上					

第150表 15号掘立柱建物柱間計測表

	柱間	柱間	柱間	柱間			
P1	- 1.61 -	P3	- 1.66 -	P2	- 1.49 -	P1	4.73
柱間	1.99						
P5							
柱間	1.64						
P6							
梁間	3.62						

第151表 15号掘立柱建物ピット計測表

名称	P1	P2	P3	P4	P5	P6
位置	35区 H21~22	35区 H-21	35区 H-21	35区 H-20	35区 G-20	35区 G-20
平面形状	長円形	円形	円形	円形	長円形	方形
規模	長(m)	0.37	0.36	0.31	0.48	0.44
	短(m)	0.32	0.31	0.28	0.46	0.35
	深(m)	0.41	0.17	0.13	0.16	0.16
主軸方向(度)	N-48-W	N-72-E	N-15-W	N-57-W	N-84-W	N-72-W
重複						



第323図 14号掘立柱建物

第4項 流路

調査区中央辺から1条の流路が検出されている。

1 1号流路(第324図、PL.156)

位置 35区G～H-20～22グリッド、調査区中央から出土している。

形状 調査区中央部に端を発し南流する。

規模 (7.89)m、幅0.62～1.86m、深さ0.06～0.15m。

端部標高(北端) 557.85m、(南端) 557.58m。標高差0.27m。

走向方向(度) N-11-E

重複 15号掘立柱建物。

埋没土 不明。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。15号掘立柱建物に先行する。

第5項 土坑

調査区の中央部から11基の土坑が確認されている。

1 216号土坑(第325図、PL.156)

位置 35区F-20グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状 円形を呈する。

規模 1.00×0.95×0.10m

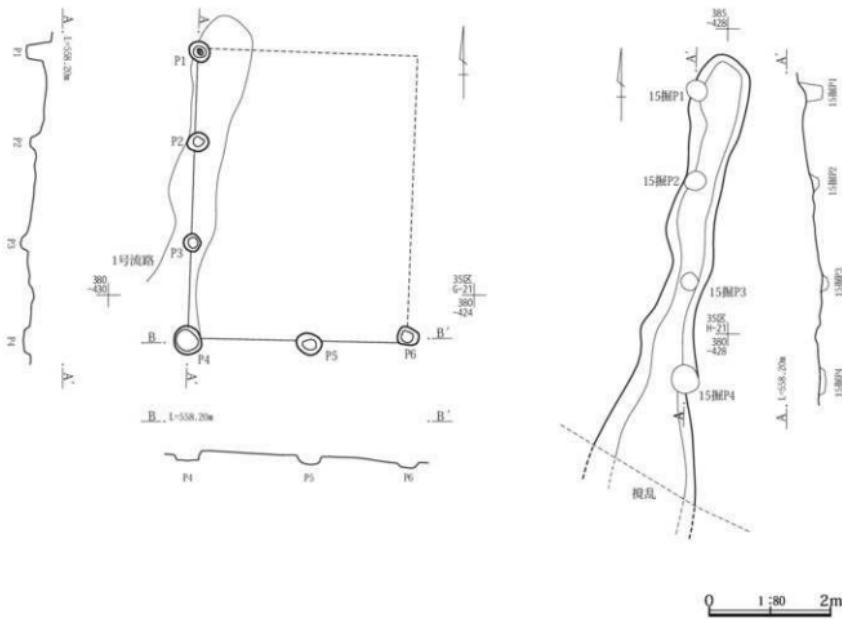
主軸方向(度) N-89-W

埋没土 灰黄褐色土。

重複 219号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。219号土坑に先行する。



第324図 15号掘立柱建物、1号流路

2 217号土坑(第325図、PL.157)

位置 35区 F-20グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状 円形を呈する。

規模 $0.92 \times 0.89 \times 0.20\text{m}$

主軸方向(度) N-24-W

埋没土 灰黄褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

3 218号土坑(第325図、PL.157)

位置 35区 F-19～20グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状 円形を呈する。

規模 $0.78 \times 0.73 \times 0.27\text{m}$

主軸方向(度) N-62-W

埋没土 にぶい黄褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

4 219号土坑(第326図、PL.157)

位置 35区 F-20グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状 円形を呈する。底部に、内径よりやや小さい黒褐色の輪状の部分が観認される。

規模 $1.09 \times 1.02 \times 0.29\text{m}$

主軸方向(度) N-61-W

埋没土 碓で埋められている。

重複 216号土坑。

遺物 資料化には至らなかったが、近世のすり鉢の破片が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。216号土坑より新しい。調査所見にある桶跡の可能性が高い。

5 220号土坑(第326図、PL.157)

位置 35区 F-22グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $1.29 \times 1.10 \times (0.34)\text{m}$

主軸方向(度) N-39-W

埋没土 黒褐色土。

重複 221号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。221号土坑に先行する。

6 221号土坑(第326図、PL.157, 158)

位置 35区 E～F-22グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状 側円形を呈する。

規模 $0.96 \times 0.89 \times (1.24)\text{m}$

主軸方向(度) N-38-E

埋没土 にぶい黄褐色土。

重複 220号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。220号土坑より新しい。

7 222号土坑(第326図、PL.158)

位置 35区 F～G-22グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $1.40 \times 0.92 \times 0.37\text{m}$

主軸方向(度) N-42-W

埋没土 褐色砂壤土。

重複 14号掘立柱建物(P2)、654号ピット。

遺物 資料化には至らなかったが土師器片3片(25g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、重複関係から中世以前に比定される。14号掘立柱建物(P2)、654号ピットの両者に先行する。

8 223号土坑(第326図、PL.158)

位置 35区 G-22グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状 方形を呈する。

規模 $0.95 \times 0.78 \times 0.28\text{m}$

主軸方向(度) N-65-E

埋没土 褐色砂壤土。

重複 なし。

遺物 なし。

第6章 平成31年度調査・確認された遺構と遺物

所見 本遺構の年代は、1面下位からの検出であり近世以前に比定される。

9 224号土坑(第326図、PL.158)

位置 35区H-22グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状 偏円形を呈する。

規模 $0.64 \times 0.54 \times 0.18\text{m}$

主軸方向(度) N-12-E

埋没土 黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

10 225号土坑(第326図、PL.158,159)

位置 35区H-23グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状 長円形を呈する。

規模 $0.61 \times 0.39 \times 0.29\text{m}$

主軸方向(度) N-70-W

埋没土 褐色砂壤土。

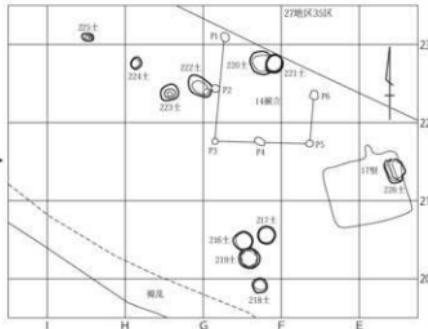
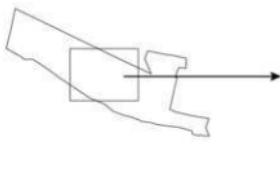
重複 なし。

遺物 なし。

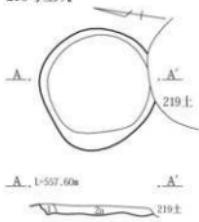
所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

11 226号土坑(第326図、PL.159)

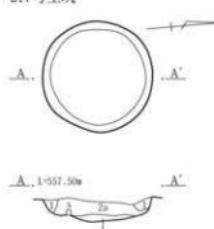
位置 35区D-21グリッド、調査区中央辺に位置する。



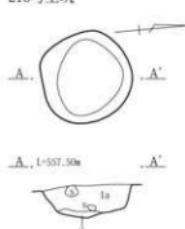
216号土坑



217号土坑



218号土坑



216・217号土坑

1 灰黄褐色土(10R8/2)シルト質ローム粘。鉄分をわずかに含む。

2a 灰黄褐色(10R8/2)くすんだ砂壤土。やや粘性あり。腐葉わずかに含む。

2b 2の間に真分状着。ローム含む。

1a に多い黄褐色土(10R8/3)中礫含む。ローム少しあり。

1b 1aより礫少なく。わずかに炭化物含む。

0 1:40 1m

第325図 土坑1

形状 不整形を呈する。

規模 $(1.24) \times (0.93) \times 0.35m$

主軸方向(度) N-23°W

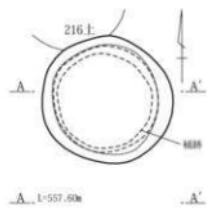
埋没土 單褐色土。

重複 17号竪穴建物。

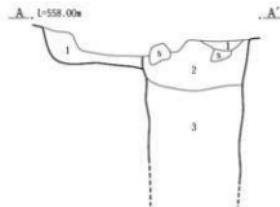
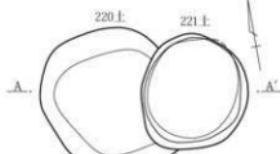
遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、重複関係から平安時代以前に比定される。17号竪穴建物に先行する。

219号土坑



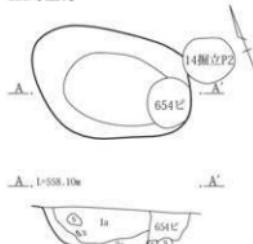
220・221号土坑



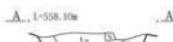
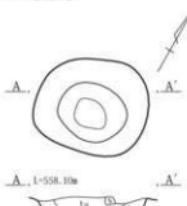
220・221号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)小礫含む。やや粘性あり。
- 2 に5cm-黄褐色土(10YR4/3)くすんだローム粘土ブロック。粘褐色土混じり砂質やしまる。
- 3 に5cm-黄褐色土(10YR5/4)2層より粘褐色土少ない。中礫含む。

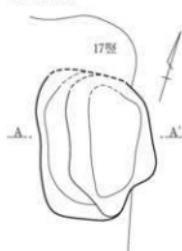
222号土坑



223号土坑

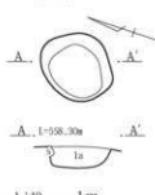


226号土坑

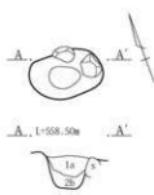


- 1a 黒褐色土(10YR2/2)小石わずかに含む。粘性あり。
1b 1a層にロームブロック、炭化粘土わずかに含む。
1c 1a層にロームブロックを含む。

224号土坑



225号土坑



第326図 土坑2

第6項 ピット

調査区中央部から21基のピットが検出された。いずれのピットも遺物を伴わず、654号ピットを除き埋没土も不明なため、1面下位の検出であり、近世以前の遺構と

考えられる。650号ピットは14号掘立柱建物と重複関係にあると考えられるが新旧の目安となる資料にかける。

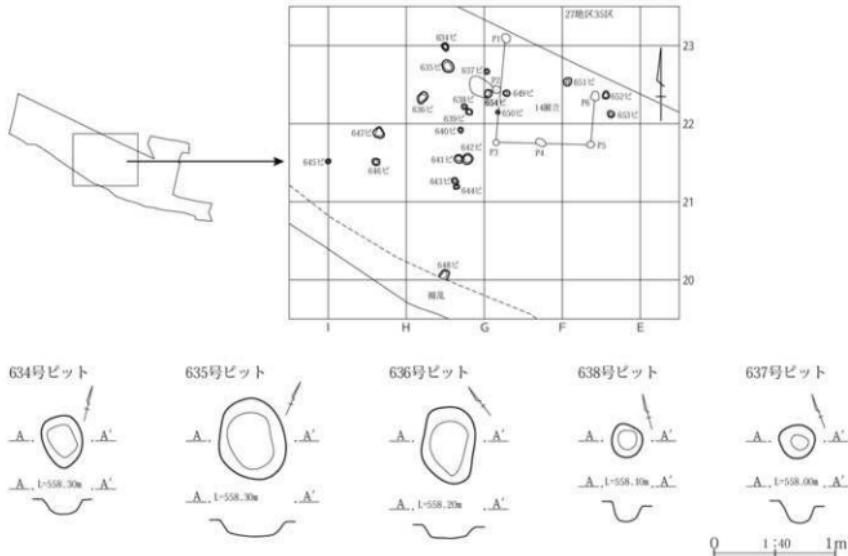
また、654号ピットは222号土坑と重複関係にある。両者の時期差はあまり離れていないと推察されるが、654号ピットのほうが新しい。

第152表 ピット計測表1

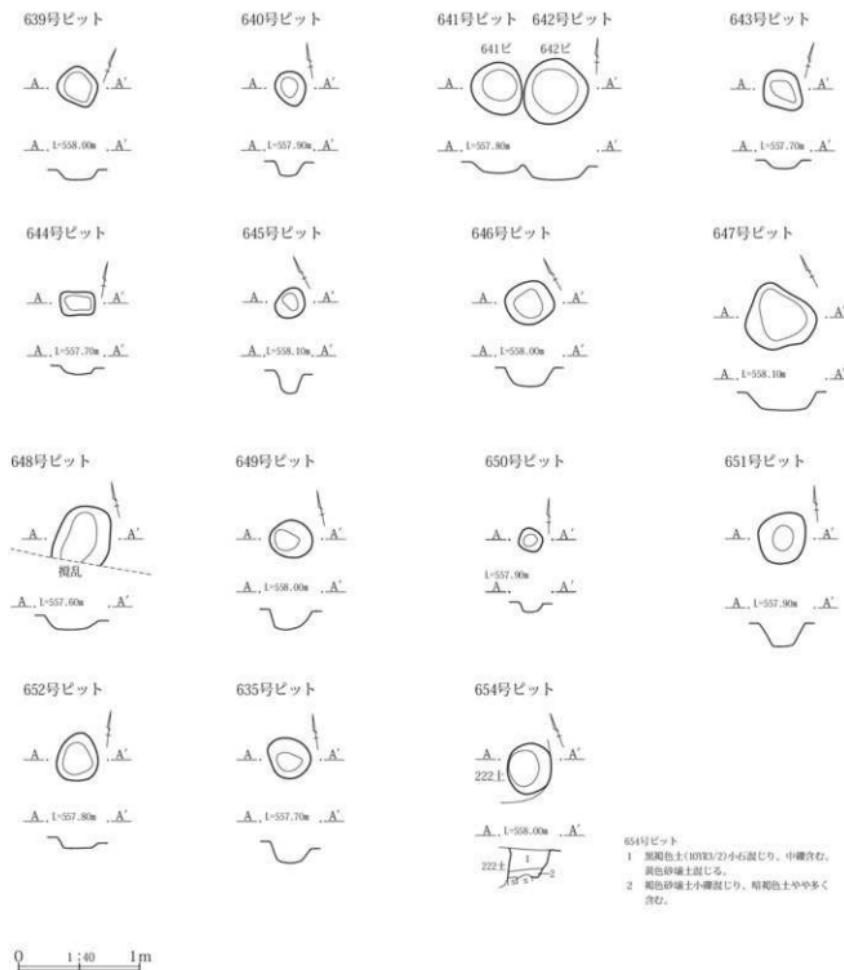
名前	634号ピット	635号ピット	636号ピット	637号ピット	638号ピット	639号ピット	640号ピット	641号ピット	642号ピット	643号ピット	644号ピット
位置	35区 G-22~23	35区 G-22 35区 G-22	35区 F-22 35区 G-22	35区 G-22 35区 G-22	35区 G-22 35区 G-22	35区 G-21 35区 G-21					
平面形状	偏円形	長円形	方形	方形	偏円形	方形	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形	方形
規模	長(m) 0.41	0.66	0.62	0.28	0.30	0.32	0.30	0.44	0.53	0.37	0.28
	短(m) 0.33	0.56	0.43	0.26	0.28	0.30	0.25	0.41	0.50	0.32	0.20
	深(m) 0.12	0.14	0.11	0.17	0.19	0.08	0.12	0.10	0.14	0.07	0.05
主軸方向(度)	N-33°W	N-22°W	N-40°E	N-15°W	N-50°W	N-72°W	N-9°W	N-33°W	N-30°E	N-54°W	N-61°E
重複											

第153表 ピット計測表2

名前	645号ピット	646号ピット	647号ピット	648号ピット	649号ピット	650号ピット	651号ピット	652号ピット	653号ピット	654号ピット
位置	35区 H-1~21	35区 H-21	35区 H-21	35区 G-20	35区 F-22	35区 F-22	35区 E-22	35区 E-22	35区 E-22	35区 F-22
平面形状	偏円形	方形	不整形	不規	円形	方形	偏円形	偏円形	偏円形	長円形か
規模	長(m) 0.26	0.38	0.55	(0.47)	0.34	0.22	0.40	0.39	0.36	(0.43)
	短(m) 0.23	0.34	0.50	0.45	0.31	0.19	0.39	0.33	0.32	(0.36)
	深(m) 0.19	0.15	0.15	0.12	0.17	0.09	0.19	0.09	0.18	0.23
主軸方向(度)	N-61°E	N-86°W	N-45°W	N-29°E	N-55°W	N-26°W	N-3°W	N-1°W	N-39°W	N-7°E
重複										222号



第327図 ピット1



第328図 ピット2

第7項 遺物観察表および未掲載遺物

第154表 16号建物出土遺物1

種 因 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第319回 PL.160	1	鉢 盤寧元寅	カマド 埋没土 完形	縦 横	2.40 2.40	厚 重	0.12 2.7	一部に孔が開くが文字は比較的明瞭。背の形は非常に浅い。	
第319回 PL.160	2	須恵器 杯	貯藏穴 1/3	口 底	13.6 7.4	高	3.7	細砂粒・粗砂粒・ 礫/還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。 外面部に墨書。

第155表 16号建物出土遺物2

種 因 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第320回 PL.160	3	灰釉陶器 碗	床面 1/3	口 底	13.4 6.8	高	3.3	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛けか。

第156表 17号竪穴建物出土遺物

種 因 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第322回 PL.160	1	黒色土器 碗	床面 口縁部一部欠 底	口 底	12.6 5.2	高	3.6	細砂粒/酸化焰/槍 切り無調整。	内面黒色処理。ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸 切り無調整。内面は底部分から口縁部に放射状ヘラミガキ。
第322回 PL.160	2	黒色土器 輪	床面 1/4	口 底	11.3 5.2	高	4	細砂粒/酸化焰/槍 切り無調整。	内面黒色処理。ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸 切り無調整。内面は横方向のヘラミガキ後放射状ヘラミガ キ。
第322回 PL.160	3	黒色土器 碗	床面 1/3	口 底	13.3 4.9	高	6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/明赤褐	内面黒色処理。ロクロ整形、回転は右回りか。底部と底部 周辺はヘラ削り。内面は底部から体部に花弁状ヘラミガキ。
第322回 PL.160	4	土師器 小型甕	理没土 小型甕	口 口縁部片	9.9			細砂粒/良好/にぶ い黄	口縁部は横ナデ。脚部はヘラ削り。内面脚部はヘラナデ。
第322回 PL.160	5	土師器 甕	カマド 口縁部～脚部	口	21.1			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄褐	ロクロ整形、回転は右回り。脚部下半はヘラ削り。
第322回 PL.160	6	砾石	床面 不明	長 幅	(22.1) 14.2	厚 重	15.5 4678.3	粗粒輝石安山岩	表裏面と左右内側面に砥面が認められる。各底面は全体的に 滑らかであり研ぎ減りする。

第157表 未掲載遺物(古代)

地区 区	遺構名	土師器			須恵器			内黒土器			施釉陶器	磁器	その他・不明
		小	中	大	小	中	大	1片	13g	7片	20g		
N	16号竪穴建物				9片	75g	1片 12g						
N	17号竪穴建物				3片	12g	8片 62g	1片	34g				
N	22号土坑				3片	25g							
N	2面				1片	11g				2片	7g		

大中小は想定形の大小に基づく。小は杯・碗・皿など、中は高杯・小型甕など、大は甕・羽釜・壺など。

左 破片点数。右 破片重量

第3節 平成31年度調査と以前の調査

平成31年度の調査区は、南北を平成28年度調査区に挟まれ、東は平成30年度調査区に接する。その結果、單一の遺構であっても各年度の調査区境界をまたぎ存在する遺構は、当該年度毎の部分的な調査成果となっている。本節では、年度を異にして調査されたために部分掲載されていた遺構を対象とし、年度ごとの成果を統合して掲載する。

1面ではD1建物群とN1建物群、2号道、4号道および5号道が本節の対象となる。また畠の中にも該当する遺構が存在するが、本文中の記述にとどめた。なお2面の遺構で該当するものは存在していない。

第1項 建物群

1 D1建物群(第330,331図)

D1建物群は平成31年度調査区の西半、2号道と4号道の辻に位置し、主たる建物である15号建物と附属屋の16

号建物および15号建物を囲む通路から構成されている。建物群の周囲から「屋敷地」の境界を構成する明確な遺構は確認されていない。今回の調査により、平成28年度調査で検出された樹根列の延長線上から立木痕が検出された。この樹根列と立木痕を結んだ線を「屋敷地」の境界と見立てた場合、16号建物と4号道の間を占める20号畠は屋敷地外の畠となる。樹根列と立木痕を結んだ線の南側の延長上には、19号畠と21号畠の境界が位置しており、このラインがなんらかの境界を意味する可能性も否定しない。

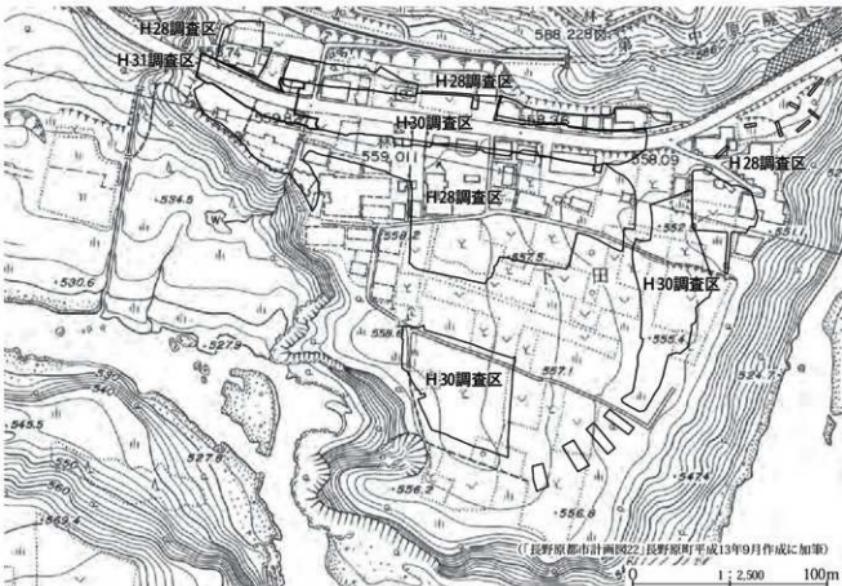
(1) 15号建物(第331図)

位置 35区H～K-19～21グリッド、調査区西半に位置する。

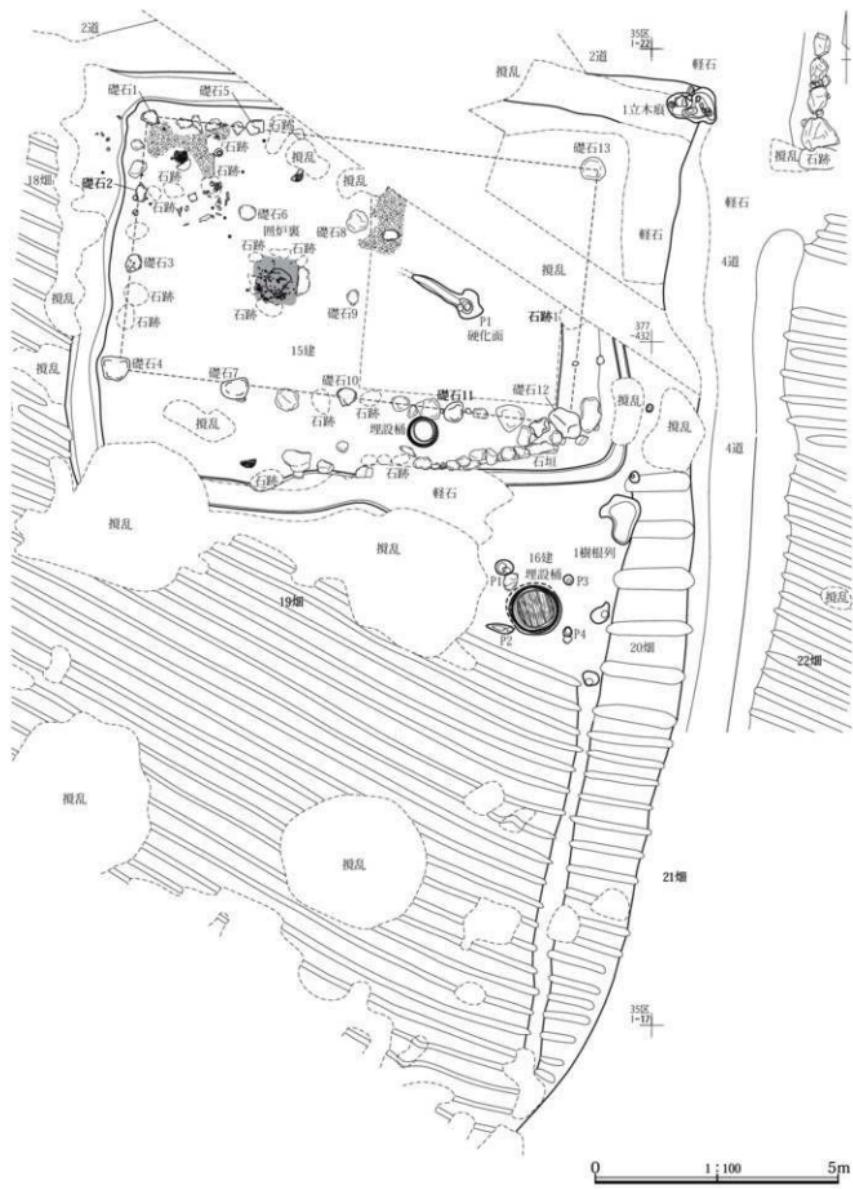
形状等 碓石13個、石跡1か所、柱穴1基が確認されている。建物外周北辺と南辺は、礎石と礎石の間に小振りな石が並ぶ。

規模 衍行9.36m、梁間5.29m。

衍行方向(度) N-82-W



第329図 年度毎の調査区



第330図 D1建物群

本体構造 3間×4間、東西棟礎石建物、南平入り。

付属施設 囲炉裏、埋設桶。石垣。

遺物 肥前磁器染付碗・瀬戸・美濃陶器腰錫碗・瀬戸・美濃陶器碗・瀬戸・美濃陶器器口跡・瀬戸・美濃陶器すり鉢・鉢、刀子、鉄鎌、石突鉈、鉄斧、火打ち金、砥

石、石臼などが出土している(詳細は、本書3章1節2項1(1)参照)。

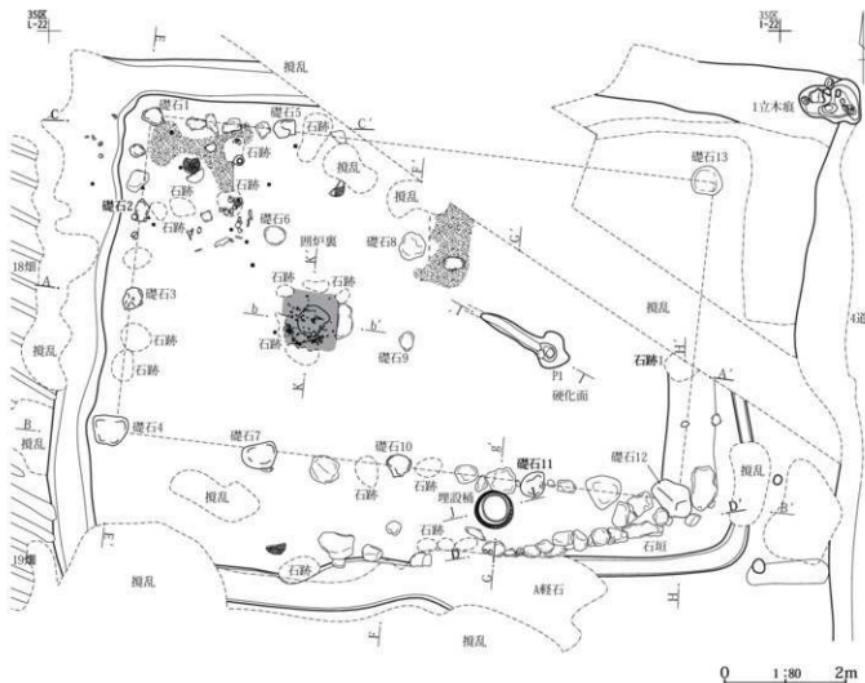
所見 建物外周南辺と北辺の礎石間を埋める列石状の石の配置から、建物外周の柱の根方の固定に、敷き上台ないし柱根方での足固めが用いられていたと推察される。

第158表 15号建物柱間計測表

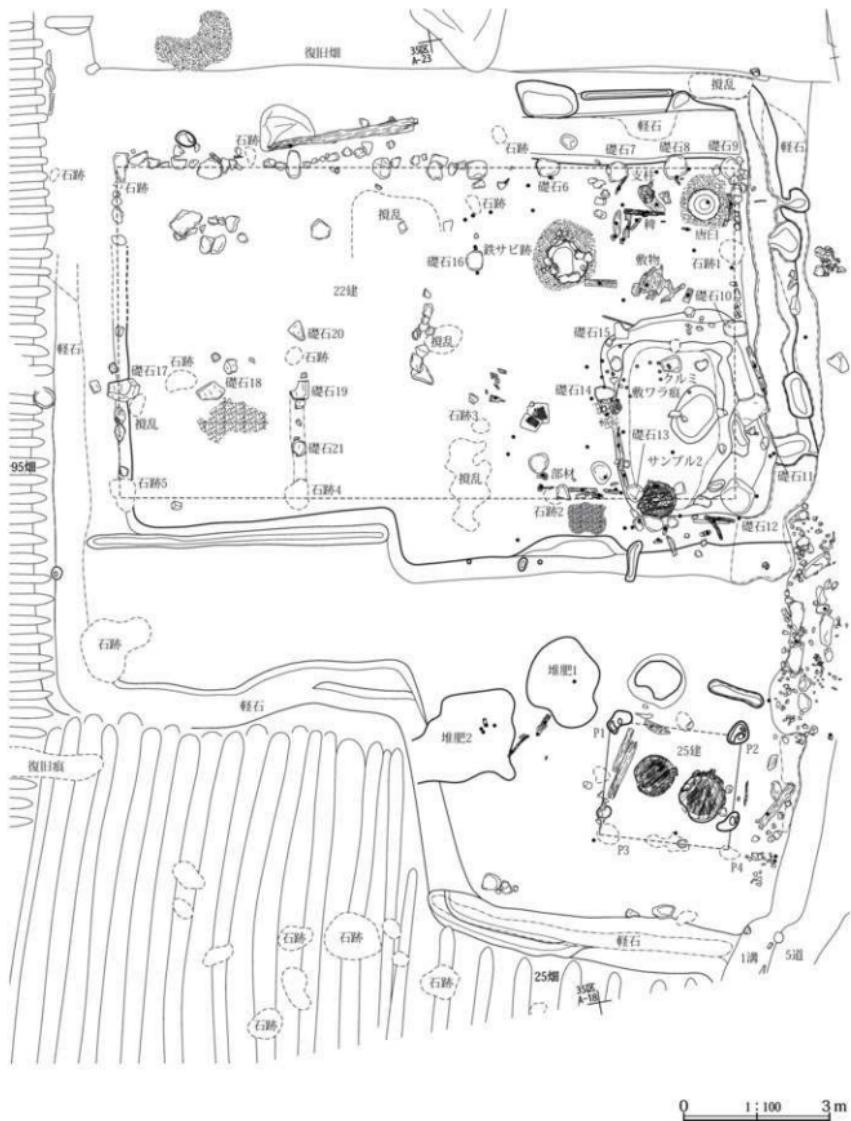
	柱間	柱間	柱間	柱間	柱間
壁石1	- 2.18 -	壁石2			壁石3 9.22
壁石4	1.55		1.73		
壁石5	1.46		3.65	1.29	
壁石6	- 2.21 -	壁石7	- 2.27 -	壁石8	
壁石9	- 4.53 -		- 2.38 -	P1	- 2.13 - 石門1 9.04
壁石10	2.16		2.06		2.18 2.14
壁石11	- 2.48 -	壁石12	- 2.27 -	壁石13	- 2.30 - 壁石14 5.25
壁間	5.17	5.38			

2 N1建物群(第332,333図)

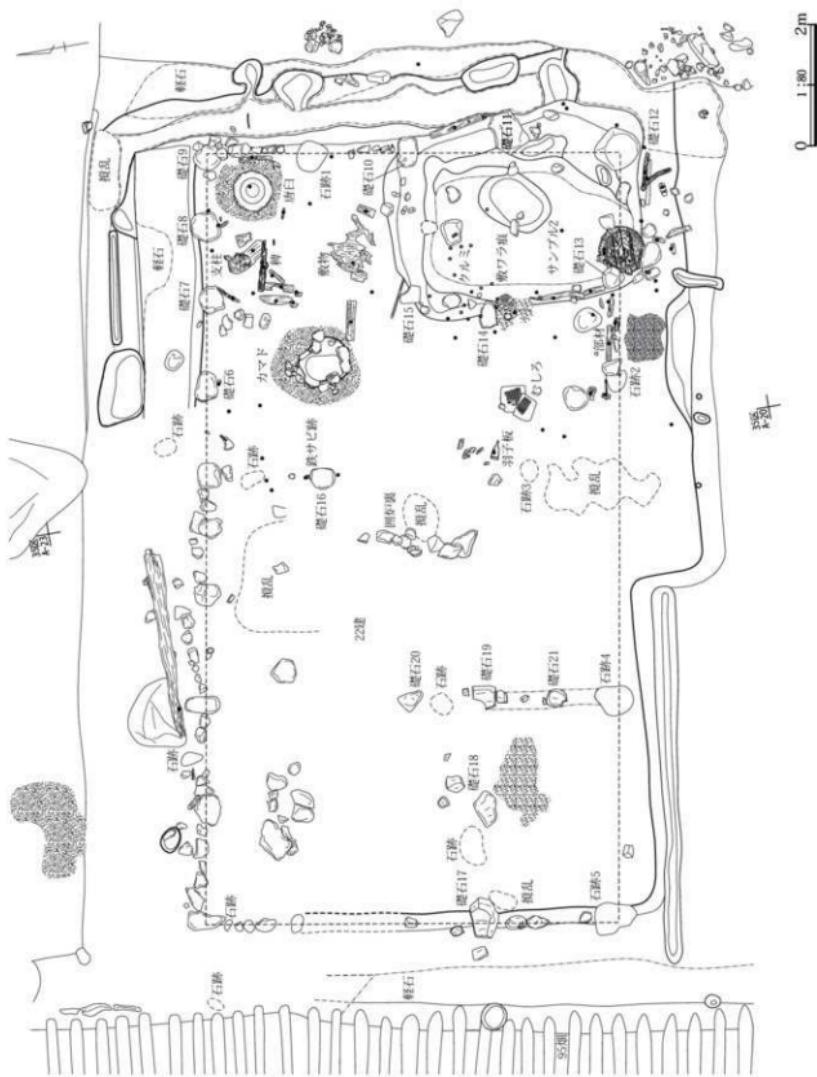
N1建物群は平成31年度調査区の東端、5号道の西に位置し、主たる建物である22号建物と附属屋の25号建物および庭から構成されている。東に接する5号道の側溝である1号溝の護岸として石積みが検出されているが、これを除き「屋敷地」を囲む結界として構築された境界に相当し得る遺構は確認されていない。なお建物群と5号道との境から樹木4本が検出されている。



第331図 15号建物



第332図 N1建物群



第333回 22号建物

2 4号道(第334図)

(1)道路部分

位置 35区H～I-16～20グリッド、調査区西半に位置する。

形状等 29号建物北辺から西辺に至り南下する。

規模 東西部(3.08)m、幅0.30～0.47m。南北部(27.80)m、幅0.30～1.31m。

走向方向(度) 東西部N-77-E、南北部N-12-E。

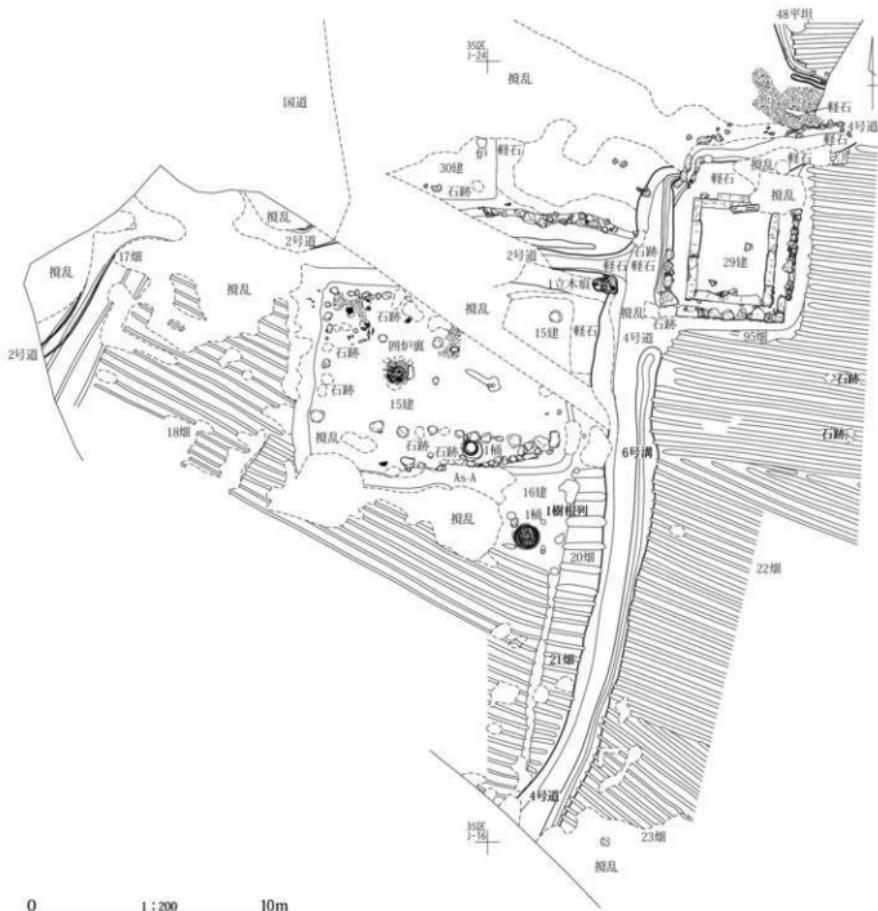
遺物 なし。

所見 4号道は、29号建物北東の調査区外で、北に位置する23号建物へと北上すると推察される。

(2)側溝部分

a 北側側溝部分

位置 35区H-21～22グリッド、29号建物の西に位置する。



第334図 2号道、4号道

形狀等 鋸の手状を呈する。

規模 東西部0.58m、幅0.27m、深さ0.07m。南北部5.28m、幅0.41～0.50m、深さ0.03m。南北部底部標高(北端)558.53m、(南端)558.29m、標高差0.24m。

走行方向(度) 東西部N-85-E、南北部N-5-E。

遺物 なし。

所見 4号道の排水の他、29号建物敷地の地下水位を下げ乾燥化を図る意図も兼ねると推察される。

b 南側側溝部分

位置 35区H～I-16～21グリッド、畑地との境界に位置する。

形狀等 29号建物の南1.35m付近に端を発し、道の東端を南流する。

規模 (20.58)m、幅0.33～0.79m、深さ0.12m。底部標高(北端)557.97m、(南端)556.91m、標高差1.06m。

走行方向(度) N-13-E

遺物 なし。

所見 4号道の排水を意図したものと推察される。

備考 調査時の名称は、6号溝。

3 5号道(第335図)

(1)道路部分

位置 34区W～35区B-10～25グリッド、調査区東端に位置する。

形狀等 テラス状の微高地の東端を南北に走ることから、11号道以北の部分は道の東端に石垣を伴う。

規模 (60.6)m、幅0.59～1.56m。

走行方向(度) N-17-E

付属施設 石垣。

遺物 肥前磁器染付碗、瀬戸・美濃陶器片・口鉢などのほか、石垣からは石臼や唐臼も出土している(詳細は本書3章4節4、5章1節4項2、6章1節4項2参照)。

所見 下田遺跡の集落部分を南北に抜ける主要通路と推測される。

(2)側溝部分

位置 34区W～35区B-11～25グリッド、調査区東端に位置する。

形狀等 5号道の西端を南流する。

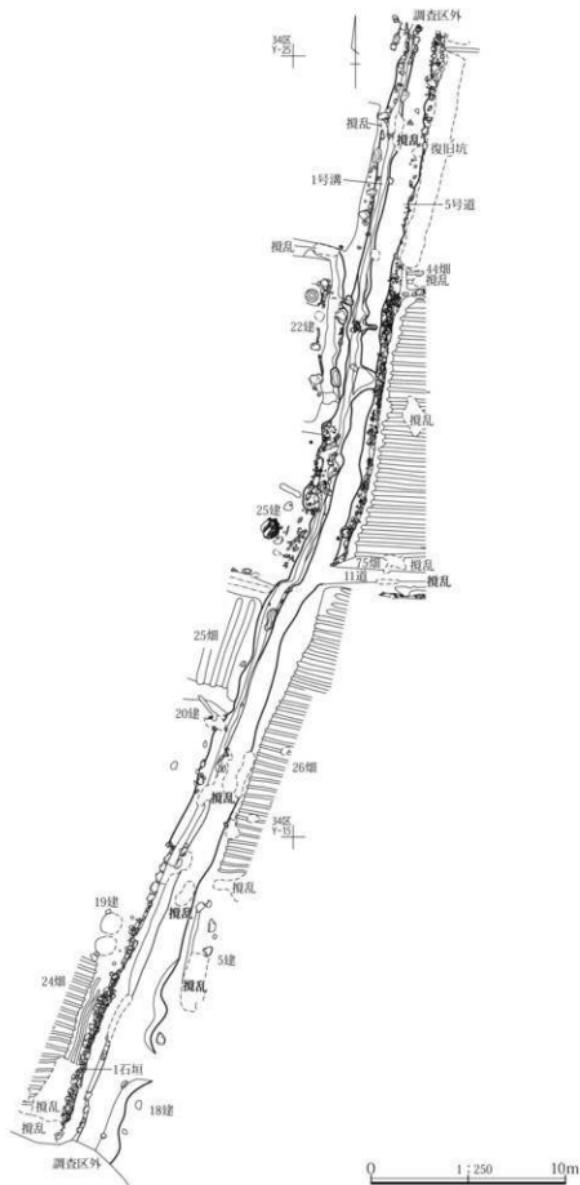
規模 (60.42)m、幅0.29～1.10m、深さ0.07～0.23m。

底部標高(北端)559.75m、(南端)554.93m、標高差4.82m。

走行方向(度) N-18-E

所見 溝は、上流に位置する44-1号住居の東を抜け、下田遺跡の位置する舌状台地の基部まで続くと推察される。下田遺跡の主要水路であった可能性が高い。

備考 調査時の名称は、1号溝。なお、44-1号住居は既報の遺構のため既報の名称を用いた。



第335圖 5號道